本書の構成

第 1 章　ServerView の概要

この章では、ServerView の機能、管理形態、システム要件について説明します。

第 2 章　インストール

この章では、ServerView のインストール方法を説明します。

第 3 章　ServerView の使用方法

この章では、ServerView の機能の使用方法について説明しています。さまざまな監視のための設定、バージョン管理機能、ServerView WebExtension の使用方法についても説明しています。

第 4 章　他のソフトウェアとの連携

この章では、他のソフトウェアとの連携について説明します。

第 5 章　RemoteControlService の使用

この章では、RemoteControlService の使用方法について説明しています。

第 6 章　リモートサービスボード（RSB）の使用

この章では、リモートサービスボード（RSB）の使用方法について説明しています。

付録

この章では、トラブルシューティングやアンインストール方法など補足情報について説明しています。

本書の表記

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重 要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】＋【F3】キー、【Shift】＋【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
          ↑   ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを 1 回押してください。
- 上記のようなコマンド入力について、英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- ご使用の環境によって、「\」が「\」と表示される場合があります。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、［CD-ROM ドライブ］で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせてドライブ名を入力してください。

  [CD-ROM ドライブ] :\setup.exe

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。
なお、本書ではお使いの OS 以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記
Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition および Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition	Windows 2003
Microsoft® Windows® 2000 Server および Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server	Windows 2000
Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version4.0 および Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0	Windows NT
Windows 2003、Windows2000 および Windows NT	Windows
Red Hat Linux	Linux
Intel LANDesk® Server Manager	LDSM

■ ソフトウェア説明書について

本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「ソフトウェア説明書」に記載されています。ServerView をお使いになる前に、必ずお読みください。
「ソフトウェア説明書」は、「Hints.txt」というファイル名で、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD に登録されています。テキストエディタなどで開いてお読みください。

■ 機種による制限事項、サポート OS について

お使いの機種によっては一部機能が制限される場合があります。機種ごとの制限事項については、「ソフトウェア説明書」（Hints.txt）内に記載されています。ServerView をお使いになる前に、ご確認ください。
本書に記載されている OS は、機種によってはサポートされていない場合があります。サーバのサポート OS については、各サーバに添付のマニュアルでご確認ください。

■ ServerView に関する最新情報について

ServerView に関する最新の情報は、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET の PRIMERGY 向けホームページ（ http://www.fmworld.net/biz/primergy/）の『ソフトウェア』に記載されています。

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。
Microsoft、Windows、MS、Windows NT、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Intel、Pentium、Xeon は、米国インテル社の登録商標および商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2003

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

目次

第 1 章　ServerView の概要

1.1 ServerViewとは 10
1.1.1 ハードウェアの監視 11
1.1.2 異常発生の通知／サーバ状況の確認 12
1.1.3 自動再構築 & 再起動 13
1.1.4 他のソフトウェア（LDSM、Systemwalker）との連携 13
1.1.5 Web ブラウザを使用したサーバ監視 14
1.1.6 リモート管理 14
1.1.7 リモートサービスボードを使用した高度なサーバ管理 15
1.2 ハードウェアの管理形態 16
1.3 システム要件 19

第 2 章　インストール

2.1 インストールの流れ 24
2.2 インストール前の確認 25
2.2.1 TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール 25
2.2.2 バインド順序の変更 30
2.2.3 Web サーバのインストール 30
2.3 インストール 31
2.3.1 ServerView Basic ／ ServerView Full のインストール 31
2.3.2 ServerView Blade-Agent のインストール（ブレードサーバ） 34
2.3.3 ［Linux］ServerView Linux のインストール 34
2.3.4 ［Linux］ServerView Linux のインストール（ブレードサーバ） 42
2.3.5 ServerView Console のインストール 52
2.3.6 ServerView WebExtension のインストール 53
2.3.7 オプション装置監視エージェントのインストール 56
2.4 インストール後の設定 58
2.4.1 Service Pack を適用する 58
2.4.2 Microsoft InternetExplorer のインストール 59
2.4.3 Java 2 Runtime Enviroment Standard Edition のインストール 59
2.4.4 管理ユーザの設定 59
2.4.5 オプション装置の割り込み情報の登録 60
2.4.6 Web サービスの拡張 61
2.4.7 ［Linux］各サービスの設定（通常のサーバ） 62
2.4.8 ［Linux］各サービスの設定（ブレードサーバ） 68
2.4.9 インストール後のコンピュータ情報変更 72

第 3 章　ServerView の使用方法

3.1 管理コンソールの起動と終了 74

3.1.1 管理コンソールの起動 74
3.1.2 監視対象サーバ（オブジェクト）の追加 75
3.1.3 メニュー一覧 79
3.1.4 サーバ設定の確認／変更 83
3.1.5 管理コンソールの終了 84
3.2 サーバ監視のための設定 85
3.2.1 アラーム設定 85
3.2.2 しきい値設定 90
3.2.3 レポート設定 93
3.2.4 異常発生時の対処（ASR） 96
3.2.5 設定値を他のサーバへコピーする 99
3.3 サーバの状況確認 100
3.3.1 現在のサーバ状況の確認 100
3.3.2 アラームの受領／参照／編集 102
3.3.3 ハードウェアの監視 107
3.3.4 ブレードサーバの状態確認 121
3.3.5 レポートの参照 123
3.4 アーカイブマネージャ 124
3.4.1 アーカイブマネージャの起動 124
3.4.2 アーカイブデータを作成する 125
3.4.3 アーカイブデータの表示／比較／削除 126
3.4.4 アーカイブデータのログ 128
3.5 バージョン管理 129
3.5.1 Inventory View 129
3.5.2 エクスポートマネージャ 130
3.5.3 エクスポートデータを閲覧する 133
3.6 ServerView WebExtension の使用方法 134
3.6.1 ServerView WebExtension の起動 134
3.6.2 監視対象サーバの追加 138
3.6.3 ハードウェアの監視 139
3.6.4 アラームサービスの使用 139
3.7［Linux］ServerView Linux の使用方法 141

第 4 章　他のソフトウェアとの連携

4.1 LDSM連携 144
4.2 UPS管理ソフトウェア連携 145
4.2.1 UPS 管理ソフトウェア連携の概要 145
4.2.2 UPS 管理ソフトウェア連携の設定（Windows） 146
4.2.3 UPS 管理ソフトウェア連携の設定（Linux） 148
4.3 Systemwalker連携 150
4.3.1 Systemwalker と ServerView 連携による管理 150
4.3.2 Systemwalker との連携による機能 151
4.3.3 Systemwalker との連携手順 152

4.4 hp OpenView Network Node Manager 連携 158
4.4.1 概要 158
4.4.2 OpenView NNM との連携手順 158

第 5 章　RemoteControlService の使用

5.1 概要 162
5.1.1 機能 162
5.1.2 システム要件 163
5.1.3 留意事項 163
5.2 準備 167
5.2.1 RomPilot の設定 167
5.2.2 RemoteControlService/LAN のインストール／アンインストール 169
5.3 起動と終了 171
5.3.1 起動 171
5.3.2 メニュー一覧 172
5.3.3 終了 175
5.4 使用方法 176
5.4.1 パスワード管理 176
5.4.2 リモートサーバ管理 177
5.4.3 BIOS セットアップ 179
5.4.4 サーバのブート操作 180
5.4.5 リモートサービスボードのサポート 182
5.4.6 IPMI のサポート 188

第 6 章　リモートサービスボード（RSB）の使用

6.1 概要 192
6.1.1 機能 192
6.1.2 留意事項 192
6.2 準備 194
6.2.1 Remote Service Board Utility フロッピーディスクの作成 194
6.2.2 ドライバのインストール 196
6.2.3 通信インターフェースの設定 197
6.2.4 管理ユーザの設定 202
6.3 各種監視情報の表示 204
6.3.1 Web インターフェースの起動 204
6.3.2 ［Overview］ページ 206
6.3.3 ［Recovery］ページ 208
6.3.4 ［Storage Subsystems］ページ 217
6.3.5 ［Console Redirection］ページ 218
6.4 ダイヤルアップ接続 221
6.5 設定変更、退避、復元ツール 230
6.5.1 Configuration Tools の起動 230
6.5.2 設定を変更する 232

6.5.3 設定を退避する 232
6.5.4 設定内容の復元 232

付録

A トラブルシューティング 236
A.1 インストールスクリプトのトラブルシューティング 236
A.2 管理コンソールのトラブルシューティング 238
A.3 アラームサービスのトラブルシューティング 245
A.4 ServerView WebExtension のトラブルシューティング 250
A.5 その他 252
B アンインストール 258
B.1 ServerView のアンインストール 258
B.2 ServerView WebExtension のアンインストール 259
B.3 ［Linux］ WebExtension/AlarmService のアンインストール 259
B.4 管理コンソールのアンインストール 259
C アイコンリスト 261
C.1 Server List 261
C.2 ServerView メニュー 262
C.3 Mylex の Device View ウィンドウ 263
C.4 DPT Disk Array Devices ウィンドウ 263
C.5 ネットワークインターフェースウィンドウ 263
C.6 バスとアダプタウィンドウ 264
C.7 Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウ 264
C.8 クラスタのステータス（未サポート） 265
C.9 ブレードサーバのステータス 267
C.10 その他のアイコン 268
D トラップリスト 270
E しきい値リスト 271
E.1 監視される値 271
E.2 各値の意味 271
F 技術情報 277
F.1 エージェントと管理コンソール 277
F.2 Management Information Base 278
F.3 SNMP の基本原理 278
F.4 バージョン管理（Inventory View） 281
F.5 エクスポートされるコンテンツの一覧 282

第 1 章

ServerView の概要

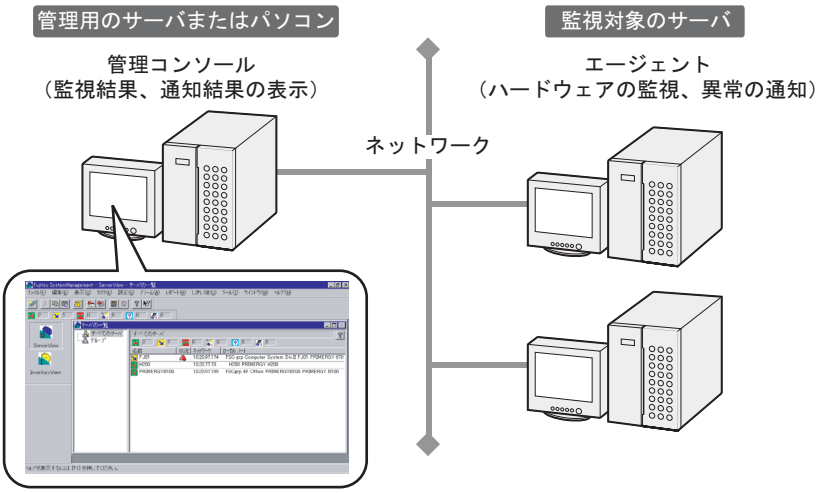
この章では、ServerView の機能、管理形態、システム要件について説明します。

1.1 ServerView とは 10
1.2 ハードウェアの管理形態 16
1.3 システム要件 19

1.1 ServerView とは

ServerView は、サーバのハードウェアが正常な状態にあるかどうかを、ネットワーク経由で監視するソフトウェアです。ServerView を使用すると、サーバが常時監視下に置かれ、異常が検出された場合には、サーバの管理者にリアルタイムに通知されます。
ここでは、ServerView の機能を紹介します。

ServerView は、管理用のサーバまたはパソコンと、監視対象となるサーバにインストールして使用します。
監視対象のサーバで実際に監視を行ったり、異常を通知したりするソフトウェアを「エージェント」と呼び、管理用のサーバまたはパソコンで、監視結果を参照したり、監視対象サーバをコントロールしたりするソフトウェアを「管理コンソール」と呼びます。



ServerView には複数のコンポーネントが含まれていて、管理コンソールとエージェントの両方が含まれたコンポーネントをインストールするか、管理コンソールとエージェントのそれぞれ単独のコンポーネントをインストールするかを、ネットワーク構成やサーバの OS に合わせて選択できます。
ServerView をインストールすることで、ネットワークの確実な運用を支援する、以下のような機能が利用できます。

- ハードウェアの監視（→ P.11）
- 異常発生の通知／サーバ状況の確認（→ P.12）
- 自動再構築 & 再起動（→ P.13）
- 他のソフトウェア（LDSM、Systemwalker 等）との連携（→ P.13）
- Web ブラウザを使用したサーバ監視（→ P.14）
- リモート管理（→ P.14）
- リモートサービスボードを使用した高度なサーバ管理（→ P.15）

1.1.1　ハードウェアの監視

ServerView は、サーバ本体のハードウェアコンポーネント、および搭載オプション装置の監視を行います。

■ 監視できるハードウェア

ServerView で監視できる、サーバ本体のハードウェアコンポーネント、およびオプション装置は、以下のとおりです。
これらの監視は ServerView エージェントをインストールする事により、自動的に開始されます。監視項目に対しての特別な設定は必要ありません。

● サーバ本体のハードウェアコンポーネント

POINT

- **機種により、監視できるハードウェアコンポーネントは異なります。詳しくは、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の「ソフトウェア説明書」（Hints.txt）を参照してください。**

監視できるコンポーネント	監視内容
電圧センサ	サーバの電圧
温度センサ	CPU・筐体内の温度
CPU	搭載 CPU 情報の表示、エラー
ファン	CPU・筐体内・電源のファン
筐体	筐体の開閉
メモリ	搭載情報の表示、エラーカウントの表示
電源	故障

● オプション装置

監視できるオプション装置	監視概要
オンボード SCSI に取り付けた内蔵ハードディスクユニット	デバイス情報の表示
SCSI カード（PG-128 ／ 129）	カード情報の表示
LAN カード（PG-185）	インターネット情報の表示 イーサネット MAC 統計情報の表示
SCSI アレイコントローラカード※1	ドライブ一覧の表示 カード情報の表示 デバイス情報の表示
IDE-RAID コントローラカード※2	ドライブ一覧の表示 カード情報の表示 デバイス情報の表示

※ 1：SCSI アレイコントローラカードに添付されている SCSI-RAIDmanager のインストールが必要です。また、各 SCSI アレイコントローラカードに適合した、アレイコントローラエージェントをインストールする必要があります（「2.4.5 オプション装置の割り込み情報の登録」（→ P.60）参照）。代表的な SCSI アレイコントローラカードと、対応するアレイコントローラエージェントは、下表のとおりです。

使用するカード	SCSI-RAIDmanager	アレイコントローラエージェント
PG-141、PG-142	StorageManager	DPT Disk Array Agent
PG-143、PG-144	GAM(Global Array Manager)	Install Mylex dac960 Disk Array Agent

※ 2：IDE-RAID コントローラカードに添付されている IDE-RAIDmanager のインストールが必要です。また、各 IDE-RAID コントローラカードに適合した、アレイコントローラエージェントをインストールする必要があります（「2.4.5 オプション装置の割り込み情報の登録」（→ P.60）参照）。代表的な IDE-RAID コントローラカードと、対応するアレイコントローラエージェントは、下表のとおりです。

使用するカード	IDE-RAIDmanager	アレイコントローラエージェント
IDE-RAID システム	PROMISE Fasttrak	Install PROMISE Fasttrak IDE Disk Array

1.1.2 異常発生の通知／サーバ状況の確認

ServerView は、異常の発生を管理コンソールに通知したり、サーバの状況を確認したりするための手段を提供します。
管理者は、サーバの現在の状況とトラブルの原因を確実に把握でき、トラブルに早期に対応できます。

■ 異常発生の通知

ServerView は、サーバのハードウェアに異常を発見すると、サーバの管理者にアラームとして通知します。管理者は、ServerView のアラームサービスを使用して、アラームの参照、編集、通知方法の設定などを行うことができます。
また、管理者は「しきい値」と呼ばれる監視基準を独自に設定でき、設定したしきい値を超えたら通知を行うよう、ServerView を設定できます（なお、しきい値の設定の有無にかかわらず、機種ごとに設定されている初期値での監視は常に行われています）。
アラームサービスの設定方法については「3.2.1 アラーム設定」（→ P.85）を、アラームの参照や編集方法などについては「3.3.2 アラームの受領／参照／編集」（→ P.102）を参照してください。
しきい値の設定については、「3.2.2 しきい値設定」（→ P.90）を参照してください。

■ サーバ状況の確認

ServerView は、サーバ状況を確実に把握するための、以下の機能を備えています。

- サーバのハードウェアおよびソフトウェアのバージョンを管理する「バージョン管理機能」
- サーバの状況を記録する「アーカイブ機能」
- サーバの状況を出力する「レポーティング機能」

● **バージョン管理機能**

サーバのハードウェアコンポーネント、ソフトウェアの一覧を管理コンソール画面で確認できます。これらのバージョンを確認することで、サーバの各コンポーネントの状況を把握できます。

バージョン管理機能については、「3.5 バージョン管理」（→ P.129）を参照してください。

● **アーカイブ機能**

ServerView のアーカイブサービスを利用して、サーバの状況を定期的に「アーカイブデータ」として記録できます。記録したアーカイブデータとトラブル発生後のアーカイブデータを比較することで、トラブルの原因を調査することができます。

アーカイブデータの作成や比較などの操作は、「アーカイブマネージャ」で行います（「3.4 アーカイブマネージャ」（→ P.124）参照）。

重 要

- **OS が Linux の場合、アーカイブサービスはサポートされません。**
  アーカイブサービスを使用するには、Windows の管理コンソールから監視を行う必要があります。

● **レポーティング機能**

レポート作成では、選択した項目に対して、一定の期間定期的に測定した値を記録して、評価のために、表またはグラフの形で表示できます。これにより、サーバを長期的に監視することができます。

レポート作成については「3.2.3 レポート設定」（→ P.93）を、レポートの出力方法などについては「3.3.5 レポートの参照」（→ P.123）を参照してください。

■ 設定値の他のサーバへのコピー

上記のアラーム、しきい値、レポート出力などの各設定項目の設定値は、他のサーバにコピーできます。そのため、多数のサーバを同じ設定にする場合に設定の手間が省けます。

設定値を他のサーバにコピーする方法については、「3.2.5 設定値を他のサーバへコピーする」（→ P.99）を参照してください。

1.1.3　自動再構築 & 再起動

ServerView は、「ASR（Automatic Server Reconfiguration & Restart：自動再構築 & 再起動）」と呼ばれる、異常発生時にサーバを自動的に再起動したりシャットダウンしたりする機能を備えています。この機能を使用することで、異常が発生したサーバを安全にシャットダウンしたり、再起動後に異常箇所のみを使用不能にしてサーバ運用を継続したりすることができます。

ASR の設定方法については、「3.2.4 異常発生時の対処（ASR）」（→ P.96）を参照してください。

1.1.4　他のソフトウェア（LDSM、Systemwalker）との連携

ServerView は、サーバ管理ソフトウェア LDSM（Intel LANDesk® Server Manager）の機能を呼び出したり、統合管理ソフトウェア Systemwalker の統合管理サーバに情報を送信したりするなど、他のソフトウェアと連携して動作できます。

■ LDSM 連携

LDSM V6.0 をお使いの場合、LDSM で管理しているサーバを ServerView の管理コンソールに表示することができます。また、ServerView の管理コンソールから LDSM コンソールを起動することもできます。
LDSM との連携方法については、「4.1 LDSM 連携」（→ P.144）を参照してください。

■ Systemwalker 連携

Systemwalker と連携することで、より統合的なサーバ管理が可能になります。ServerView での監視結果を Systemwalker の統合管理サーバに送信したり、Systemwalker から ServerView の管理コンソールを起動したりできます。
Systemwalker との連携方法については、「4.3 Systemwalker 連携」（→ P.150）を参照してください。

1.1.5　Web ブラウザを使用したサーバ監視

ServerView に添付されている「ServerView WebExtension」を Web サーバにインストールすると、ServerView の監視情報が収集され、HTTP 経由で受信できるようになります。サーバの管理者は、出張先のパソコンに管理コンソールがインストールされていなくても、Web ブラウザを使用してサーバを監視できます。
ServerView WebExtension のインストール方法については「2.3 インストール」（→ P.31）を、Web ブラウザからの操作方法については「3.6 ServerView WebExtension の使用方法」（→ P.134）を参照してください。

1.1.6　リモート管理

ServerView に添付されている「RemoteControlService」のインストールと、サーバの BIOS 拡張機能である「RomPilot/RCM」の設定を行うと、サーバの管理者のパソコンからサーバの再起動やシャットダウン、BIOS セットアップなどを行えます。管理者は、サーバの設置場所に移動することなく、サーバの管理を行えます。
RemoteControlService のインストール方法、RomPilot/RCM の設定方法などについては、「第 5 章 RemoteControlService の使用」（→ P.161）を参照してください。

重 要

- **RemoteControlService は、BIOS セットアップなどサーバ運用にかかわる重要な設定をパソコンから操作できてしまいます。サーバの管理者など、十分な知識を持った方のみ、操作を行ってください。**

1.1.7　リモートサービスボードを使用した高度なサーバ管理

リモートサービスボード（RSB：Remote Service Board）は、専用の CPU・OS・通信インターフェース・電源を備えたオプションの拡張カードです。サーバの状態にかかわらず動作し、サーバがダウンしてサーバ単独で異常状態の通知ができない状態でも、監視や情報の通知を行います。サーバの管理者は、パソコンの管理コンソールか Web ブラウザから、RSB を通じてサーバの状況を把握し、強制的に電源を入れたり、リセットしたりするなどの復旧作業を行えます。
RSB を使用するためには、ドライバのインストールなど事前に準備が必要です。詳細は「第 6 章 リモートサービスボード（RSB）の使用」（→ P.191）を参照してください。

1.2 ハードウェアの管理形態

サーバの管理者は、サーバのハードウェアの状態を、管理コンソールで確認できます。
使用する管理コンソールにより、ハードウェアの管理形態が異なります。

■ 管理コンソールとエージェントのコンポーネント

ServerView には、以下のコンポーネントが含まれています。

コンポーネント名	対応 OS	役割
ServerView Basic	・Windows 2003 ・Windows 2000 ・Windows NT ・Windows XP Professional（管理コンソールのみ）	管理コンソールとエージェント（ServerView NT Agent）がセットで含まれ、管理用、監視対象サーバのどちらにもインストールできます。ただし、管理コンソールは、自サーバの状態しか表示できません。
ServerView Full		管理コンソールとエージェントがセットで含まれ、管理用、監視対象サーバのどちらにもインストールできます。管理コンソールは、すべての監視対象サーバの状態を一括表示でき、複数のサーバを集中管理できます。
ServerView Console		パソコンにインストールする管理コンソールです。すべての監視対象サーバの状態を一括表示でき、複数のサーバを集中管理できます。
ServerView Blade-Agent		ブレードサーバ専用のエージェントです。
ServerView Linux エージェント	Linux	監視対象サーバにインストールするエージェントです。Linux サーバの監視には、ServerView Full をインストールしたサーバか ServerView Console をインストールしたパソコンが必要です。
AlarmService		監視対象サーバにインストールし、異常を発見したときに事前に設定した処理を行うソフトウェアです。

POINT

- **管理コンソールはOSがWindowsの場合のみインストールできます。OSがLinuxの場合、管理コンソールはサポートしていません。**

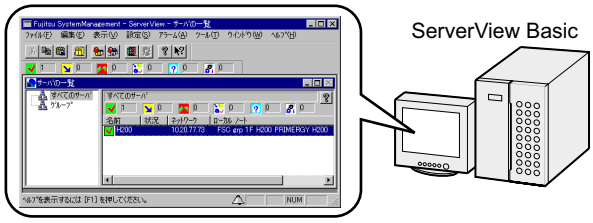
■ 各管理コンソールの特徴

お使いのネットワーク構成やサーバの OS に合わせて、上記のコンポーネントから最適なものを選択してインストールします。
以下の各管理コンソールの特徴を参照して、インストールするコンポーネントを選択してください。なお、各管理コンソールには、アラームサービス、アーカイブサービスが含まれています。

● ServerView Basic に含まれている管理コンソール

この管理コンソールは、自サーバの状態のみを表示できます。

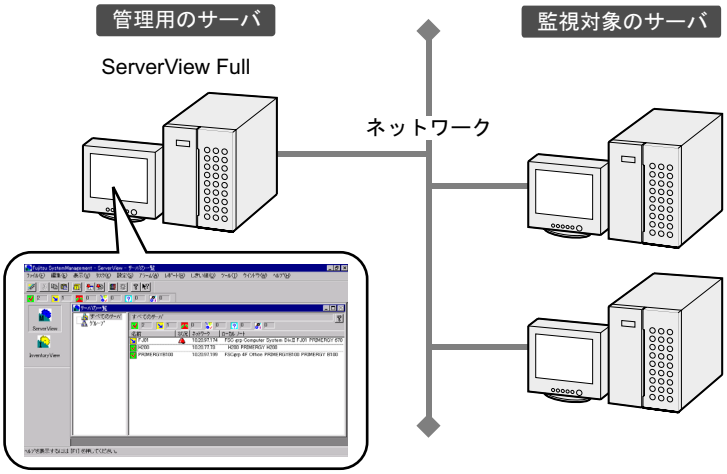
サーバが 1 台のみの場合（シングルサーバ環境）など、管理するネットワークが小規模で、監視対象のサーバがすべて管理者の近くにある場合などに、最適な形態です。また、ServerView Basic は、ServerStart によるセットアップ時に同時にインストールできますので、導入が簡単です。



● ServerView Full に含まれている管理コンソール

この管理コンソールは、1 台のサーバ上から、すべての監視対象のサーバの状態を一括して表示できます。

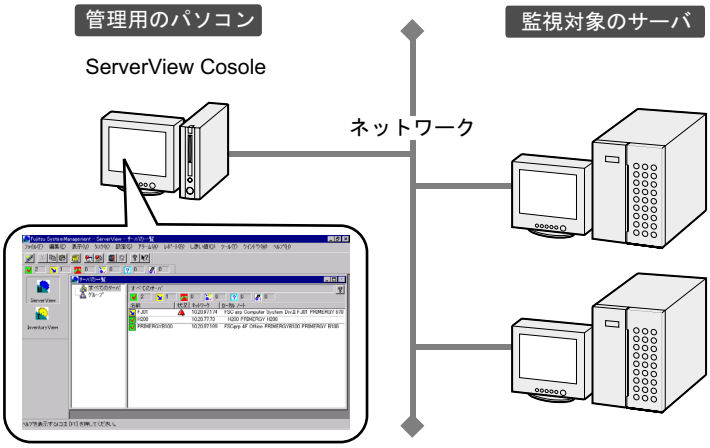
複数台のサーバが稼働している大規模なネットワーク（マルチサーバ環境）で、管理用のサーバが管理者の近くにある場合などに、最適な形態です。なお、ServerView Full は、ServerStart ではインストールできませんので、別途インストール作業が必要です。



● ServerView Console

この管理コンソールは、パソコンからすべての監視対象のサーバの状態を一括して表示できます。

監視対象のサーバが管理者の近くにない場合、あるいは大規模なネットワークを管理する場合などに最適です。ServerView Console がインストールされたパソコンは、管理端末と呼ばれます。



1.3　システム要件

ServerView を使用するための、サーバおよびパソコンのシステム要件は以下のとおりです。

■ ServerView Basic ／ ServerView Full ／ ServerView Blade-Agent ／ ServerView Linux エージェント（サーバへのインストール）

サーバに、ServerView Basic ／ ServerView Full ／ ServerView Blade-Agent ／ ServerView Linux エージェントをインストールするときのシステム要件は、以下のとおりです。

サーバのシステム		動作条件
ハードウェア	使用メモリ	32MB 以上（ServerView Linux エージェントの場合は 128MB 以上）
	ハードディスク	空き領域が 130MB 以上（ServerView Linux エージェントの場合は 15MB 以上）
	ディスプレイ	SVGA（800 × 600）以上の解像度（推奨：1024 × 768）
	LAN カード	必要（オンボード LAN でも可）
	マウス	必要
	モデム	ポケットベルを使用して公衆回線経由で通信を行う場合のみ必要です。 サポートしているモデムについては、『PRIMERGY システム構成図』を参照してください。
ソフトウェア	OS	・Windows 2003 ・Windows 2000 ServicePack 2 以降 ・Windows NT ServicePack 6a 以降 ・Red Hat Enterprise Linux AS Ver2.1(Red Hat Linux Advanced Server 2.1) ・Red Hat Enterprise Linux ES ・Red Hat Linux 7.2 ・Red Hat Linux 7.3 ・Red Hat Linux 8.0
	Web サーバ	・Microsoft Internet Information Server V6.0（Windows 2003 の場合） ・Microsoft Internet Information Server V5.0（Windows2000 の場合） ・Microsoft Internet Information Server V3.0 ／ 4.0（Windows NT の場合） または ・ServerView Web-Server（Apache for Win32 ベース） （ServerView のインストール時に選択すると自動インストールされます） または ・Apache（RedHat Linux の場合）
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	SNMP（サービスおよびトラップ）が動作していること
	Web ブラウザ	OS が Windows 2003、Windows 2000 または Windows NT の場合、Microsoft Internet Explorer 5.5 以降（推奨 6.0 以降）がインストールされていること。 また、Java 2 Runtime Enviroment Standard Edition V1.4.1_02 以降がインストールされていること。（PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内からインストールできます。）
	パッケージ（RPM）	openssl、ucd-snmp（Red Hat Linux 8.0 では net-snmp）、gcc、make、vim-minimal、glibc、libstdc++、rpm、gawk、kernel-source
	アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること

■ ServerView Cosole（パソコンへのインストール）

パソコンに、ServerView Console をインストールするときのシステム要件は、以下のとおりです。

パソコンのシステム		動作条件
ハードウェア	パソコン	IBM PC 互換機
	プロセッサ	Pentium® 以上
	メモリ	32MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 130MB 以上
	ディスプレイ	SVGA（800 × 600）以上の解像度（推奨：1024 × 768）
	LAN カード	必要（オンボード LAN でも可）
	マウス	必要
	モデム	ポケットベルを使用して公衆回線経由で通信を行う場合にのみ必要です。
ソフトウェア	OS	・ Windows 2003 ・ Microsoft Windows 2000 Professional Operating System ServicePack2 以降 ・ Microsoft Windows NT Workstation Network Operating System Version 4.0 ServicePack 6a 以降 ・ Microsoft Windows XP Professional Operating System
	Web サーバ	・ Microsoft Internet Information Server V6.0（Windows 2003 の場合） ・ Microsoft Internet Information Server V5.0（Windows 2000 の場合） ・ Microsoft Internet Information Server V3.0 ／ 4.0（Windows NT の場合） または ・ ServerView Web-Server（Apache for Win32 ベース） （ServerView のインストール時に選択すると自動インストールされます） ・ Microsoft Internet Information Server V5.1（Windows XP Professional の場合）
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	SNMP（サービスおよびトラップ）が動作していること
	Web ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 5.5 以降（推奨 6.0 以降）がインストールされていること。 また、Java 2 Runtime Enviroment Standard Edition V1.4.1_02 以降がインストールされていること。（PRIMERGY ドキュメント ＆ ツール CD 内からインストールできます。）
	アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること

■ ServerView WebExtension（OS が Windows の場合）

OS が Windows のサーバに、ServerView WebExtension をインストールするときのシステム要件は、以下のとおりです。

パソコンのシステム		動作条件
ハードウェア	パソコン	IBM PC 互換機
	プロセッサ	80486 以上（Pentium® 推奨）
	メモリ	32MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 15MB 以上
	ディスプレイ	SVGA（800 × 600）以上の解像度（推奨：1024 × 768）
	LAN カード	必要（オンボード LAN でも可）
	マウス	必要
ソフトウェア	OS	・ Windows 2003 ・ Windows 2000 ServicePack 2 以降 ・ Windows NT ServicePack 6a 以降 ・ Microsoft Windows XP Professional Operating System
	Web サーバ	・ Microsoft Internet Information Server V6.0（Windows 2003 の場合） ・ Microsoft Internet Information Server V5.0（Windows 2000 の場合） ・ Microsoft Internet Information Server V3.0 ／ 4.0（Windows NT 4.0 の場合） ・ Microsoft Internet Information Server V5.1（Windows XP Professional の場合） または ・ ServerView Web-Server（Apache for Win32 ベース） （ServerView のインストール時に自動インストールされます）
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	サービス	SNMP（サービスおよびトラップ）が動作していること
	Web ブラウザ	・ Microsoft Internet Explorer 5.5 以降（推奨 6.0 以降） または ・ Netscape Navigator / Communicator V4.78 以降（推奨 6.2 以降） ・ Java 2 Runtime Enviroment Standard Edition V1.4.1_02 以降
	アカウント	Administrator と同等の権限が割り当てられていること

■ ServerView WebExtension ／ AlarmService（OS が Linux の場合）

OS が Linux のサーバに、ServerView WebExtension ／ AlermService をインストールするときのシステム要件は、以下のとおりです。

サーバのシステム		動作条件
ハードウェア	使用メモリ	128MB 以上
	ハードディスク	空き領域が 35MB 以上
	ディスプレイ	SVGA（800 × 600）以上の解像度（推奨 : 1024 × 768）
	LAN カード	必要（オンボード LAN でも可）
	マウス	必要
	モデム	ポケットベルを使用して公衆回線経由で通信を行う場合にのみ必要です。サポートしているモデムについては、『PRIMERGY システム構成図』を参照してください。
ソフトウェア	OS	・ Red Hat Linux 7.2 ・ Red Hat Linux 7.3 ・ Red Hat Enterprise Linux AS Ver2.1(Red Hat Linux Advanced Server 2.1) ・ Red Hat Enterprise Linux ES ・ Red Hat Linux 8.0
	Web サーバ	Apache（RPM を利用してインストールします）
	プロトコル	TCP/IP が動作していること
	Web ブラウザ	Red Hat Linux 7.2、Red Hat Linux 7.3、Red Hat Enterprise Linux AS Ver2.1、Red Hat Enterprise Linux ES の場合 ・ Netscape Navigator ／ Communicator V4.78 以降（推奨 6.2 以降） Red Hat Linux 8.0 の場合 ・ Mozilla V1.3 以降 ・ Java 2 Runtime Enviroment Standard Edition V1.4.1_02 以降（PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内からインストールできます。）
	パッケージ（RPM）	ucd-snmp（Red Hat Linux 8.0 では net-snmp）、apache（Red Hat Linux 8.0 では httpd）、gcc、make、byacc、rpm、gawk、openssl、mod_ssl
	アカウント	スーパーユーザ

第 2 章

インストール

この章では、ServerView のインストール方法を説明します。

2.1 インストールの流れ 24
2.2 インストール前の確認 25
2.3 インストール 31
2.4 インストール後の設定 58

2.1 インストールの流れ

ServerView **のインストールは、以下の流れで行います。**

インストール前の確認 （→ P.25）

インストール前に、次の確認を行います。

Windows の場合

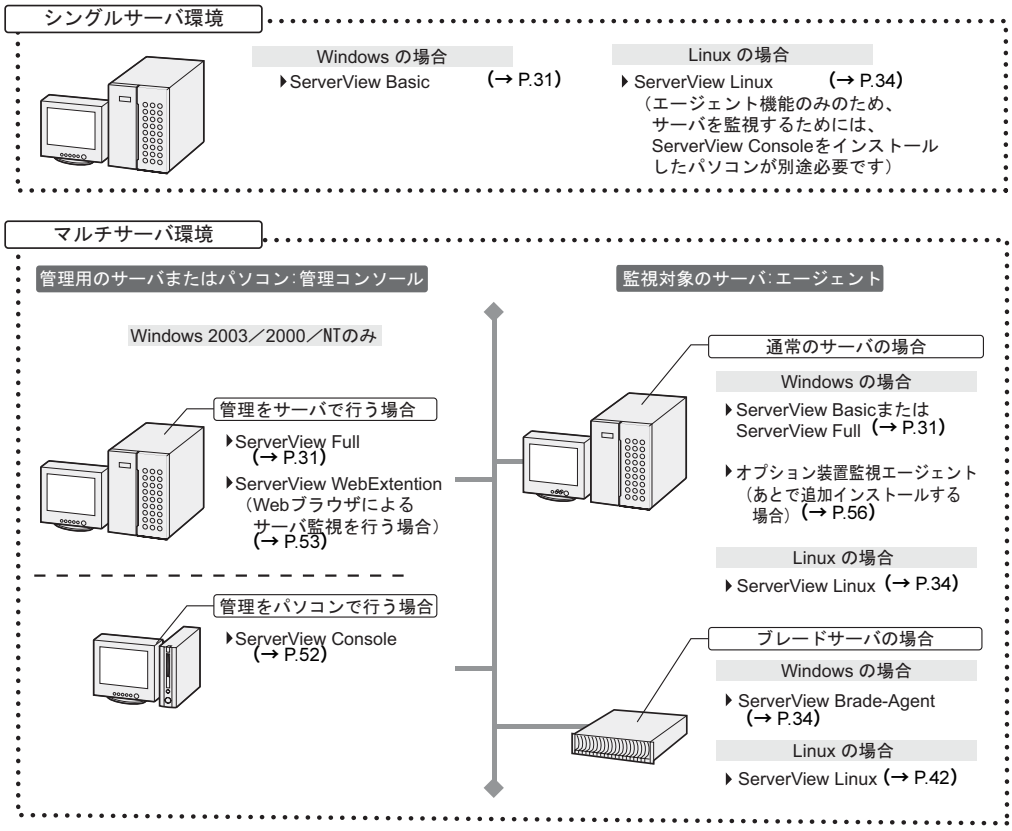
- TCP/IPとSNMPサービスのインストール （→ P.25）
- バインド順序の変更 （→ P.30）
- Webサーバのインストール （→ P.30）

Linux の場合

- Webサーバのインストール （→ P.30）

インストール （→ P.31）

ネットワーク構成に応じて、必要なコンポーネントをインストールします。
・シングルサーバ環境の場合は、OSの種類によってインストールするコンポーネントが異なります。
・マルチサーバ環境の場合は、OSの種類、通常のサーバ／ブレードサーバ、監視方法によって
　インストールするコンポーネントが異なります。



インストール後の設定 （→ P.58）

インストール後、OSのコンポーネントをインストールしたり、各種設定を行ったりします。

Windows の場合

- ServicePackの適用 （→ P.58）
- Microsoft InternetExplolerのインストール （→ P.59）

Linux の場合

- 各サービスの設定（通常のサーバの場合）（→ P.62）
- 各サービスの設定（ブレードサーバの場合）（→ P.68）

・Java 2 Runtime Enviroment Standard Edisionのインストール （→ P.59）
・管理ユーザの設定 （→ P.59）
・オプション装置の割り込み情報の登録 （→ P.60）

2.2 インストール前の確認

ServerView をインストールする前に、以下の事項を確認してください。

2.2.1 TCP/IP プロトコルと SNMP サービスのインストール

ServerView が正しく動作するためには、監視対象のサーバに、TCP/IP プロトコルと SNMP サービスがインストールされている必要があります。

■ Windows 2003 の場合

1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。

2 ［ネットワーク接続］をダブルクリックします。

3 「詳細設定」メニュー→「オプションネットワークコンポーネント」の順にクリックします。

4 以下のいずれかの操作を行います。

●「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」がすでにチェックされていた場合

1. 「管理とモニタツール」をクリックし、［詳細］をクリックして、「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP」がチェックされているかを確認します。
   チェックされている場合は、すでに SNMP サービスがインストールされています。この場合は、手順 5 に進んでください。

●「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」がチェックされていなかった場合

以下の操作で SNMP サービスをインストールします。

1. 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」をチェックします。
2. ［詳細］をクリックし、「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）」がチェックされていることを確認し、［OK］をクリックします。
3. 「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で［次へ］をクリックします。
   メッセージに従って操作します。

5 「スタート」ボタン→［管理ツール］の順にクリックします。

6 ［コンピュータの管理］をクリックします。

7 左側のツリーで「サービスとアプリケーション」→「サービス」の順にクリックします。

8 右側のウィンドウで［SNMP Service］をクリックします。

9 「操作」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。

10 ［トラップ］タブをクリックします。

11 「コミュニティ名」にすでに「public」がある場合は、「public」を選択します。存在しない場合は、「コミュニティ名」に「public」を入力し、［一覧に追加］をクリックします。

12 「トラップ送信先」の［追加］をクリックします。

13 管理コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、［追加］をクリックします。

シングルサーバ環境で ServerView Basic をインストール予定の場合は、自サーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力します。

14 ［セキュリティ］タブをクリックします。

15 「public」をクリックし、［編集］をクリックします。

16 「コミュニティの権利」から「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」を選択し、［OK］をクリックします（「読みとり、書き込み」を推奨）。

●「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に、「public」が存在しない場合

以下の操作でコミュニティを追加します。

1. ［追加］をクリックします。
2. 「コミュニティの権利」から「読みとり、書き込み」または「読みとり、作成」を選択します（「読みとり、書き込み」を推奨）。
3. 「コミュニティ」に「public」と入力し、［追加］をクリックします。

17 SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。

●すべてのホストのパケットを受け付ける場合

1. 「すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。

●指定したホストのパケットのみを受け付ける場合

1. 「次のホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。
2. ［追加］をクリックします。
3. 管理コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、［追加］をクリックします。

18 ［OK］をクリックします。

POINT

- Windows 2003 ではメッセージの PopUp（Messenger）の初期設定は無効になっています。ServerView の監視機能でメッセージの PopUp を行う場合は以下の手順で設定を行います。
  1. 「スタート」ボタン→［管理ツール］の順にクリックします。
  2. ［コンピュータの管理］をクリックします。
  3. 左側のツリーで「サービスとアプリケーション」→「サービス」の順にクリックします。
  4. 右側のウィンドウで［Messenger］をクリックします。
  5. 「操作」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
  6. ［全般］タブをクリックします。
  7. 「スタートアップの種類」の「自動」を選択し、［OK］をクリックします。

■ Windows 2000 の場合

1 **「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。**

2 **［ネットワークとダイヤルアップ接続］アイコンをダブルクリックします。**

3 **「詳細設定」メニュー→「オプションネットワークコンポーネント」の順にクリックします。**

4 **以下のいずれかの操作を行います。**

●「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」がすでにチェックされていた場合

1. **「管理とモニタツール」をクリックし、［詳細］をクリックして、「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP」がチェックされているかを確認します。**
   チェックされている場合は、すでに SNMP サービスがインストールされています。この場合は、手順 5 に進んでください。

●「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」がチェックされていなかった場合

以下の操作で SNMP サービスをインストールします。

1. **「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で「管理とモニタツール」をチェックします。**
2. **［詳細］をクリックし、「簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）」がチェックされていることを確認し、［OK］をクリックします。**
3. **「オプションネットワークコンポーネントウィザード」で［次へ］をクリックします。**
4. **メッセージに従って操作します。**

5 **コントロール パネルから［管理ツール］アイコンをダブルクリックします。**

6 **［コンピュータの管理］アイコンをダブルクリックします。**

7 **左側のツリーで「サービスとアプリケーション」→「サービス」の順にクリックします。**

8 **右側のウィンドウで［SNMP Service］をクリックします。**

9 **「操作」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。**

10 **［トラップ］タブをクリックします。**

11 **「コミュニティ名」にすでに「public」がある場合は、「public」を選択します。**
存在しない場合は、「コミュニティ名」に「public」を入力し、［一覧に追加］をクリックします。

12 **「トラップ送信先」の［追加］をクリックします。**

13 **管理コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、［追加］をクリックします。**
シングルサーバ環境で ServerView Basic をインストール予定の場合は、自サーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力します。

14 ［セキュリティ］タブをクリックします。

15 「public」をクリックします。

16 ［編集］をクリックします。

17 「コミュニティ権利」から「READ_WRITE」または「READ_CREATE」をクリックし、［OK］をクリックします（「READ_WRITE」を推奨）。

●「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に、「public」が存在しない場合

以下の操作でコミュニティを追加します。

1. ［追加］をクリックします。
2. 「コミュニティ権利」から、「READ_WRITE」または「READ_CREATE」をクリックします（「READ_WRITE」を推奨）。
3. 「コミュニティ」に「public」と入力します。
4. ［追加］をクリックします。

18 SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。

●すべてのホストのパケットを受け付ける場合

1. 「すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。

●指定したホストのパケットのみを受け付ける場合

1. 「次のホストからの SNMP パケットを受け付ける」をクリックします。
2. ［追加］をクリックします。
3. 管理コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、［追加］をクリックします。

19 ［OK］をクリックします。

■ Windows NT の場合

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

2 ［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。

3 ［プロトコル］タブをクリックします。

4 「ネットワークサービス」のリスト中に「TCP/IP」が表示されていない場合は、以下の操作で TCP/IP をインストールします。

1. ［追加］をクリックします。
2. 「ネットワークサービス」のリスト中から「TCP/IP」をクリックし、［OK］をクリックします。
3. メッセージに従って操作します。

5 ［サービス］タブをクリックします。

6 「ネットワークサービス」のリスト中に「SNMP サービス」が表示されていない場合は、以下の操作で SNMP サービスをインストールします。

1. ［追加］をクリックします。

2. **「ネットワークサービス」のリスト中から「SNMP サービス」をクリックし、[OK] をクリックします。**
3. **メッセージに従って操作します。**

7 **「ネットワークサービス」の中の「SNMP　サービス」をクリックし、[プロパティ] をクリックします。**

8 **[トラップ] タブをクリックします。**

9 **「コミュニティ名」にすでに「public」がある場合は、「public」を選択します。**
存在しない場合は、「public」と入力し、[追加] をクリックします。

10 **「トラップ送信先」の [追加] をクリックします。**

11 **管理コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、[追加] をクリックします。**
シングルサーバ環境で ServerView Basic をインストール予定の場合は、自サーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力します。

12 **[セキュリティ] タブをクリックします。**

13 **「public」をクリックします。**

14 **[編集] をクリックします。**

15 **「コミュニティ権利」から「READ_CREATE」をクリックします。**

16 **[OK] をクリックします。**
「受け付けるコミュニティ名」のリスト中に、コミュニティ名「public」が存在しない場合は、以下の操作でコミュニティを追加します。
1. **[追加] をクリックします。**
2. **「コミュニティ権利」から「READ_CREATE」をクリックします。**
3. **「コミュニティ」に「public」と入力します。**
4. **[追加] をクリックします。**

17 **[セキュリティ] タブをクリックします。**

18 **SNMP パケットを受け付けるホストの設定を行います。**
●すべてのホストのパケットを受け付ける場合
1. **「すべてのホストからの SNMP パケットを受け付ける」をチェックします。**

●指定したホストのパケットのみを受け付ける場合
1. **「次のホストからの SNMP パケットを受け付ける」をチェックします。**
2. **[追加] をクリックします。**
3. **管理コンソールをインストールするサーバのホスト名、IP または IPX アドレスを入力し、[追加] をクリックします。**

2.2.2 バインド順序の変更

複数枚の LAN カードを搭載するなどして、サーバに複数の IP アドレスが存在する場合、ServerView はネットワークのバインドで設定された順序にしたがって IP アドレスを検索します。
バインド順序は、管理コンソールとの通信を行うアダプタを最初に検索するよう、設定してください。

2.2.3 Web サーバのインストール

アラームサービス（「■ 異常発生の通知」（→ P.12）参照）、アーカイブ機能（「● アーカイブ機能」（→ P.13）参照）、Web ブラウザによるサーバ監視（「1.1.5 Web ブラウザを使用したサーバ監視」（→ P.14）参照）は、Web ブラウザから利用する機能です。これらの機能を利用するためには、サーバに Web サーバソフトのインストールが必要です。
ServerView がサポートする Web サーバソフトは、以下のとおりです。

- **OS が Windows の場合は、以下のいずれか**
  - ・ServerView Web-Server（Apache for Win32 ベース）
  - ・Microsoft Internet Information Server（IIS）
- **OS が Linux の場合**
  - ・Apache

■ ServerView Web-Server

ServerView Basic または ServerView Full のインストール時に、ServerView Web-Server のインストールを選択すると、自動的にインストールされます。
また、ServerStart によるセットアップ時に ServerView のインストールを選択した場合は、ServerView Basic とともに ServerView Web-Server がインストールされます。

■ Microsoft Internet Information Server（IIS）

IIS を使用する場合は、ServerView のインストール前にインストールしておきます。
OS ごとに、以下のバージョンの IIS がサポートされています。

OS	説明
Windows 2003	バージョン 6.0 がサポートされています。
Windows 2000	バージョン 5.0 がサポートされています。
Windows NT 4.0 Server	バージョン 3.0 と 4.0 がサポートされています。インターネット接続用のセキュリティ補助機能を利用する場合は、バージョン4.0をインストールしてください。これには、補助機能として SSL（Secure Socket Layer）が用意されています。

■ Apache

OS が Linux の場合は、ServerView Linux のインストール前に、Apache の RPM をインストールしておきます。

2.3 インストール

ServerView の各コンポーネントのインストール方法を説明します。

2.3.1 ServerView Basic ／ ServerView Full のインストール

OS が Windows の場合は、ServerView Basic または ServerView Full をインストールします。

重要

- ServerStartによるセットアップ時に、ServerViewのインストールを選択した場合、ServerView Basic が自動的にインストールされます。
- ServerView Basic に、ServerView Full を追加インストールすることはできません。ServerView Full に変更したい場合は、ServerView Basic をアンインストールし、新規に ServerView Full をインストールしてください。アンインストール方法については、「B アンインストール」（→ P.258）を参照してください。
- RAS 支援サービスをインストールする場合は、必ず RAS 支援サービスをインストールした後に、ServerView をインストールしてください。
  誤って、RAS 支援サービスを後からインストールした場合は、「2.3.7 オプション装置監視エージェントのインストール」（→ P.56）に従って、ServerView エージェントを再インストールしてください。
  RAS 支援サービスについては、『ソフトウェアガイド』を参照してください。
- 旧バージョンの ServerView Basic ／ ServerView Full がインストールされているサーバにインストールを行うと、アップデート インストールが行われます。

1 管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3 PRIMERGY ドキュメント＆ツールCDをセットし、インストーラを起動します。

●ServerView Basic をインストールする場合

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD から、以下のインストーラをダブルクリックします。

［CD-ROMドライブ］:\SVMANAGE\JAPANESE\SV_BASIC.EXE

●ServerView Full をインストールする場合

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD から、以下のインストーラをダブルクリックします。

［CD-ROMドライブ］:\SVMANAGE\JAPANESE\SV_FULL.EXE

「ServerView System Requirement」画面が表示されます。

4 ［OK］をクリックします。

「Web サーバの選択」画面が表示されます。

5　使用する Web サーバを選択し、［次へ］をクリックします。

重 要

- ServerView Web-Server を選択した場合、Apache for Win32 をベースとした Web サーバが ServerView とともにインストールされます。
- IISを選択した場合、インストール済みのIISをWebサーバとして使用します。IISがインストールされていない場合は、IIS は選択できません。
- ServerStart で ServerView を自動インストールした場合、Web サーバは ServerView Web-Server が選択されています。IIS に変更したい場合は、ServerView をアンインストールし、IIS インストール後、再度 ServerView のインストーラを起動してください。

●「Web サーバの選択」画面で ServerView Web-Server を選択した場合

「SSL の使用」画面が表示されます。「SSL と認証を使用する」をチェックすると、Web 接続時に SSL 接続が使用できるようになり、また接続時に認証が要求されるようになります。チェック後、［次へ］をクリックします。

重 要

- ServerStart で ServerView を自動インストールした場合、SSL と認証の使用は無効になっています。有効にしたい場合は、ServerView をアンインストールし、再度 ServerView のインストーラを起動してください。
- 認証に使用するユーザ名とパスワードは、デフォルトでユーザ名「svuser」、パスワード「fsc」に設定されています。

「Agent Installation Actions」画面が表示されます。
なお、旧バージョンの ServerView Basic ／ ServerView Full がインストールされているサーバにインストールを行った場合は、「Agent Installation Actions」画面は表示されません。

6　オプション装置を追加監視するために必要なエージェントをクリックして、［OK］をクリックします。

各エージェントの詳細については、「2.3.7 オプション装置監視エージェントのインストール」（→ P.56）を参照してください。
「ServerView Hints」画面が表示されます。

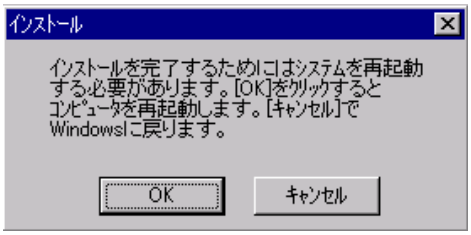
POINT

- **何も選択せずに［OK］をクリックすると、基本のエージェントのみがインストールされます。**
- **あとで追加のエージェントをインストールする場合は、「2.3.7 オプション装置監視エージェントのインストール」（→ P.56）を参照してください。**
- **インストールされたエージェントの詳細については、インストール完了後「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「SNMP Agents」→「Known Problems」の順にクリックして参照してください。**

7　［OK］をクリックします。

インストールが完了すると、再起動メッセージが表示されます。

8　［OK］または［キャンセル］をクリックします。



インストールが終了したら、ServerView を運用するための設定を行ってください（「2.4 インストール後の設定」（→ P.58）参照）。

2.3.2 ServerView Blade-Agent のインストール（ブレードサーバ）

OS が Windows でブレードサーバの場合は、ServerView Blade-Agent をインストールします。

1 **管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。**

2 **実行中のアプリケーションをすべて終了します。**

3 PRIMERGY **ドキュメント＆ツール** CD **をセットし、以下のインストーラを起動します。**

[CD-ROM ドライブ]:\SVMANAGE\JAPANESE\BR_setup.EXE

「ServerView System Requirements」画面が表示されます。

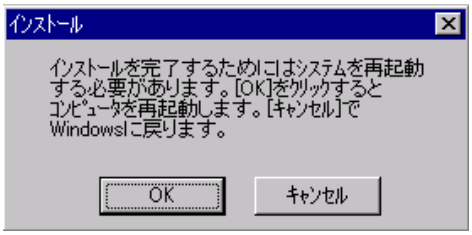
4 **[OK] をクリックします。**

「ServerView Hints」画面が表示されます。

5 **[OK] をクリックします。**

インストールが完了すると、再起動メッセージが表示されます。

6 **[OK] または [キャンセル] をクリックします。**



インストールが終了したら、ServerView を運用するための設定を行ってください（「2.4 インストール後の設定」（→ P.58）参照）。

2.3.3 [Linux] ServerView Linux のインストール

OS が Linux で通常のサーバの場合は、ServerView Linux（ServerView Linux エージェント／ServerView WebExtension ／ AlarmService）をインストールします。
以降の操作を行うと、ServerView Linux エージェント、ServerView WebExtension、アラームサービスの Linux 版を同時にインストールできます。
ServerView WebExtension ／ AlarmService は、Linux のみの環境下で 1 台のサーバにインストールすると、他のサーバの状態も監視できます。
インストール方法は、以下の 2 とおりがあります。

- インストールスクリプトを使ったインストール（→ P.35）
- 手動でのインストール（→ P.38）
  インストールスクリプトを使ったインストールができない場合、ServerView Linux を手動でインストールします。

重 要

- **本書では、ServerView Linuxをドキュメント&ツールCDからインストールする記述になっています。弊社 Web ページの Linux 関連情報（http://www.fmworld.net/biz/primergy/levelup.html）から ServerView Linuxをダウンロードしてインストールする場合には、ディレクトリの指定部分を、ファイルを転送／展開したディレクトリに読み替えてください。**

■ インストールスクリプトでの ServerView Linux のインストール

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内のインストールスクリプトを利用して、ServerView エージェント／ ServerView WebExtension ／ AlarmService のインストール、および SNMP サービス設定ファイル（/etc/snmp/snmpd.conf）の編集ができます。

POINT

- **/etc/snmp/snmpd.conf は、ServerView のインストール後に手動で編集することもできます。手動で編集したあとは、"/etc/rc.d/init.d/snmpd restart" コマンドを実行してください。**

インストールスクリプトがエラーメッセージを表示して終了した場合は、「A.1 インストールスクリプトのトラブルシューティング」（→ P.236）を参照してください。

● インストールスクリプトの起動方法

インストールスクリプトによるインストールは、スーパーユーザでログインして PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のコマンドを実行して行います。

```
# mount /mnt/cdrom/
# cd /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/JAPANESE
# ./inssv
```

● IP アドレスの入力

インストールスクリプトのタイトル表示の後、IP アドレスの入力を要求されます。
SNMP トラップを送信したい IP アドレスを入力して【Enter】キーを押してください。
サーバ自身の IP アドレス（127.0.0.1）は自動的に設定されるので、ここで入力する必要はありません。
複数装置に送信したい場合は、各装置の IP アドレスを入力します。
入力した IP アドレスは、/etc/snmp/snmpd.conf に書き込まれます。

IP アドレスを入力し終えたら、【e】キーを押してください。以下の処理に進みます。
以下は、ServerView V3.40L20 の場合の出力結果例です。

```
--------------------------------------------
ServerView install / RPM control script version VX.XLXX
Copyright(C) FUJITSU LIMITED 2003

checking kernel version...
kernel version check [OK]

Please input IP-addresses to where you want to send SNMP-
traps.
(Note : No need to input the IP address of this server,
        it will be added automatically by the installer.)
Press "e" key to continue.

>192.168.1.10
>192.168.1.20
>e
--------------------------------------------
```

● ロケーションの入力

サーバのロケーション（設置場所）を入力します。
入力されたロケーションは、/etc/snmp/snmpd.conf 内の syslocation 項目に書き込まれ、ServerView のプロパティで開いた際に、「場所」として表示されます。
半角文字で 64 バイトまで入力できます。
ロケーションを入力したら、【Enter】キーを押してください。以下の処理に進みます。
何も入力しないで【Enter】キーを押すと、デフォルト値が書き込まれます。

```
--------------------------------------------
Please input a location of the server.
The specified location will be shown as a property of the
server at the ServerView console.

You can change the location of the server later,
by editing the /etc/snmp/snmpd.conf.
>(Example: computer room L200)
--------------------------------------------
```

● 管理者の入力

サーバの管理者名を入力します。
入力された管理者名は、/etc/snmp/snmpd.conf の syscontact 項目に書き込まれ、ServerView のプロパティで開いた際に、「管理者」として表示されます。
半角文字で 64 バイトまで入力できます。
管理者名を入力したら、【Enter】キーを押してください。以下の処理に進みます。

何も入力しないで【Enter】キーを押すと、デフォルト値が書き込まれます。

```
-------------------------------------------
Please input a name of the root user.
The specified name will be shown as a property of the server at
the ServerView console.

You can change the name of the root user later,
by editing the /etc/snmp/snmpd.conf.
>(Example: Your name)
-------------------------------------------
```

● **RPM を実行**

snmpd を起動した後、ServerView Linux エージェント（eecd/agents）の RPM を実行します。
各 RPM の出力結果が表示されます。
以下は、正常時の出力結果例です。

```
-------------------------------------------
snmpdを起動中:      [  OK  ]

The package kernel-headers or kernel-source has to be ←
srvmagt-eecdの出力
installed (kernel-headers is normaly installed by default).
and module compilation must succeed.

Compiling modules for 2.4.7-10smp:
cop(Ok) copa(Ok) i960(Ok) ihpci(Ok) ipmi(Ok) smbus(Ok) [  OK  ]
Loading modules: smbus [  OK  ]
Starting eecd[  OK  ]
snmpdを停止中: [  OK  ] ←srvmagt-agentsの出力
snmpdを起動中: [  OK  ]
Starting agent scagt[  OK  ]
Starting agent busagt[  OK  ]
Starting agent hdagt[  OK  ]
Starting agent mylexagt[  OK  ]
Starting agent unixagt[  OK  ]
Starting agent etheragt[  OK  ]
Starting agent biosagt[  OK  ]
Starting agent securagt[  OK  ]
Starting agent statusagt[  OK  ]
Starting agent invagt[  OK  ]
Starting agent vvagt[  OK  ]

Starting snmptrapd: [  OK  ]←AlarmServiceの出力
Starting SVFwdServer:

Restarting srvmagt, please wait...
Restarting eecd, please wait...
-------------------------------------------
```

● 実行結果の確認

ServerView Linux エージェント（eecd/agents）および ServerView WebExtension ／ AlarmService が正常にインストールされた場合、最終行に下記の正常終了メッセージが表示されます。

```
ServerView's RPMs are installed successfully.
```

上記メッセージが表示された場合は、「2.4.7 ［Linux］各サービスの設定（通常のサーバ）」（→ P.62）を実施してください。
上記メッセージが出力されない場合は、「A.1 インストールスクリプトのトラブルシューティング」（→ P.236）を参照してください。

■ 手動での ServerView Linux のインストール

インストールスクリプトでのインストールができない場合、スーパーユーザでログインして手動でインストールする必要があります。
以下に、手動での ServerView Linux のインストール手順を示します。

1　動作環境を確認します。

「1.3 システム要件」（→ P.19）を参照して、ServerView Linux エージェントおよび ServerView WebExtension ／ AlarmService のインストールの条件を満たしていることを確認してください。

2　カーネル版数を確認します。

POINT

- ServerView 3.40L15 **の場合は、この手順は必要ありません。手順 3 へ進んでください。**

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のコマンドを実行してください。

```
# mount /mnt/cdrom/
# cd /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/JAPANESE
# ./chkver
```

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の ServerView がサポートするカーネル版数の場合、下記のメッセージが表示されます。

```
kernel version check [OK]
```

3 パッケージ（RPM）のインストール状態を確認します。

以下のコマンドを実行して、ServerView が動作するのに必要な RPM のインストール状態を確認します。

```
# rpm -q openssl
# rpm -q ucd-snmp（Red Hat Linux 8.0ではnet-snmp）
# rpm -q gcc
# rpm -q make
# rpm -q vim-minimal
# rpm -q glibc
# rpm -q libstdc++
# rpm -q rpm
# rpm -q gawk
# rpm -q kernel-source
# rpm -q byacc
# rpm -q apache（Red Hat Linux 8.0ではhttpd）
# rpm -q mod_ssl
```

RPM がインストールされている場合は、"RPM 名 -XX.XX-XX" が表示されます（XX はバージョンを示します）。
インストールされていない RPM は、RedHat Linux の CD-ROM からインストールしてください。

重 要

- **新たに RPM をインストールする際に、「エラー : 依存性の欠如 :」が発生する場合があります。**
  その場合には、エラーメッセージに従い、必要とされる RPM を先にインストールしてください。

4 /etc/snmp/snmpd.conf のバックアップファイルを作成します。

以下のコマンドを実行します。

```
# ls /etc/snmp/
snmpd.conf
```

snmpd.conf.org が存在しない場合のみ、以下のコマンドを実行してください。

```
# cp /etc/snmp/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf.org
```

5 PRIMERGY ドキュメント＆ツールCDから/etc/snmp/snmpd.confをコピーします。

デフォルト値を設定済みの /etc/snmp/snmpd.conf を、CD-ROM からコピーします。
以下のコマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/
# cp /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf
# chmod 644 /etc/snmp/snmpd.conf
```

6 /etc/snmp/snmpd.conf を編集します。

/etc/snmp/snmpd.conf 内の以下の項目を編集します。
なお、snmpd.conf の詳細は、/etc/snmp/snmpd.conf 内のコメントを参照してください。

項目	設定内容
com2sec	com2sec 項目に下記の設定例を追加します。 設定例：com2sec svSec default public com2sec svSec localhost public com2sec svSec xxx public ※ xxx には以下のいずれかの設定値を代入してください。 default：すべてのサーバ／クライアントからのアクセスを許可します。 localhost：自サーバのみアクセスを許可します。 <IP アドレス >：特定のサーバ／クライアントからのアクセスを許可します。 <subnet>/<netmask>：特定のネットワークからのアクセスを許可します。
trapsink	trapsink 項目に下記の設定例を追加します。 設定例：trapsink 127.0.0.1 public trapsink <IP アドレス > public SNMP トラップを送信したい IP アドレスを指定します。 サーバ自身の IP アドレス（127.0.0.1）はすでに設定されているため、改めて記述する必要はありません。 複数装置に送信したい場合は、同じ記述で IP アドレスが異なるものを複数行記述します。
syslocation	syslocation 項目に下記の設定例を追加します。 設定例：syslocation computer room L200 サーバのロケーション（設置場所）を半角文字で入力します。 ServerView のプロパティで開いた際に、「場所」として表示されます。
syscontact	syscontact 項目に下記の設定例を追加します。 設定例：syscontact Your name サーバの管理者名を半角文字で入力します。 ServerView のプロパティで開いた際に、「管理者」として表示されます。

重 要

- **/etc/snmp/snmpd.conf の変更を反映するには、"/etc/rc.d/init.d/snmpd restart" コマンドを実行する必要があります。**

7 RPM コマンドを実行します。

srvmagt-eecd/srvmagt-agents の順番でインストールします。

```
# /etc/rc.d/init.d/snmpd restart
# rpm -i /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/Agent/srvmagt-eecd-X.XX-XX.redhat.rpm
# rpm -i /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/Agent/srvmagt-agents-X.XX-XX.redhat.rpm
# cd /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/JAPANESE/Sv/
# ./InstallAlarmService AlarmServiceStarter-X.X-X.i386.rpm
# cd /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/JAPANESE/WebExt/
# ./InstallWebExtension WebExtensionStarter-X.X-X.i386.rpm
```

（XX はバージョンを示します。）

8 RPM **コマンドの実行結果を確認します。**

正常にインストールできたかどうかを確認するため、以下のコマンドを実行します。RPM コマンドが正常に終了している場合は、インストールされている RPM パッケージのバージョンが表示されます。

```
# rpm -q srvmagt-eecd ←コマンド
srvmagt-eecd-X.XX-XX ←実行結果

# rpm -q srvmagt-agents
srvmagt-agents-X.XX-XX

# rpm -q AlarmService
AlarmService-X.X-X

# rpm -q WebExtension
WebExtension-X.X-X
```

（XX はバージョンを示します。）

9 ServerView Linux **エージェントのデフォルト設定を行います。**

以下のコマンドを実行します。

```
# groupadd svuser
# cp /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/config /etc/srvmagt/config
# chmod 644 /etc/srvmagt/config
# cd /
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart
# /etc/rc.d/init.d/eecd restart
```

10 **インストール終了後の設定を行います。**

「2.4.7 ［Linux］各サービスの設定（通常のサーバ）」（→ P.62）を実施してください。

■ RPM バージョンの確認／バージョンアップ

ここでは、RPM バージョンの確認、およびバージョンアップについて説明します。

● RPM バージョンの確認

インストールされている RPM パッケージのバージョンは、以下のコマンドを実行して確認できます。

```
# rpm -q srvmagt-eecd ←コマンド
srvmagt-eecd-X.XX-XX ←実行結果

# rpm -q srvmagt-agents
srvmagt-agents-X.XX-XX

# rpm -q AlarmService
AlarmService-X.X-X

# rpm -q WebExtension
WebExtension-X.X-X
```

（XX はバージョンを示します。）

● **バージョンアップ**

バージョンの新しい RPM パッケージが配布された場合のバージョンアップは、スーパーユーザでログインして以下のコマンドを実行して行います。

```
# rpm -e srvmagt-agents
# rpm -e srvmagt-eecd
# rpm -i srvmagt-eecd-xx.xx-xx.redhat.rpm
# rpm -i srvmagt-agents-xx.xx-xx.redhat.rpm
# ./InstallAlarmService -upgrade AlarmServiceStarter-x.x-
x.i386.rpm
# ./InstallWebExtension -upgrade WebExtensionStarter-x.x-
x.i386.rpm
```

（XX はバージョンを示します。）

```
# /etc/rc.d/init.d/eecd start
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt start
```

2.3.4 ［Linux］ServerView Linux のインストール（ブレードサーバ）

OS が Linux でブレードサーバの場合は、ServerView Linux（ServerView Linux エージェント）をインストールします。
インストール方法は、以下の 2 とおりがあります。

- インストールスクリプトを使ったインストール（→ P.42）
- 手動でのインストール（→ P.46）
  インストールスクリプトを使ったインストールができない場合、ServerView Linux を手動でインストールします。

また、ServerView Linux エージェントとは別に、ServerView WebExtension およびアラームサービスの Linux 版を手動でインストールできます。
ServerView WebExtension ／ AlarmService は、Linux のみの環境下で 1 台のサーバにインストールすると、他のサーバの状態も監視できます。
インストール方法は「■ ServerView WebExtension/AlarmService（Linux）のインストール」（→ P.49）を参照してください。

重 要

本書では、ServerView Linux をドキュメント & ツール CD からインストールする記述になっています。弊社 Web ページの Linux 関連情報（http://www.fmworld.net/biz/primergy/levelup.html）から ServerView Linux をダウンロードしてインストールする場合には、ディレクトリの指定部分を、ファイルを転送／展開したディレクトリに読み替えてください。

■ インストールスクリプトでの ServerView Linux エージェントのインストール

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内のインストールスクリプトを利用して、ServerView Linuxエージェントのインストール、およびSNMPサービス設定ファイル(/etc/snmp/snmpd.conf)の編集ができます。

POINT

- **/etc/snmp/snmpd.conf は、ServerView のインストール後に手動で編集することもできます。手動で編集したあとは、"/etc/rc.d/init.d/snmpd restart" コマンドを実行してください。**

インストールスクリプトがエラーメッセージを表示して終了した場合は、「A.1 インストールスクリプトのトラブルシューティング」（→ P.236）を参照してください。

● インストールスクリプトの起動方法

インストールスクリプトによるインストールは、スーパーユーザでログインして PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のコマンドを実行して行います。

```
# mount /mnt/cdrom/
# cd /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/JAPANESE
# ./BR_inssv
```

● IP アドレスの入力

インストールスクリプトのタイトル表示の後、IP アドレスの入力を要求されます。
SNMP トラップを送信したい IP アドレスを入力して【Enter】キーを押してください。
サーバ自身の IP アドレス（127.0.0.1）は自動的に設定されるので、ここで入力する必要はありません。
複数装置に送信したい場合は、各装置の IP アドレスを入力します。
入力した IP アドレスは、/etc/snmp/snmpd.conf に書き込まれます。
IP アドレスを入力し終えたら【e】キーを押してください。以下の処理に進みます。
以下は、ServerView V3.40L20 の場合の出力結果例です。

```
--------------------------------------------
ServerView install / RPM control script version VX.XLXX（for
BX300）
Copyright(C) FUJITSU LIMITED 2003

checking kernel version...
kernel version check [OK]

Please input IP-addresses to where you want to send SNMP-
traps.
(Note : No need to input the IP address of this server,
        it will be added automatically by the installer.)
Press "e" key to continue.

>192.168.1.10
>192.168.1.20
>e
--------------------------------------------
```

● ロケーションの入力

サーバのロケーション（設置場所）を入力します。
入力されたロケーションは、/etc/snmp/snmpd.conf 内の syslocation 項目に書き込まれ、ServerView のプロパティで開いた際に、「場所」として表示されます。
半角文字で 64 バイトまで入力できます。
ロケーションを入力したら、【Enter】キーを押してください。以下の処理に進みます。
何も入力しないで【Enter】キーを押すと、デフォルト値が書き込まれます。

```
---------------------------------------------
Please input a location of the server.
The specified location will be shown as a property of the
server at the ServerView console.

You can change the location of the server later,
by editing the /etc/snmp/snmpd.conf.
>(Example: computer room L200)
---------------------------------------------
```

● 管理者の入力

サーバの管理者名を入力します。
入力された管理者名は、/etc/snmp/snmpd.conf の syscontact 項目に書き込まれ、ServerView のプロパティで開いた際に、「管理者」として表示されます。
半角文字で 64 バイトまで入力できます。
管理者名を入力したら、【Enter】キーを押してください。以下の処理に進みます。
何も入力しないで【Enter】キーを押すと、デフォルト値が書き込まれます。

```
---------------------------------------------
Please input a name of the root user.
The specified name will be shown as a property of the server at
the ServerView console.

You can change the name of the root user later,
by editing the /etc/snmp/snmpd.conf.
>(Example: Your name)
---------------------------------------------
```

● RPM を実行

snmpd を起動した後、ServerView Linux エージェント（eecd/agents）の RPM を実行します。
各 RPM の出力結果が表示されます。
以下は、正常時の出力結果例です。

```
---------------------------------------------
snmpdを起動中:      [  OK  ]

The package kernel-headers or kernel-source has to be ←
srvmagt-eecdの出力
installed (kernel-headers is normaly installed by default).
and module compilation must succeed.

Compiling modules for 2.4.7-10smp:
cop(Ok) copa(Ok) i960(Ok) ihpci(Ok) ipmi(Ok) smbus(Ok) [  OK  ]
Loading modules: smbus [  OK  ]
Starting eecd[  OK  ]
snmpdを停止中: [  OK  ] ←srvmagt-agentsの出力
snmpdを起動中: [  OK  ]
Starting agent scagt[  OK  ]
Starting agent busagt[  OK  ]
Starting agent hdagt[  OK  ]
Starting agent mylexagt[  OK  ]
Starting agent unixagt[  OK  ]
Starting agent etheragt[  OK  ]
Starting agent biosagt[  OK  ]
Starting agent securagt[  OK  ]
Starting agent statusagt[  OK  ]
Starting agent invagt[  OK  ]
Starting agent vvagt[  OK  ]

Restarting srvmagt, please wait...
Restarting eecd, please wait...
---------------------------------------------
```

● 実行結果の確認

ServerView Linux エージェント（eecd/agents）が正常にインストールされた場合、最終行に下記の正常終了メッセージが表示されます。

```
ServerView's RPMs are installed successfully.
```

上記メッセージが表示された場合は、「2.4.8 ［Linux］各サービスの設定（ブレードサーバ）」（→ P.68）を実施してください。
上記メッセージが出力されない場合は、「A.1 インストールスクリプトのトラブルシューティング」（→ P.236）を参照してください。

■ 手動での ServerView Linux のインストール

インストールスクリプトでのインストールができない場合、スーパーユーザでログインして手動でインストールする必要があります。
以下に、手動での ServerView Linux のインストール手順を示します。

1 動作環境を確認します。

「1.3 システム要件」（→ P.19）を参照して、ServerView Linux エージェントのインストールの条件を満たしていることを確認してください。

2 カーネル版数を確認します。

POINT

- ServerView 3.40L15 **の場合は、この手順は必要ありません。手順 3 へ進んでください。**

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のコマンドを実行してください。

```
# mount /mnt/cdrom/
# cd /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/JAPANESE
# ./BR_chkver
```

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の ServerView がサポートするカーネル版数の場合、
下記のメッセージが表示されます。

```
kernel version check [OK]
```

3 パッケージ（RPM）のインストール状態を確認します。

以下のコマンドを実行して、ServerView が動作するのに必要な RPM のインストール状態を確認します。

```
# rpm -q openssl
# rpm -q ucd-snmp（Red Hat Linux 8.0ではnet-snmp）
# rpm -q gcc
# rpm -q make
# rpm -q vim-minimal
# rpm -q glibc
# rpm -q libstdc++
# rpm -q rpm
# rpm -q gawk
# rpm -q kernel-source
```

RPM がインストールされている場合は、"RPM 名 -XX.XX-XX" が表示されます（XX はバージョンを示します）。
インストールされていない RPM は、RedHat Linux の CD-ROM からインストールしてください。

重 要

- **新たに RPM をインストールする際に、" エラー: 依存性の欠如 :" が発生する場合があります。**
  その場合には、エラーメッセージに従い、必要とされる RPM を先にインストールしてください。

4 /etc/snmp/snmpd.conf のバックアップファイルを作成します。

以下のコマンドを実行します。

```
# ls /etc/snmp/
snmpd.conf
```

snmpd.conf.org が存在しない場合のみ、以下のコマンドを実行してください。

```
# cp /etc/snmp/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf.org
```

5 PRIMERGY ドキュメント＆ツールCDから/etc/snmp/snmpd.confをコピーします。

デフォルト値を設定済みの /etc/snmp/snmpd.conf を、CD-ROM からコピーします。
以下のコマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/
# cp /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf
# chmod 644 /etc/snmp/snmpd.conf
```

6 /etc/snmp/snmpd.conf を編集します。

/etc/snmp/snmpd.conf 内の以下の項目を編集します。
なお、snmpd.conf の詳細は、/etc/snmp/snmpd.conf 内のコメントを参照してください。

項目	設定内容
com2sec	com2sec 項目に下記の設定例を追加します。 設定例：com2sec svSec default public com2sec svSec localhost public com2sec svSec xxx public ※ xxx には以下のいずれかの設定値を代入してください。 default：すべてのサーバ／クライアントからのアクセスを許可します。 localhost：自サーバのみアクセスを許可します。 <IP アドレス >：特定のサーバ／クライアントからのアクセスを許可します。 <subnet>/<netmask>：特定のネットワークからのアクセスを許可します。

項目	設定内容
trapsink	trapsink 項目に下記の設定例を追加します。 設定例：trapsink 127.0.0.1 public trapsink <IP アドレス > public SNMP トラップを送信したい IP アドレスを指定します。 サーバ自身の IP アドレス（127.0.0.1）はすでに設定されているので、改めて記述する必要はありません。 複数装置に送信したい場合は、同じ記述で IP アドレスが異なるものを複数行記述します。
syslocation	syslocation 項目に下記の設定例を追加します。 設定例：syslocation computer room L200 サーバのロケーション（設置場所）を半角文字で入力します。 ServerView のプロパティで開いた際に、「場所」として表示されます。
syscontact	syscontact 項目に下記の設定例を追加します。 設定例：syscontact Your name サーバの管理者名を半角文字で入力します。 ServerView のプロパティで開いた際に、「管理者」として表示されます。

重 要

- **/etc/snmp/snmpd.conf の変更を反映するには、"/etc/rc.d/init.d/snmpd restart" コマンドを実行する必要があります。**

7 RPM コマンドを実行します。

srvmagt-eecd/srvmagt-agents の順番でインストールします。

```
# /etc/rc.d/init.d/snmpd restart
# rpm -i /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/Agent/srvmagt-eecd-X.XX-XX.redhat.rpm
# rpm -i /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/Agent/srvmagt-agents-X.XX-XX.redhat.rpm
```

（XX はバージョンを示します。）

8 RPM コマンドの実行結果を確認します。

正常にインストールできたかどうかを確認するため、以下のコマンドを実行します。RPM コマンドが正常に終了している場合は、インストールされている RPM パッケージのバージョンが表示されます。

```
# rpm -q srvmagt-eecd ←コマンド
srvmagt-eecd-X.XX-XX ←実行結果

# rpm -q srvmagt-agents
srvmagt-agents-X.XX-XX
```

（XX はバージョンを示します。）

9 ServerView Linux **エージェントのデフォルト設定を行います。**

以下のコマンドを実行します。

```
# groupadd svuser
# cp /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/config /etc/srvmagt/config
# chmod 644 /etc/srvmagt/config
# cd /
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart
# /etc/rc.d/init.d/eecd restart
```

10 インストール終了後の設定を行います。

「2.4.8 ［Linux］各サービスの設定（ブレードサーバ）」（→ P.68）を実施してください。

■ RPM バージョンの確認／バージョンアップ

ここでは、RPM バージョンの確認、およびバージョンアップについて説明します。

● RPM バージョンの確認

インストールされている RPM パッケージのバージョンは、以下のコマンドを実行して確認できます。

```
# rpm -q srvmagt-eecd ←コマンド
srvmagt-eecd-X.XX-XX ←実行結果

# rpm -q srvmagt-agents
srvmagt-agents-X.XX-XX
```

（XX はバージョンを示します。）

● バージョンアップ

バージョンの新しい RPM パッケージが配布された場合のバージョンアップは、スーパーユーザでログインして以下のコマンドを実行して行います。

```
# rpm -e srvmagt-agents
# rpm -e srvmagt-eecd
# rpm -i srvmagt-eecd-xx.xx-xx.redhat.rpm
# rpm -i srvmagt-agents-xx.xx-xx.redhat.rpm
```

（XX はバージョンを示します。）

```
# /etc/rc.d/init.d/eecd start
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt start
```

■ ServerView WebExtension/AlarmService（Linux）のインストール

1 動作環境を確認します。

「1.3 システム要件」（→ P.19）を参照して、インストールの条件を満たしていることを確認してください。

2 パッケージ（RPM）のインストール状態を確認します。

以下のコマンドを実行して、ServerView が動作するのに必要な RPM のインストール状態を確認します。

```
# rpm -q ucd-snmp（Red Hat Linux 8.0ではnet-snmp）
# rpm -q apache（Red Hat Linux 8.0ではhttpd）
# rpm -q gcc
# rpm -q make
# rpm -q byacc
# rpm -q rpm
# rpm -q gawk
# rpm -q openssl
# rpm -q mod_ssl
```

RPM がインストールされている場合は、"RPM 名 -XX.XX-XX" が表示されます（XX はバージョンを示します）。

インストールされていない RPM は、「■ 手動での ServerView Linux のインストール」（→ P.46）を参考にインストールしてください。

3 RPM コマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/
# cd /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/JAPANESE/Sv/
# ./InstallAlarmService AlarmServiceStarter-X.X-X.i386.rpm
（XX はバージョンを示します。）
# cd /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/JAPANESE/WebExt/
# ./InstallWebExtension WebExtensionStarter-X.X-X.i386.rpm
（XX はバージョンを示します。）
```

4 RPM コマンドの実行結果を確認します。

正常にインストールできたかどうかを確認するため、以下のコマンドを実行します。

RPM コマンドが正常に終了している場合は、インストールされている RPM パッケージのバージョンが表示されます。

```
# rpm -q AlarmService ←コマンド
AlarmService-X.X-X ←実行結果

# rpm -q WebExtension
WebExtension-X.X-X
（XX はバージョンを示します。）
```

5 httpd サービス設定ファイルを編集します。

/etc/httpd/conf/httpd.conf（Apache HTTP サーバの設定ファイル）内の ServerName ディレクティブを編集します

ServerName ディレクティブについては、Redhat Linux のマニュアルおよび httpd.conf のコメント文を参照してください。

重 要

- **Red Hat Linux 8.0 の場合**
  Red Hat Linux 8.0 の httpd.conf では、AddDefaultCharset ディレクティブのデフォルト値が "ISO-8859-1" に設定されており、日本語を表示した場合に文字化けが発生します。AddDefaultCharset ディレクティブ値を "off" に変更してください。
  HTTP 設定ツール（redhat-config-httpd）を使用すると AddDefaultCharset ディレクティブ値がデフォルト値 "ISO-8859-1" に戻るので、手動で "off" に変更してください。

6 httpd サービスを再起動します。

以下のコマンドを入力し、httpd サービスを再起動します。

```
# /etc/rc.d/init.d/httpd restart
```

7 httpd サービスの自動起動を設定します。

setup コマンドを使用して、httpd サービスの自動起動を設定します。
setup コマンドについては「■ SNMP サービス／ httpd サービスの自動起動設定」（→ P.62）を参照してください。

8 Firewall の設定を行います。

「■ Firewall の設定」（→ P.69）に加えて、「Firewall Configuration - Customize 」画面で WWW（HTTP）にも［*］印をつけ、Other ports に「snmp:udp https:tcp」と記述します。

2.3.5 ServerView Console のインストール

監視対象のサーバをパソコンから管理したい場合は、パソコンに ServerView Console をインストールします。

重 要

- **旧バージョンの ServerView Console がインストールされているパソコンにインストールを行うと、アップデート インストールが行われます。**

1 **管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。**

2 **実行中のアプリケーションをすべて終了します。**

3 **PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD をセットし、以下のインストーラを起動します。**

[CD-ROM ドライブ]:\SVMANAGE\JAPANESE\CONSOLE.EXE

「ServerView System Requirements」が表示されます。

4 **[OK] をクリックします。**

「Web サーバの選択」画面が表示されます。

5 **使用する Web サーバを選択し、[次へ] をクリックします。**

重 要

- **ServerView Web-Server を選択した場合、Apache for Win32 をベースとした Web サーバが ServerView とともにインストールされます。**
- **IIS を選択した場合、インストール済みの IIS を Web サーバとして使用します。IIS がインストールされていない場合は、IIS は選択できません。**
- **ServerStart で ServerView を自動インストールした場合、Web サーバは ServerView Web-Server が選択されています。IIS に変更したい場合は、ServerView をアンインストールし、IIS インストール後、再度 ServerView のインストーラを起動してください。**

●「Web サーバの選択」画面で ServerView Web-Server を選択した場合

「SSL の使用」画面が表示されます。「SSL と認証を使用する」をチェックすると、Web 接続時に SSL 接続が使用できるようになり、また接続時に認証が要求されるようになります。チェック後、［次へ］をクリックします。

重 要

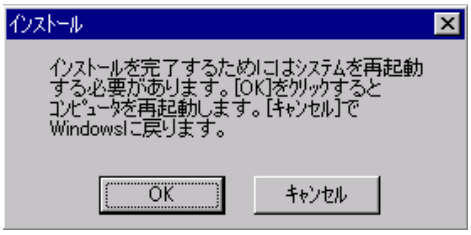
- **ServerStart で ServerView を自動インストールした場合、SSL と認証の使用は無効になっています。有効にする場合は、いったん ServerView をアンインストールし、再度 ServerView のインストーラを起動してください。**
- **認証に使用するユーザ名とパスワードは、デフォルトでユーザ名「svuser」、パスワード「fsc」に設定されています。**

「ServerView Hints」画面が表示されます。

6　［OK］をクリックします。

インストールが完了すると、再起動メッセージが表示されます。

7　［OK］または［キャンセル］をクリックします。



インストールが終了したら、ServerView を運用するための設定を行ってください（「2.4 インストール後の設定」（→ P.58）参照）。

2.3.6　ServerView WebExtension のインストール

Web ブラウザによるサーバ監視を行う場合は、Web サーバソフトをインストール済みの管理用サーバに、ServerView WebExtension をインストールします。

1　管理者または管理者と同等の権限を持つユーザ名でログインします。

2　実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3 PRIMERGY **ドキュメント＆ツール** CD **をセットし、以下のインストーラを起動します。**

[CD-ROM ドライブ]:\SVMANAGE\JAPANESE\WE_SETUP.EXE

ServerView をインストール済みの場合、「AlermService の統合」画面が表示されます。

4 [OK] **をクリックします。**

POINT

- **上記画面に表示されている** Web **サーバを、手順** 7 **の「**Web **サーバの選択」画面で選択してください。**

「インストール開始」画面が表示されます。

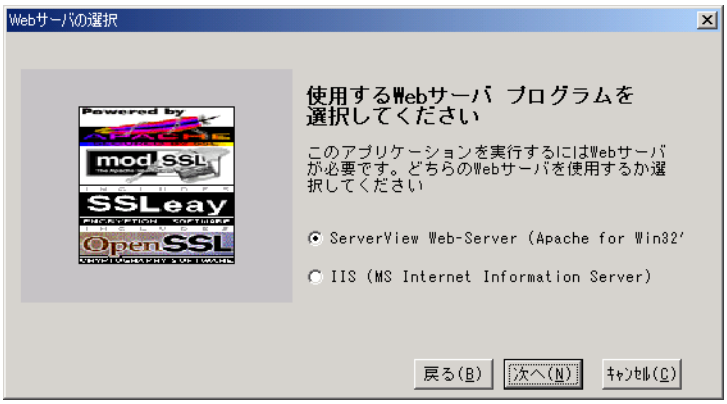
5 [OK] **をクリックします。**

「概要とシステム要件」画面が表示されます。

6 [OK] **をクリックします。**

「Web サーバの選択」画面が表示されます。

7 **使用する** Web **サーバを選択し、[次へ] をクリックします。**



「インストール先」画面が表示されます。

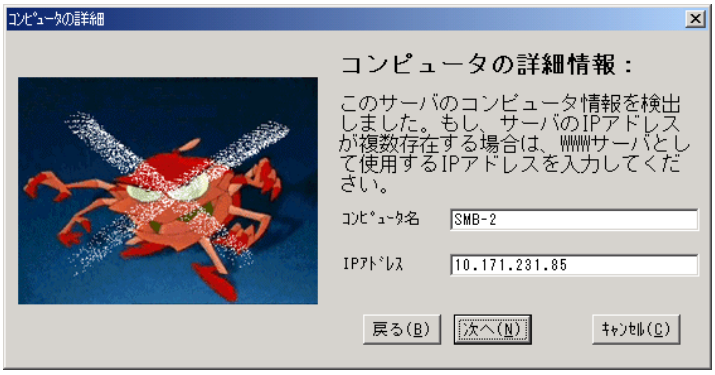
8　インストール先を選択し、［次へ］をクリックします。

POINT

- **手順 7 で ServerView Web-Server を選択した場合、「インストール先」画面の下部に「SSL と認証の使用」チェックボックスが表示されます。ここをチェックすると、Web 接続時に SSL 接続が使用できるようになり、また接続時に認証が要求されるようになります。**

「コンピュータの詳細」画面が表示されます。

9　複数枚の LAN カードを搭載するなどして IP アドレスが複数存在する場合は、Web サーバとして利用する IP アドレスを入力し、［次へ］をクリックします。それ以外の場合は、コンピュータ名、IP アドレスを確認し、［次へ］をクリックします。



「プログラムマネージャグループ」画面が表示されます。

10　登録先を確認し、［次へ］をクリックします。

「インストール終了」画面が表示されます。

11　［終了］をクリックします。

12 Java 2 Runtime Enviroment Standard Edition **をインストールします。**

ServerView WebExtension のインストール中に、Java 2 Runtime Enviroment Standard Edition V1.4.1_02（JRE）のセットアップが開始されます。手順に従って、インストールを行ってください。インストールを行わない場合、エクスポートマネージャ機能が正しく動作しません。

JRE のインストールが完了すると、「セットアップ完了」画面が表示されます。

13 **「いいえ、あとでコンピュータを再起動します」をクリックします。**

「直ちにコンピュータを再起動します。」をクリックすると、WebExtension は正しくインストールされません。

ServerView WebExtension のインストールが終了すると、再起動画面が表示されます。

14 **［OK］または［キャンセル］をクリックします。**

2.3.7 オプション装置監視エージェントのインストール

サーバに搭載／接続されているオプション装置の監視機能を有効にする場合は、各オプション装置の監視エージェントをインストールする必要があります。

重 要

- **ブレードサーバの場合、オプション装置監視エージェントはすでに適切に設定されています。以下の作業は行わないでください。**

1 **管理者または管理者と同等の権限をもつユーザとしてログインします。**

2 **実行中のアプリケーションをすべて終了します。**

3 **インストール済みのエージェントをアンインストールするために、PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD をセットし、以下のアンインストーラを起動します。**

```
［CD-ROMドライブ］:\SVMANAGE\JAPANESE\UNAGENT.EXE
```

重 要

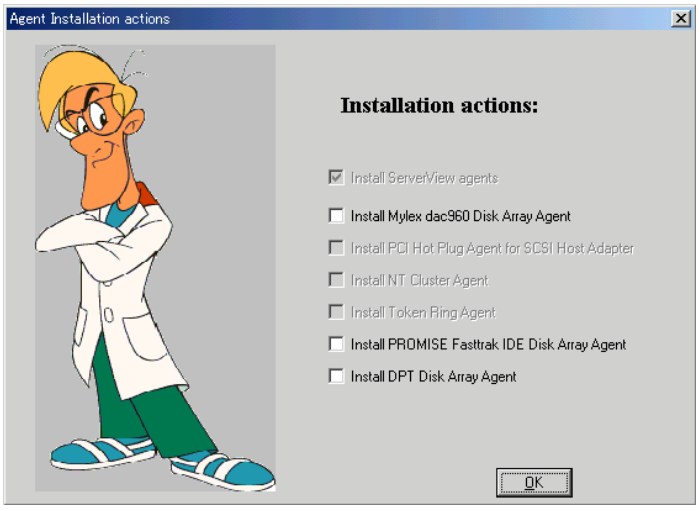
- **アンインストールするのは、エージェントのみで、上記のコマンドのみ使用してください。管理コンソールがインストールされていないと、オプション装置の追加インストールが行えません。**
- **管理コンソールをアンインストールせずに、ServerView SNMP Agent をアンインストールした場合は SNMP Agent がプログラムグループから削除されないことがあります。この場合、管理コンソールのアンインストール時に削除されます。**

4 **アンインストール後、再起動を促すメッセージが表示されたら、サーバを再起動します。**

5　オプション装置を監視するエージェントをインストールするために、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のインストーラを起動します。

[CD-ROMドライブ]:\SVMANAGE\TOOLS\ADDAGENT.EXE

「Agent Installation Actions」画面が表示されます。



各エージェントの概要は下表のとおりです。

項目	説明
Install ServerView agents	基本のエージェントのみをインストールします。
Install Mylex dac960 Disk Array Agent	基本のエージェントおよび PG-143 ／ 144 アレイコントローラエージェントをインストールする場合に指定します。
Install PCI Hot Plug Agent for SCSI Host Adapter	基本のエージェントおよび PCI Hot Plug のエージェントをインストールする場合に指定します。（未サポート）
Install NT Cluster Agents	基本のエージェントおよび NT Cluster のエージェントをインストールする場合に指定します。（未サポート）
Install Token Ring Agents	基本のエージェントおよび Token Ring のエージェントをインストールする場合に指定します。（未サポート）
Install PROMISE Fasttrak IDE Disk Array Agent	基本のエージェントおよび IDE アレイコントローラエージェントをインストールする場合に指定します。
Install DPT Disk Array Agent	基本のエージェントおよび PG-141 ／ 142 アレイコントローラエージェントをインストールする場合に指定します。SCSI-RAIDmanager がインストールされている場合、この指定を行わなくても参照が可能です。

6　インストールするエージェントを選択し、[OK] をクリックします。

インストーラが起動します。インストールが完了すると、インストール画面が自動的に終了します。

重 要

- **対応するハードウェアが装着済みである場合に限り、追加エージェントをインストールしてください。存在しないハード用の追加エージェントをインストールした場合、そのハードを検出しようとしてエラーが発生する場合があります。**

2.4 インストール後の設定

ServerView をインストールしたあとは、ServerView を正しく運用できるように以下の設定を行います。

設定は、OS により異なります。

- OS が Windows の場合
  - ・ServicePack の適用（→ P.58）
  - ・Microsoft InternetExploler のインストール（→ P.59）
  - ・Java 2 Runtime Enviroment Standard Edition のインストール（→ P.59）
  - ・管理ユーザの設定（→ P.59）
  - ・オプション装置の割り込み情報の登録（→ P.60）
  - ・Web サービスの拡張（Windows 2003w で、Web サーバに IIS を選択した場合）（→ P.61）
- OS が Linux の場合
  - ・各サービスの設定（通常のサーバの場合）（→ P.62）
  - ・各サービスの設定（ブレードサーバの場合）（→ P.68）

また、インストール後にサーバのコンピュータ名や IP アドレスを変更した場合は、「2.4.9 インストール後のコンピュータ情報変更」（→ P.72）を参照して設定を行ってください。

2.4.1 Service Pack を適用する

ServerView の各コンポーネントをインストールしたすべてのサーバおよびパソコンに、Service Pack を適用してください。

- Windows2003 の場合、ServicePack がリリースされてないため必要ありません。
- Windows 2000 の場合、Service Pack 2 以降を適用します。
- Windows NT の場合、Service Pack 6a 以降を適用します。

重 要

- **Service Pack の適用は必ず行ってください。Service Pack を適用しない場合、動作保証はできません。**

2.4.2 Microsoft InternetExplorer のインストール

ServerView Basic ／ ServerView Full をインストールしたサーバ、および ServerView Console をインストールしたパソコンに、Microsoft Internet Exploler 6.0 以降をインストールしてください。
OS が Linux の場合は、Netscape Navigator ／ Communicator V4.78 以降（推奨 V6.2 以降）をインストールしてください。
また、Windows 2003 をご使用になる場合は、Microsoft Internet Exploler インストール後、以下の処理を行ってください。

● Windows 2003 の場合

- Web サイトの追加
  1. Internet Explorer を開きます。
  2. 「ツール」メニューから、「インターネット オプション」を選択します。
  3. [セキュリティ] タブをクリックし、「イントラネット」または「信頼済みサイト」を選択します。
  4. ［サイト］をクリックし、ServerView をインストールしたサーバの URL（http:// ＜サーバの IP アドレス＞）を追加します。

2.4.3 Java 2 Runtime Enviroment Standard Edition のインストール

ServerView Basic ／ ServerView Full をインストールしたサーバ、および ServerView Console をインストールしたパソコンに、Java 2 Runtime Enviroment Standard Edition をインストールしてください。
Java 2 Runtime Enviroment Standard Edition のインストーラは、PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD に格納されています。

1 PRIMERGY **ドキュメント＆ツール** CD **をセットし、以下のインストーラを起動します。**

・OS が Windows の場合
[CD-ROMドライブ]:\SVMANAGE\TOOLS\j2re-1_4_1_02-windows-i586-i.exe
・OS が RedHat Linux 8.0 の場合
[CD-ROMドライブ]:\SVMANAGE\Linux\TOOLS\j2re-1_4_1_02-fcs-linux-i586.rpm
Java 2 Runtime Enviroment Standard Edition がインストールされます。

2.4.4 管理ユーザの設定

ServerView Basic ／ ServerView Full をインストールすると、ServerView の管理権限をもつグループ（FUJITSU SVUSER）が設定されます。このグループに属するユーザだけが監視対象サーバの設定変更、シャットダウンなどを行えます。FUJITSU SVUSER グループ、および属するユーザは自動的に作成されません。監視対象サーバごとに FUJITSU SVUSER グループを作成し、ServerView の管理者を FUJITSU SVUSER グループに追加してください。

重 要

- ServerView での管理ユーザとは、「FUJITSU SVUSER」グループに所属しているユーザです。

POINT

- Windows2003 では、管理者ユーザアカウントにパスワードを設定しない場合、管理権限が与えられません。必ずパスワードを設定してください。
- FUJITSU SVUSER グループに、（グローバル）グループを追加しても、追加されたグループに含まれているユーザには管理権限は与えられません。FUJITSU SVUSER グループには、ユーザのみを追加してください。
- リモートサービスボードを取り付けている場合は、サーバのシステム上で「FUJITSU　SERVER」グループに登録したユーザアカウントと同一のユーザ名とパスワードを持つユーザアカウントを、リモートサービスボードにも作成してください。リモートサービスボードのユーザアカウントの作成については、「6.2.4 管理ユーザの設定」（→ P.202）を参照してください。
- 管理ユーザを SVUSER 以外に設定した場合、プログラムの起動直後にログオンを行うと失敗する場合があります。この場合、いったん［キャンセル］をクリックしログオン画面から閉じます。その後、サーバのプロパティの［ログイン］タブでログオンの設定を再度行ってください。

2.4.5 オプション装置の割り込み情報の登録

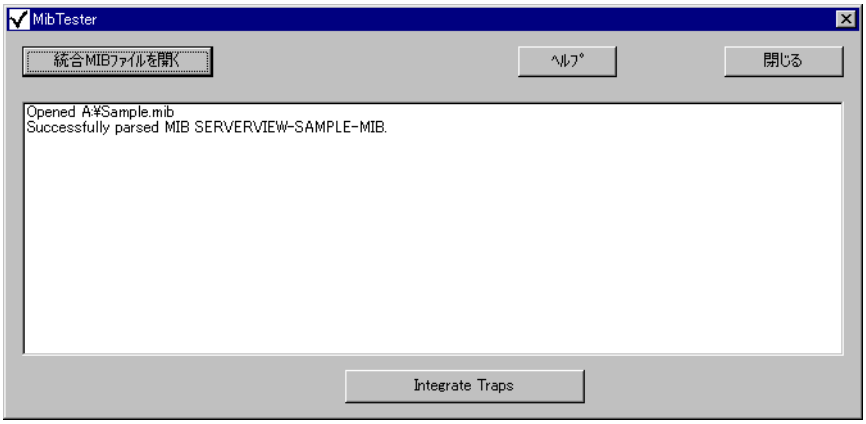
管理用のサーバまたはパソコン に、オプション装置の割り込み情報を登録します。

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「MIB Integrator」の順にクリックします。**

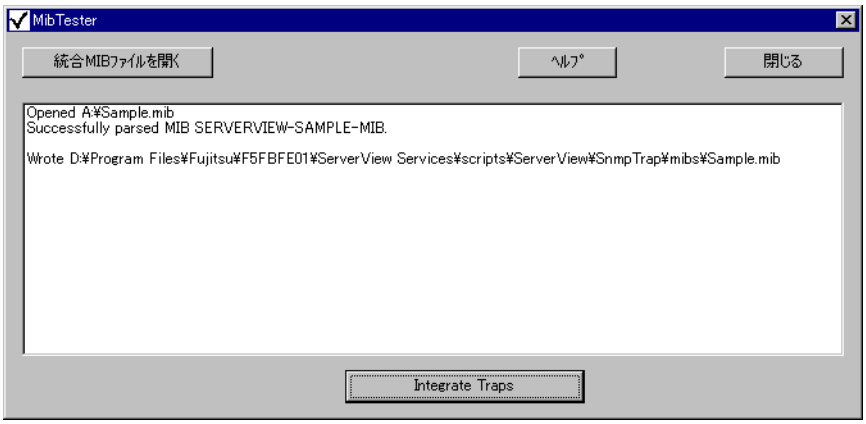
割り込み情報の登録処理が起動し、「Mib Tester」画面が表示されます。

2 **［統合MIBファイルを開く］をクリックし、登録するMIBファイルを選択します。**

3　手順 2 で選択したファイルが選択されていることを確認し、[Integrate Traps] をクリックして登録処理を行います。



4　下記のメッセージが表示されていることを確認し、[閉じる] をクリックして登録処理を終了します。



2.4.6　Web サービスの拡張

ServerView の各コンポーネントを Windows 2003 の環境にインストールした場合で、Web サーバに IIS を選択した場合は、以下の手順に従って「すべての不明な CGI 拡張」の許可を行ってください。

1　IIS **マネージャで、ローカルコンピュータを展開し、[Web サービス拡張] をクリックします。**

2　詳細のウィンドウ領域で、無効になっている「すべての不明な CGI 拡張」を選択し、[許可] をクリックします。

3　[OK] **をクリックします。**

2.4.7 ［Linux］各サービスの設定（通常のサーバ）

■ httpd サービス設定ファイルの編集

1　/etc/httpd/conf/httpd.conf を編集します。

/etc/httpd/conf/httpd.conf（Apache HTTP サーバの設定ファイル）内の ServerName ディレクティブを編集します

ServerName ディレクティブについては、Redhat Linux のマニュアルおよび httpd.conf のコメント文を参照してください。

重 要

- **Red Hat Linux 8.0 の場合**
  Red Hat Linux 8.0 の httpd.conf では、AddDefaultCharset ディレクティブのデフォルト値が "ISO-8859-1" に設定されており、日本語を表示した場合に文字化けが発生します。AddDefaultCharset ディレクティブ値を "off" に変更してください。
  HTTP 設定ツール（redhat-config-httpd）を使用すると AddDefaultCharset ディレクティブ値がデフォルト値 "ISO-8859-1" に戻るので、手動で "off" に変更してください。

2　httpd サービスを再起動します。

以下のコマンドを入力し、httpd サービスを再起動します。

```
# /etc/rc.d/init.d/httpd restart
```

■ SNMP サービス／ httpd サービスの自動起動設定

setup コマンドでサービスを有効にしていない場合、次にシステムを再起動したときに手動でサービスを起動する必要があります。

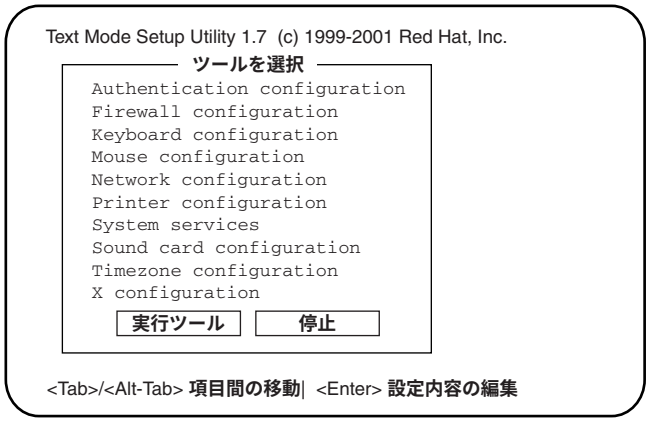
サービスを有効にしておけば、システム再起動時にサービスが自動起動します。setup コマンドでサービスを有効にする方法は、以下のとおりです。

1　スーパーユーザでログインし、以下のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/setup（setupコマンドはRedHat専用のコマンドです）
```

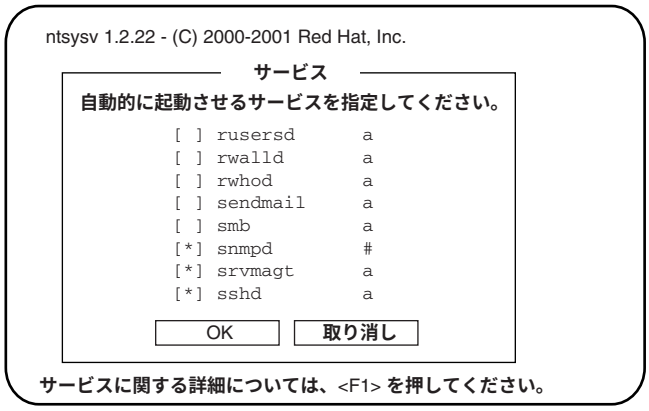
メニュー画面が表示されます。

2 「System services」を選択し、【Enter】キーを押します。



「サービス」画面が表示されます。

3 「snmpd」および「httpd」の項目に「*」印を付けます。



「*」印をつけるには、項目にカーソルを合わせ、【Space】キーを押します。

4 【Tab】キーで「OK」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

5 【Tab】キーで「停止」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

setup が終了します。

■ Firewall の設定

Firewall の設定は、Linux インストール時または setup コマンドで行います。
ここでは、setup コマンドでの設定方法を説明します。
なお、Linux インストール時と setup コマンド実行時で画面が異なりますが、設定項目は同じです。Linux インストール時の設定方法については、Redhat Linux のマニュアルおよび以下の設定方法を参考にしてください。

重 要

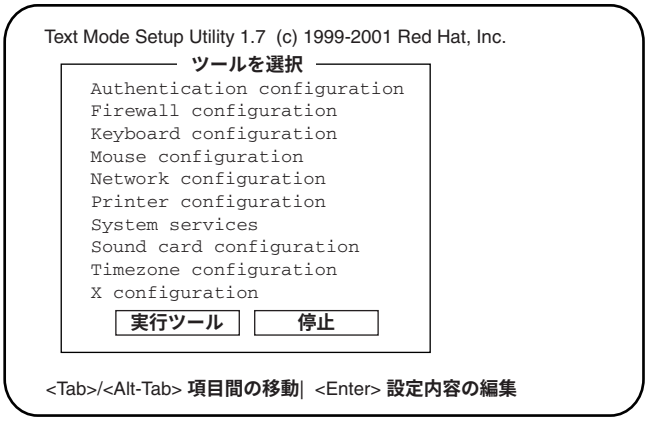
- **以下の Firewall の設定は、ServerView の動作に必要な設定です。**
  Firewall の設定についての詳細は、Redhat Linux のマニュアルを参照してください。

1　スーパーユーザでログインし、以下のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/setup
```

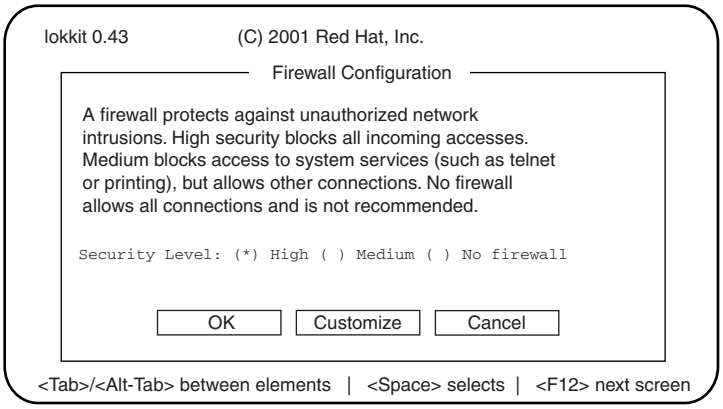
メニュー画面が表示されます。

2　「Firewall configuration」を選択し、【Enter】キーを押します。



「Firewall Configuration」画面が表示されます。

3　「High」に「*」印を付け、【Tab】キーで「Customize」にカーソルを合わせ【Enter】キーを押します。



「Firewall Configuration - Customize」画面が表示されます。

重 要

- **ここで「No firewall」を選択した場合は、以下の設定は必要ありません。**

4　使用するプロトコルを設定します。

```
lokkit 0.43                (C) 2001 Red Hat, Inc.
                 Firewall Configuration - Customize

  You can customize your firewall in two ways. First, you can select to
  allow all traffic from certain network interfaces. Second, you can allow
  certain protocols explicitly through the firewall. Specify additional
  ports in the form 'service:protocol', such as 'imap:tcp'.

  Trusted Devices: [ ] eth0 [ ] eth1

  Allow incoming:  [ ] DHCP       [ ] SSH          [ ] Telnet
                   [*] WWW (HTTP) [ ] Mail (SMTP)  [ ] FTP
                   Other ports snmp:udp https:tcp_______

                          OK

<Tab>/<Alt-Tab> between elements  |  <Space> selects  |  <F12> next screen
```

以下の 3 つのプロトコルを設定します。

プロトコル	説明
http、https	WebServer を立ち上げるのに必須
snmp	snmp サービスを立ち上げるのに必須

1. **WWW（HTTP）を選択します。**
   ［*］印を付けます。
2. **Other ports に「snmp:udp https:tcp」と記述します。**
3. **【Tab】キーで「OK」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。**

POINT

- **その他の機能を有効にする場合、この Firewall を設定する必要がある場合があります。**

5　【Tab】キーで「OK」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

6　「停止」を選択し、【Enter】キーを押します。

7 パケットフィルタリングの設定を編集します。

●Red Hat Enterprise Linux ES の場合

/etc/sysconfig/ipchains を編集します。

以下の例を参照して、4 行（下線部）追加してください。

```
# Firewall configuration written by lokkit
# Manual customization of this file is not recommended
# Note: ifup-post will punch the current nameservers
#       through the firewall; such entries will *not* be
#       listed here.
:input ACCEPT
:forward ACCEPT
:output ACCEPT
-A input -s 0/0     -d 0/0 161 -p udp       -j ACCEPT
-A input -s 0/0 161 -d 0/0     -p udp       -j ACCEPT
-A input -s 0/0     -d 0/0 162 -p udp       -j ACCEPT
-A input -s 0/0 162 -d 0/0     -p udp       -j ACCEPT
```

（以下略）

●Red Hat Linux 8.0 の場合

/etc/sysconfig/iptables を編集します。

以下の例を参照して、4 行（下線部）追加してください。

```
# Firewall configuration written by lokkit
# Manual customization of this file is not recommended.
# Note: ifup-post will punch the current nameservers
#       through the firewall; such entries will *not* be
#       listed here.
*filter
:INPUT ACCEPT [0:0]
:FORWARD ACCEPT [0:0]
:OUTPUT ACCEPT [0:0]
-A INPUT -j RH-Lokkit-0-50-INPUT
-A RH-Lokkit-0-50-INPUT -p udp -m udp --dport 161 -j ACCEPT
-A RH-Lokkit-0-50-INPUT -p udp -m udp --sport 161 -j ACCEPT
-A RH-Lokkit-0-50-INPUT -p udp -m udp --dport 162 -j ACCEPT
-A RH-Lokkit-0-50-INPUT -p udp -m udp --sport 162 -j ACCEPT
```

8 パケットフィルタリングの設定を反映します。

以下のコマンドを実行します。

●Red Hat Enterprise Linux ES の場合

```
# /etc/rc.d/init.d/ipchains restart
```

●Red Hat Linux 8.0 の場合

```
# /etc/rc.d/init.d/iptables restart
```

■ ServerView コンソールから ASR 設定やシャットダウン、再起動するための設定

管理コンソールから、ASR（Automatic Server Reconfiguration & Restart）設定（ファン／温度／再起動設定など）や電源の投入／切断を行うには、管理ユーザのユーザ名とパスワードの入力が求められます。
管理ユーザは、以下の手順で設定します。

重 要

- **ServerView での管理ユーザとは、「svuser」グループに所属しているユーザです。**
  ServerView をインストールスクリプトでインストールした場合、「svuser」グループは自動的に作成されます。

1　新規ユーザを管理ユーザとして作成します。

スーパーユーザでログインし、以下のコマンドを実行します。

```
# useradd -G svuser <ユーザ名>
# passwd <ユーザ名>
```

・useradd コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。
＜ユーザ名＞には、作成するユーザのユーザ名を指定します。
・passwd コマンドでは、作成したユーザのパスワードを設定します。パスワードは、確認のため、2 回入力します。なお、作成したユーザ名は、パスワードを設定すると有効になります。
・各コマンドの詳細は、useradd（8）,passwd（1）の man ページを参照してください。

2　既存ユーザを管理ユーザとして設定します。

設定する既存ユーザが、複数のグループに属しているかどうかをシステム管理者に確認し、以下のコマンドを実行してください。

●ユーザがメイングループにのみ属している場合

```
# usermod -G svuser <ユーザ名>
```

●ユーザが複数のグループに属している場合

```
# usermod -G svuser,<所属グループ,…> <ユーザ名>
```

・usermod コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。複数のグループを指定する場合は、カンマ（,）で区切って指定します。なお、以前所属していたグループをここで指定しなかった場合は、そのグループからは削除されます。所属すべきグループは、すべて指定してください。＜ユーザ名＞には、管理ユーザにするユーザ名を指定します。
usermod コマンドの詳細については usermod（8）の man ページを参照してください。
・vigr コマンドを使用して直接グループを設定することや、GUI ツールを使用して設定を行うこともできます。詳細は vigr（8）の man ページ、RedHat のマニュアルを参照してください。

2.4.8 ［Linux］各サービスの設定（ブレードサーバ）

■ SNMP サービスの自動起動設定

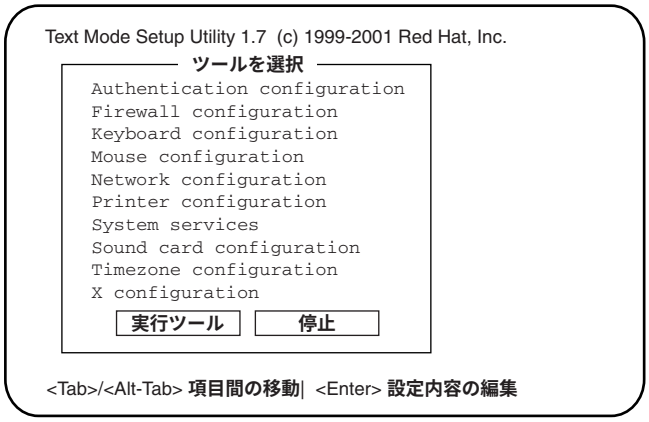
setup コマンドでサービスを有効にしていない場合、次にシステムを再起動したときに手動でサービスを起動する必要があります。サービスを有効にしておけば、システム再起動時にサービスが自動起動します。setup コマンドでサービスを有効にする方法は、以下のとおりです。

1　スーパーユーザでログインし、以下のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/setup（setupコマンドはRedHat専用のコマンドです）
```

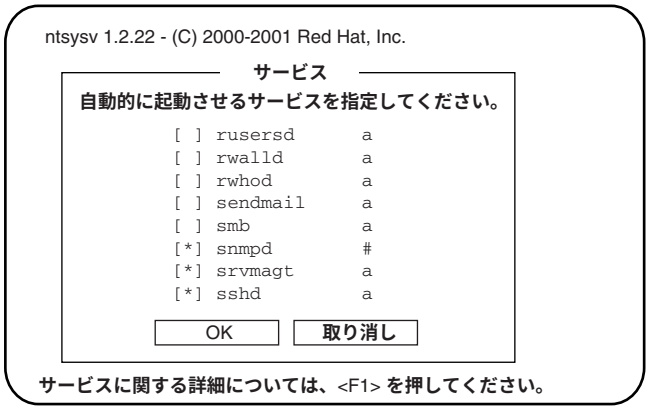
メニュー画面が表示されます。

2　「System services」を選択し、【Enter】キーを押します。



「サービス」画面が表示されます。

3　「snmpd」の項目に「*」印を付けます。



「*」印をつけるには、項目にカーソルを合わせ、【Space】キーを押します。

4　【Tab】キーで「OK」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

5　【Tab】キーで「停止」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

setup が終了します。

■ Firewall の設定

Firewall の設定は、Linux インストール時または setup コマンドで行います。
ここでは、setup コマンドでの設定方法を説明します。
なお、Linux インストール時と setup コマンド実行時で画面が異なりますが、設定項目は同じです。Linux インストール時の設定方法については、Redhat Linux のマニュアルおよび以下の設定方法を参考にしてください。

重 要

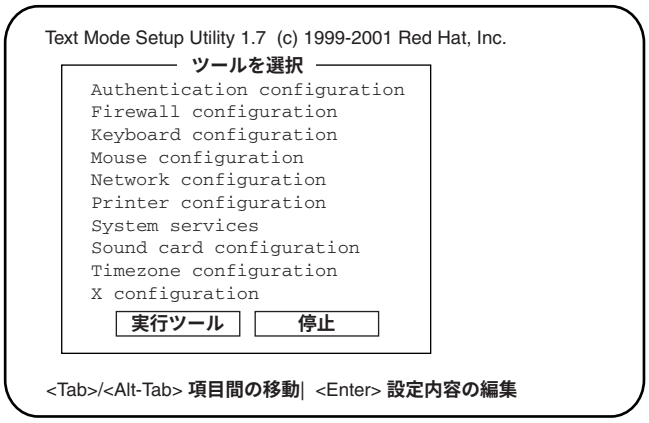
- **以下の Firewall の設定は、ServerView の動作に必要な設定です。**
  Firewall の設定についての詳細は、Redhat Linux のマニュアルを参照してください。

1　スーパーユーザでログインし、以下のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/setup
```

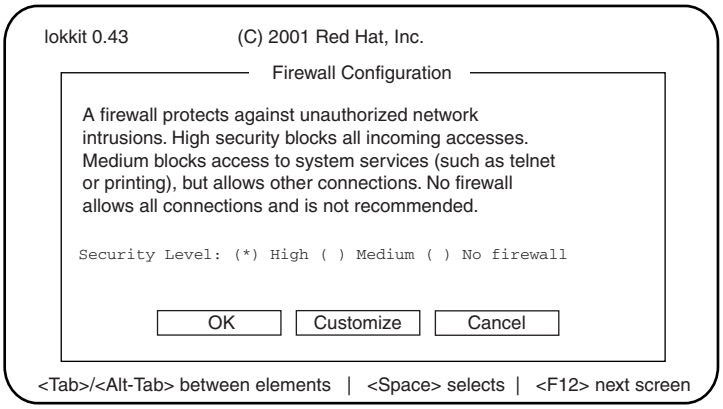
メニュー画面が表示されます。

2　「Firewall configuration」を選択し、【Enter】キーを押します。



「Firewall Configuration」画面が表示されます。

3 「High」に「*」印を付け、【Tab】キーで「Customize」にカーソルを合わせ【Enter】キーを押します。

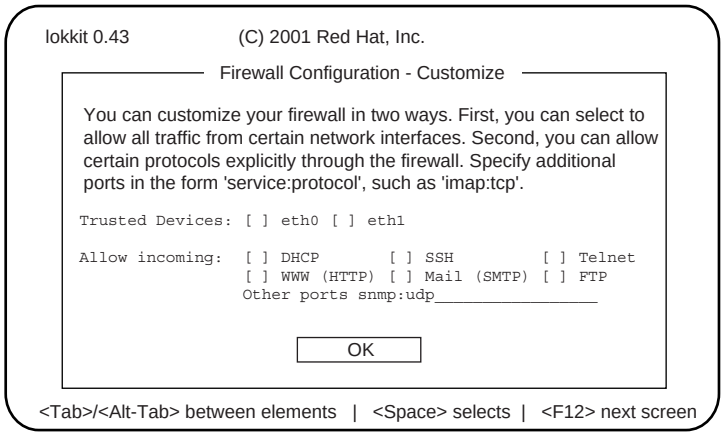


「Firewall Configuration - Customize」画面が表示されます。

重 要

- **ここで「No firewall」を選択した場合は、以下の設定は必要ありません。**

4 使用するプロトコルを設定します。



以下のプロトコルを設定します。

プロトコル	説明
snmp	snmp サービスを立ち上げるのに必須

1. Other ports に「snmp:udp」と記述します。
2. 【Tab】キーで「OK」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

POINT

- **その他の機能を有効にする場合、この Firewall を設定する必要がある場合があります。**

5 【Tab】キーで「OK」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

6 「停止」を選択し、【Enter】キーを押します。

■ ServerView コンソールから ASR 設定やシャットダウン、再起動するための設定

管理コンソールから、ASR（Automatic Server Reconfiguration & Restart）設定（ファン／温度／再起動設定など）や電源の投入／切断を行うには、管理ユーザのユーザ名とパスワードの入力が求められます。
管理ユーザは、以下の手順で設定します。

重 要

- **ServerView での管理ユーザとは、「svuser」グループに所属しているユーザです。**
  ServerView をインストールスクリプトでインストールした場合、「svuser」グループは自動的に作成されます。

1　新規ユーザを管理ユーザとして作成します。

スーパーユーザでログインし、以下のコマンドを実行します。

```
# useradd -G svuser <ユーザ名>
# passwd <ユーザ名>
```

・useradd コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。
＜ユーザ名＞には、作成するユーザのユーザ名を指定します。
・passwd コマンドでは、作成したユーザのパスワードを設定します。パスワードは、確認のため、2 回入力します。なお、作成したユーザ名は、パスワードを設定すると有効になります。
・各コマンドの詳細は、useradd（8）,passwd（1）の man ページを参照してください。

2　既存ユーザを管理ユーザとして設定します。

設定する既存ユーザが、複数のグループに属しているかどうかをシステム管理者に確認し、以下のコマンドを実行してください。

●ユーザがメイングループにのみ属している場合

```
# usermod -G svuser <ユーザ名>
```

●ユーザが複数のグループに属している場合

```
# usermod -G svuser,<所属グループ,…> <ユーザ名>
```

・usermod コマンドの G オプションでは、「svuser」グループを指定します。複数のグループを指定する場合は、カンマ（,）で区切って指定します。なお、以前所属していたグループをここで指定しなかった場合は、そのグループからは削除されます。所属すべきグループは、すべて指定してください。＜ユーザ名＞には、管理ユーザにするユーザ名を指定します。
usermod コマンドの詳細については usermod（8）の man ページを参照してください。
・vigr コマンドを使用して直接グループを設定することや、GUI ツールを使用して設定を行うこともできます。詳細は vigr（8）の man ページ、RedHat のマニュアルを参照してください。

2.4.9 インストール後のコンピュータ情報変更

ServerView をインストール後に、インストールしたマシンのコンピュータ名、または IP アドレスを変更した場合、次の操作を行います。

1 ServerView **およびアラームサービスを起動している場合は、すべて終了します。**

2 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「**Fujitsu ServerView**」→「**Change Computer Details**」の順にクリックします。**

3 **新しいコンピュータ情報を設定します。**

4 ServerView **エージェントがインストールされている場合は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「**Fujitsu ServerView**」→「**SNMP Agents**」→「**Restart Services**」の順にクリックします。**

5 ServerView **を起動し、”サーバの一覧”でコンピュータ名、**IP **アドレスを確認します。**

変更されていない場合、次の設定を行ってください。

●IP **アドレスが変更されていない場合**

1. **サーバの一覧から、対象のコンピュータを選択します。**
2. **「ファイル」メニュー→「サーバのプロパティ」の順にクリックします。**
3. **［サーバのアドレス］タブをクリックし、変更後の** IP **アドレスを入力します。**
4. **［**OK**］をクリックします。**

●コンピュータ名が変更されていない場合

1. **サーバの一覧から、対象のコンピュータを選択します。**
2. **「ファイル」メニュー→「削除」の順にクリックし、いったんサーバを削除します。**
3. **「ファイル」メニュー→「新しいサーバ」の順にクリックし、対象のコンピュータを再度登録します。**

   コンピュータの登録について、詳細は「3.1.2 監視対象サーバ（オブジェクト）の追加」（→ P.75）を参照してください。

第 3 章

ServerView の使用方法

この章では、ServerView の機能の使用方法について説明しています。さまざまな監視のための設定、バージョン管理機能、ServerView WebExtensionの使用方法についても説明しています。

3.1 管理コンソールの起動と終了 74
3.2 サーバ監視のための設定 85
3.3 サーバの状況確認 100
3.4 アーカイブマネージャ 124
3.5 バージョン管理 129
3.6 ServerView WebExtension の使用方法 134
3.7 ［Linux］ ServerView Linux の使用方法 141

3.1　管理コンソールの起動と終了

管理コンソールは、ServerView Full ／ Basic、または ServerView Console をインストールした管理端末で起動します。

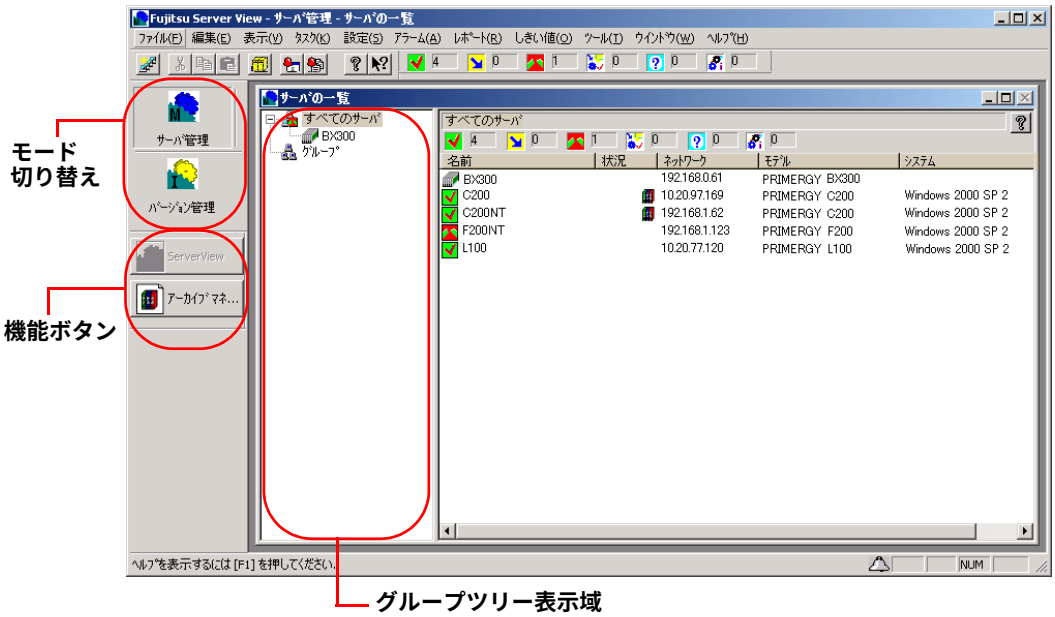
3.1.1　管理コンソールの起動

1　「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「Fujitsu ServerView」の順にクリックします。

管理コンソールが起動し、「サーバ管理」画面が表示されます。
「サーバ管理」画面内には、「サーバの一覧」画面が表示されます。このウィンドウ内に表示されているサーバが監視対象となります。

POINT

- **ServerView のインストール後、初めて ServerView を起動すると、ローカルサーバが自動的にサーバの一覧に追加され、「サーバの一覧」画面に表示されます。**



●モード切り替え

管理コンソールには、「サーバ管理」モードと「バージョン管理」モードがあります。
選択されているモードにより、使用できる機能が異なります。
ServerView Basic ではサポートされていません。

●機能ボタン

管理コンソールの現在のモードにより、使用できる機能が表示されます。
ServerView Basic ではサポートされていません。

3.1.2　監視対象サーバ（オブジェクト）の追加

ネットワーク上の監視対象サーバを、サーバの一覧に追加します。

POINT

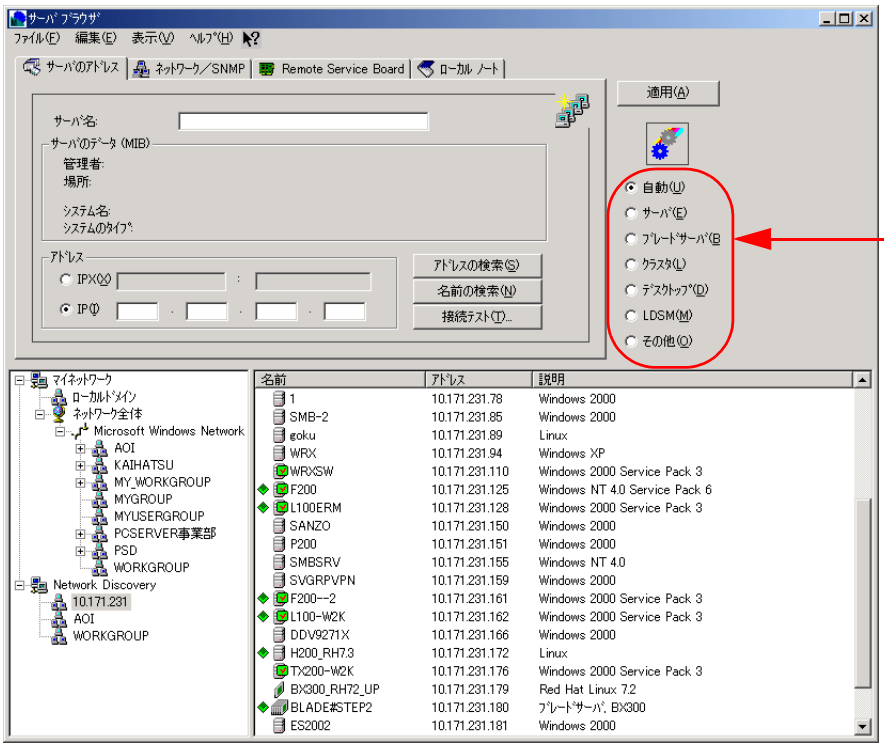
- ServerView Basic では、サポートしていません。

■ 新しいサーバを追加する

新しく監視対象となるサーバ（およびオブジェクト）を ServerView に設定します。

1　「ファイル」メニュー→「新しいサーバ」の順にクリックします。

「サーバブラウザ」画面が表示され、ネットワーク上に存在するコンピュータの情報が表示されます。



2　サーバのタイプを指定します。

追加するサーバのタイプは正しく指定してください。誤って登録した場合、登録したサーバの監視を正しく行えない場合があります。
（例：一般的なサーバを「ブレードサーバ」タイプで登録した場合など）

タイプ名	説明
自動	追加するサーバのタイプを自動検出します。
サーバ	ServerView エージェントで監視するサーバを追加します。
ブレードサーバ	ブレードサーバを追加します。
クラスタ	クラスタシステムを追加する場合に選択します。未サポートです。
デスクトップ	デスクトップを追加する場合に選択します。未サポートです。
LDSM	LDSM で監視しているサーバを追加する場合に選択します。
その他	サーバ以外の TCP/IP オブジェクトを追加する場合に選択します。

3　一覧から追加するサーバを選択します。

・追加するサーバをクリックすると、「サーバ名」「IP アドレス」に値が表示されます。
・ネットワークのグループを「サーバの一覧」画面のグループツリー表示域にドラッグして、グループ全体を追加することもできます。

POINT

- **「サーバの一覧」画面に登録されているサーバと、同じ名前または同じネットワークアドレスのサーバを追加することはできません。**
- **ネットワークエンティティ全体を「サーバの一覧」画面に追加することができます。この場合、ネットワーク内のすべてのコンピュータが、新しいグループとして追加されます（ただし、参照できなかったコンピュータは追加されません）。**
- **ブレードサーバ内に装着された個々のサーバブレードについて、［すべてのサーバ］グループに追加しないでください。ブレードサーバの場合は、個々のサーバブレードに対しての監視は行いません。サーバブレードを「サーバの一覧」画面に追加しようとした場合、そのサーバブレードを含むブレードサーバ全体を追加するかどうかの確認画面が表示されます。**

4　以下のタブ画面を必要に応じて設定します。

●［ネットワーク /SNMP］タブ

ネットワークのパラメータを設定します。
「コミュニティ名（ユーザコミュニティの名前）」／「ポーリング間隔」／「タイムアウト値」／「接続状態変更トラップ（サーバのステータスが変化したときにトラップを送信する）」／「更新間隔」（開いたウィンドウを更新する間隔）が設定できます。

●［リモートサービスボード］タブ

リモートサービスボードをサポートしている場合は、サーバのセカンダリチャネルの IP アドレスを設定します。［RSB 接続テスト］をクリックすると、RSB と接続できるかどうかの確認が行われます。

●［ローカルノート］タブ

サーバのローカルノートを入力します。「サーバの一覧」ウィンドウでサーバを見つける際などに役立ちます。［MIB からコピー］をクリックすると、エージェントから取得した MIB 情報がローカルノートに追加されます。

5　［適用］をクリックします。

「サーバの一覧」画面に追加されます。

■ Network Discovery によるサーバの追加

Network Discovery では、サブネット（IP アドレスの最初の 3 桁）、もしくはドメイン名を指定することにより、その範囲のコンピュータ名と説明情報を検索し、表示します。
サブネットによる検索は、Windows NT ドメインによる検索より、より大きな範囲での検索を可能とします。また、DNS 参照、PING などの指定も可能です。
これにより、Linux サーバの検索やブレードサーバの検索などが可能となります。
サーバを選択して［適用］をクリックするか、ドラッグすることにより、「サーバの一覧」画面に簡単に追加できます。

● サブネットを Network Discovery グループに追加する

1 **「ファイル」メニュー→「サブネット追加」の順にクリックします。**

2 **IP アドレスの最初の 3 桁を指定します。**
検索された IP 配下のコンピュータが一覧表示されます。

● ドメインを Network Discovery グループに追加する

以下のいずれかの方法により、ドメインを Network Discovery に追加します。

1 **「ファイル」メニュー→「ドメイン追加」の順にクリックします。**

2 **ドメイン名を入力します。**
Windows NT サーバドメイン名のみ指定することができます。
Microsoft Windows Network で検出できなかったドメイン名を入力した場合、エラーメッセージが表示されます。

または

1 **ドラッグにより、マイネットワークグループ内のドメインを、Network Discovery グループにコピーします。**
すべてのユーザ定義ドメインは、Network Discovery グループに追加可能です。

POINT

- **サブネットまたはドメインを Network Discovery グループから削除するには**
  削除したいサブネットまたはドメインを、Network Discovery グループから選択し、「ファイル」メニュー→「削除」の順にクリックするか、【Delete】キーを押します。
- **ブラウザオプションを変更するには**
  変更する IP またはドメインを選択し、右クリックして「オプション」を選択します。
  ブラウザオプションには、以下の 2 つが用意されています。
  - DNS、WINS、またはブロードキャストでホスト名を獲得
    通常ネットワークの検索には SNMP プロトコルを使用して、ホスト名とデスクリプション情報を取得しますが、このオプションを選択すると、SNMP リクエストに失敗した場合にも、DNS、WINS、ブロードキャストによる名前解決を行えます。
  - PING（ICMP）を用いて管理可能か検査
    通常ブラウザはSNMPプロトコルを使用してオブジェクトのタイプと管理可能かをチェックしますが、このオプションを選択すると、SNMP リクエストに失敗した場合にも PING（ICMP）によりアクセス可能かをチェックします。

- **プラウザオプションの有効範囲について**
  - **プラウザオプションの設定は、ある特定のサブネットもしくはサーバブラウザ全体について有効にできます。ブラウザオプション画面で［OK］をクリックした場合は、選択したサブネットについてのみ有効となります。［すべて更新］をクリックした場合は、サーバブラウザ全体について有効になります。**
  - **マイネットワークもしくはドメインについてブラウザオプションを設定した場合、サーバブラウザ全体に対して設定されます。**
  - **オプション設定画面で、ホスト名の検索や PING によるチェックを無効にすると、ブラウジングを中止できます。**
  - **これらのオプションを選択した場合、処理が完了するまでに非常に時間がかかることがあります。**
- **不明なサーバの表示を行うには**
  「表示」メニュー→「不明なサーバの表示」の順にクリックすると、不明なサーバをブラウザ画面に表示することができます（デフォルトでは表示しません）。
  なお、不明なサーバとは、以下を示します。
  - **ホスト名、デスクリプション情報が存在しない**
  - **PING リクエストに応答がない（PING オプションが選択されている場合のみ）**
- **画面の更新**
  - **「表示」メニュー→「更新」の順にクリックすると、ブラウザ画面を最新の情報に更新します。**
  - **「表示」メニュー→「すべて更新」の順にクリックすると、参照中のすべてのサブネットとドメインを最新の情報に更新します。**

■ グループの作成

グループを作成し、監視サーバをグループごとに管理できます。

1　グループツリーから、親になるグループを選択します。

2　「ファイル」メニュー→「新しいグループ」の順にクリックします。

新しいグループが作成されます。任意のグループ名を設定してください。

■ サーバの削除

今後監視対象としないサーバを ServerView の監視対象から削除します。

1　サーバの一覧から、削除するサーバを選択します。

2　「ファイル」メニュー→「削除」の順にクリックします。

「サーバの一覧」画面から削除されます。

■ サーバ一覧表示をフィルタリングする

フィルタ機能を使用すると、「サーバの一覧」画面に表示されるサーバを特定のサーバに限定できます。
たとえば、監視対象サーバが多い場合などに、「異常」サーバのみに絞って表示させたい場合などに便利です。

1　「表示」メニュー→「サーバのフィルタ」の順にクリックします。

2　表示させるか、させないかを選択して［OK］をクリックします。

3.1.3　メニュー一覧

● ファイルメニュー

メニュー項目	説明
新しいサーバ ...	サーバの一覧に監視対象サーバを追加します。
新しいグループ	サーバの一覧に新しくグループを作成します。
インポート → アーカイブ	他の管理サーバで取得したアーカイブデータをインポートします。環境調査時などに利用します。
インポート → サーバ	サーバの一覧にサーバをインポートします。
開く	サーバ管理モードの場合は「Server View」画面を、バージョン管理モードの場合は「Inventory View」画面を起動します。
アプリケーション ...	すべての登録済みアプリケーションがアプリケーションリストボックスに表示されます。サーバの一覧で選択したオブジェクト用のアプリケーションを起動するには、リストからアプリケーションを選択し、［OK］をクリックするか、起動したいアプリケーションをダブルクリックします。
印刷 ... 印刷プレビュー プリンタ設定 ...	他のアプリケーションから認識する印刷ダイアログを起動します。
削除	サーバの一覧からオブジェクトを削除します。
名前の変更	サーバの一覧のグループの名前を変更します。
サーバのプロパティ	サーバプロパティページを起動し、サーバパラメータを定義します。
グループのプロパティ	グループプロパティページを起動し、グループパラメータを定義します。
接続テスト	サーバの一覧で選択したサーバやクラスタへの接続をテストします。
サーバの再検出	選択したオブジェクトのステータスチェックプロセスを開始します。このプロセスは、サーバがネットワークに存在するかどうかを動的に確認します。サーバが SNMP プロトコルに応答できるかどうかのテストも行います。このメニュー項目を選択したことにより取得される結果と、定期的に実行される自動ステータスチェックの結果は同じです。
終了	ServerView を終了します。

●「編集」メニュー

メニュー項目	説明
切り取り	サーバオブジェクトをクリップボードに移動します。
コピー 貼り付け	サーバオブジェクトをサーバの一覧にコピーまたは貼り付けます。

●「表示」メニュー

メニュー項目	説明
ツールバー	ServerView ウィンドウの上隅にあるツールバーを表示または非表示にします。
ステータスバー	ServerView ウィンドウの下隅にあるステータスバーを表示または非表示にします。
ステータスサマリ	ツールバーの下にステータスバー（サーバステータスの概要）を表示します。
タスクバー	タスクバーを表示します。
大きいアイコン 小さいアイコン 一覧 詳細	サーバの一覧ウィンドウでのサーバの表示を変更します。各機能は Windows エクスプローラの機能と同一です。
サーバのフィルタ ...	サーバにフィルタを設定すると、サーバ一覧に表示されるサーバを特定のサーバに限定できます。
すべてのサーバの再検出	すべての定義済みサーバを検出します。これにより、サーバがネットワークに存在するかどうか、およびサーバが SNMP プロトコルに応答できるかどうかを確認します。

●「タスク」メニュー

メニュー項目	説明
サーバ管理	サーバ管理モードになります。サーバ管理タクス機能が使用できます。
バージョン管理	バージョン管理モードになります。バージョン管理タスク機能が使用できます。

●「設定」メニュー（サーバ管理モード時のみ）

メニュー項目	説明
レポートを無効にする	チェックを付けると、定期レポート取得中のすべてのレポートを停止します。
外部アプリケーション	サーバに割り当てる外部アプリケーションを定義します。
デフォルトの設定	サーバの初期値設定を定義します。
単位の設定	温度表示の測定単位を設定します。
ユーザ認証	「サーバへのログオン」画面が表示されます。選択したサーバへログオンするためのユーザ名とパスワードを定義します。

●「アラーム」メニュー（サーバ管理モード時のみ）

メニュー項目	説明
マネージャ	アラームサービスが起動し、アラームマネージャ画面が表示されます。 アラームマネージャでは、アラームログリストに格納されたアラームメッセージを参照したり、編集したりできます。
モニタ	アラームサービスが起動し、アラームモニタ画面が表示されます。 アラームモニタでは、受領したすべてのアラームが表示されます。
設定	アラームサービスが起動し、アラームの設定画面が表示されます。 アラームの種類、アラームの通知方法などの設定を行います。
受領	選択したサーバのアラームを受領します。
すべて受領	すべてのサーバのアラームを受領します。

●「レポート」メニュー（サーバ管理モード時のみ）

メニュー項目	説明
マネージャ	レポートマネージャを起動します。
一覧	レポート一覧を起動し、アクティブなすべてのレポートを表示します。

●「しきい値」メニュー（サーバ管理モード時のみ）

メニュー項目	説明
マネージャ	しきい値マネージャを起動し、サーバのしきい値の有効化や無効化を行います。
一覧	しきい値一覧を起動し、アクティブなすべてのしきい値を表示します。

●「ツール」メニュー

メニュー項目	説明
アーカイブマネージャ	アーカイブマネージャを起動します。
エクスポートマネージャ	エクスポートマネージャを起動します。バージョン管理モードのときのみ有効です。
Global Flash	使用できません。

●「ウィンドウ」メニュー

メニュー項目	説明
アイコンの整列 重ねて表示 縦に並べて表示	サーバ一覧を含む、すべてのウィンドウの表示方法を切り替えます。 他の Windows アプリケーションのウィンドウメニューと同様です。
すべて閉じる	サーバ一覧以外の、すべてのウィンドウを閉じます。

●「ヘルプ」メニュー

メニュー項目	説明
トピックの検索	ServerView のヘルプを起動します。
アラーム	弊社によって指定されたアラームの説明を表示します。
アイコン	ServerView の表示要素の説明を含む Server Manager Help システムのセクションを開きます。
用語	ヘルプが起動し、システム用語集が表示されます。
ServerView について	ServerView のバージョン情報を表示します。

■ ポップアップメニュー

サーバを右クリックすると、以下のメニューが表示されます。ここから機能を選択することもできます。

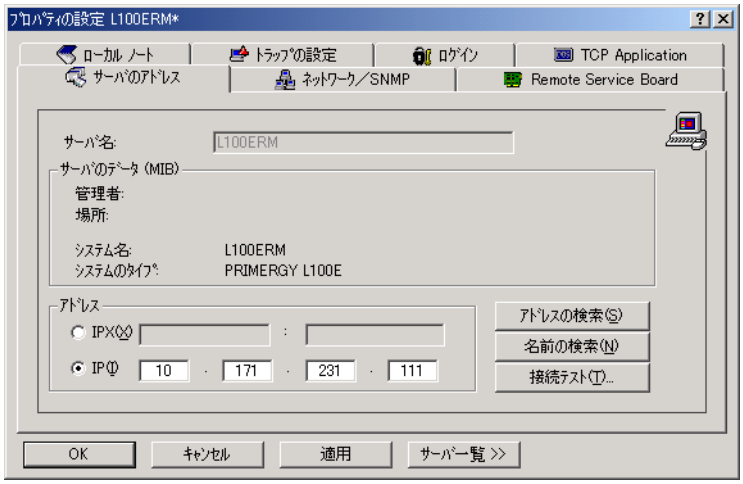
メニュー項目	説明
新しいサーバ	未定義の監視対象サーバをサーバ一覧に追加します。
開く	サーバ管理モードの場合は「ServerView」を、バージョン管理モードの場合は「Inventory View」を起動します。
ステータス	選択したサーバのステータス一覧を表示します。
アプリケーション	アプリケーションの一覧を表示します。
エクスポートマネージャ	エクスポートマネージャを起動します。バージョン管理モードの場合のみ有効です。
コピー	サーバをクリップボードにコピーします。
貼り付け	クリップボードにコピーされているサーバを貼り付けます。
削除	サーバを削除します。
サーバのプロパティ	サーバのプロパティを起動します。
ASR のプロパティ	ASR のプロパティを起動します。
接続テスト	接続テストを行います。
サーバの再検出	サーバのステータスをチェックします。
しきい値マネージャ	しきい値マネージャを起動します。
レポートマネージャ	レポートマネージャを起動します。
アラーム受領	未受領のアラームを受領します。
現在のアーカイブ	現在のサーバ状況をアーカイブします。

3.1.4　サーバ設定の確認／変更

サーバの各設定内容を確認／変更する場合は、以下の操作を行います。

1　サーバを右クリックし、「サーバのプロパティ」をクリックします。

「サーバのプロパティ」画面が表示されます。



POINT

- **「サーバのプロパティ」は、以下の方法でも表示できます。**
  サーバを選択し、「ファイル」メニュー→「サーバのプロパティ」の順にクリックする。

2　各タブ画面で、設定を確認／変更します。
各タブ画面で項目を設定した場合は、必ず［適用］をクリックして別のタブ画面をクリックしてください。

●［サーバのアドレス］タブ

サーバの IP アドレスを確認／変更できます。IP アドレスを変更した場合、［接続テスト］をクリックすると、正しく接続できるかどうかの確認が行われます。

●［ネットワーク／ SNMP］タブ

ネットワークのパラメータを確認／変更します。設定できる項目は、「コミュニティ名（ユーザコミュニティの名前）」／「ポーリング間隔」／「タイムアウト値」／「接続状態変更トラップ（サーバのステータスが変化したときにトラップを送信する）」／「更新間隔」（開いたウィンドウを更新する間隔）です。
ネットワークやサーバの負荷が高い場合は、「ポーリング間隔」、「タイムアウト値」、「更新間隔」を変更することによって改善することができます。

●［リモートサービスボード］タブ

サーバのセカンダリチャネルの IP アドレスを確認／変更できます。［RSB 接続テスト］をクリックすると、RSB との接続を確認できます。
［設定］をクリックすると、RSB の Web インタフェースが起動し、「ユーザ名」と「パスワード」入力の画面が表示されます。Web インタフェースについては「6.3.1 Web インターフェースの起動」（→ P.204）を参照してください。

● **[ローカルノート] タブ**
サーバのローカルノートを編集できます。ローカルノートは、「サーバの一覧」画面でサーバを見つける際に役立ちます。[MIB からコピー] をクリックすると、エージェントから取得した MIB 情報がローカルノートに追加されます。ローカルノートが MIB 情報以外同一の場合、その特定の場所に「MIBINFO<>」が表示されます。

● **[トラップの設定] タブ**
指定したサーバのトラップの有効、無効を設定できます。有効に設定したトラップは、サーバがそのシステムでエラーを検出し、このエラーに対してトラップが定義されている場合、サーバから管理コンソールにトラップが送信されます。無効に設定したトラップは送信されません。

● **[ログイン] タブ**
サーバへ設定値の書き込みを行う際に使用する「ユーザ名」および「パスワード」を設定します。パスワードを設定するには、「パスワード設定」チェックボックスをチェックしてから設定します。また、セキュリティ上の理由から、パスワードはデータベースに保存されません。「パスワードを保存する」をチェックした場合、プログラムが終了するまでは有効ですが、再度プログラムを起動すると、再度設定する必要があります。

● **[TCP アプリケーション] タブ**
TCP/IP 機器用のアプリケーションの設定ができます。
[参照] をクリックして、アプリケーションのパスとコマンドラインパラメータを指定するか、または直接入力してください。

3　[OK] をクリックして、プロパティを終了します。

3.1.5　管理コンソールの終了

ServerView を終了します。

1　「ファイル」メニュー→「終了」の順にクリックします。
確認のメッセージが表示されます。

2　[はい] をクリックします。
ServerView が終了します。

3.2　サーバ監視のための設定

サーバの監視方法について、以下の機能を設定できます。
- **アラーム設定**
- **レポート設定**
- **しきい値設定**
- **異常発生時の対処（ASR）**

POINT

- **これらの設定項目は必須ではありません。ServerView エージェントをインストールすることにより、サーバに対する基本的な監視（「1.1.1 ハードウェアの監視」（→ P.11）参照）は自動的に行われます。**
- **しきい値設定を行っても、サーバ本体に設定されているしきい値は変更されません。また、しきい値設定で設定したしきい値と異常発生時の対処（ASR）は連動できません。異常発生時の対処（ASR）は。サーバ本体に設定されているしきい値に対してのみ有効です。**

3.2.1　アラーム設定

サーバの異常な運用ステータスが検出されると、SNMP を経由してアラーム（割り込み）が送信されます。アラームサービスでは、この受信アラームに対して、各種転送設定が行えます。ここでは、アラームサービスの設定方法について説明します。

重 要

- **ブレードサーバの場合、アラームサービスは、ブレードサーバを構成する個々のサーバブレードに対しては処理を行いません。ブレードサーバ全体についてのみ処理が可能です。**

次のアラーム処理の設定を行います。
- アラームグループの作成／編集
  アラームグループとは、サーバのグループに対するアラームです。アラームグループの新規作成や編集を行います。
- アクションの作成／編集
  アラーム転送の設定を行います。
- 全設定の表示
  アラーム設定の内容を確認します。

1　「アラーム」メニュー→「設定」の順にクリックします。

「アラーム設定の開始」画面が表示されます。

2　「ウィザード」を選択し、［次へ］をクリックします。

POINT

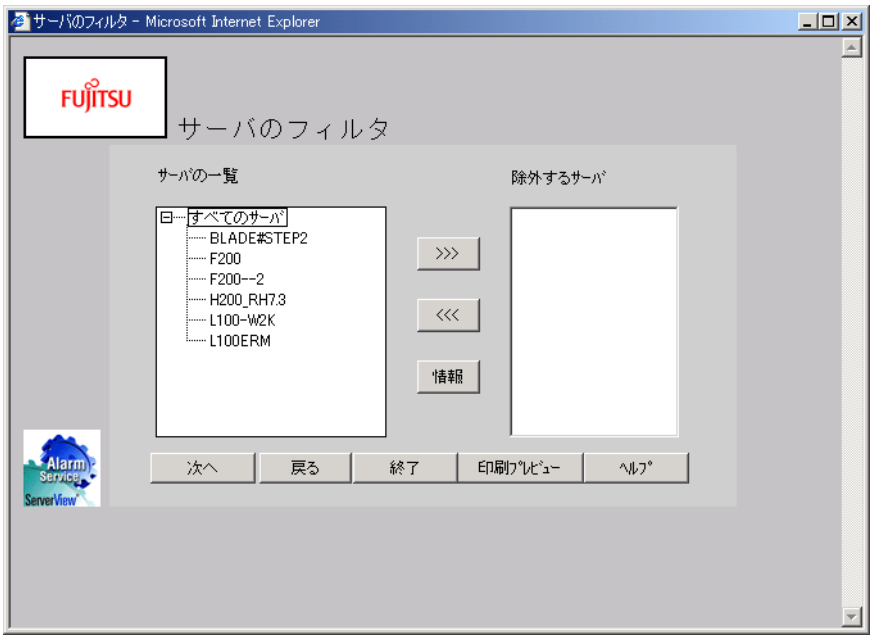
- **各項目を選択して［次へ］をクリックし、各項目ごとに設定することもできます。**

「共通設定」画面が表示されます。

アラーム処理の全体的な設定を定義し、［適用］をクリックします。
各項目の詳細については、ヘルプを参照してください。

3　［次へ］をクリックします。

「サーバのフィルタ」画面が表示されます。



4　アラームにフィルタをかけるサーバを指定します。

各項目の詳細については、ヘルプを参照してください。

5　**［次へ］をクリックします。**

「アラームグループの作成 / 編集」画面が表示されます。

アラームグループの新規作成や、既存のアラームグループの編集を行います。各項目を設定し、［適用］をクリックします。

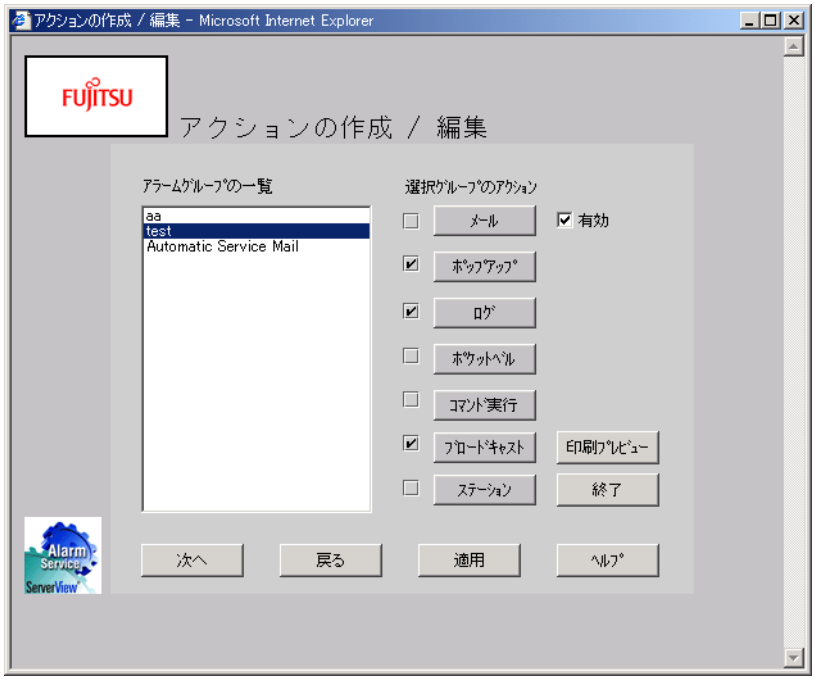
各項目の詳細については、ヘルプを参照してください。

POINT

- **アラームグループを削除する場合は、以下の操作を行います。**
  1. **「既存のアラームグループを選択」からアラームグループを選択します。**
  2. **［削除］をクリックします。**

6 ［次へ］をクリックします。

「アクションの作成 / 編集」画面が表示されます。



アラームのアクションを設定します。

1. **アラームグループを選択します。**
2. **設定する項目のボタンをクリックします。**
   各設定画面が表示されます。
3. **各設定画面で、さらに詳細な設定を行います。**
   各項目の詳細については、ヘルプを参照してください。
4. **設定が終了したら、［適用］をクリックします。**

●メールの設定について

MAPI によるメール転送はサポートしていません。必ず SMTP を利用してください。
デフォルト作成されている、アラームグループの「Automatic Service Mail」は、利用できません。新規にアラームグループを作成してください。
各項目の詳細については、ヘルプを参照してください。

●ポケットベルの設定について

［作成］をクリックすると、「ポケットベルの設定」画面が表示されます。
以下のように設定してください。以下のとおりでない場合、正常に動作しません。
その他の項目の詳細については、ヘルプを参照してください。

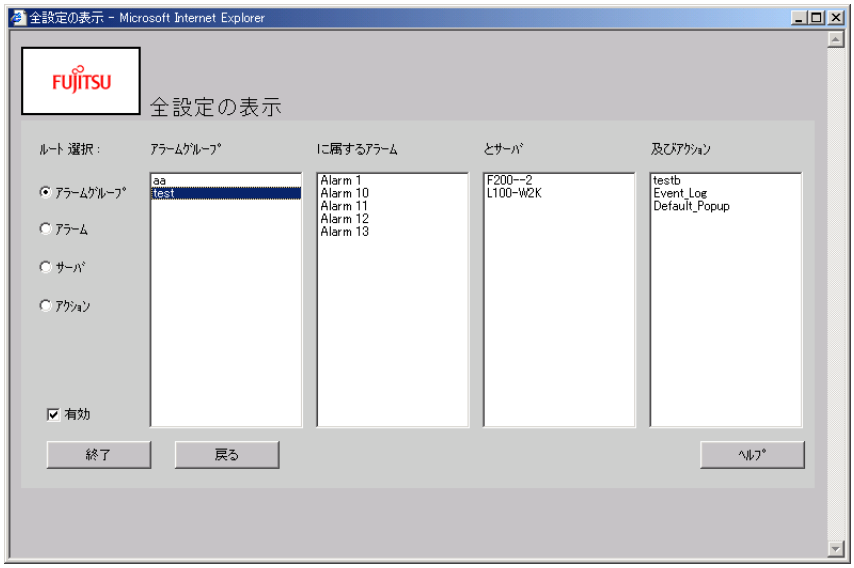
・リトライ間隔
　5 以上（5 以下に設定しないこと）
・ポケットベルタイプ
　必ず「NTT」を選択する
・［COM& モデム］をクリック→「モデム用ポートとして選択する」
　必ずチェックを付けてオンにする

POINT

- **ポケットベルにメッセージを送信する場合、以下のフォーマットで送信されます。**
  - **テスト送信ボタンで送信した場合：**4/TESTSERVER
  - **通常の場合：**x/yyyyyyyyy（x：1= **危険**、2= **重度**、3= **軽度**、4= **情報** /yyyyyyyyy：**サーバ名**）
- **サーバ名について**
  - **日本語名で設定されたサーバ名は正しく表示されません。また、英小文字は英大文字で表示されます。**NTT DoCoMo **ポケットベルで表示できない文字は「?」で表示されます。**
  - 12 **文字以上のサーバ名の場合、**13 **文字目からは送信されません。**

7 ［次へ］をクリックします。

「全設定の表示」画面が表示されます。



8 設定内容を確認します。

表示内容は、「ルート選択」で選択した並べ替え順序によって異なります。
「アクションの作成 / 編集」画面で設定した項目によって、「有効」ラジオボタンが使用できないことがあります。

9 ［終了］をクリックして終了します。

アラームサービス画面が表示されます。アラームサービスを終了する場合は、アラームサービス画面を終了してください。

3.2.2　しきい値設定

一部のパラメータに、任意の値を設定できます。これをしきい値といい、上限や下限、差分しきい値、測定間隔などが設定できます。
アラームマネージャで設定したアクションを結び付けることができ、相対値の上限／相対値の下限／上限／下限の 4 つのしきい値で、アラーム管理にリンクされます。これらのしきい値はすべて固定で、初期状態で有効になっています。しきい値の測定とアラームの割り込みは、サーバのエージェントにより個別に処理されます。

POINT

- **しきい値設定によるしきい値の監視は、Linux サーバでは未サポートです。**
- **監視される変数の選択や設定は、テーブル（しきい値テーブル）にグループ化され、しきい値マネージャでサーバに割り当てられます。同じ変数が誤って 2 つのテーブルで参照され、その変数が停止されることを防ぐために、1 つのサーバで開始できるテーブルの数は 1 つのみです。**
- **しきい値マネージャで、サーバ（ハードウェア）が持つ基本しきい値と同じ項目を設定した場合、基本しきい値との 2 元監視となります。基本しきい値項目については、「1.1.1 ハードウェアの監視」（→ P.11）を参照してください。**

重 要

- **しきい値マネージャでしきい値を設定しても、異常発生時の対処（ASR）の対象にはなりません。異常発生時の対処（ASR）に対しては、サーバ（ハードウェア）に設定されている基本しきい値のみが対象となります。また、しきい値マネージャによる基本しきい値の変更はできません。**

■ しきい値の設定

1　しきい値を設定するサーバを選択します。

2　「しきい値」メニュー→「しきい値マネージャ」の順にクリックします。

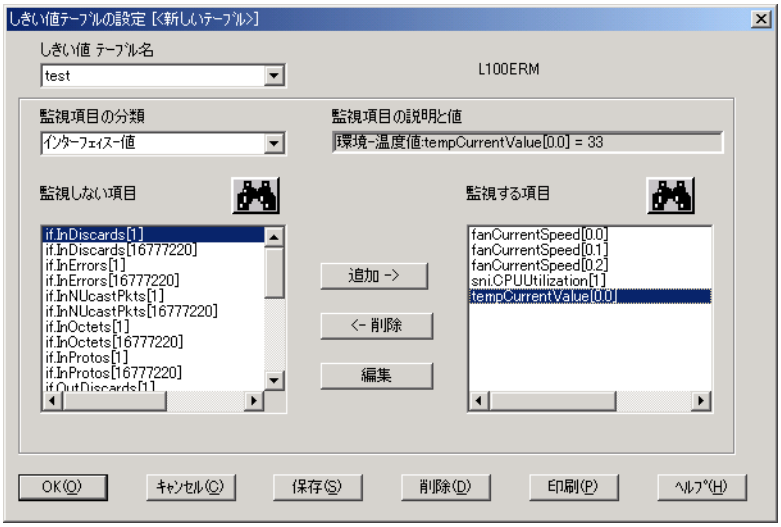
「しきい値マネージャ」画面が表示されます。

3　サーバに設定する「しきい値テーブル」を選択します。

新規にしきい値テーブルを設定する場合、および値を変更する場合は、［テーブルの設定］をクリックしてください。

●テーブルの設定

1. **［テーブルの設定］をクリックします。**
   「テーブルの設定」画面が表示されます。



2. **「監視項目の分類」から、分類を選択します。**
   「監視しない項目」に項目一覧が表示されます。
3. **「監視しない項目」リストから項目を選択して、［追加］をクリックします。**
   「しきい値設定の追加」画面が表示されます。
   各項目の詳細についてはヘルプを参照してください。
4. **しきい値を設定して［OK］をクリックします。**
   設定した項目が「監視する項目」に追加されます。
   他の項目についても同様に設定してください。
5. **すべての項目が設定できたら［OK］をクリックします。**
   しきい値テーブル名の設定画面が表示されます。
6. **しきい値テーブル名を入力して［OK］をクリックします。**
   しきい値マネージャ画面に戻ります。

4　［開始］をクリックします。

「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。

5　しきい値名を入力して、［OK］をクリックします。

「ユーザ名とパスワードの確認」画面が表示されます。

6　管理者権限を持つログオン名とパスワードを入力して、［OK］をクリックします。

設定したしきい値テーブルでの監視が開始されます。
しきい値テーブルでの監視を停止する場合は、［停止］をクリックします。

POINT

- **しきい値マネージャでの設定は、ServerView で元々監視している各監視項目と直接関連ありません。**
- **しきい値マネージャで設定した範囲を逸脱した場合、以下のしきい値逸脱のトラップが送信されますが、「環境」で表示される温度センサの設定範囲など元々の監視項目で使用されている値は変更されないため、エラーは報告されません。**
  固定値で設定した値から逸脱：Threshold exceeded、Threshold underflow
  相対値で設定した値から逸脱：DELTA-Threshold exceeded、DELTA-Threshold underflow
  このトラップに対して何らかのアクションを起こしたい場合は、「アラーム設定」の「アクションの作成／編集」画面で、該当 Trap に対するアクションを設定してください。

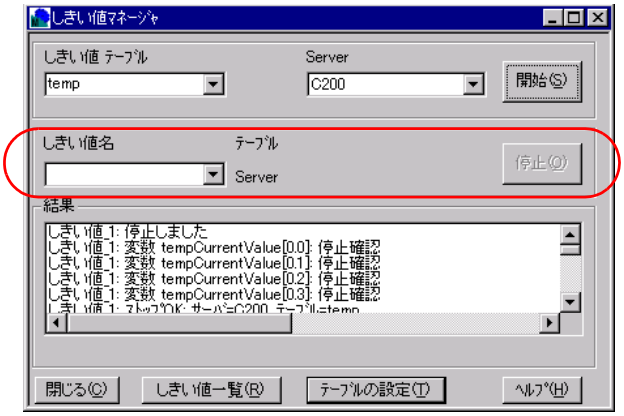
■ しきい値での監視を停止する

しきい値での監視を停止します。

1　「しきい値」メニュー→「マネージャ」の順にクリックします。

「しきい値マネージャ」画面が表示されます。

2　停止する「しきい値名」を選択して、［停止］をクリックします。



しきい値での監視が停止します。

3　［閉じる］をクリックして終了します。

■ しきい値の確認

しきい値での監視が行われているしきい値一覧を表示します。

1　「しきい値」メニュー→「一覧」の順にクリックします。

「しきい値一覧」画面が表示されます。

2　内容を確認します。

しきい値の詳細を確認したい場合は［しきい値マネージャ］をクリックしてください。
開始中のしきい値テーブルの設定を変更する場合は、一度停止してから設定を変更し、再度開始してください。

3　［閉じる］をクリックして終了します。

3.2.3　レポート設定

レポートを作成すると、サーバを長期的に監視するときに役立ちます。
レポート設定で選択した値は、一定の期間、定期的に計測されて記録されます。その後、データは評価のために表または図の形で表示されます。
これにより、パフォーマンスの問題によって不定期に発生する問題を、プロセッサの追加、ディスク容量の追加、より高速なネットワークアダプタのインストールなどの方法により解決できます。

POINT

- **レポートマネージャの設定と、ServerView で監視している各監視項目は直接関係ありません。レポート設定を行わなくても、各監視および通知は行われます。**
- **2 つの異なるテーブルで同じ変数が選択されることを防ぐために、1 つのサーバで開始できるテーブルの数は 1 つのみです。**

■ レポートの作成

1　サーバ一覧から、レポートを作成するサーバを選択します。

2　「レポート」メニュー→「レポートマネージャ」の順にクリックします。

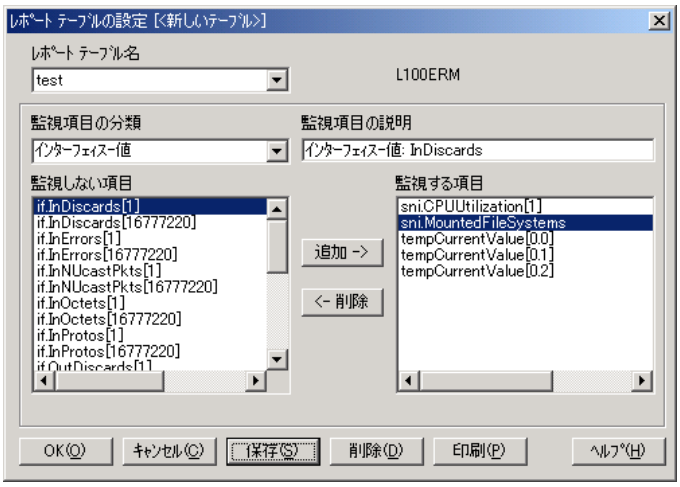
「レポートマネージャ」画面が表示されます。

3　サーバに設定する「レポートテーブル」を選択します。

新しくレポートテーブルを設定する場合、および値を変更する場合は、［テーブルの設定］をクリックしてください。

●テーブルの設定

1. **［テーブルの設定］をクリックします。**
   「テーブルの設定」画面が表示されます。



2. **「監視項目の分類」を選択します。**
3. **「監視しない項目」リストからレポートをとりたい項目を選択して、［追加］をクリックします。**
   「監視する項目」に追加されます。
   他の分類の項目についても同様に設定します。ただし、1 つのレポートテーブルで設定できる項目は 13 個までです。
4. **レポートを取る項目が設定できたら［OK］をクリックします。**
   新しいテーブルの場合は、「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。
   レポートテーブル名を入力して［OK］をクリックします。

4　開始時刻、頻度、レポート作成期間を設定します。

「期間」には、レポート作成期間を指定します。「無期限」を指定すると、システム値が常に監視されます。

5　レポートノートを入力します。

どのようなレポートなのか、などの説明文を入力します。

6　［開始］をクリックします。

「レポート名入力」画面が表示されます。

7　レポート名を入力して［OK］をクリックします。

指定した開始時刻にレポートが作成されます。
期間が設定されている場合は、期間を過ぎると記録が停止します。

8　［閉じる］をクリックします。

レポートマネージャが終了します。

■ レポートを停止する

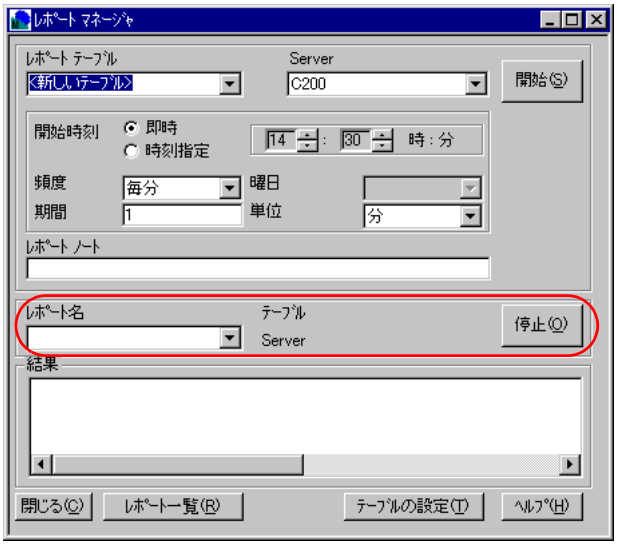
制限期間終了前にレポート作成を停止します。

1　サーバ一覧から、レポートを作成するサーバを選択します。

2　「レポート」メニュー→「レポートマネージャ」の順にクリックします。

「レポートマネージャ」画面が表示されます。

3　停止するレポート名を選択し、［停止］をクリックします。



4　［閉じる］をクリックします。

レポートマネージャが終了します。

3.2.4 異常発生時の対処（ASR）

以下の重大な状況が発生した場合に、どのように対応するかを設定できます。

- ファンをチェックする時刻の指定、およびファンが故障したときの対応
- 温度異常発生時の対応
- 停電後のサーバの反応と、再起動に関する対応

たとえば、オーバヒートが発生したときに、サーバを自動的にシャットダウンし、一定の遅延時間の後、自動的に再起動する、などの設定が行えます。

重 要

- **すべての設定が、すべてのサーバでサポートされるわけではありません。サーバを選択し、1 つまたは複数のフィールドが「N/A」に設定されていることが確認された場合、それらのパラメータはサポートされていません。**
- **「ASR プロパティ」画面での設定内容は、サーバの BIOS に書き込まれます。**
  誤った設定を行うとシステムが起動しなくなる場合があります。よくご確認のうえ設定を行ってください。
- **これらを変更したまま ServerView をアンインストールした場合、予期せぬ原因でサーバがシャットダウンされることがあります。ご注意ください。**
- **［ファン］タブ、［温度センサ］タブでの「異常時」とは、サーバ（ハードウェア）に設定されている基本しきい値の監視範囲逸脱を意味しています。しきい値マネージャで設定された監視範囲ではありません。**

1　設定を行うサーバを右クリックし、ポップアップメニューの「ASR　のプロパティ」をクリックします。

「ASR プロパティ」画面が表示されます。

POINT

- **画面の右下隅に［有効］チェックボックスがあります。選択したサーバの設定が変更可能である場合、このチェックボックスがチェックされます。**
  チェックボックスがグレー表示の場合、選択したサーバでは、設定が変更できるものとできないものがあることを意味します。

2　設定を行うタブをクリックし、各項目を設定します。

●［ファン］タブ

ファンをチェックする時間を設定し、ファンの障害時に実行する対応を設定します。
ファンごとに「ファン異常時のアクション」を指定します。

・継続稼動する
ファンの障害時にもサーバの実行を継続します。

・指定した時間後にサーバをシャットダウンする
サーバは一定の遅延時間の後にシャットダウンします。遅延時間は秒単位で指定してください。

重 要

- **拡張ディスク装置を接続すると、拡張ディスク内のファン情報が表示され、「シャットダウン - 自動電源断」が選択されている場合がありますが、拡張ディスク装置の自動シャットダウンを行うことはできません。**

●［温度センサ］タブ

高温異常時の対応を設定します。
監視温度センサごとに「高温異常時のアクション」を指定します。

・継続稼動する
高温異常時にもサーバの実行を継続します。

・ただちにサーバをシャットダウンする
温度が危険な値に達すると、即座にシャットダウンします。

重 要

- **拡張ディスク装置を接続すると、拡張ディスク内の温度センサ情報が表示され、「シャットダウン - 自動電源断」が選択されている場合がありますが、拡張ディスク装置の自動シャットダウンを行うことはできません。**

●［再起動設定］タブ

電源異常時の対応と、再起動に関する対応を設定します。

・電源異常後のアクション
電源異常後の処理について、以下から指定します。
- 異常発生前の状態に戻す
- サーバを再起動する
- サーバを再起動しない

・自動電源投入までの待ち時間
1 ～ 120 分までの範囲で設定します。

・自動リトライ回数の最大値
再起動に失敗した場合のリトライ回数を指定します。0 ～ 7 の範囲で設定します。［デフォルト］をクリックすると、「デフォルトの再起動のリトライ回数」に設定されている回数が設定されます。

・再起動リトライ回数超過時のアクション
最大リトライ回数を超過した場合の処理について、以下から指定します。
- 診断システムを開始する
- 再起動を中止し、電源を切断をする

・ウォッチドックタイマ監視
ServerView エージェントの機能を監視します。
ウォッチドックタイマによる監視を有効にする場合は、「有効」にチェックを付け、監視までの待ち時間を 1 ～ 120 分の範囲で設定します。
また、待ち時間を超過した場合の対応を、以下から指定します。
- 再起動する
- 継続稼動する
-Off/On する

・起動監視
システムが起動してからServerViewエージェントが利用可能になるまでの間隔を監視します。
起動監視を行う場合は、「有効」にチェックを付け、監視までの待ち時間を 1 ～ 120 分の範囲で設定します。
また、待ち時間を超過した場合の対応を、以下から指定します。
- 再起動する
- 継続稼動する
-Off/On する

重 要

- **UPS による復電、またはスケジュール運転を行う場合、サーバに自動的に電源を入れるためには、設定内容が制限される場合があります（「● UPS 使用時の注意事項」（→ P.256）参照）。**

● [ポケットベル] タブ

未サポートです。

● [Power ON/OFF] タブ

曜日ごとに、サーバの起動時間／終了時間を設定できます。
たとえば、週末にはサーバをシャットダウンして、月曜に再起動することができます。
ただし、サーバの機種によっては設定できない場合があります。

重 要

- **この設定はスケジューリングを行うサーバの BIOS に書き込まれます。ServerView をサーバからアンインストールする前に、必ずスケジューリングを無効にしてください。無効にせずに ServerView をアンインストールした場合は、予期せぬ時間にサーバがシャットダウンされることがあります。**

POINT

- **ASR&R が記憶媒体や、サーバの運用ステータスにおいて深刻な状況（CPU エラー、メモリエラー、OS のハングなど）を検出すると、システムが再起動され、問題のあるハードウェアコンポーネントは再起動中に使用不可能になります。**

3.2.5　設定値を他のサーバへコピーする

ServerView で指定された設定（しきい値やレポートなど）を、別のサーバにコピーして設定することができます。多数のサーバを同じ値に設定する場合に便利です。

1　サーバの設定を完了後、「設定」メニュー→「デフォルトの設定」の順にクリックします。

「デフォルトの設定」画面が表示されます。

2　「コピー元」に、設定元となるサーバを選択します。

3　「コピー先」に、設定をコピーするサーバを指定し、「コピーオプションの選択」のコピーする設定をチェックします。

4　［コピー］をクリックします。

コピー先に指定したサーバに、コピー元サーバと同じ設定が適用されます。

■ 設定値をファイルへ書き込む、またはファイルから設定値を読み込む

設定値をファイルに書き込み、またはファイルから設定値を読み込むこともできます。
「デフォルト設定」画面で以下のように設定します。

- 「コピー元」に「セット」を指定し、読み込むファイルを指定します。
- 「コピー先」に「セット」を指定し、書き込み先ファイルを指定します。

3.3　サーバの状況確認

サーバ管理モードで、サーバの状況を確認します。

3.3.1　現在のサーバ状況の確認

■ サーバの状態表示

管理コンソールを起動すると、サーバ管理画面のサーバ一覧ウィンドウに、サーバごとに状態がアイコンで表示されます。以下にアイコンの意味を示します。

アイコン	意味
	すべてのコンポーネントは正常に動作しています。
	1 つまたは 1 つ以上のコンポーネントでエラーが発生しています。
	1 つまたは 1 つ以上のコンポーネントのステータスが悪化しています。
	サーバが反応せず、管理不可能です。
	サーバ状況を調査中です。
	サーバにアクセスできません。サーバがネットワークに接続されているか、またはサーバが ServerView に正しく設定されているかを確認してください。
	サーバが反応しないため、RSB がセカンダリチャネルを介して応答しました。RSB モードでサーバ状況を確認できます。
	DeskInfo ツールを開始できます。未サポートです。
	拡張サーバマネージャを起動できます。
	Intel LANDesk® Server Manager（LDSM）を起動できます。
	ServerView がサーバからアラームを受信しました。
	しきい値測定を開始しています。
	アーカイブデータが作成されています。
	ブレードサーバのステータス（すべてのブレードのステータス）は正常です。
	ブレードサーバのステータスを調査中です。
	ブレードサーバのステータス（少なくとも 1 つのブレードのステータス）が悪化しています。

アイコン	意味
	ブレードサーバのステータス（少なくとも 1 つのブレードのステータス）でエラーが発生しています。
	ブレードサーバが応答せず、管理不可能です。
	ブレードサーバにアクセスできません。
	クラスタのステータスは正常です。
	クラスタ状況を調査中です。
	クラスタの 1 つ以上のコンポーネントでエラーが発生しています。
	クラスタのすべてのコンポーネントは正常に動作しています。
	クラスタが反応せず、管理不可能です。
	クラスタにアクセスできません。クラスタがネットワークに接続されているか、またはクラスタが正しく ServerView に設定されているかを確認してください。
	クラスタの 1 つ以上のコンポーネントのステータスが悪化しています。

■ サーバの接続確認

サーバが正しく ServerView で使用できるかどうか、接続テストを行います。これにより、監視機能が自動的に起動され、システム全体とそのサブシステムのステータスが表示されます。

重 要

- **サーバの一覧のセットアップを行う場合は、サーバの一覧で設定するコンピュータ名が有効であることを確認する必要があります。コンピュータ名は、OS のインストール中にサーバに割り当てられた名前です。1 つの IP アドレスに複数のコンピュータ名を同時に割り当てることはできません。**

1　サーバ名と IP アドレスが正しく表示されていることを確認します。

2　「ファイル」メニュー→「接続テスト」の順にクリックします。

指定されたタイムアウト時間内にサーバが応答するかどうかをテストします。
以下の 4 種類のテストが行われます。

・ネットワークのコネクティビティ（PING）
　サーバがネットワークに接続されているかを確認します。
・SNMP のコネクティビティ（Check SNMP）
　エージェントがサーバにインストールされているかどうかを確認します。
・アドレスタイプ（Address Type）
　アドレスのタイプが、本体・RSB でプライマリー・セカンダリーの識別を確認します。
・Test トラップ（Send Test Trap）
　サーバからのトラップが受信可能かどうかを確認します。

3　手順 2 を、各サーバに対して行います。

■ サーバの再検出／すべてのサーバの再検出

現在のサーバのステータスをチェックするには、「サーバの再検出」（すべてのサーバに対して行う場合は「すべてのサーバの再検出」）を行います。

● サーバの再検出

1　確認したいサーバを選択し、「ファイル」メニュー→「サーバの再検出」の順にクリックします。

ステータスチェックが開始されます。これにより、各サーバの接続状況および現在の状況が正常かどうかチェックされます。

● すべてのサーバの再検出

1　「表示」メニュー→「すべてのサーバの再検出」の順にクリックします。

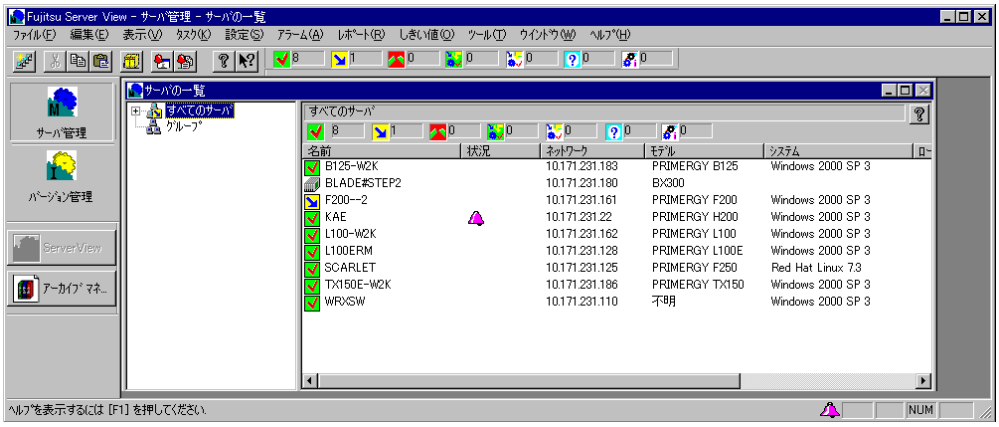
定義済みのすべてのサーバに対して、ステータスチェックが開始されます。

3.3.2　アラームの受領／参照／編集

ServerView から送信された未受領のアラームを受領します。受領したアラームは、一覧表示して内容を確認したり、必要のないアラーム情報を削除したりできます。

■ アラームの受領

ServerView からアラームが送信されると、サーバ管理画面のサーバ一覧ウィンドウの「状況」に、アラーム受信アイコンが表示されます。



複数のアラームが存在する場合は、ステータスバーの右端に、重大度のもっとも高いアラームが表示されます。
次の方法で、アラームを受領します。

1　アラームを受領するサーバを選択します。

2　「アラーム」メニュー→「受領」の順にクリックします。

アラームマークが消えます。

POINT

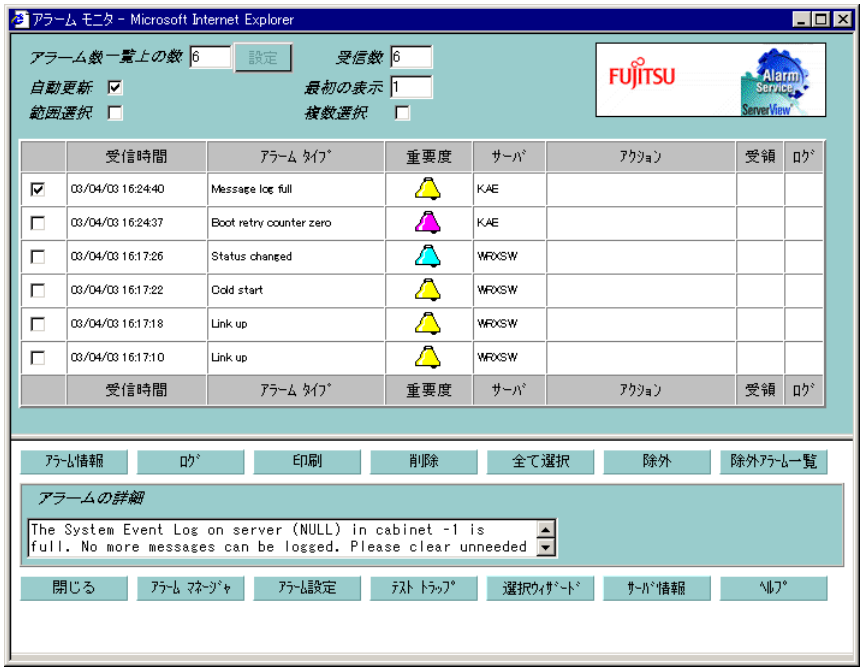
- **すべてのサーバのアラームを受領するには、「アラーム」メニューの「すべて受領」を選択します。**

■ 受信したすべてのアラームを表示する－［アラームモニタ］

アラームモニタでは、受信したすべてのアラームが表示されます。

1 「アラーム」メニュー→「モニタ」の順にクリックします。

「アラームモニタ」画面が表示され、すべてのアラームが表示されます。



以下の情報が表示されます。詳細については、ヘルプを参照してください。

項目	説明
アラーム数一覧上の数	アラームモニタ画面の一覧に表示されているアラーム数が表示されます。 ［設定］をクリックして 1 ページに表示されるアラーム数を設定できます。デフォルトでは「30」、最小では「10」です。「all」を指定すると、受信したすべてのアラームが表示されます。
受信数	アラームサービスで受信したアラームの数です。
自動更新	チェックが付いている場合、新しいアラームを受信すると、アラームモニタ画面を自動的に更新します。チェックが付いていない場合は自動的に更新されません。「受信数」の数値のみ更新されます。
範囲選択	アラームを範囲選択する場合にチェックします。 以下の手順で選択します。 範囲選択の始点をチェック→「範囲選択」をチェック→範囲選択の終点をチェックの順番にチェックを付けます。
複数選択	チェックを付けると、複数のアラームを選択できます。
受信時間	アラームが受信された時間が表示されます。
アラームタイプ	アラームの種類が表示されます。

項目	説明
重要度	アラームの重要度が以下のアラーム受信アイコンで表示されます。 （赤色）：危険　（ピンク色）：重度 （黄色）：軽度　（青色）：情報 （白色）：不明
サーバ	サーバ名が表示されます。
アクション	アラーム受信時のアクションが表示されます。 アクションクは「アラーム設定」の「アクションの作成／編集」画面で設定します。
受領	アラームが受領されると、アイコンが表示されます。
ログ	アラームがアラームログに出力されると、アイコンが表示されます。
アラームの詳細	選択したアラームの詳細メッセージが表示されます。

2　操作対象のアラームにチェックを付け、以下の操作が行えます。

詳細については、ヘルプを参照してください。

機能ボタン	説明
アラーム情報	アラームに関する詳細情報を表示します。
ログ	選択したアラームをアラームログリストに書き込みます。
印刷	選択したアラームを印刷します。
削除	選択したアラームをアラーム一覧から削除します。
全て選択	すべてのアラームを選択します。
除外	［除外］をクリックすると、選択したサーバからの選択したアラームを除外します。除外指定したアラームは一覧から削除され、同様の着信アラームも一覧に追加されなくなります。サーバが正しく機能しないため、システムがアラームであふれるような場合に使用します。
除外アラーム一覧	フィルタ設定をリセットします。
アラームマネージャ	アラームマネージャを起動します。
アラーム設定	「共通設定」画面が表示されます。アラーム設定を編集できます。
テストトラップ	トラップの送信テストを行います。

3　［閉じる］をクリックして終了します。

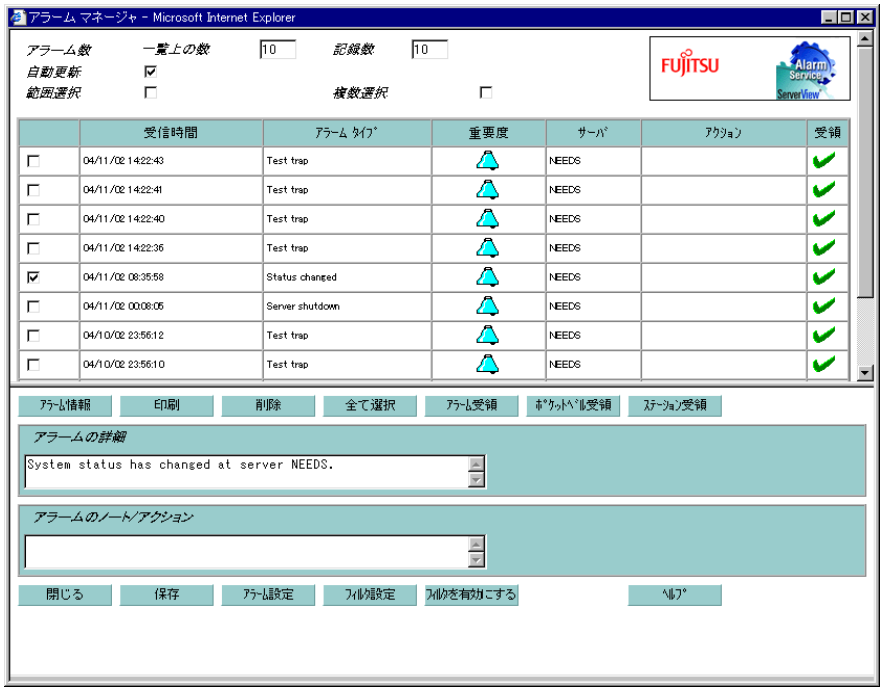
4　アラームサービスを終了するには、アラームサービス画面を閉じます。

■ アラームの編集／管理－［アラームマネージャ］

アラームマネージャを使用すると、アラームログリストにあるすべてのアラームの編集、管理が行えます。

1 「アラーム」メニュー→「マネージャ」の順にクリックします。

「アラームサービス」が起動し、「アラームマネージャ」画面が表示されます。



以下の情報が表示されます。詳細については、ヘルプを参照してください。

項目	説明
アラーム数一覧上の数	アラームマネージャ画面の一覧に表示されているアラーム数が表示されます。
記録数	アラームログデータベースに記録されたアラームの数です。
自動更新	チェックが付いている場合、新しいアラームを受信すると、アラームモニタ画面を自動的に更新します。チェックが付いていない場合は自動的に更新されません。「受信数」の数値のみ更新されます。
範囲選択	アラームを範囲選択する場合にチェックします。 以下の手順で選択します。 範囲選択の始点をチェック→「範囲選択」をチェック→範囲選択の終点をチェックの順番にチェックを付けます。
複数選択	チェックを付けると、複数のアラームを選択できます。
受信時間	アラームを受信した時間が表示されます。
アラームタイプ	アラームの種類が表示されます。
重要度	アラームの重要度が以下のアラーム受信アイコンで表示されます。 （赤色）：危険　（ピンク色）：重度 （黄色）：軽度　（青色）：情報 （白色）：不明

項目	説明
サーバ	サーバ名が表示されます。
アクション	アラーム受信時のアクションが表示されます。 アクションクは「アラーム設定」の「アクションの作成／編集」画面で設定します。
受領	アラームが受領されるとアイコンが表示されます。
アラームの詳細	選択したアラームの詳細メッセージが表示されます。
アラームのノート / アクション	選択したアラームに詳細情報などの短い説明文を入力できます。

2　操作対象のアラームにチェックを付け、以下の操作が行えます。

詳細については、ヘルプを参照してください。

機能ボタン	説明
アラーム情報	アラームに関する詳細情報を表示します。
印刷	選択したアラームを印刷します。
削除	選択した受領済みのアラームをすべて削除します。
全て選択	すべてのアラームを選択します。
アラーム受領	選択したアラームにを受領します。受領すると、アラーム一覧に受領アイコンが表示されます。
ポケットベル受領	選択したポケットベル呼び出しアクションを受領します。受領すると、アラーム一覧に受領アイコンが表示されます。
ステーション受領	選択したステーション転送アクションを受領します。受領すると、アラーム一覧に受領アイコンが表示されます。
保存	「アラームのノート / アクション」に入力した内容を保存します。
アラーム設定	「共通設定」画面が表示されます。アラーム設定を編集できます。
フィルタ設定	「アラームマネージャのフィルタ」画面が表示されます。アラームのフィルタ設定の確認や、新しいフィルタ設定を定義できます。設定できるフィルタは、次のとおりです。 ・サーバの選択 選択したサーバのアラームにフィルタをかけます。 ・種類の選択 重大性のレベルによってフィルタをかけます。 ・アラーム 未処理か受領済みかによりフィルタをかけます。 ・時刻 アラームが指定した時刻の前に発生したか、後に発生したかによって、フィルタをかけます。 ・未処理のポケットベル 未処理のポケットベルメッセージにフィルタをかけます。 ・未処理のマネージメントステーション トラップを他のマネージメントステーションに送信した未処理のアラームにフィルタをかけます。
フィルタを有効にする	アラームのフィルタ設定を有効または無効にします。

3　［閉じる］をクリックして終了します。

4　アラームサービスを終了するには、アラームサービス画面を閉じます。

3.3.3 ハードウェアの監視

1　対象のサーバを選択します。

POINT

- **ブレードサーバの場合は、「3.3.4 ブレードサーバの状態確認」（→ P.121）を参照してください。**

2　［ServerView］をクリックします。

「ServerView ［サーバ名］」画面が表示され、選択したサーバに関する詳細情報が表示されます。

POINT

- ServerView **画面は、以下のいずれかの方法でも表示できます。**
  - **サーバをダブルクリックする。**
  - **サーバを選択し、「ファイル」メニュー→「開く」の順にクリックする。**
  - **サーバを右クリックし、「開く」をクリックする。**
- RSB **モードの場合は、以下の項目のみ有効です。**
  - **アクション**
  - **ベースボード**
  - **電源**
  - **環境**

●システム識別灯表示

システム識別灯表示の切り替えができます。サーバがシステム識別灯表示をサポートしている場合のみ有効です。システム識別 LED の現在の状態がアイコンで表示されます。

次の 3 種類のアイコンがあります。

：点灯中　 ：消灯中

：点滅中（システム異常を示します）

●表示データ

現在のデータ（Online Data）か、アーカイブデータ（Archive Data- 作成日時）のいずれかを指定できます。サーバが利用不可能な場合、「アーカイブデータ」を選択して、作成済みのアーカイブデータを表示できます。これにより、必要な場合は障害の原因を確認できます。

3　サーバの状態を確認します。確認したい項目のボタンをクリックします。

項目	説明
構成情報	選択したサーバの一般情報を表示します。以下の情報が表示されます。 ・System Info（インストールされている OS などのシステム情報） ・MassStorage（ハードディスク、論理ドライブ、ファイルシステムに関する情報） ・Network Interfaces（接続されているネットワークカードに関する情報） ・Expansion boards（拡張ボードに関する情報） ・Recovery（エラーバッファの内容） ・Others（サーバの電源とアップ／ダウン時間） ・Overall Information（すべての情報）
アクション	サーバの継続的な監視と電源に関する管理を行います。異常が発生した場合の対処方法を設定したり、サーバの再起動、電源切断などの操作が行えます。詳細については、「■ アクション」（→ P.109）を参照してください。
オペレーティングシステム	サーバにインストールされている OS に関するデータを表示します。 現在実行しているプロセスに関するデータや、OS の名前、バージョン、言語、システム稼働時間などが表示されます。
システムステータス	ステータスエージェントのシステム情報を表示します。 システムは、コンポーネントが集合したサブシステムへ細分化されており、ツリービューでは、既知のすべてのサブシステムとコンポーネントのステータスについての概観が表示されます。
外部記憶装置	ハードディスクとコントローラに関する詳細情報を表示します。 詳細については、「■ 外部記憶装置の状態確認」（→ P.111）を参照してください。
ベースボード	プロセッサ、メモリモジュール、バスシステム、コントローラに関するデータ（ベースボードの Board-ID や OS の BIOS バージョンなど）を表示します。 詳細については、「■ ベースボードの状態確認」（→ P.118）を参照してください。
電源	サーバの電源に関する設定とステータスが表示されます。 詳細については、「■ 電源の状態確認」（→ P.119）を参照してください。
環境	サーバとサーバに接続されているメモリ拡張ユニットの温度とファンのステータスが表示されます。また、ドアやサーバのケースが開いているかどうかも表示されます。 詳細については、「■ 環境の状態確認」（→ P.120）を参照してください。

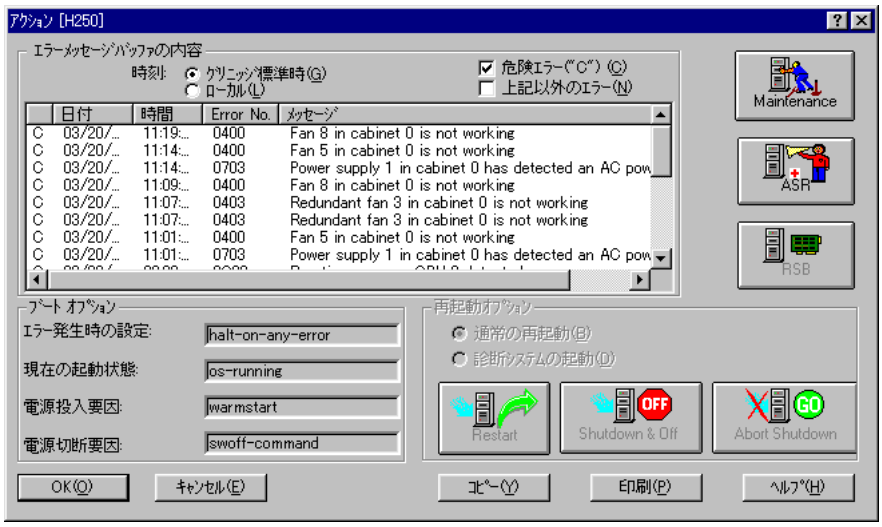
項目	説明
ネットワークインタフェース	ネットワークに関するデータを取得できます。 常に情報を取得する必要があるリストエントリを最初にクリックしてください。 ・既存のネットワークボードに関して取得できる情報 アダプタモデル／種類／物理アドレス／IPX ネットワーク／スピード／ IP アドレス／ IP サブネットマスク／バスタイプ＆番号／スロット番号／ファンクション／ IRQ ／DMA チャネル／I/O アドレスレンジ／メモリアドレスレンジなど
更新	画面に表示されている情報を更新します。
しきい値	しきい値マネージャが起動します。 詳細については、「3.2.2 しきい値設定」（→ P.90）を参照してください。
レポート	レポートマネージャが起動します。 詳細については、「3.2.3 レポート設定」（→ P.93）を参照してください。
デフォルト	デフォルト設定が起動します。 詳細については、「3.2.5 設定値を他のサーバへコピーする」（→ P.99）を参照してください。
ヘルプ	各項目についてのヘルプが表示されます。

4　各項目の確認が終了したら、［閉じる］をクリックします。

ServerView 画面が終了し、サーバの一覧画面に戻ります。

■ アクション

［アクション］をクリックすると、「アクション」画面が表示されます。
サーバの継続的な監視とアラームへの応答について設定します。



POINT

- **［RSB］ボタンは、RSB が利用でき、かつ Server Control agent でサポートされている場合のみ有効になります。**

● Maintenance （メンテナンス）

［Maintenance］をクリックすると、「メンテナンス」画面が表示されます。内蔵の CMOS バッテリの使用期間やファンに関する情報が表示されます。

● ASR（自動再構築／再起動）

障害発生時のサーバの動作について設定できます。詳細については、「3.2.4 異常発生時の対処（ASR）」（→ P.96）を参照してください。

● RSB（Remote Service Board）

［RSB］をクリックすると、「RSB プロパティ」画面が表示されます。RSB のパラメータを設定できます。

- ［再起動設定］タブ
  サーバの起動／シャットダウン、再起動の定義、起動ステータスの表示を行うことができます。RSB モードで ServerView を起動した場合は、電源の投入と切断処理が可能です。ただし、サーバ電源の投入と切断処理はパスワードで保護されています。
- ［バックアップバッテリ］タブ
  未サポートです。
- ［インタフェース］タブ
  プライマリ／セカンダリチャネルと電話番号の設定を表示します。

● Restart （再起動）

サーバを再起動します。サーバが再起動されるまでに必要な経過時間を指定します。クリックすると、セキュリティのためにログイン画面が表示されます。ServerView 管理権限のユーザ名とパスワードが必要です。

● Shutdown and Off （シャットダウン／電源切断）

サーバをシャットダウンし、電源を切ります。サーバがシャットダウン、または電源切断されるまでに必要な経過時間もここで指定します。クリックすると、セキュリティのためにログイン画面が表示されます。ServerView 管理権限のユーザ名とパスワードが必要です。

● Abort Shutdown （シャットダウンの中止）

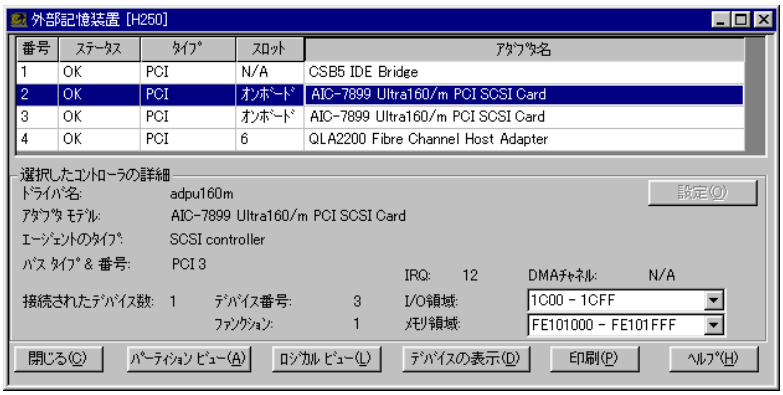
［RSB］または［Restart］をクリックして開始されるシャットダウンを中止します。クリックすると、セキュリティのためにログイン画面が表示されます。ServerView 管理権限のユーザ名とパスワードが必要です。
ただし、すでにシャットダウンが開始された場合は中止できません。

POINT

- **ログイン画面で「デフォルトユーザの変更」を行った場合、一時的にデフォルトユーザが変更されます。ただし、ServerView をいったん終了するとこの情報は失われます。デフォルトのログインユーザを変更する場合は、「サーバのプロパティ」を起動し、［ログイン］タブ画面で設定してください。設定方法については、「3.1.4 サーバ設定の確認／変更」（→ P.83）を参照してください。**

■ 外部記憶装置の状態確認

［外部記憶装置］をクリックすると、ハードディスクとコントローラに関する詳細情報が表示されます。



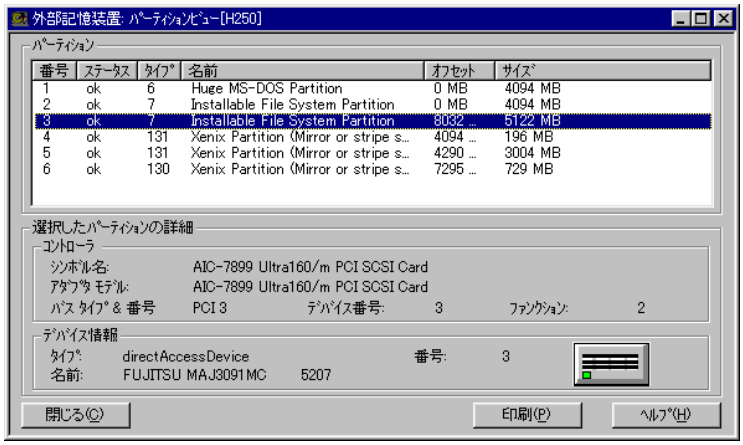
- コントローラリスト
  コントローラに関する重要なデータ、番号、ステータス（OK または FAIL）、タイプ（EISA、PCI、ISA）、スロット、ドライバ名が表示されます。
- 選択したコントローラの詳細
  HD と EISA MIB に関するデータが表示されます。

POINT

- **情報を取得するリストエントリを必ず最初に選択します。選択しないと、別のリストエントリの情報が表示されることがあります。**

● パーティションビュー

［パーティションビュー］をクリックすると、最も重要なサーバパーティションデータ（番号、ステータス、種類、名前、オフセット、サイズ）が表形式で表示されます。

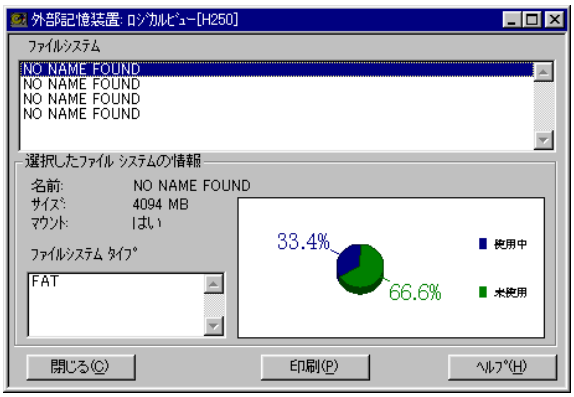


「選択したパーティションの詳細」には、リストから選択したパーティションに関する追加データが表示されます。

- コントローラ
  パーティションが所属するコントローラが表示されます。
- デバイス情報
  パーティションが作成されたデバイスが表示されます。

● ロジカルビュー

［ロジカルビュー］をクリックすると、論理ドライブ上に存在するファイルシステムに関する情報が表示されます。



- ファイルシステム
  選択したサーバのファイルシステムが表示されます。
- 選択したファイルシステムの詳細
  選択したファイルシステムに関する追加情報（名前、サイズ、マウント、ファイルシステムタイプ、パーセント単位の Used およびフリー状態のファイルシステム領域）が表示されます。

● デバイスの表示

［デバイスの表示］をクリックすると、特定のコントローラに接続されている記憶装置に関する詳細情報が表示されます。

- 選択したコントローラの詳細
  デバイスを制御するコントローラに関する最も重要なデータが再表示されます。表示されるデータは、シンボル名、アダプタモデル、デバイス番号です。
- 接続されたデバイスの一覧
  コントローラに接続されているデバイスに関する最も重要なデータが表示されます。表示されるデータは、番号、ステータス、S.M.A.R.T.、タイプ（HD-MIB を参照）、名前です。このリストから 1 つまたは複数のデバイスを選択できます。

- 選択したデバイスの詳細
  リストから選択したデバイスに関する追加データが表示されます。表示されるデータは、容量、SCSI チャネル、SCSI ターゲット Id、SCSI-LUN、セクタ、シリンダ、ブロックサイズ、セクタサイズ、ディスプレイのステータスを持つ Device Type のシンボルです。
  ・S.M.A.R.T. （Self Monitoring and Reporting Technology）
  S.M.A.R.T. に表示される情報は、S.M.A.R.T. プロシージャから返信されます。S.M.A.R.T. は、ハードデバイスのエラーを早期に検出するために使用する技術です（PDA = Prefailure Detection and Analysis）。SCSI ハードディスクドライブと ATA ハードディスクドライブがサポートされます。
  なお、S.M.A.R.T. は Windows でのみ利用できます。

● 設定

［設定］をクリックすると、選択したコントローラを設定するためのアプリケーションが起動します（利用可能な場合）。
現在、以下のアプリケーションがサポートされています。

- GlobalArrayManager（GAM:PG-143B）
- StorageManager（PG-142B/PG-142C）

■ 外部記憶装置 - RAID コントローラの場合

SCSI アレイコントローラカード／ IDE-RAID コントローラカードに接続されているディスクの状態を表示することができます。
SCSI アレイコントローラカード／ IDE-RAID コントローラカードの監視および表示は、RAIDmanager ／ IDE-RAIDmanager を使用します。SCSI アレイコントローラカード／ IDE-RAID コントローラカードに添付の RAIDmanager ／ IDE-RAIDmanager を必ずインストールしてください。
RAIDmanager ／ IDE-RAIDmanager が検出したエラー情報を、管理コンソールに通知することができます。

● デバイスの表示

「デバイスの表示」画面左側に、そのコントローラで定義済みのシステムドライブが一覧表示されます。表のエントリは、シリアル番号、ステータス、SCSI ID（PG-142B/PG-142C のみ）、メガバイト単位のサイズ、RAID レベル、キャッシュタイプです。
システムドライブを選択すると、これらのシステムドライブが定義されているハードディスクドライブがチャネル ID 表で強調表示されます。チャネル ID グリッドの選択ボタンは、ステータス（Online/Dead/Standby-Rebuild を示す色付きのシンボル）とサイズをメガバイト単位で表示させる場合に使用します。ハードディスクドライブの代わりに別のデバイス（CD-ROM、ストリーマ、プリンタなど）が接続されている場合は、対応するイメージが選択ボタンに表示されます。

● アダプタビュー

［コントローラ］アイコンをクリックすると、「アダプタビュー」画面が表示されます。
「ハードウェアの情報」には、デバイスのモデル、ファームウェアのバージョン、BIOS のバージョン、キャッシュサイズ、バスのタイプ、スロット、IRQ、ベースアドレス、EEPROM サイズ（PG-143B のみ）などコントローラ固有のデータが表示されます。
「ディスクアレイの情報」には、チャネル番号、再作成タスク優先順位、論理セクタサイズ、物理セクタサイズ、システムドライブ数、システムドライブの最大数、物理デバイス数、物理デバイスの最大数、BIOS のバージョン（PG-143B のみ）が表示されます。

● 物理的なデバイスの表示

［チャネル ID グリッドの選択］をクリックすると、「物理的なデバイスの表示」画面が表示され、接続されているデバイスに関する詳細情報が表示されます。

「SCSI デバイスの情報」には、デバイスモデル、デバイスタイプ（ディスク、CD-ROM など）、アダプタチャネル、チャネルのアダプタ ID、SCSI アトリビュート（Fast SCSI、Wide SCSI、タグ付きキューイング）に関する情報が表示されます。

「ディスクの情報」には、ステータス、SMART ステータス、キャパシティ、再作成速度、パリティエラー、ソフトエラー、ハードウェアエラー、その他のエラーが表示されます。

● ブリッジコントローラの詳細

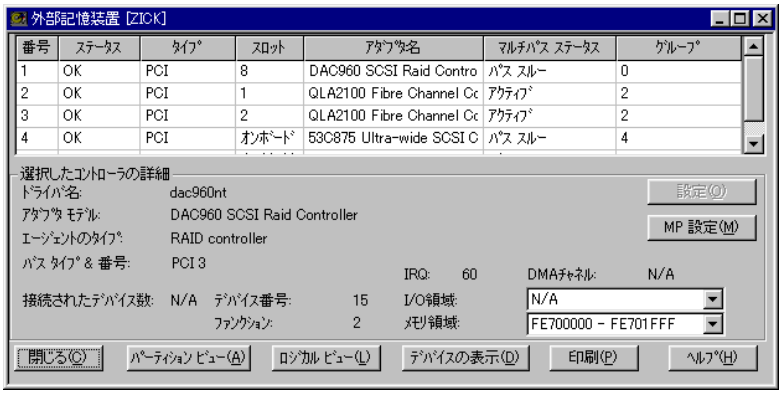
SCSI ハードドライブブリッジコントローラがサーバにインストールされている場合、「外部記憶装置」画面の［デバイスの表示］をクリックすると、サーバ上の特定のコントローラに接続されている記憶装置に関する情報が表示されます。

［設定］をクリックすると、選択したコントローラを設定するために使用するアプリケーションが起動されます。

［RAID の表示］をクリックすると、選択したコントローラで定義されているシステムドライブに関する情報が表示されます。システムドライブを選択すると、それらのシステムドライブが定義されているハードディスクドライブがチャネル ID 表で強調表示されます。

■ 外部記憶装置 - MultiPath の場合

MultiPath がインストールされている場合、［外部記憶装置］をクリックすると、MultiPath に関する詳細情報が表示されます。



MultiPath を使用すると、複数の HBA（ホストバスアダプタまたはファイバチャネルホストバスアダプタ）を、冗長パスを経由して同一の記憶装置に接続できます。MultiPath により、接続や HBA の障害が発生してもデバイスに対する高可用性が得られます。障害が発生した場合、入力や出力は別の I/O パスを経由してデバイスに転送されます。さらに、負荷をより均等に分散するためにロードバランシング機能も提供されます。

ドライバの設計は、元になる SCSI またはファイバチャネルホストアダプタに依存しません。IDE ディスクコントローラはサポートされません。ドライバの設計は MSCS に準拠しています。

MultiPath がインストールされていると、「外部記憶装置」画面に、「マルチパスステータス」情報欄、「グループ」情報欄、［MP 設定］ボタンが追加されます。

● マルチパスステータス

マルチパスステータスには、次のいずれかの値が表示されます。

値	意味
パススルー	2 番目のポートを使用できない。
アクティブ	起動中のチャネル。ユーザが選択する。
スタンバイ（非活性）	停止中。ユーザが選択する。ロードバランス機能が有効な場合、このステータスは表示されません。
無効	メンテナンスアクティビティのため停止中。
エラー	このポートでエラーが発生した。
MultiPath Port はありません	このチャネル／ポートは MultiPath 機能（atapi など）をサポートしない。

● グループ

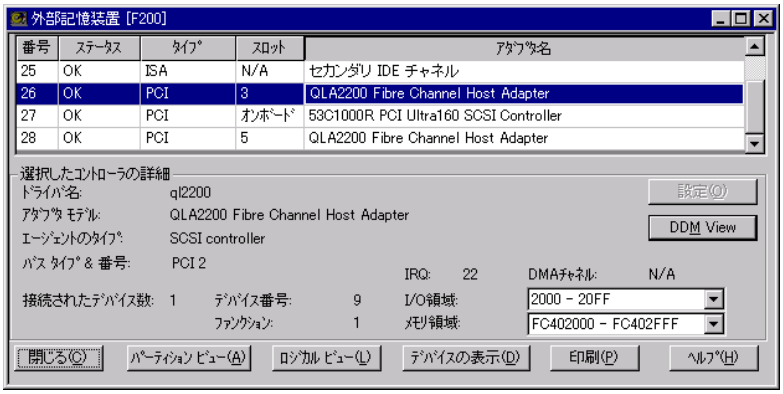
MultiPath のグループ番号、または MultiPath 機能にエントリが存在しない場合は「-」が表示されます。1 つのグループは、システムキャビネットと外部記憶装置キャビネット間の 2 つ（または最大 4 つ）の冗長接続で構成され、すべて同じデバイスに接続されます。

● MP 設定

MultiPath グループを設定する場合は、外部記憶装置リストでエントリを選択し、［MP 設定］をクリックします。「マルチパス構成グループ」画面が表示されます。各項目の詳細については、ヘルプを参照してください。

■ 外部記憶装置 - DuplexWrite の場合

DuplexWrite がインストールされている場合、［デバイスの表示］をクリックすると、DuplexWrite ドライバに関する情報が表示されます。



DuplexWrite は、ディスクストレージサブシステムの能力を向上させるソフトウェアです。ファイバチャネル接続技術を共に使用することにより、災害許容設定をセットアップできます。DuplexWrite により、異なるディスクストレージサブシステムの 2 つのディスクに同一の情報が含まれるよう、書き込み操作が複製されます。これは、ファイルシステムデータなどの論理データ構造に依存しないので、「物理ミラーリング」と呼ばれます。

いずれかのドライブが失敗すると、まだ動作しているディスクにアクセスして割り込みを行わなくても、DuplexWrite によりデータの処理を継続できることが確認されます。問題のあるドライブが修復されると、通常の運用中にデータのリカバリを実行できます。再起動は必要ありません。これは、複雑な RAID ボリュームだけでなく物理ディスクにも適用されます。

DuplexWrite がインストールされている場合、以下の項目が追加されます。

- Write ステータス、Duplex Disk
- ［DW 設定］ボタン

● Write ステータス

Write ステータスには、次のいずれかの値が表示されます。

値	意味
オンライン	DuplexWrite ディスクです。優先的に読み取られます。
エラー	エラー状態のため、ディスクがオフライン状態です。
アクション	ディスクがリカバリ中です。
無効	メンテナンスアクティビティのため、ディスクが停止に設定されています。
シンプレックス	ディスクが DuplexWrite 用に設定されていません。
N/A	DuplexWrite がインストールされていないか、ステータスを取得できません。
MultiPath	MultiPath を経由したディスクまでの第 2、第 3、または第 4 のパスです。
Missing	ディスクが存在しません（パートナディスクの COD により生成されるエントリ）。
<name>	ディスクが他の MSCS クラスタノード <name> により使用されています。

● Duplex Disk

Duplex Disk は、DuplexWrite グループを指定するために必要です。DuplexWrite グループは、1 つまたは 2 つのディスクで構成されます。

● DW 設定

DuplexWrite グループを設定する場合は、Device View メニューでエントリを選択し、［DW 設定］をクリックします。「ディスクグループ」画面が表示されます。

［DW 設定］は、選択したサーバに DuplexWrite エージェントがインストールされており、かつ選択したエントリに N/A、MultiPath、<cluster node name> 以外の DuplexWrite ステータスが表示されている場合に選択できます。各項目の詳細については、ヘルプを参照してください。

POINT

- **ServerView は、データのスナップショットと設定データのオフラインでの読み取りのために Archive Data モードを用意しています。このモードが有効な場合は、DuplexWrite の設定を行えません。閉じる、印刷、ヘルプ以外は使用できません。**

■ ベースボードの状態確認

［ベースボード］をクリックすると、プロセッサ、メモリモジュール、バスシステム、コントローラに関するデータ(ベースボードの Board-ID や OS の BIOS Version など)が表示されます。シリアル番号は、サーバの機種によっては表示されない場合があります。

● Utilization

プロセッサの使用率や、マルチプロセッサシステムにおける単一プロセッサの使用率を表示します。

● メモリモジュール

［メモリモジュール］をクリックすると、すべてのメモリモジュールについて、番号、バンク、モジュールの状態、エラーカウント、開始アドレス、サイズ、承認、名称（オプション）が表示されます。

● 電圧

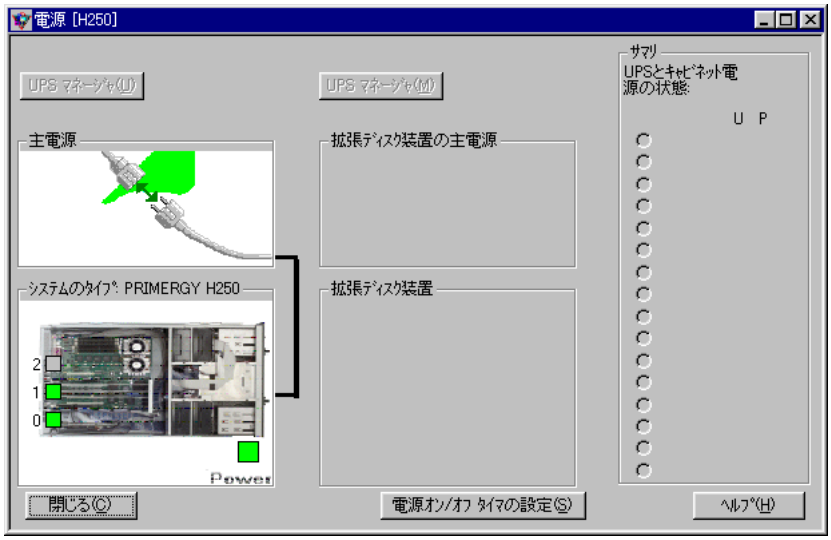
［電圧］をクリックすると、サーバ上のベースボードの電圧に関する情報が表示されます。

● バスとアダプタ

［バスとアダプタ］をクリックすると、利用可能なバスシステム（EISA、PCI など）、および接続されているコントローラとその機能に関する情報が表示されます。

■ 電源の状態確認

［電源］をクリックすると、サーバの電源に関する設定とステータスが表示されます。
電源が正常に動作している場合は、対応するダイアグラムの右下隅に緑色の四角が表示されます。
冗長電源は、重なり合う 2 つの四角で表示されます。



● 主電源

サーバに接続されており、必要な場合は拡張記憶装置に接続される黒色のケーブルが表示されます。サーバや拡張記憶装置の誤動作は、黄色または赤色の四角で表示されます。
通常、状態は 60 秒ごとに調べられます。無停電電源の本線の電圧に障害があると、表示された値の高速ポーリング（5 秒間隔）を開始するトラップが送信されます。その後、Elapsed Time UPS running on Battery フィールドが黄色で縁取られます。無停電電源の本線は赤色で表示されます。

● システムのタイプ

サーバと、利用可能な場合は収納装置内の BBU が表示されます。サーバの電源の全体的なステータスが、緑色、黄色、または赤色の四角で表示されます。

● 拡張ディスク装置

存在する拡張記憶装置が表示されます。BBU の設置もここで検出できます。拡張記憶装置内の電源の全体的なステータスが、緑色または赤色の四角で表示されます。

● サマリ

選択ラジオボタンを使用して、拡張記憶装置を選択できます。同時に、各選択ボタンの隣にある緑色または赤色の四角により、すべての拡張記憶装置内の電源のステータスが常に通知されます。

● 電源オン / オフタイマの設定

［電源オン / オフタイマの設定］をクリックすると、ASR のプロパティが起動し、［Power ON/OFF］タブ画面が表示されます。サーバの起動／終了時間を指定することができます。設定方法については、「● ［Power ON/OFF］タブ」（→ P.98）を参照してください。

● USP マネージャ

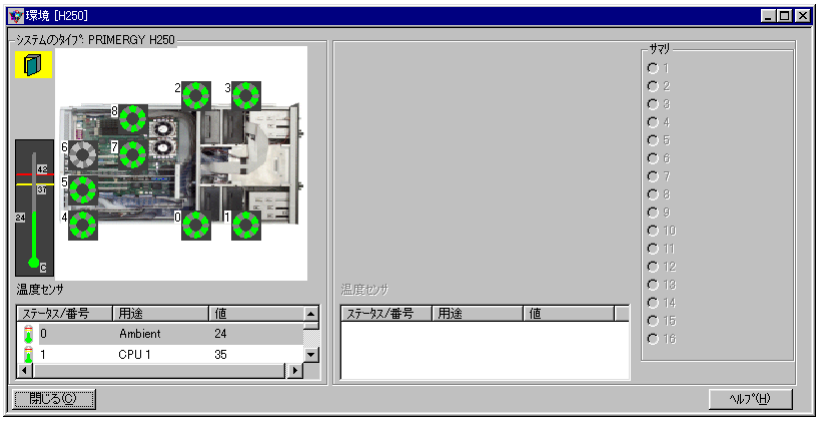
UPS 管理ソフトウェアがインストールされていて、USP 管理ソフトウェア連携を行うための設定がされている場合は、［USP マネージャ］ボタンが有効になります。
［USP マネージャ］をクリックすると、UPS 管理ソフトウェアが起動します。操作方法については、UPS 管理ソフトウェアに添付のマニュアルを参照してください。
UPS 管理ソフトウェア連携のための設定方法については「4.2.2 UPS 管理ソフトウェア連携の設定（Windows）」（→ P.146）を参照してください。

■ 環境の状態確認

［環境］をクリックすると、サーバとサーバに接続されている拡張ユニットの温度とファンのステータスが表示されます。また、ドアやサーバのケースが開いているかどうかも表示されます。
これらの状態表示に対するしきい値は、サーバ（ハードウェア）に設定されている基本しきい値で判定されます。しきい値マネージャで設定したしきい値ではありません。

POINT

- **すべてのサーバタイプが、ドアまたはサーバのケースが開いているかどうかの情報を返信しませんので、注意してください。**



黄色のサーバアイコンは、ドアまたはサーバのケースが開いていることを意味します。これは、拡張記憶装置についても「サマリ」の黄色の四角により表示されます。
ファンと温度はアイコンで表示されます。それぞれの色は、以下の状態を示します。

	シャットダウン	危険	OK	センサの故障	確認不可能
温度	赤色	黄色	緑色	青色	灰色
ファン	赤色	黄色	緑色	---	灰色

温度センサは、最も重要なセンサの値を常に表示します。すべてのセンサの値が同じ場合は、リストの中で最後のセンサが表示されます。単一のセンサのステータスを呼び出す場合は、リストからそのセンサに対応する行をクリックします。
冗長ファンは、重なり合うファン制御シンボルによって表示されます。シンボルはどちらも真の冗長性を示す緑色である必要があります。

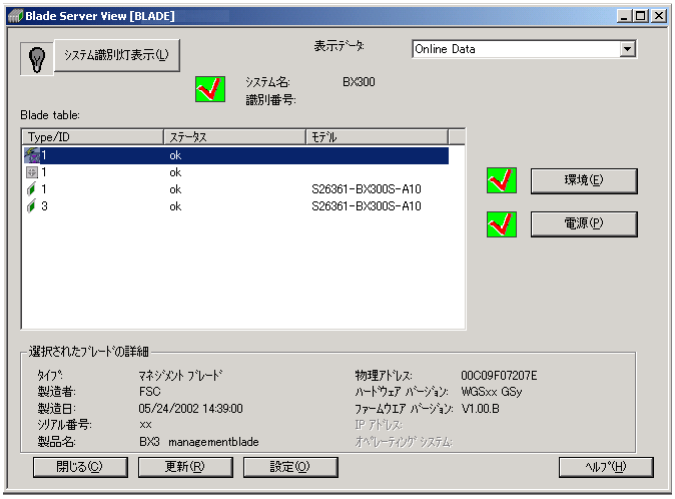
3.3.4　ブレードサーバの状態確認

ブレードサーバの状態を確認します。

1　ブレードサーバを選択します。

2　「ファイル」メニュー→「開く」の順にクリックします。

「Blade ServerView ［サーバ名］」画面が表示され、選択したサーバに関する詳細情報が表示されます。



●システム識別灯表示

システム識別灯表示の切り替えができます。サーバがシステム識別灯表示をサポートしている場合のみ有効です。

システム識別 LED の現在の状態がアイコンで表示されます。次の 3 種類のアイコンがあります。

：点灯中

：消灯中

：点滅中（システム異常を示します。）

●表示データ

選択したブレードサーバについて、表示するデータの種類を指定します。アーカイブデータを取得している場合、アーカイブデータも指定できます。

3　ブレードサーバの状態を確認します。確認したい項目のボタンをクリックします。

重 要

- **マネジメントブレード上でセキュリティが有効になっている場合、ボタン操作にはユーザログインが必要です。**
  ユーザ名とパスワードは、マネジメントブレードにTelnetもしくはWebインターフェースで接続し、設定できます。

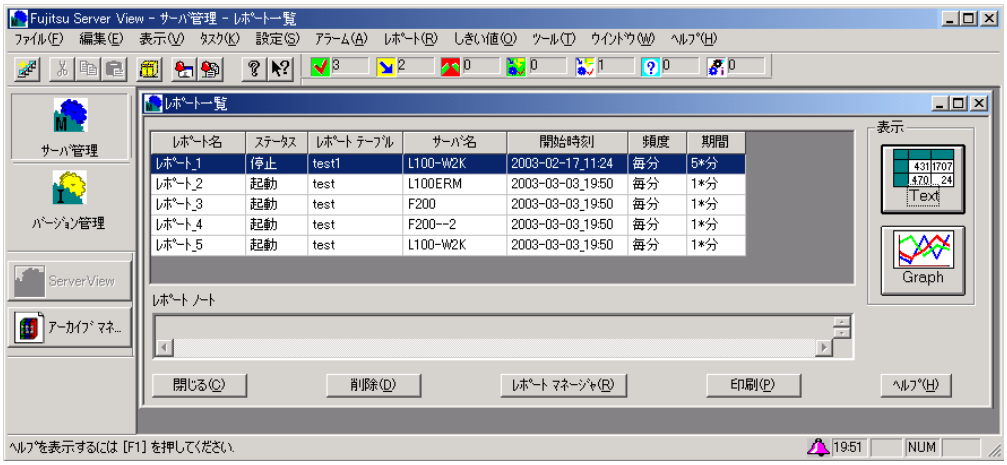
項目	説明
システム全体のステータス	ブレードサーバ全体のステータスがアイコンで表示されます。
システム名	マネジメントブレードに設定したブレードサーバシステムの名前が表示されます。
識別番号	ブレードサーバシステムの ID 番号が表示されます。
Blade Table	ブレードサーバシステム内に存在する、すべてのブレードのテーブルが表示されます。Type/ID には、ブレード ID と、ブレードの種類がアイコンで表示されます。 ：マネジメントブレード（マスタ） ：マネジメントブレード（スレーブ） ：スイッチブレード ：サーバブレード
選択されたブレードの詳細	選択したブレードの詳細情報が表示されます。
環境	環境サブシステム（ファン、温度）に関する状態が表示されます。
電源	電源サブシステムに関する状態が表示されます。
更新	画面に表示されている情報を更新します。
設定	マネジメントブレードまたはスイッチブレードを選択している場合、［設定］をクリックすると、各ブレードの設定画面（Web ブラウザ）が表示されます。 各ブレードの設定画面については、マネジメントブレードまたはスイッチブレードのマニュアルを参照してください。 なお、サーバブレードを選択している場合、このボタンは無効です。
ヘルプ	各項目についてのヘルプが表示されます。

4　確認後、［閉じる］をクリックして終了します。

3.3.5　レポートの参照

1　「レポート」メニュー→「一覧」の順にクリックします。

「レポート一覧」画面が表示されます。



2　内容を確認します。

●レポート内容の詳細確認

1. **一覧から詳細を確認したいレポートを選択し、[Text] をクリックします。**

   「Text」画面が表示され、レポートの各項目ごとに詳細内容が表示されます。

●レポート内容をグラフ表示で確認

1. **[Graph] をクリックします。**

   「Graph」画面が表示され、レポート内容の履歴がグラフ表示されます。

3　[閉じる] をクリックして終了します。

POINT

- **レポートは、ASCII 形式で作成されます。作成されたテキストファイルは、"repnnn.txt" という名前で、"\ServerView_installdir\Reports\server_name" フォルダに保存されます。**
- **次の手順で、レポートを Excel にエクスポートできます。**
  1. **Excel テキストウィザードを使用して、レポートを Excel にインポートします。**
     この時点では、レポートのフィールドは固定幅ではなく、空白で区切られていることに注意してください。
  2. **Excel のレポートレイアウトをカスタマイズするか、グラフィック形式に変換します。**

3.4 アーカイブマネージャ

サーバからアーカイブ データを作成、表示、比較するには、アーカイブマネージャを使用します。

POINT

- **アーカイブマネージャの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。**

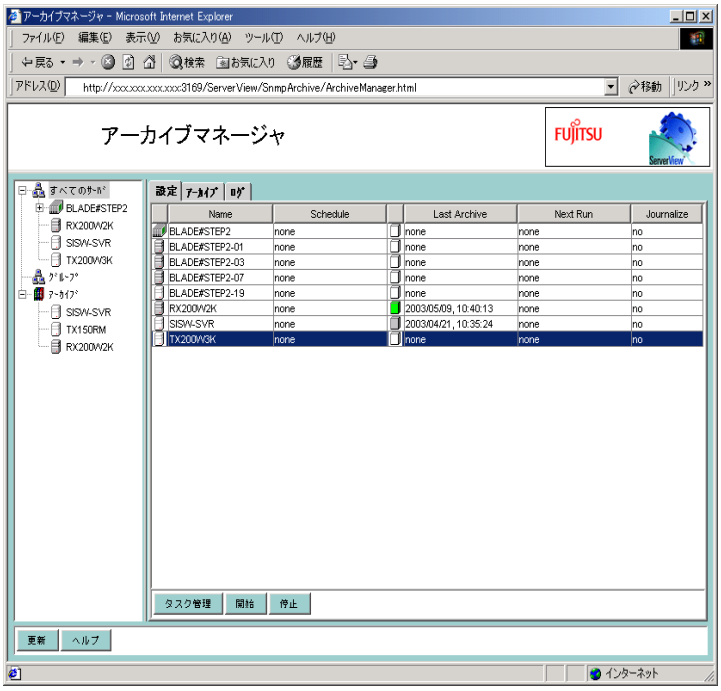
3.4.1 アーカイブマネージャの起動

1 **［アーカイブマネージャ］アイコンをクリックするか、または「ツール」メニュー→「アーカイブマネージャ」の順にクリックします。**

POINT

- **ServerView を起動していない場合は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「Fujitsu ArchiveManager」の順にクリックして起動できます。**

「アーカイブマネージャ」画面が表示されます。



POINT

- **［設定］タブは、タスクが開始・停止されるたび、またはアーカイブ設定が変更されるたびに自動的に更新されます。サーバの一覧やタスク情報を含む Web ページ全体を更新するには、［更新］をクリックしてください。**

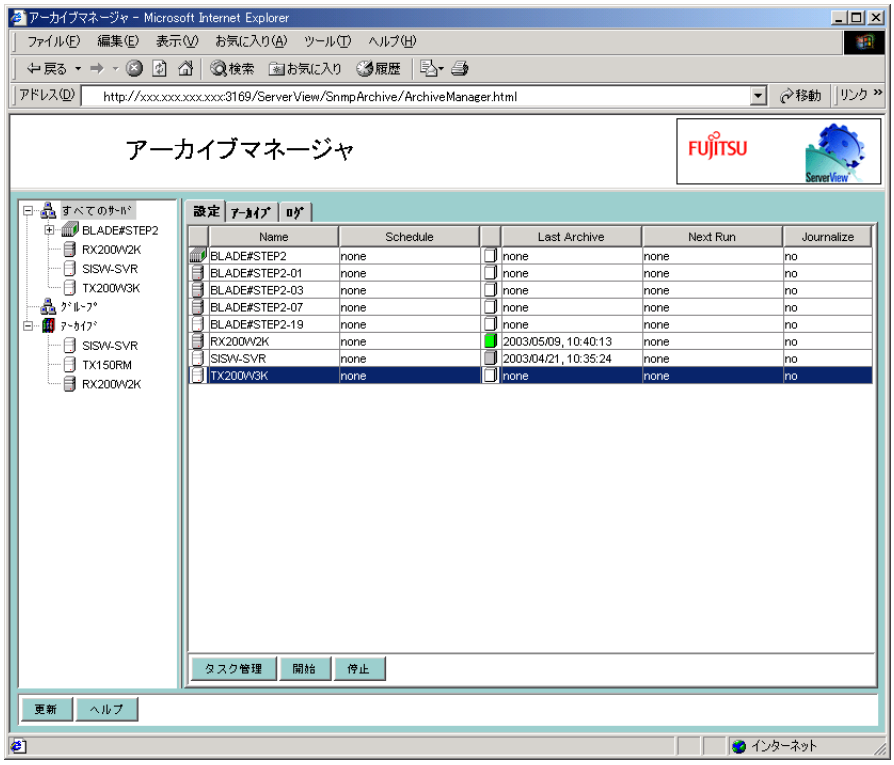
3.4.2 アーカイブデータを作成する

1　サーバ一覧からアーカイブデータを作成するサーバ（グループ）を選択します。

サーバは複数選択できます。

2　［設定］タブをクリックします。

アーカイブデータを作成するサーバの情報が表示されます。



項目	説明
Name	オブジェクトの名前が表示されます。
Schedule	タスクスケジュールが表示されます。
Last Archive	直前に作成されたアーカイブが表示されます。
Next Run	アーカイブタスクが次回実行される時間が表示されます。
Journalize	Journalize 情報が表示されます。

3　［開始］をクリックします。

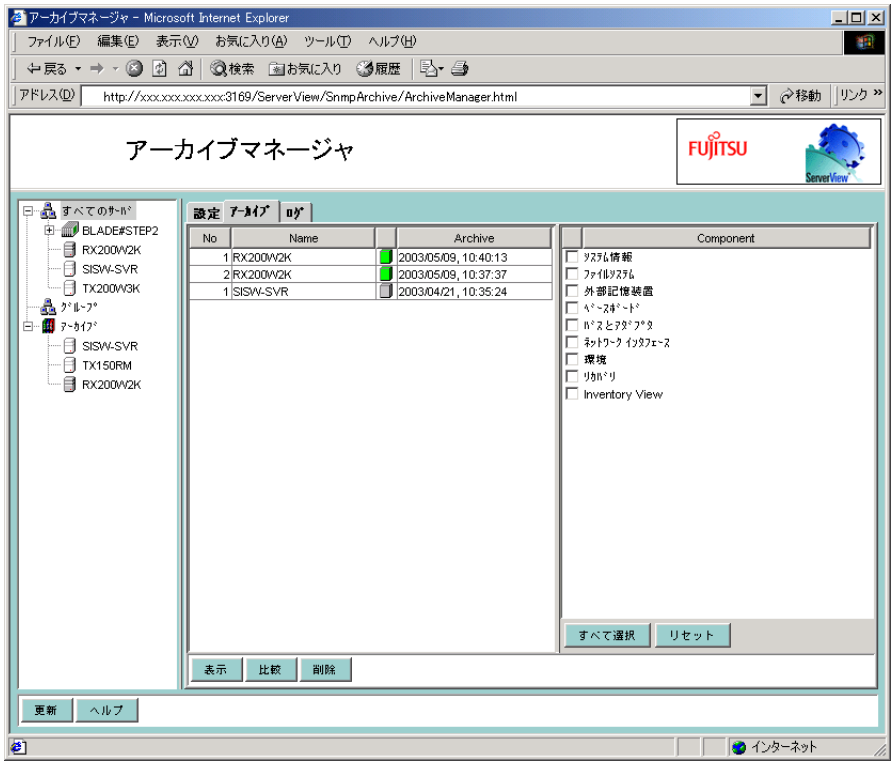
選択したサーバのアーカイブタスクが開始されます。

POINT

- **タスクを追加または編集する場合は、［タスク管理］をクリックします。アーカイブタスク画面が表示されるので、必要な設定を行ってください。詳細はヘルプを参照してください。**
- **［停止］をクリックすると、現在実行中のアーカイブが停止します。**

3.4.3 アーカイブデータの表示／比較／削除

アーカイブデータの表示／比較／削除は、［アーカイブ］タブ画面で行います。



■ アーカイブデータの表示

アプリケーションのアーカイブデータを表示します。

1　表示したいアーカイブデータが存在するサーバを選択します。

2　［アーカイブ］タブをクリックし、対応するアーカイブを選択します。

3　コンポーネント一覧で表示したい内容にチェックを付けます。

4　［表示］をクリックします。

アーカイブマネージャの画面に、選択したアーカイブデータが表示されます。

■ アーカイブデータの比較

サーバのアーカイブデータを比較します。

1　比較したいアーカイブデータが存在するサーバを選択します。

サーバは複数選択できます。

2　［アーカイブ］タブをクリックし、対応するアーカイブを 2 つ選択します。

3　コンポーネント一覧で比較したい内容にチェックを付けます。

4　［比較］をクリックします。

相違点は第 1 カラムで識別され、2 つの異なる色で表示されます。アーカイブデータのどちらか一方のみにある内容と、アーカイブデータの両方にあるが値が異なる内容が区別されます。

■ アーカイブデータの削除

サーバのアーカイブデータを削除します。

1　削除したいアーカイブデータが存在するサーバを選択します。

サーバは複数選択できます。

2　［アーカイブ］タブをクリックし、対応するアーカイブを選択します。

3　［削除］をクリックします。

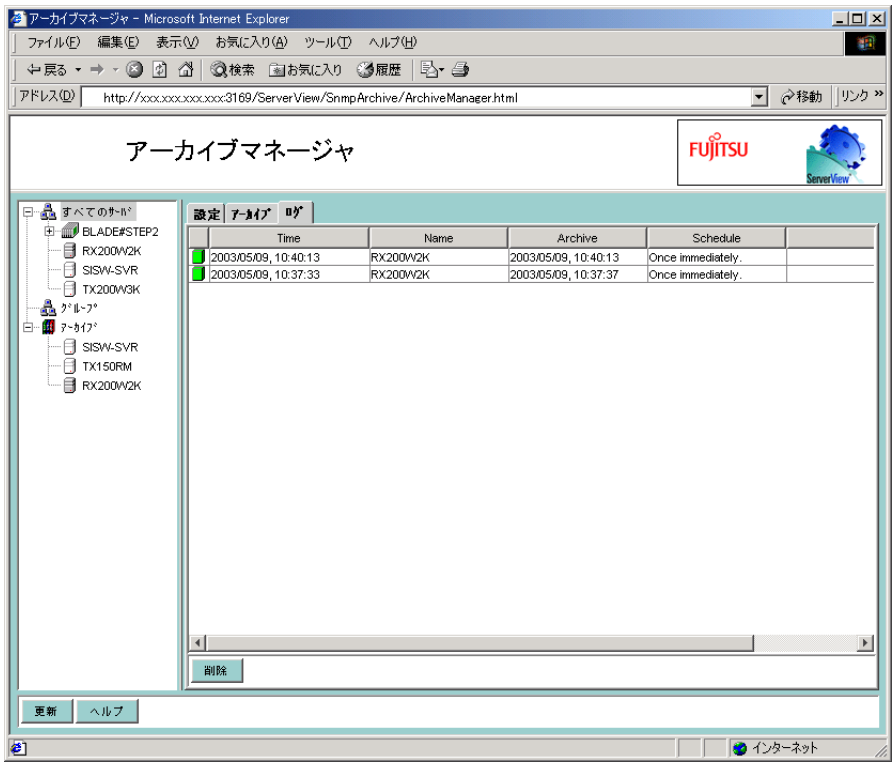
アーカイブデータが削除されます。

3.4.4 アーカイブデータのログ

アーカイブデータのログを一覧表示します。

1 ［ログ］タブをクリックします。

ログが一覧表示されます。



項目	説明
Time	アーカイブ取得日時が表示されます。
Name	オブジェクトの名前が表示されます。
Archive	アーカイブ名が表示されます。
Schedule	アーカイブ取得形式が表示されます。

3.5　バージョン管理

バージョン管理モードでは、サーバ内のハードウェアのバージョンとソフトウェアのバージョンを一覧表示する Inventory View と、ServerView のデータを外部メディアに保存するエクスポートマネージャが使用できます。

3.5.1　Inventory View

1　サーバ管理画面の［バージョン管理］をクリックします。

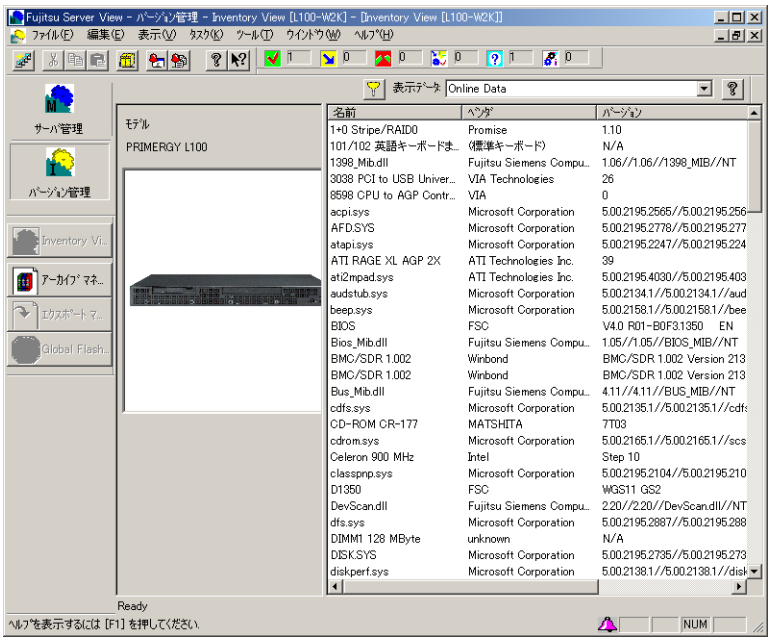
バージョン管理モードに切り替わります。

2　「サーバ一覧」画面から確認したいサーバを選択し、[Inventory View] をクリックします。

POINT

- Inventory View **は、以下のいずれかの方法でも起動できます。**
  - **・「ファイル」メニュー→「開く」の順にクリックする。**
  - **・サーバを右クリックし、「開く」をクリックする。**

バージョン情報が表示されます。



●「表示データ」

サーバのデータ型が表示されます。

項目	説明
Archive Data	選択したサーバの、各アーカイブに対するアーカイブデータを表示します。
Online Data	現在のイベントリデータを表示します。
Last Data	選択したサーバがダウンしている場合、最新データを表示します。
Rescan Inventory	インベントリデータを再取得します。

3　表示された内容を確認します。

4　画面右上の ☒ をクリックして終了します。

3.5.2　エクスポートマネージャ

ServerView からデータエクスポートし、外部メディア（例：ファイル、データベース）に保存できます。

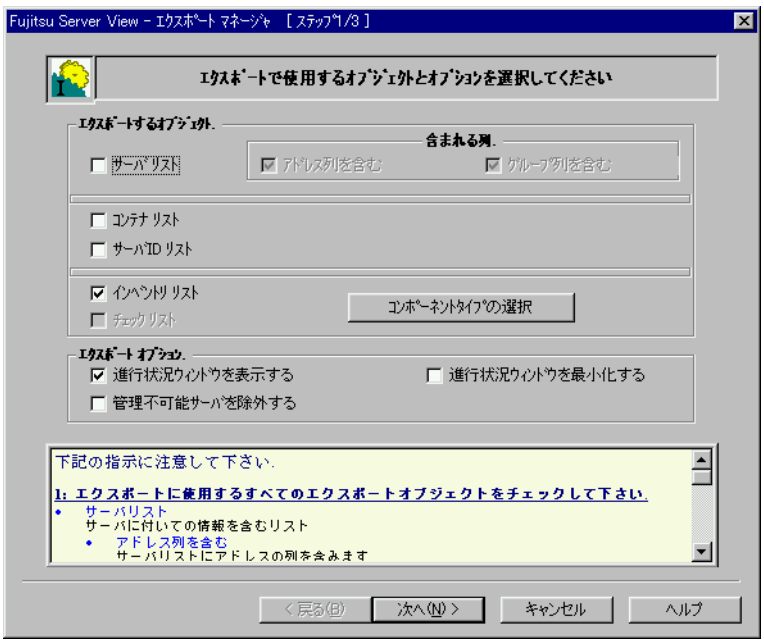
1　［バージョン管理］をクリックします。

2　「サーバの一覧」画面からエクスポートを行うサーバ、またはサーバグループをクリックします。

サーバは複数選択できます。

3　［エクスポートマネージャ］をクリックします。

「エクスポートマネージャ」画面が表示されます。



POINT

- **エクスポートマネージャは、以下のいずれかの方法でも起動できます。**
  - **「ツール」メニューから「エクスポートマネージャ」を選択する。**
  - **サーバを右クリックし、「エクスポートマネージャ」をクリックする。**

4 各項目を設定します。

項目	説明
サーバリスト	サーバについての情報を含むリストをエクスポートします。
アドレス列を含む	サーバのアドレスを含めてエクスポートします。
グループ列を含む	サーバのグループを含めてエクスポートします。
コンテナリスト	サーバについてのコンテナのリストをエクスポートします。 例）ベースボード、SCSI デバイス、LAN システム、サブシステムコンテナ
サーバ ID リスト	サーバ名やIPアドレスなどのサーバIDのリストをエクスポートします。
インベントリリスト	サーバについてのすべててのインベントリデータを含むリストをエクスポートします。 ［コンポーネントタイプの選択］をクリックすると、「コンポーネントタイプの選択」画面が表示され、エクスポートするコンポーネントを選択できます。複数のサーバを選択している場合、「その他」をチェックすると、リストに表示されていないコンポーネントを含めることができます。
進行状況ウィンドウを表示する	エクスポート作業が実行されている時、その進行状況を表示します。
進行状況ウィンドウを最小化する	進行状況ウィンドウを最小化してタスクバーに入れます。
管理不可能サーバを除外する	ServerView によって管理不可能なサーバをエクスポート作業の間除外します。

5 ［次へ］をクリックします。

出力フォーマットを選択する画面が表示されます。

6 出力するフォーマットを選択し、［次へ］をクリックします。

保存先を設定する画面が表示されます。

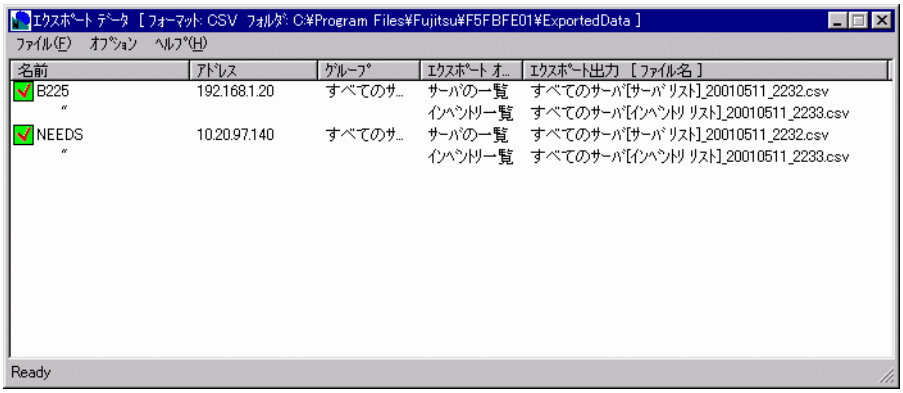
7 保存先を設定します。

選択したフォーマットにより、表示される画面が異なります。設定方法についての詳細は、ヘルプを参照してください。

8 ［完了］をクリックします。

エクスポートが開始されます。

9　エクスポートオプションの「進行状況ウィンドウを表示する」をチェックした場合、「エクスポートデータ」画面が表示されます。



以下に、接続中に表示されるアイコンの意味を示します。

アイコン	意味
	データ収集が完全に終了しました。
	SNMP タイムアウト、またはエラーが発生しました。
	実行中ステータスです。プロセス実行中のステータスは定義されていません。
	不明ステータスです。サーバにアクセスできません。
	サーバに関連したエラーが発生しました。

「進行状況ウィンドウを表示する」をチェックしていなかった場合、エクスポート作業完了後にエクスポートされたデータについての情報画面が表示されます。

POINT

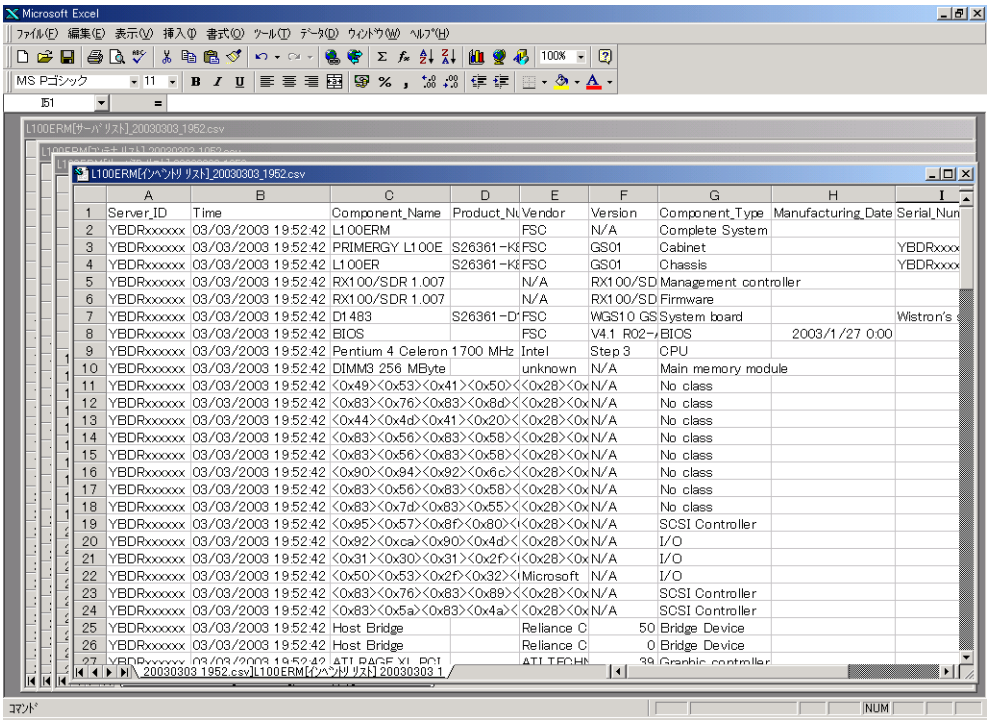
- **エクスポート作業をキャンセルするときは、「ファイル」メニュー→「キャンセル」の順にクリックします。エクスポート作業が未完了の時のみ有効です。**

3.5.3 エクスポートデータを閲覧する

エクスポート作業の完了後、エクスポートデータを閲覧するには、進行状況画面で以下操作を行います。

1 「ファイル」メニュー→「開く」の順にクリックします。

選択したエクスポートデータが、ファイル拡張子に関連付けられたアプリケーションで開きます。



	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	Server_ID	Time	Component_Name	Product_Nu	Vendor	Version	Component_Type	Manufacturing_Date	Serial_Num
2	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	L100ERM		FSC	N/A	Complete System		
3	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	PRIMERGY L100E	S26361-K8	FSC	GS01	Cabinet		YBDRxxxx
4	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	L100ER	S26361-K8	FSC	GS01	Chassis		YBDRxxxx
5	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	RX100/SDR 1.007		N/A	RX100/SD	Management controller		
6	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	RX100/SDR 1.007		N/A	RX100/SD	Firmware		
7	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	D1483	S26361-D1	FSC	WGS10 GS	System board		Wistron's
8	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	BIOS		FSC	V4.1 R02-/	BIOS	2003/1/27 0:00	
9	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	Pentium 4 Celeron 1700 MHz		Intel	Step 3	CPU		
10	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	DIMM3 256 MByte		unknown	N/A	Main memory module		
11	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	<0x49><0x53><0x41><0x50><(		<0x28><0x	N/A	No class		
12	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	<0x83><0x76><0x83><0x8d><(		<0x28><0x	N/A	No class		
13	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	<0x44><0x4d><0x41><0x20><(		<0x28><0x	N/A	No class		
14	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	<0x83><0x56><0x83><0x58><(		<0x28><0x	N/A	No class		
15	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	<0x83><0x56><0x83><0x58><(		<0x28><0x	N/A	No class		
16	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	<0x90><0x94><0x92><0x6c><(		<0x28><0x	N/A	No class		
17	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	<0x83><0x56><0x83><0x58><(		<0x28><0x	N/A	No class		
18	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	<0x83><0x7d><0x83><0x55><(		<0x28><0x	N/A	No class		
19	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	<0x95><0x57><0x8f><0x80><(		<0x28><0x	N/A	SCSI Controller		
20	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	<0x92><0xca><0x90><0x4d><(		<0x28><0x	N/A	I/O		
21	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	<0x31><0x30><0x31><0x2f><(		<0x28><0x	N/A	I/O		
22	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	<0x50><0x53><0x2f><0x32><(		Microsoft	N/A	I/O		
23	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	<0x83><0x76><0x83><0x89><(		<0x28><0x	N/A	SCSI Controller		
24	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	<0x83><0x5a><0x83><0x4a><(		<0x28><0x	N/A	SCSI Controller		
25	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	Host Bridge		Reliance C	50	Bridge Device		
26	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	Host Bridge		Reliance C	0	Bridge Device		
27	YBDRxxxxxx	03/03/2003 19:52:42	ATI RAGE XL PCI		ATI TECHN	39	Graphic controller		

サーバ名、アドレスなどの取得したエクスポートデータが表示されます。

POINT

- **エクスポートデータは、以下の方法でも閲覧できます。**
  - **「オプション」メニュー→「デフォルト アプリケーション」→エクスポートデータを閲覧するデフォルトのアプリケーションを選択する。**
    - **ファイル拡張子に関連付けられたアプリケーションで開く**
      デフォルトのアプリケーションでデータを表示します。
    - **以下で定義されたアプリケーションで開く**
      ユーザ定義のアプリケーションでデータを表示します。

3.6 ServerView WebExtension の使用方法

ServerView WebExtension をインストール済みの場合、Web ブラウザでサーバを監視することができます。

3.6.1 ServerView WebExtension の起動

POINT

- ServerView で SSL を有効にした場合、Web 接続時に SSL 接続が使用できます。接続時に認証画面が表示されます。認証は、デフォルトでユーザ名「svuser」、パスワード「fsc」に設定されています。セキュリティのため、このユーザを削除して、任意のユーザを追加してください。追加手順については、「● ServerView Web-Server と SSL について」（→ P.255）を参照してください。

1 Web ブラウザを起動します。

2 次のいずれかの URL を入力し、【Enter】キーを押します。

●IIS、または Linux を使用している場合

http://< サーバ名またはサーバの IP アドレス >/ServerView/

http://< サーバ名またはサーバの IP アドレス >/sv_www.html

●ServerView Web-Server を使用している場合（通常の接続）

http://< サーバ名またはサーバの IP アドレス >:3169/ServerView/

http://< サーバ名またはサーバの IP アドレス >:3169/sv_www.html

●ServerView Web-Server を使用している場合（SSL 接続）

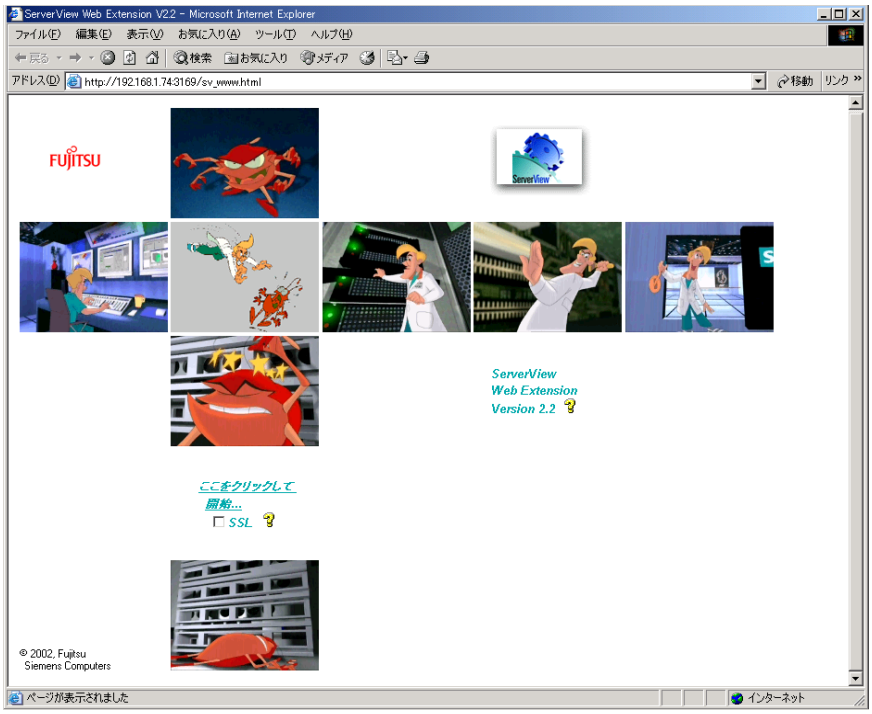
https://< サーバ名またはサーバの IP アドレス >:3170/ServerView/

https://< サーバ名またはサーバの IP アドレス >:3170/sv_www.html

重 要

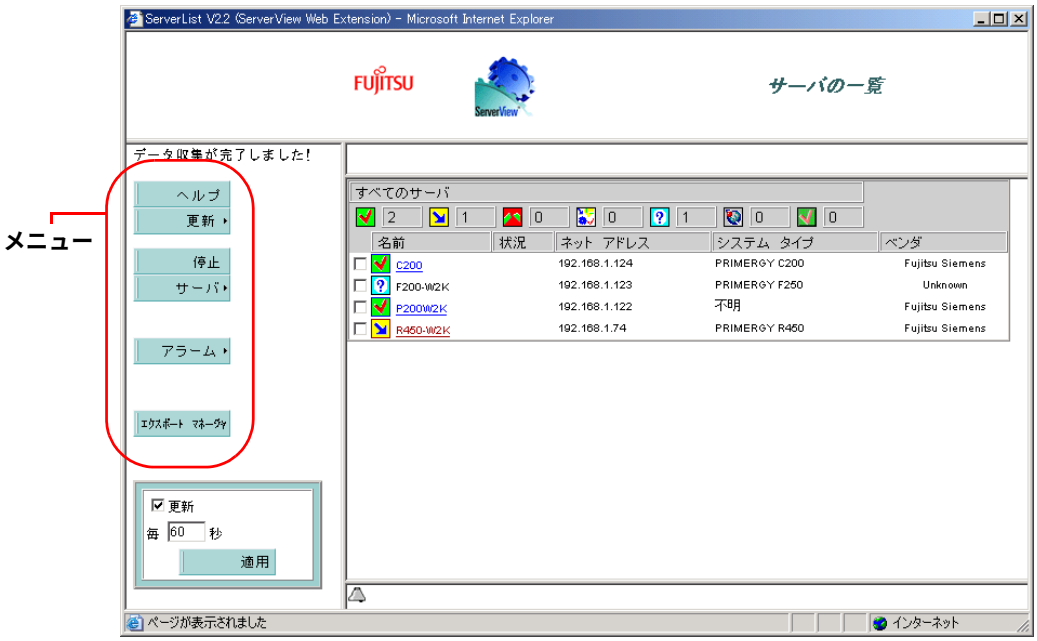
- Webブラウザに Windows2003 InternetExplorer を使用する場合、Webブラウザ起動後、以下の操作が必要です。
  - Web サイトの追加
    1. 「ツール」メニューから、「インターネット オプション」を選択します。
    2. [セキュリティ] タブをクリックし、「イントラネット」または「信頼済みサイト」を選択します。
    3. ［サイト］をクリックし、ServerView WebExtension をインストールしたサーバの URL を追加します。

ServerView Web Extension が起動します。



3　**［ここをクリックして開始］をクリックします。**

「サーバの一覧」画面が表示されます。



■ サーバの状態表示［ServerView WebExtension］

ServerView WebExtension の場合は、サーバの状態が以下のアイコンで表示されます。

アイコン	意味
	すべてのコンポーネントは正常に動作しています。
	1 つまたは 1 つ以上のコンポーネントでエラーが発生しています。
	1 つまたは 1 つ以上のコンポーネントのステータスが悪化しています。
	コンポーネントのステータスを特定できず、管理不可能です。
	サーバ状況を調査中です。
	サーバにアクセスできません。
	サーバは管理不能ですが、RSB エージェントが対応可能です。
	ASM Pro Station が応答しています。
	ServerView のエージェントは応答しません。標準 -SNMP が応答しています。

■ メニュー一覧

ServerView WebExtension の機能は、以下のメニューから使用します。

メニュー項目	説明
ヘルプ	ヘルプを表示します。
更新	
DB	サーバのステータスが、Web サーバのデータベースに保存されているステータス値に基づいて更新されます。
オンライン	サーバのステータスを即時更新します。
停止	Web サーバ上で実行しているサーバステータスサービスを停止します。
サーバ	
新規作成	監視対象のサーバを追加します。「接続テスト」を行うと、サーバとの接続を確認できます。
編集	選択したサーバのプロパティが表示されます。サーバのプロパティを設定できます。
削除	選択したサーバをサーバの一覧から削除します。
変換	ServerView WebExtension を実行しているサーバと同じサーバに、ServerView 管理コンソールがインストールされている場合に、ServerView 管理コンソールのサーバの一覧情報を取得できます。 ただし、この機能は Windows の Microsoft プラットホームで ServerView WebExtension が実行されている必要があります。
アラーム	

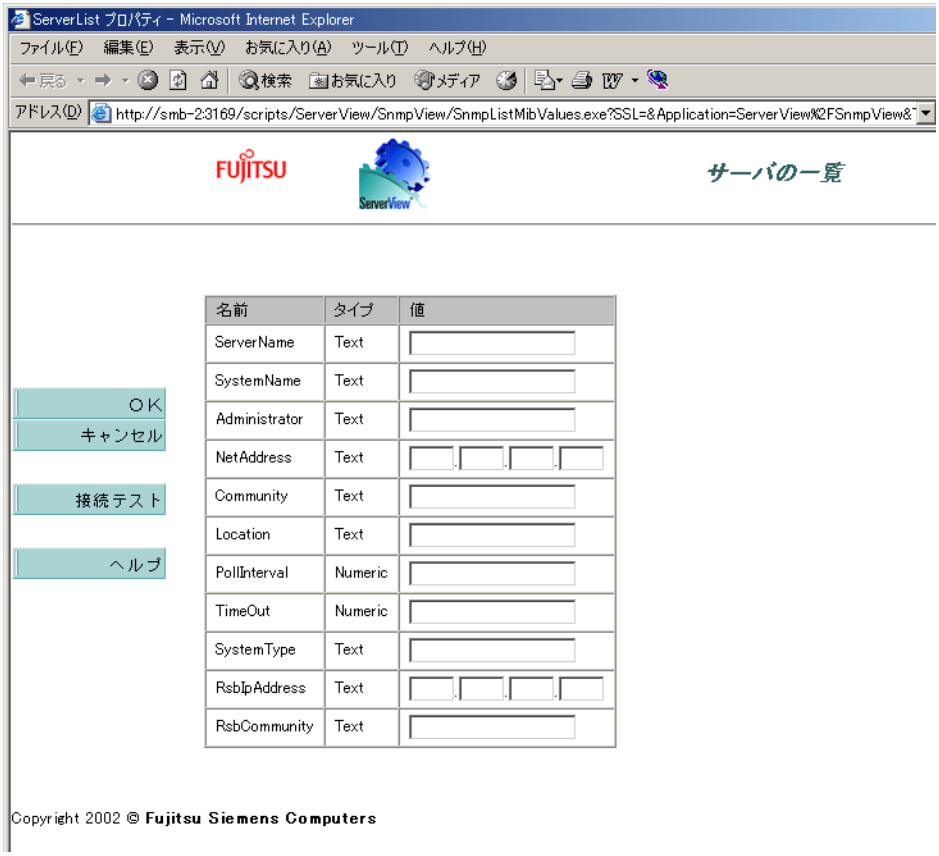
メニュー項目		説明
	サービス	アラームサービスを起動します。
	受領	サーバの未受領アラームを受領します。
	全て受領	すべての未受領アラームを受領します。
エクスポートマネージャ		エクスポートマネージャを起動します。操作方法については、「3.5.2 エクスポートマネージャ」（→ P.130）を参照してください。

3.6.2 監視対象サーバの追加

ネットワーク上のサーバを、監視対象に設定します。

1 ［サーバ］→［新規作成］の順にクリックします。

「ServerList プロパティ」画面が表示されます。



2 「ServerName」または「NetAddress」に、監視対象サーバの値を入力します。

3 ［接続テスト］をクリックします。

「接続テスト結果」画面が表示されます。接続テストが正常に行われた場合は、「ServerList プロパティ」画面の各項目に、対象サーバの情報が表示されます。

4 ［OK］をクリックします。

「ServerList プロパティ」画面に戻ります。

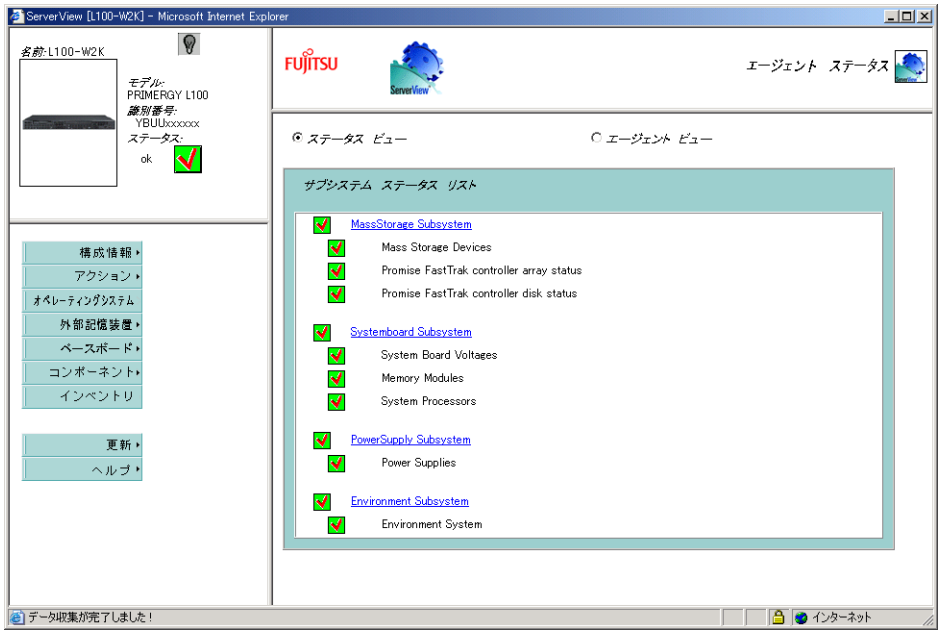
5 ［OK］をクリックします。

「サーバの一覧」画面に、サーバが追加されます。

3.6.3　ハードウェアの監視

1　ハードウェアの状態を確認するサーバをクリックします。

「ServerView」画面が表示されます。



各項目の内容は管理コンソールの「ServerView」と同じです。詳細については、「3.3.3 ハードウェアの監視」（→ P.107）を参照してください。

3.6.4　アラームサービスの使用

■ アラームの受領

「状況」欄にアラーム受信アイコンが表示されている場合は、ServerView からアラームが送信されています。以下の操作により、アラームを受領します。

1　アラームを受領するサーバのチェックを有効にし、「アラーム」→「受領」の順にクリックします。

「状況」欄のアラーム受信アイコンが消えます。

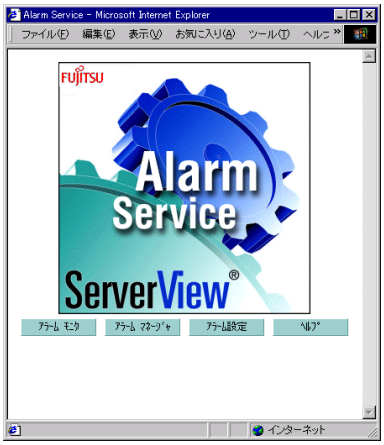
POINT

- **すべてのアラームを一括受領する場合は、「アラーム」→「すべて受領」の順にクリックします。**

■ アラームの設定／表示／編集

1　「アラーム」→「サービス」の順にクリックします。

Alame Servise が起動します。



● アラームの設定を行う

1　［アラーム設定］をクリックします。

設定方法については、「3.2.1 アラーム設定」（→ P.85）を参照してください。

● 受信したすべてのアラームを表示する

1　［アラームモニタ］をクリックします。

操作方法については、「■ 受信したすべてのアラームを表示する－［アラームモニタ］」（→ P.103）を参照してください。

● アラームの編集／管理を行う

1　［アラームマネージャ］をクリックします。

操作方法については、「■ アラームの編集／管理－［アラームマネージャ］」（→ P.105）を参照してください。

3.7 ［Linux］ServerView Linux の使用方法

ServerView Linux（エージェント／ ServerView WebExtension ／ AlarmService）の使用方法について説明します。

■ ServerView Linux エージェントの状態表示

ServerView Linux エージェントの状態を知りたい場合は、スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します（出力結果は例です）。

```
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt status
Running agents: sc bus hd mylex unix ether bios secur status inv vv
# /etc/rc.d/init.d/eecd status
eecd (pid 2085 2084 2059 1980 1979 1978 1977 1976 1975 1974 1973 1972
1971 1967 1965 1964 1963 1962) is running...
```

■ ServerView Linux エージェントの起動と停止

ServerView Linux エージェントは、サーバ起動時に自動的に起動されます。
ServerView Linux エージェントを停止する場合は、スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します（出力結果は例です）。

```
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt stop
Stopping agent scagt      [ OK ]
Stopping agent busagt     [ OK ]
Stopping agent hdagt      [ OK ]
Stopping agent mylexagt   [ OK ]
Stopping agent unixagt    [ OK ]
Stopping agent etheragt   [ OK ]
Stopping agent biosagt    [ OK ]
Stopping agent securagt   [ OK ]
Stopping agent statusagt  [ OK ]
Stopping agent invagt     [ OK ]
Stopping agent vvagt      [ OK ]
# /etc/rc.d/init.d/eecd stop
Shutting down eecd: TERM [ OK ]
```

重要

- ServerView Linux エージェントを起動する場合は、スーパーユーザでログインし、次のコマンドを実行します。

```
# /etc/rc.d/init.d/eecd start
# /etc/rc.d/init.d/srvmagt start
```

- /etc/rc.d/init.d/srvmagt が起動できない場合は、次のコマンドを実行して SNMP サービスの状態を確認し、SNMP サービスが停止していた場合は起動してください。

```
# /etc/rc.d/init.d/snmpd status
# /etc/rc.d/init.d/snmpd start
```

■ ServerView WebExtension/AlarmService の操作方法

ブラウザを使用して、ServerView WebExtension/AlarmService をインストールした＜サーバ＞に以下のように接続します。

http://<サーバのIPアドレス >/sv_www.html

http://<サーバ名 >/sv_www.html

ServerView WebExtension の操作方法については、「3.6 ServerView WebExtension の使用方法」（→ P.134）を参照してください。AlarmService の操作方法については、「3.3.2 アラームの受領／参照／編集」（→ P.102）を参照してください。

● ServerView WebExtension/AlarmService について

ServerView WebExtension/AlarmService は、Linux のみの環境を構築する場合にどれか 1 台のサーバにインストールすることにより、他のサーバの状態も監視することができます。

POINT

- ServerView WebExtension/AlarmService **の起動／停止について**
  ServerView WebExtension/AlarmService **は、**httpd **サービスとして動作しますので、個別に起動／停止を行うことはできません。**
- **インストールされている** ServerView WebExtension/AlarmService **の動作確認について**
  インストールされている ServerView WebExtension/AlarmService **の動作状況は、次のコマンドを実行して確認できます。**

```
# /etc/rc.d/init.d/sv_fwdserver status
snmptrapd (pid xxxx) を実行中...
```

■ ServerView Linux エージェントのログについて

ServerView Linux エージェント起動中のログが、/var/log に log.xxxx という名前で格納されます。ただし、これらのログは ServerView Linux エージェントを再起動するとクリアされるので注意してください。

以下に、ログの例を示します。

```
-rw-r--r-- 1 root root 194 8 月 23 13:25 /var/log/log.biosagt
-rw-r--r-- 1 root root 193 8 月 23 13:25 /var/log/log.busagt
-rw-r--r-- 1 root root 30 8 月 23 13:25 /var/log/log.eecd
-rw-r--r-- 1 root root 195 8 月 23 13:25 /var/log/log.etheragt
-rw-r--r-- 1 root root 191 8 月 23 13:25 /var/log/log.hdagt
-rw-r--r-- 1 root root 193 8 月 23 13:25 /var/log/log.invagt
-rw-r--r-- 1 root root 268 8 月 23 13:25 /var/log/log.mylexagt
-rw-r--r-- 1 root root 257 8 月 23 13:25 /var/log/log.scagt
-rw-r--r-- 1 root root 194 8 月 23 13:25 /var/log/log.securagt
-rw-r--r-- 1 root root 195 8 月 23 13:25 /var/log/log.statusagt
-rw-r--r-- 1 root root 193 8 月 23 13:25 /var/log/log.unixagt
-rw-r--r-- 1 root root 280 8 月 23 13:26 /var/log/log.vvagt
```

第 4 章

他のソフトウェアとの連携

この章では、他のソフトウェアとの連携について説明します。

4.1 LDSM 連携 144
4.2 UPS 管理ソフトウェア連携 145
4.3 Systemwalker 連携 150
4.4 hp OpenView Network Node Manager 連携 158

4.1 LDSM 連携

LDSM（Intel LANDesk® Server Manager）で管理しているサーバを、ServerView の管理コンソールに表示することができます。また、ServerView の管理コンソールから LDSM コンソールを表示することができます。

重 要

- **LDSM 連携を行うには、ServerView Console をインストールしているパソコンにあらかじめ LDSM コンソールをインストールしておく必要があります。なお、連携できるのは、LDSM V6.0 のみです。LDSM V2.52 以前のコンソールとの連携はできません。**
- **ServerView Basic では、LDSM 連携は使用できません。**

■ LDSM で管理しているサーバを ServerView 管理コンソールに登録する

LDSM で管理しているサーバを ServerView 管理コンソールに登録するには、監視対象サーバの追加を行い、サーバのタイプに LDSM を指定します。

1 **ServerView 管理コンソールの「サーバの一覧」画面で、「ファイル」メニュー→「新しいサーバ」の順にクリックします。**

2 **サーバのタイプを「LDSM」に指定し、［参照］をクリックします。**

ネットワーク上のコンピュータがリスト表示されます。

POINT

- **サーバのタイプを「自動」に指定した場合、ServerView 管理コンソールは、LDSM サーバとして認識しません。必ず、「LDSM」を指定してください。**

3 **LDSM で管理しているサーバを選択し、［適用］をクリックします。**

「サーバの一覧」画面に LDSM で管理しているサーバ名が登録されます。

■ LDSM コンソールを ServerView 管理コンソールから起動する

1 **ServerView 管理コンソールの「サーバの一覧」画面から、LDSM で管理されているサーバの名前をダブルクリックします。**

LDSM コンソールのユーザ名／パスワードを入力する画面が表示されます。
詳細は、LDSM のマニュアルを参照してください。

2 **「ユーザ名」、「パスワード」を入力し、［OK］をクリックします。**

LDSM コンソールが起動します。

POINT

- **「サーバの一覧」画面で、「バージョン管理」モードになっている場合、LDSM コンソールは起動しません。「サーバ管理」モードに変更してください。**
- **LDSM で管理されていないサーバを、LDSM で管理されているサーバとして ServerView 管理コンソールに登録した場合、そのサーバ名をダブルクリックしても LDSM コンソールは起動できません。**

4.2　UPS 管理ソフトウェア連携

UPS 管理ソフトウェアと連携すると、UPS（無停電電源装置）の状態を ServerView から確認できます。

4.2.1　UPS 管理ソフトウェア連携の概要

■ UPS 管理ソフトウェア連携で実現できる機能

● **ServerView 管理コンソールのステータスアイコン変化**
UPS 管理ソフトウェアから、停電などの商用電源異常が通知されると、ServerView 管理コンソールのステータスアイコンが変化し、異常を知ることができます。

● **バックアップ残り時間を表示**
バッテリ運用時、ServerView 管理コンソールにバックアップ残り時間を表示します。

● **UPS 管理ソフトウェア（クライアントプログラム）起動**
ServerView 管理コンソールの電源ビューの［UPS マネージャ］をクリックすると、UPS 管理ソフトウェア（クライアントプログラム）を起動できます。

■ 連携できる UPS 管理ソフトウェア

● **NetpowerView F V4.8 以降（Windows 版）**

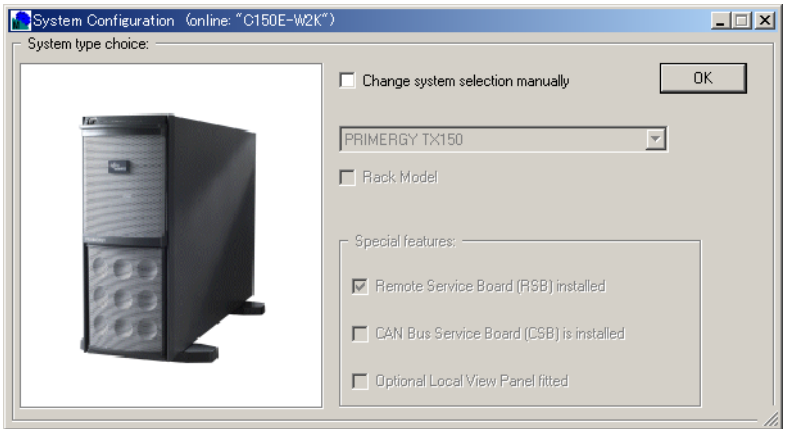
● **NetpowerView F V5.0 以降（Linux 版）**
高機能無停電電源装置（NetpowerProtect シリーズ）を管理するソフトウェアです。
接続情報を設定する必要があります。

4.2.2 UPS 管理ソフトウェア連携の設定（Windows）

UPS 管理ソフトウェア連携を行うためには、System Configuration を使用して ServerView に UPS 接続情報を設定する必要があります。
また、UPS 連携を行うサーバに UPS 管理ソフトウェアをインストールする必要があります。

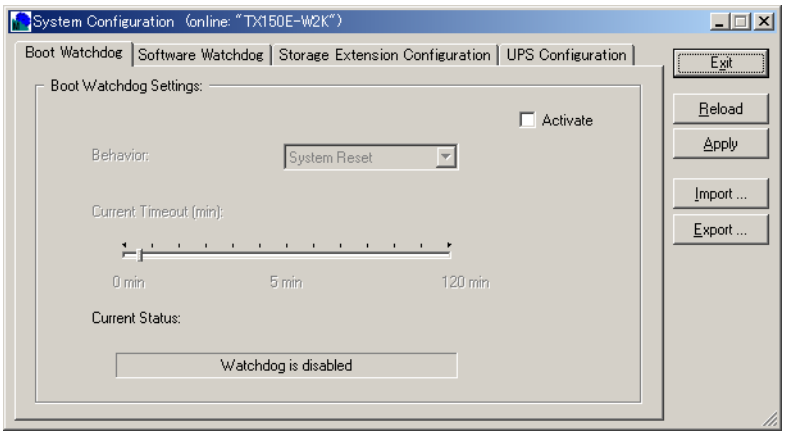
1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Configuration Tools」→「System Configuration」の順にクリックします。

「System Configuration」画面が表示されます。



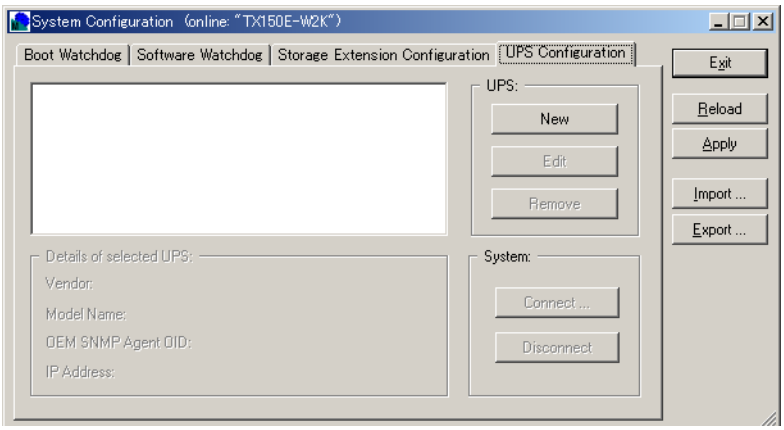
2 [OK] をクリックします。

項目を設定する画面が表示されます。



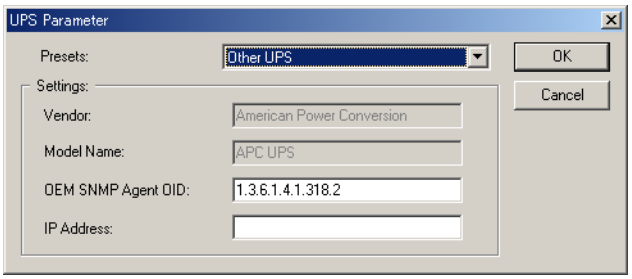
3　**[UPS Configuration] タブをクリックします。**

「UPS Configuration」画面が表示されます。



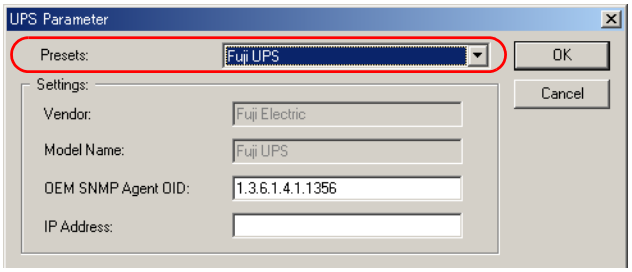
4　**[New] をクリックします。**

「UPS Parameter」画面が表示されます。



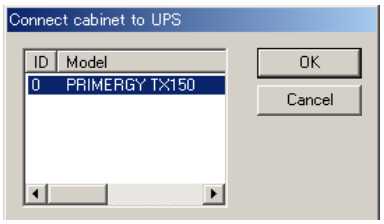
5　**「Presets」で「Fuji UPS」を選択し、「IP address」を入力します。**

「IP address」には、USP を接続し、UPS 管理ソフトウェアが動作しているサーバの IP アドレスを入力してください。「OEM SNMP Agent OID」の値は変更しないでください。



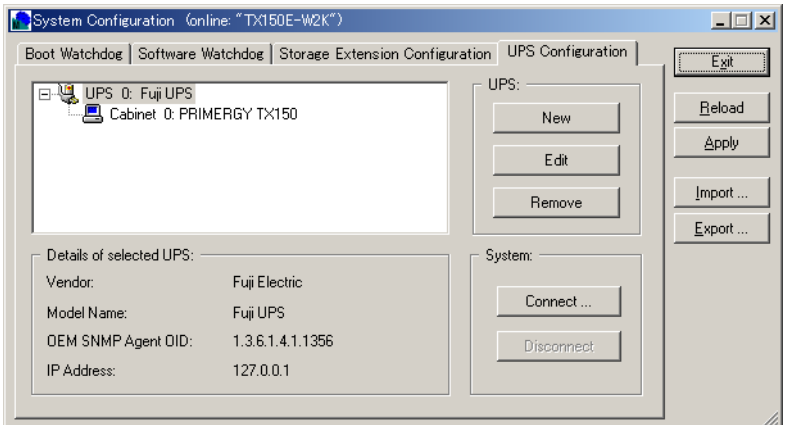
6　**[OK] をクリックします。**

「Connect cabinet to UPS」画面が表示されます。



7 ［OK］をクリックします。

以下の画面が表示されます。



8 ［Exit］をクリックします。

設定を保存するかどうかを確認する画面が表示されます。

9 ［はい］をクリックします。

UPS 接続情報が設定されます。

POINT

- UPS 管理ソフトウェア（クライアントプログラム）を ServerView 管理コンソールから起動するには、以下の操作を行います。
  1. 管理コンソールを起動します。
  2. サーバをダブルクリックするか、サーバを選択して、［ServerView］をクリックします。
  3. ［電源］をクリックします。
  4. ［UPS マネージャ］をクリックします。

4.2.3 UPS 管理ソフトウェア連携の設定（Linux）

UPS 管理ソフトウェア連携を行うためには、oemups コマンド を使用して ServerView に UPS 接続情報を設定する必要があります。
また、UPS 連携を行うサーバに UPS 管理ソフトウェアをインストールする必要があります。

POINT

- SNMP サービスの再起動後、"/etc/rc.d/init.d/upsagent restart" コマンドを実行してください。

1　以下のコマンドを実行します。

```
# oemups -a
Configuring UPS for ServerView
Please enter some information about the UPS:
```

2　「UPS Vendor Name」に「Fuji Electric」と入力します。

```
UPS Vendor Name [American Power Conversion]
Fuji Electric
```

3　「UPS Type」に「Fuji UPS」と入力します。

```
UPS Type [APC UPS]
Fuji UPS
```

4　「UPS Max Discharge Time」と「SNMP OID」は何も入力しないで【Enter】キーを押してください。

```
UPS Max Discharge Time [0]
SNMP OID [none]
```

5　「SNMP IP address」に、UPS が接続され、UPS 管理ソフトウェアが動作しているサーバの IP アドレスを入力します。

```
SNMP IP address [none]
127.0.0.1
```

6　「IDs of the cabinets...」は何も入力せずに【Enter】キーを押します。

```
IDs of the cabinets this UPS is connected to [ 0 ]
```

7　設定内容が表示されますので、確認後「y」を入力して【Enter】キーを押します。

```
Is the following information correct?
   UPS Vendor Name:        Fuji Electric
   UPS Type:               Fuji UPS
   UPS Max Discharge Time: 0
   SNMP OID:
   SNMP IP Address:        127.0.0.1
   Cabinet IDs:            0
Configure these values (y/n)[y]?
y
```

8　以下のメッセージが表示されたら、設定は終了です。

```
Configuration completed
```

4.3 Systemwalker 連携

Systemwalker と連携すると、ServerView での監視結果を Systemwalker の統合管理サーバに送信したり、Systemwalker から ServerView の管理コンソールを起動したりできます。

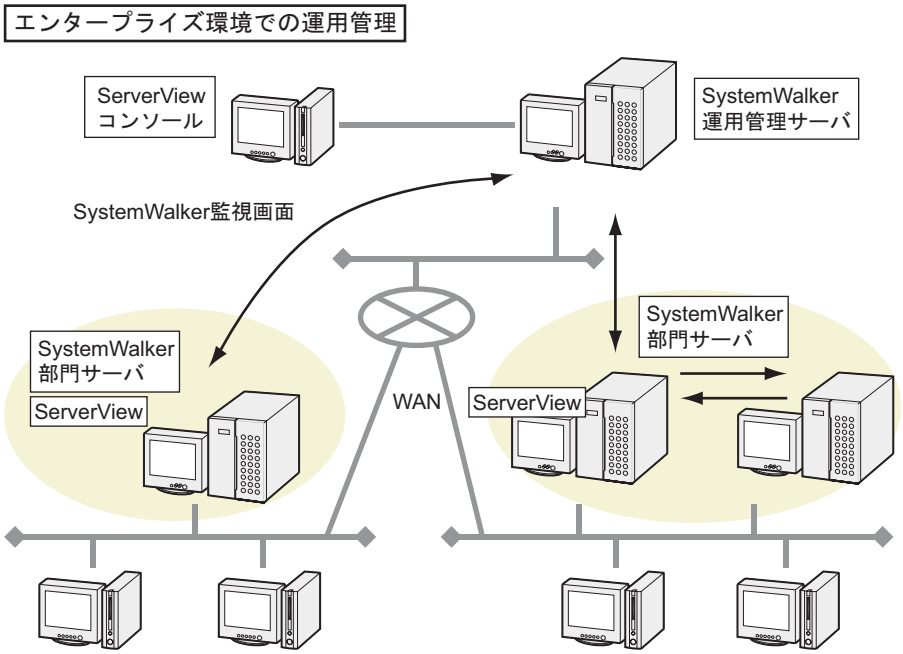
4.3.1 Systemwalker と ServerView 連携による管理

■ Systemwalker CentricMGR との連携

Systemwalker CentricMGR は、エンタープライズ環境における、システム、ネットワーク、アプリケーションなどの統合運用管理製品です。ServerView の SNMP トラップ連携により、各部門サーバが受信した ServerView からの異常通知が運用管理サーバへ通知されます。この通知により、各部門（単一セグメント）において ServerView が監視しているサーバのハード異常を、エンタープライズ環境において統合管理することができます。

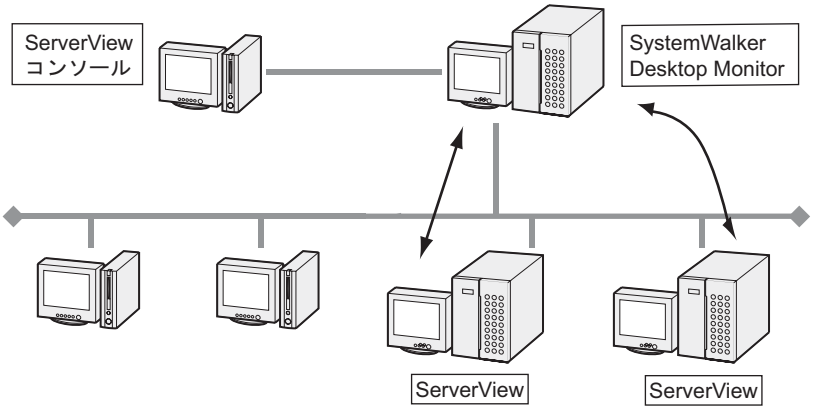
重 要

- **統合管理が行えるサーバは、運用管理サーバのみです。**



■ Systemwalker Desktop Monitor との連携

Systemwalker Desktop Monitor は、LAN 環境における、コンピュータ、サーバなど LAN に接続された機器の稼動監視を行います。ServerView との連携により、ServerView からの異常通知を Desktop Monitor へ通知することで、被監視 PRIMERGY サーバのハード異常を監視することができます。



4.3.2　Systemwalker との連携による機能

■ Systemwalker CentricMGR との連携による機能

● Systemwalker による ServerView からのトラップイベントの監視

各部門サーバが受信した ServerView からのトラップメッセージが、解読可能なメッセージテキストに変換され、Systemwalker の監視画面に表示されます。

● Systemwalker によるトラップイベントの絞り込み監視

ServerView で受信したサーバからのメッセージを、条件で絞り込んで監視できます。

● Systemwalker 画面からの ServerView 画面の起動

Systemwalker の監視画面の操作メニューから、「ServerView」画面を起動することができます。異常の発生したサーバに対して、即座に ServerView 画面から対処できます。

● PRIMERGY サーバの MIB 値取得／拡張

サーバの MIB を取得し、Systemwalker の MIB 拡張機能により、以下の MIB を設定できます。

・Server コントロール MIB：ファンなどのデバイス、CPU 温度、サーバ管理用 MIB
・インベントリ MIB：しきい値設定などシステム全体の状態監視用 MIB
・HDD MIB：HDD デバイスなどの監視用 MIB
・Trap MIB：ServerView のトラップ用 MIB

● サーバの MIB を用いた MIB しきい値監視

上記で拡張された MIB を用いて、Systemwalker の MIB しきい値監視機能により、CPU の温度監視など、MIB のしきい値監視を行うことができます。

重 要

- **SNMP トラップの連携を行う場合、OS の SNMP サービスにおいて、トラップ先に運用管理サーバの設定を行う必要があります。この設定が行われていない場合、運用サーバがトラップ通知を受信できないため、トラップ連携処理は動作しません。**

■ Systemwalker Desktop Monitor との連携による機能

● Systemwalker による ServerView からのトラップイベントの監視

各部門サーバが受信した ServerView からのトラップメッセージが、解読可能なメッセージテキストに変換され、Systemwalker の監視画面に表示されます。

重 要

- **Systemwalker Desktop Monitor では、ServerView 画面の起動、ServerView からの Trap イベントの絞込み、サーバの MIB 値の取得、MIB しきい値監視機能は使用できません。**

4.3.3 Systemwalker との連携手順

● Systemwalker CentricMGR 連携の場合

Systemwalker CentricMGR 連携を行う場合は、以下流れで各設定を行います。

1. **ServerView からの SNMP トラップのメッセージテキスト変換（NTC）定義を行います（「■ SNMP トラップのメッセージテキスト変換（NTC）定義」（→ P.153）参照）。**
2. **手順1のイベントのフィルタリング定義を行います（「■ イベントフィルタリング定義」（→ P.155）参照）。**
3. **ServerView からの SNMP Trap 受信設定を行います（「■ SNMP Trap 受信設定」（→ P.156）参照）。**
4. **ServerView の操作メニューへの登録を行います（「■ 操作メニューへの登録」（→ P.157）参照）。**

● Systemwalker Desktop Monitor 連携の場合

Systemwalker Desktop Monitor 連携を行う場合は、以下流れで各設定を行います。

1. **ServerView からの SNMP トラップのメッセージテキスト変換（NTC）定義を行います（「■ SNMP トラップのメッセージテキスト変換（NTC）定義」（→ P.153）参照）。**
   手順内の MIB 拡張操作は必要ありません。
2. **ServerView からの SNMP Trap 受信設定を行います（「■ SNMP Trap 受信設定」（→ P.156）参照）。**

■ SNMP トラップのメッセージテキスト変換（NTC）定義

ServerView からの SNMP トラップを、監視者が解読可能なメッセージにするための変換定義を行います。変換後のメッセージテキストは「Systemwalker」画面に表示されます。

POINT

- **変換定義されたメッセージテキストには、ServerView からのメッセージだと判別できるように、メッセージテキストの先頭に、「[ServerView]」のキーワードが埋め込まれます。**
  例：ServerView からの SNMP トラップが変換されて、表示される場合

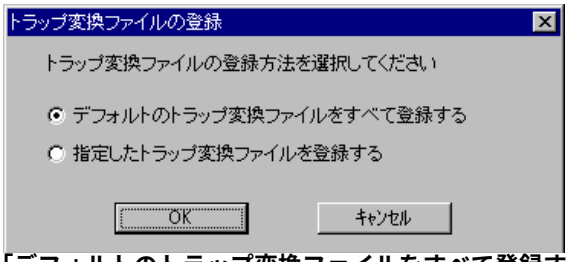
```
AP: MpAplLink: ERROR: 106: [ServerView]: SMART predicts
failure on disk .....
```

1　トラップ変換ファイルを Systemwalker に適用します。

1. **以下の変換定義適用コマンドを実行します。**

   [CD-ROMドライブ]:\SVMANAGE\Tools\Systemwalker\F5FBSW01.exe

   以下の画面が表示されます。



2. **「デフォルトのトラップ変換ファイルをすべて登録する」をクリックし、[OK] をクリックして適用します。**

   登録が終了すると、確認メッセージが表示されます。

3. **[OK] をクリックします。**

POINT

- **変換定義適用コマンドを実行したときにエラーメッセージが表示された場合は、「■ Systemwalker 連携のトラブルシューティング」（→ P.253）を参照してください。**

2　Systemwalker CentricMGR 連携の場合は、トラップ変換で使用される OID をキャラクタ表記させるために、MIB 拡張操作を行います。

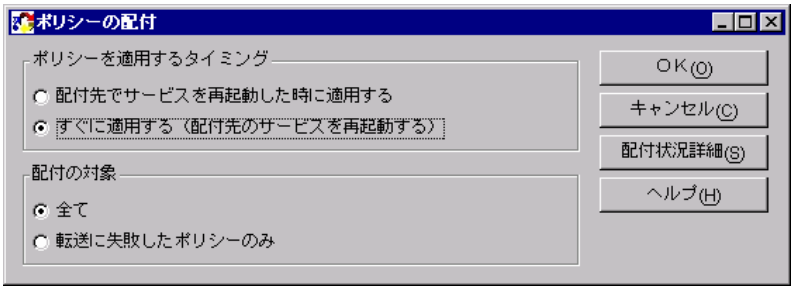
Systemwalker Desktop Monitor 連携の場合は操作の必要はありません。手順 3 に進んでください。

1. **「操作」メニュー→「MIB 拡張操作」の順にクリックします。**

2. **「MIB 拡張操作」画面で登録操作を行います。**
   拡張 MIB ファイルは下記に格納されています。
   SVMANAGE¥Tools¥Systemwalker¥mib

3 Systemwalker **に適用されたトラップ変換ファイルを、各部門サーバ、運用管理サーバへ配付します。**

1. **「ポリシー」メニュー→「ポリシー配付」の順にクリックします。**
   「ポリシーの配付」画面が表示されます。
2. **「すぐに適用する」をクリックし、［OK］をクリックします。**



ポリシー配付で失敗した場合、ポリシーの配付状況の画面を参照し、以下の手順で本ポリシーの適用結果を確認してください。

- **配付済み (配付成功) に** MpCNappl **がある場合**
  本ポリシーの適用は成功しています。
- **配付失敗に** MpCNappl **がある場合**
  MpCNappl を選択して表示される右側のリストで、適用コマンドのエラー内容が、失敗 (0x3e5) のときは、一時的なシステム負荷によりサービスの再起動待ちでタイムアウトが発生したことを示します。
  本エラーの場合は、その後正常にサービスが起動してポリシーが適用されているため、特に対処は必要ありません。

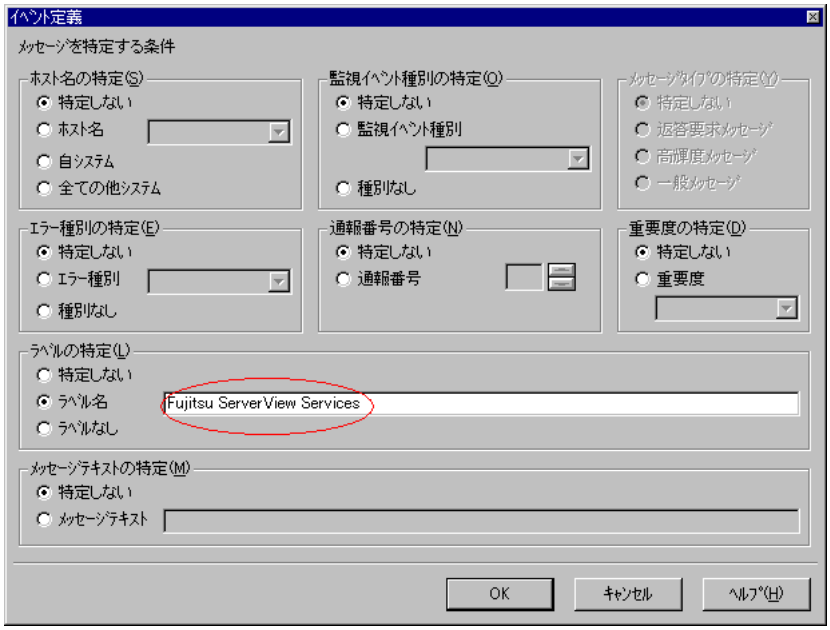
上記以外で配付に失敗した場合は、ポリシー配付画面より配付の対象を ”転送に失敗したポリシーのみ ” を選択して再配付してください。

■ イベントフィルタリング定義

ここではおおよその操作方法を記載しています。
操作方法の詳細については、Systemwalker/CentricMGR のマニュアルを参照してください。

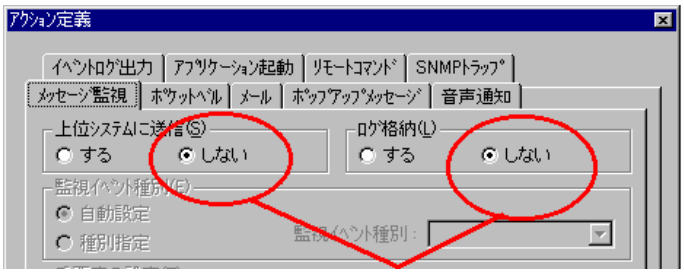
1　SNMP トラップの連携を行う場合、ServerView AlarmService が格納する NT イベントログに対するフィルタリング定義を行います。

1. **「ポリシー」メニュー→「ポリシーの定義」→「イベント」→「フォルダ」の順にクリックします。**
2. **「イベント監視の条件定義」画面の「イベント」メニューから「イベント追加」を選択します。**
3. **「ラベルの特定」内の「ラベル名」に「Fujitsu ServerView Services」を指定します。また、ServerView V3.10 L10 より前のサーバを同時に監視する場合には、「Fujitsu AlarmService」も指定してください。**



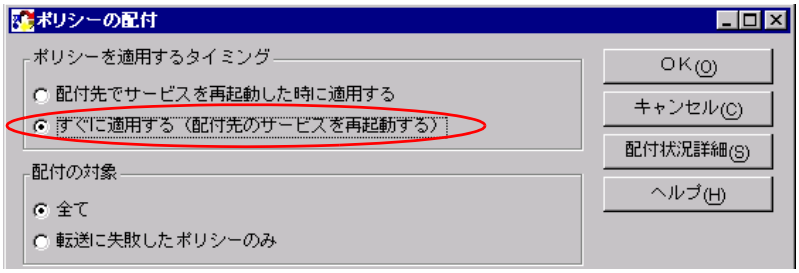
2　イベントログ発生時のアクション定義を行います。

1. **「イベント監視の条件定義」画面で「アクション」メニュー→「アクションの設定」→「アクション定義」の順にクリックします。**
2. **「上位システムに送信」、「ログ格納」を「しない」に指定します。**



3　イベントフィルタリング定義を、各部門サーバ、運用管理サーバへ配付します。

1. **「ポリシー」メニュー→「ポリシー配付」の順にクリックします。**
   「ポリシーの配付」画面が表示されます。
2. **「すぐに適用する」をクリックし、［OK］をクリックします。**



■ SNMP Trap 受信設定

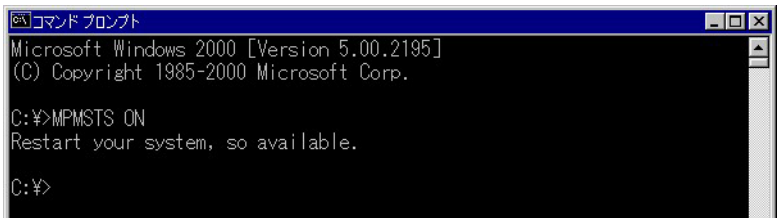
1　コマンドプロンプト画面で以下のコマンドを実行します。

```
MPMSTS ON
```

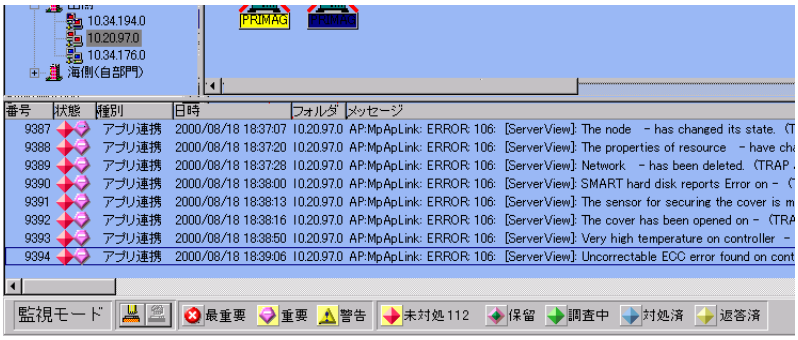
コマンド実行後、以下のようなメッセージが表示されます。

●Systemwalker CentricMGR V5.0L30 **以前の場合**

●Systemwalker CentricMGR V10.0L10 **以降の場合、または**
Systemwalker Desktop Monitor **の場合**



システムの再起動後からトラップイベントがメッセージテキストに変換されて、監視画面に表示されるようになります。



■ 操作メニューへの登録

Systemwalker の操作メニューに、Serverview コンソールの起動を行うメニューを登録します。

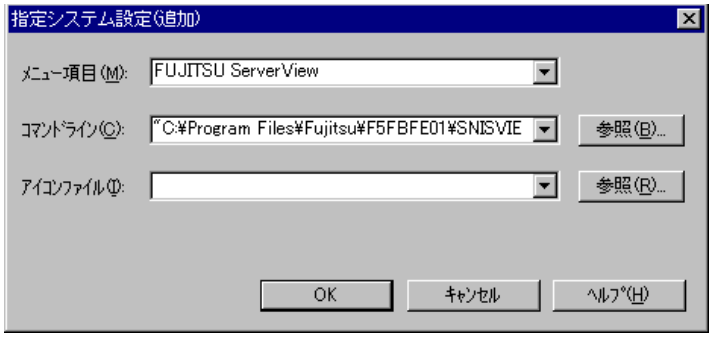
1　「操作」メニュー→「操作メニュー登録」の順にクリックします。

2　以下の項目を指定して、[OK] をクリックします。

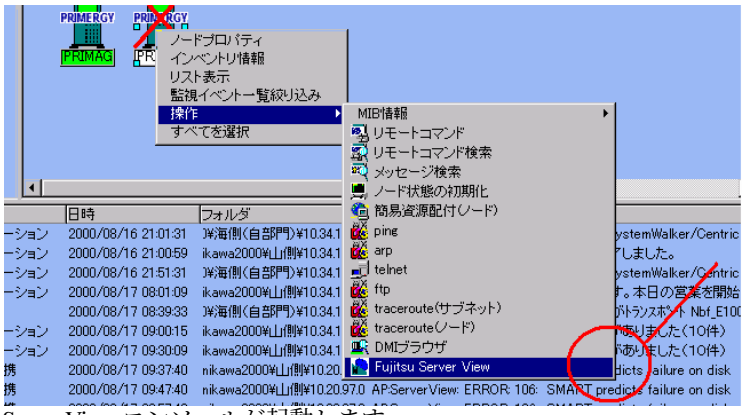
メニュー項目：　FUJITSU ServerView

コマンドライン：　"C:¥Program Files¥Fujitsu¥F5fbfe01¥SNISVIEW.exe"
コマンドは必ず前後を ""（ダブルクォーテーション）で囲んでください。

アイコンファイル：　任意



3　登録後、サーバノードアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「操作」→「Fujitsu ServerView」の順にクリックします。



ServerView コンソールが起動します。

4.4 hp OpenView Network Node Manager 連携

hp OpenView Network Node Manager（以降、OpenView NNM と表記します）と連携すると、ServerView での監視結果を OpenView NNM に送信したり、OpenView NNM から ServerView の管理コンソールを起動したりできます。

4.4.1 概要

■ OpenView NNM 連携で実現できる機能

● OpenView NNM による ServerView からのトラップイベントの監視

ServerView から送信されるトラップメッセージが、監視者がわかるようなメッセージテキストに変換され、OpenView NNM の監視画面に表示されます。

●「OpenView NNM」画面からの「ServerView」画面の起動

OpenView NNM の監視画面の操作メニューから、「ServerView」画面を起動できます。
異常の発生したサーバに対して、即座に ServerView 画面から対処できます。

■ 連携できる OpenView NNM のバージョン

連携可能な OpenView NNM のバージョンは、「hp OpenView Network Node Manager 6.2」です。

4.4.2 OpenView NNM との連携手順

OpenView NNM 連携を行うための流れは、以下のとおりです。

1. ServerView からの SNMP トラップのメッセージテキスト変換ファイル（trapd_conf）の登録を行います（「■ SNMP トラップのメッセージテキスト変換ファイル（trapd_conf）登録」（→ P.158）参照）。
2. 拡張MIB定義ファイルの登録を行います（「■ 拡張MIB定義ファイルの登録」（→ P.159）参照）。
3. ServerView の操作メニューへの登録を行います（「■ 操作メニュー登録」（→ P.160）参照）。

■ SNMP トラップのメッセージテキスト変換ファイル（trapd_conf）登録

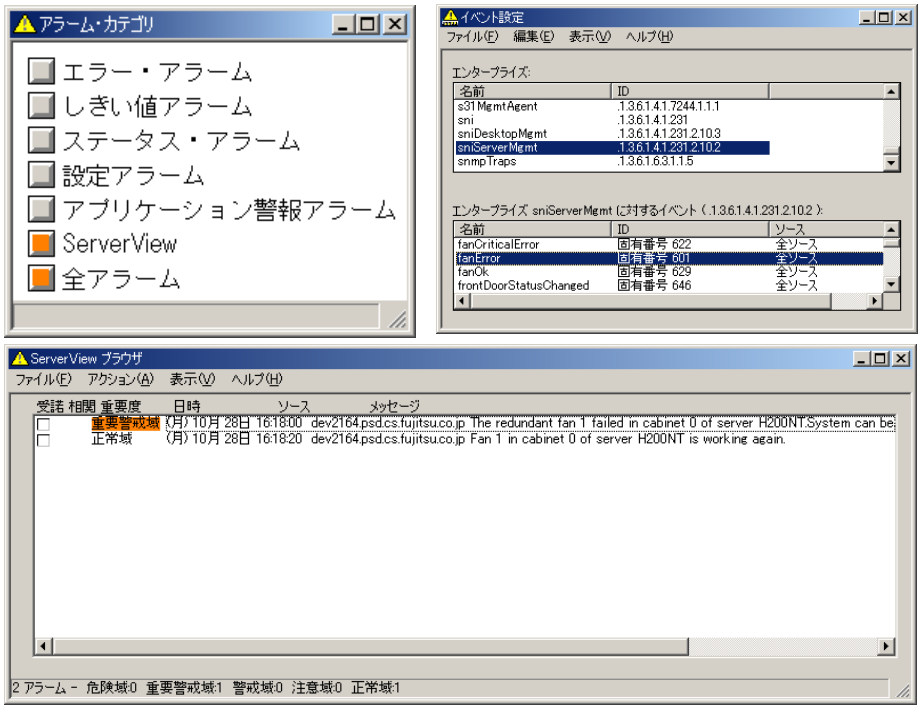
ServerView からの SNMP トラップを、監視者が解読可能なメッセージにするための、メッセージテキスト変換ファイル（trapd_conf）登録を行います。変換後のメッセージテキストは、「OpenView NNM 監視」画面に表示されます。

1　以下の変換定義適用コマンドを実行します。

SVMANAGE\TOOLS\OVNNM\F5FBOV01.bat

コマンド実行の際には、カレントフォルダを **SVMANAGE\TOOLS\OVNNM** フォルダに移動して実行してください。

変換ファイル、およびアラームカテゴリ（ServerView）の登録が行われ、以下の画面が表示されます。



■ 拡張 MIB 定義ファイルの登録

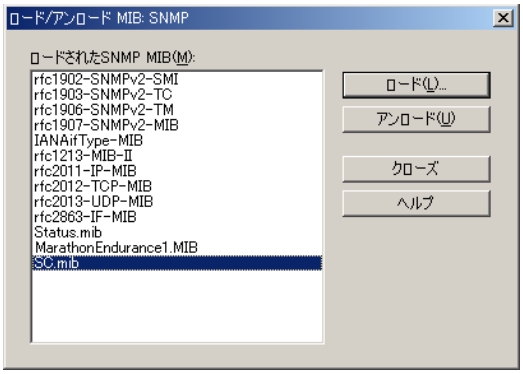
OID をキャラクタ表記させるために、拡張 MIB 定義ファイルのロード操作を行います。

1　以下の拡張 MIB 定義適用コマンドを実行します。

SVMANAGE\TOOLS\OVNNM\F5FBOV02.bat

コマンド実行の際には、カレントフォルダを **SVMANAGE\TOOLS\OVNNM** フォルダに移動して実行してください。

ServerView で使用する拡張 MIB ファイルの登録が行われます。



■ 操作メニュー登録

OpenView NNM から ServerView を起動できるように、操作メニューに ServerView コンソールを登録します。

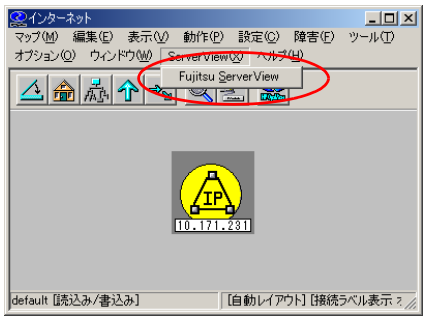
1　以下の登録ファイルを指定フォルダにコピーします。

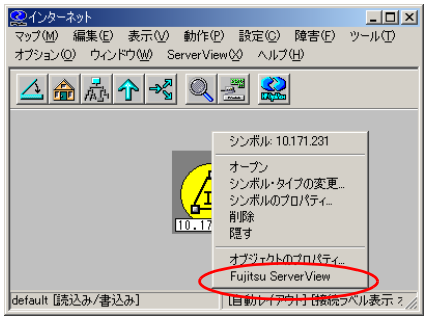
・登録ファイル
SVMANAGE¥TOOLS¥OVNNM¥ServerView

・指定フォルダ
OpenView NNM インストールフォルダ ¥registration¥Japanese_Japan.932

2　ServerView コンソールを起動します。

メニューバー、およびポップアップメニューに ServerView メニューが追加されます。
登録された操作メニューから、ServerView を選択すると起動できます。





第 5 章

RemoteControlService の使用

この章では、RemoteControlService の使用方法について説明しています。

5.1 概要 162
5.2 準備 167
5.3 起動と終了 171
5.4 使用方法 176

5.1 概要

RemoteControlService は、PRIMERGY サーバ向けリモートコントロール用ソフトウェアです。
ここでは、RemoteControlService の機能や、システム要件について説明しています。

RemoteControlService を使用すると、管理端末からサーバのシステム起動フェーズ（POST）にアクセスし、リモートコントロールできます。これにより、管理端末からサーバの BIOS セットアップなどを行ったり、管理端末にセットした MS-DOS フロッピーディスクからサーバ上に MS-DOS を起動してプログラムを実行したりすることができます。

RemoteControlService は、以下のコンポーネントから構成されています。

● **RomPilot/RCM（RemoteConsoleManager）**
RomPilot/RCM は、サーバの BIOS 拡張機能で、サーバの POST 時の LAN ドライバをサポートします。RomPilot/RCM により、POST 時のサーバに LAN 経由でアクセスできます。
サーバにオンボード LAN がある場合、オンボード LAN ドライバはサーバに標準実装されています。

● **RemoteControlService/LAN**
管理端末にインストールし、サーバをリモートコントロールするソフトウェアです。

POINT

- **ブレードサーバのサポートについては、『PRIMERGY BX300 ハードウェアガイド マネジメントブレード編』を参照してください。**

5.1.1 機能

RemoteControlService の機能は、以下のとおりです。

● **リモートドライブ**
管理端末にセットしたフロッピーディスクまたはイメージファイルから、サーバ上の MS-DOS を起動できます。なお、この機能は、RomPilot/RCM をサポートしているサーバでのみ有効です。

● **コンソールリダイレクション**
サーバの POST 時に、管理端末からサーバの画面表示や、キーボード操作、再起動をリモートコントロールできます。リモートドライブでサーバ上の MS-DOS を起動した場合は、MS-DOS 動作時もリモートコントロールできます。

● **Wakeup On LAN（WOL）**
サーバのネットワークアダプタが WOL をサポートしていると、管理端末から LAN 経由でサーバの電源を入れることができます。サーバの WOL 機能については、『ハードウェアガイド』を参照してください。

● **リモートサービスボード／リモートサービスコントローラのサポート**

サーバにリモートサービスボードを取り付けると、LAN 経由または WAN 経由で、サーバの画面表示、キーボード操作（テキストモード時のみ）、電源投入、電源切断などを行うことができます。なお、リモートサービスコントローラを内蔵しているサーバでは、標準で本操作を行うことができます。
また、ディスクアレイ装置にリモートサービスボードを取り付けると、LAN 経由または WAN 経由で、ディスクアレイ装置の電源投入、電源切断、状態表示などを行うことができます。

5.1.2 システム要件

サーバと管理端末用のシステム要件は、以下のとおりです。

■ サーバ

ハードウェア	ソフトウェア
LAN カード：必須（オンボード LAN がある場合は、オンボード LAN のみ使用可）	条件なし

■ 管理端末

ハードウェア	ソフトウェア
・パソコン：IBM PC 互換機 ・プロセッサ：Pentium® 以上 ・メモリ：32MB 以上 ・ハードディスク：空き領域が 25MB 以上 ・ディスプレイ：SVGA（800 × 600）以上の解像度 ・LAN カード：必須（オンボード LAN でも可） ・マウス：必須	・OS － Microsoft Windows 2000 Professional Operating System ServicePack1 以降 － Microsoft Windows NT Workstation Network Operating System Version 4.0 ServicePack 6a 以降 ・プロトコル：TCP/IP が動作していること ・サービス：SNMP が動作していること

5.1.3 留意事項

■ RomPilot

RomPilot 機能は、機種に依存します。BIOS 拡張機能に RomPilot がサポートされていないサーバでは、RomPilot 機能は使用できません。本機能のサポートについては、『ハードウェアガイド』を参照してください。

■ Wakeup On LAN（WOL）

RemoteControlService/LAN では、管理端末と同一セグメント内のサーバに対して WOL 機能を使用できます。ルータを介して他のセグメントのサーバに WOL を行うことはできません。
このため、RemoteControlService/LAN は WOL を実行したいサーバと同一セグメント内の管理端末にインストールしてください。

■ リモートサービスボード

コンソールリダイレクション機能は、機種に依存します。本機能のサポートについては、『ハードウェアガイド』を参照してください。
コンソールリダイレクションは、サーバの電源切断、リセット、および OS 起動時に自動的に終了します。コンソールリダイレクションが自動的に終了せず、画面表示が乱れた場合には、コンソールリダイレクション中の画面を閉じてください。

■ RCM（RemoteConsoleManager）

RCM 機能は、機種に依存します。BIOS 拡張機能に RCM がサポートされていないサーバでは、RCM 機能は使用できません。本機能のサポートについては、『ハードウェアガイド』を参照してください。

● RCM を使用するための設定

RCM を使用するには、BIOS セットアップメニューにある Console Redirection の設定が必要です。設定方法については、『ハードウェアガイド』を参照してください。

- RCM の設定時、以下のことに注意してください。
  - ・［Console Redirection］－［Connection over］には、「Ethernet」を設定してください。
  - ・［Console Redirection］－［Server Name］には、RemoteControlService/LAN のサーバ名と同じ名前を設定してください。サーバ名が一致していないと接続できません。
  - ・［Console Redirection］－［Authorization password］には、「Present」を設定してください。

● 使用時の注意事項

RCM の使用時、以下のことに注意してください。

- ・RCM リモートコンソールウィンドウでは、ツールバーの一時停止ボタン（ ）はサポートしていません。
- ・コールドリセット（RCM を無効にする）またはコールドブート（RCM を無効にする）を行った場合、コンソールリダイレクションは、以下の方法で有効にできます。
  1. RemoteControlService を起動します。
  2. 対象サーバの OS を起動します。
  3. ServerView を起動します。
  4. ［ServerView］→［アクション］の順にクリックし、アクション画面で「再起動オプション」の「診断システムの起動」を指定します。
  5. ［Restart］をクリックします。
     対象サーバがシャットダウンと再起動処理を行います。
     サーバ起動時、対象サーバは Console Redirection の接続処理を行います。
  6. RemoteControlService で、ConsoleRedirection の接続を行います。
  7. BIOS のセットアップユーティリティを起動します。
     セットアップユーティリティは、【F2】キーで起動できます。
  8. セットアップユーティリティの「Console Redirection」メニューにある「Console Redirection」を「Enabled」に設定します。
  9. セットアップユーティリティの「IPMI Configuration」メニューにある「Next Boot Use」を「Boot Selection」に設定します。
  10. セットアップユーティリティを終了します。

■ IPMI

IPMI 機能は、機種に依存します。

● IPMI を使用するための設定

IPMI を使用するには、BIOS および Server Management Tools（IPMIview）での設定が必要です。以下の流れで設定を行ってください。機種により設定方法が異なります。詳細については、ご使用のサーバの『ハードウェアガイド』を参照してください。

- L100E ／ RX100 ／ TX150 の場合
  1. BIOS セットアップユーティリティを起動し、「Console Redirection」メニューの「ConsoleRedirection」項目を「Enabled」に、「Connection Over」項目を「Ethernet」に設定します。
  2. Server Management Tools のメニュー画面から、「User Management 」を選択します。
  3. ID2 以降でユーザ名とパスワードを設定します。
     ここで設定したユーザ名とパスワードは、IPMI 接続時に必要になります。なお、ID1 は使用できません。ID2 以降を設定します。
  4. Operation は enable user の「1」を選択します。
  5. 【F1】キーを押して、設定を保存します。
  6. User Management 画面で、上記手順 3 で設定した ID を選択し、【F2】キーを押します。
  7. Privilage Limit に「4」、その他の項目は「0」を設定します。
  8. 【F1】キーを押して、設定を保存します。
  9. IPMIview メインメニューから LAN Configuration を選択します。
  10. LAN Channel を選択し、以下の項目を入力します。

項目	設定内容
BMC NIC IP Address	サーバ側の IP アドレスを入力
MAC Address	サーバ側の MAC アドレスを入力
SubnetMask IP Address	ネットワークのサブネットマスクを入力
Default Gateway	IP Address ネットワークのデフォルトゲートウェイを入力
MAC Address	デフォルトゲートウェイの MAC アドレスを入力

- TX200 ／ RX300 の場合
  ・BIOS セットアップユーティリティを起動し、「 Advanced」メニューの「 IPMI」を以下のように設定します。

項目	設定内容
ServerName	サーバ名を入力
DHCP	Disable
LocalIP	サーバの OS 上の IP と異なる、ネットワーク上で固有な IP アドレスを入力
SubnetMask	ネットワークのサブネットマスク
GatewayAddress	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力
User ID 1 Password	何も入力しないでください。

● TX200 ／ RX300 での留意事項

- 管理端末上の RemoteControlService において、TX200 ／ RX300 の IPMI に接続する場合は「サーバの IP アドレス」として上記の「サーバ OS とは異なる、ネットワーク上で固有なアドレス」を使用してください。また、接続時のパスワード・ユーザ ID は「● サーバパスワードの保存」（→ P.177）を実行して設定してください。ユーザ ID は任意です。
- TX200 ／ RX300 での IPMI によるコンソールリダイレクションは未サポートです。
- TX200 ／ RX300 で電源制御・リセットを行った直後は IPMI の接続が不安定になる場合があります。数十秒で復帰します。
- RX300 において OS 稼動中の IPMI 接続・電源操作は未サポートです

● IPMI 接続時の留意事項

IPMI 接続を実行した場合、以下のメッセージが表示されて接続されない場合があります。

```
Service processor not reachable
```

この場合は再度接続を実行してください。2、3 回実行しても同じメッセージが表示される場合は、管理端末のコマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してください。

C:\>arp -s <**接続先**IP**アドレス**> <**接続先**MAC**アドレス**>

例）C:\>arp -s 192.168.1.10 01-23-45-67-89-ab

● IPMI によるリダイレクションの範囲

IPMI によるリダイレクションの範囲は、BIOS のメモリチェック終了後から OS 起動前まで、および DOS モード実行時です。

それ以外のサーバ状態でリダイレクションを行った場合、画面が乱れることがあります。

5.2 準備

RemoteControlService を使用する前の準備として、RomPilot の設定と、RemoteControlService/LAN のインストールを行います。

5.2.1 RomPilot の設定

RomPilot 機能を使用するには、サーバの RomPilot の設定を行う必要があります。
RomPilot の設定に必要な RomPilot セットアップディスクの作成、および RomPilot の設定を以下の手順で行います。

1 フォーマット済みのフロッピーディスクを 1 枚用意します。

2 RomPilot セットアップディスクを作成します。
PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の以下のディレクトリにあるすべてのファイルを、フロッピーディスクにコピーします。
[CD-ROMドライブ]:\SVMANAGE\TOOLS\ROMPILOT

3 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」を作成します。
ServerStart CD-ROM から作成します。詳細は、『ソフトウェアガイド』の「第 4 章 OS インストール後の操作」を参照してください。

4 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットし、サーバ本体の電源を入れます。

5 「Basic（BIOS Environment Support Tools）」を選択し、【Enter】キーを押します。

6 手順 2 で作成した RomPilot セットアップディスクをサーバにセットします。

7 以下のコマンドを入力し、【Enter】キーを押します。
```
A:\>rompilot.bat
```
RomPilot セットアップが起動します。

8 1 行目の「[Enabled] 設定（1）」を選択して、RomPilot 機能を有効にします。
[Enabled] を選択しないと、他の設定は有効になりません。

9 他の設定を行います。
各項目の意味は、以下のとおりです。

●RomPilot セットアップの設定

項目	説明
Network Driver/Slot	LAN 接続の場合、ネットワークアダプタとドライバが必要です。スロットは、LAN 接続に使用するネットワークアダプタのスロット番号を表しています。 【F2】キーを押すと、RemoteControlService でサポートされているネットワークアダプタが表示されます。目的のアダプタを選択すると、RomPilot セットアップディスクからドライバがインストールされます。 注：【F2】キーは使用しないでください。オンボード LAN のドライバは、標準でインストールされています。
Driver Load String	ここで入力した文字列は LAN ドライバに渡されます。【F2】キーを使用して LAN ドライバをロードする場合は、デフォルトの文字列がここに入力されます。 注：【F2】キーは使用しないでください。オンボード LAN のドライバは、標準でインストールされています。
Server Name	サーバを識別する名前です。サーバ名は最大 16 ASCII 文字まで設定できます。特殊文字も使用できます。
Local IP Address	サーバに装着されている LAN アダプタの IP アドレスです。使用できるのは数字だけです。 OS で使用しているのと同じ IP アドレスを使用してください。
Subnet Mask	サーバに装着されている LAN アダプタのサブネットマスクです。使用できるのは数字だけです。 OS で使用しているのと同じサブネットマスクを使用してください。
Gateway Address	サーバに装着されている LAN アダプタのゲートウェイアドレスです。使用できるのは数字だけです。 OS で使用しているのと同じゲートウェイアドレスを使用してください。
Front End 0/1/2 IP	RemoteControlService/LAN を実行する管理端末（最大 3 つ）の IP アドレスです。RomPilot は、最初に Front End 0 に、次に Front End 1 に、最後に Front End 2 に接続を試みます。いずれの Front End にもエントリがない場合、RomPilot に接続することはできません。
Second SNMP Port	RomPilot は、TCP ポート 9162 に SNMP トラップを送信します。このポートが別のアプリケーションですでに使用されている場合は、代替ポートをここで定義することができます。 注：RemoteControlService/LAN を使用する場合、TCP ポートは 9162 に設定してください。
Reset on lost conn.	この設定を有効にした場合、RemoteControlService/LAN に接続されます。 この接続が失われると、RomPilot は自動的にサーバをリセットします。
Connect Timeout	Front End 0/1/2 に 2 つ以上の管理端末を指定した場合、RomPilot から Front End 0/1/2 に順次接続を試みる際の待ち時間です。時間内に接続が確立されなければ、次の Front End に接続を試みます。
Password	サーバのパスワードです。パスワードは暗号化されて表示されます。 RemoteControlService/LAN でサーバに接続する時に、ここで設定したパスワードを入力する必要があります。 注：パスワードは、必ず設定してください。
Confirm Password	確認のためにサーバのパスワードをもう一度入力してください。
<F1>	【F1】キーを押すと、RomPilot セットアップのオンラインヘルプが表示されます。

項目	説明
<F2>	【F2】キーを押すと、サブメニューが表示されます。別のネットワークアダプタとドライバを選択できます。 注：RomPilot は、オンボード LAN のみサポートしています。オンボード以外のスロット番号は設定しないでください。
<F3>	【F3】キーを押すと、現在の設定が保存されます。
<ESC>	【ESC】キーを押すと、変更内容が保存されずにセットアップメニューが終了します。

POINT

- **RomPilot 機能を有効にして設定を行うと、サーバの起動時に RomPilot から管理端末に SNMP トラップが送信されます。送信された SNMP トラップは、管理端末に ServerView がインストールされていれば ServerView のアラームサービスで参照できます。また、管理端末で RomPilot が起動されている場合、RomPilot からの SNMP トラップを受けると、自動的にそのサーバのリモートウィンドウが開きます。**

10 【F3】キーを押して、設定を保存します。

POINT

- **RomPilot の設定を保存する時に、以下のメッセージが表示される場合があります。**

```
Network Driver/Slot inappropriate for detected
adapter(s): Select via <F2>
```

この場合、以下の操作を行ってください。

1. 【F2】キーを押して、Select Network Driver メニューを表示します。
2. 「Onbrd」を選択します。
3. 【Enter】キーを押して、Driver を設定します。
4. 【F3】キーを押して、設定を保存します。
5. 【Esc】キーを押して、RomPilot セットアップを終了します。

11 【Esc】キーを押して、RomPilot セットアップを終了します。

5.2.2 RemoteControlService/LAN のインストール／アンインストール

管理端末に RemoteControlService/LAN をインストール／アンインストールする方法について、説明します。

■ インストール

1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3 PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD から、以下のインストーラを起動します。

[CD-ROM ドライブ]：\SVMANAGE\JAPANESE\RCS\SETUP.EXE

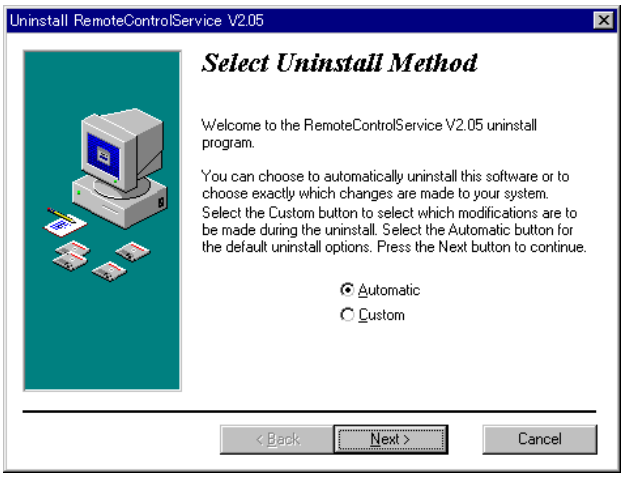
RemoteControlService/LAN がインストールされます。

■ アンインストール

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu RemoteControlService」→「Uninstall Fujitsu RemoteControlService 」の順にクリックします。**

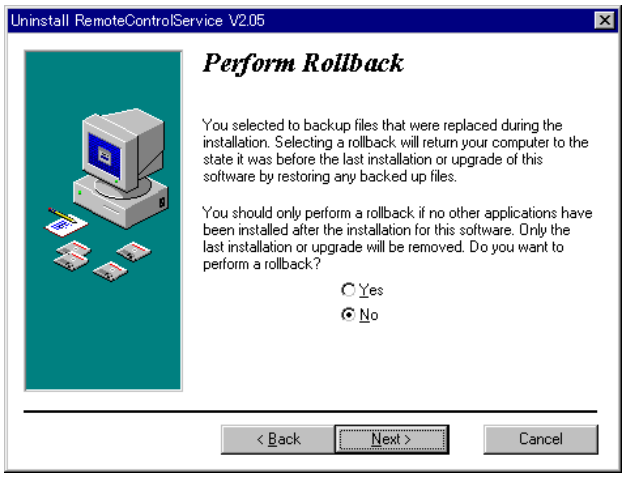
「Select Uninstall Method」画面が表示されます。

2 **「Automatic」をクリックし、[Next] をクリックします。**



「Perform Rollback」画面が表示されます。

3 **「No」をクリックし、[Next] をクリックします。**



「Perform Uninstall」画面が表示されます。

4 **[Finish] をクリックします。**

RemoteControlService/LAN がアンインストールされます。

5.3　起動と終了

RemoteControlService/LAN の起動、終了方法と、メニューについて説明します。

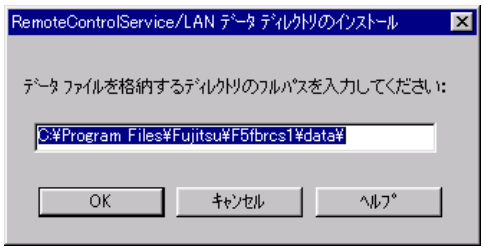
5.3.1　起動

1　「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu RemoteControlService」→「Fujitsu RemoteControlService LAN」の順にクリックします。

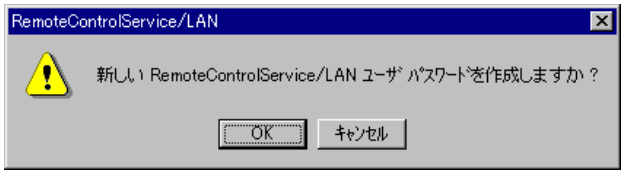
RemoteControlService/LAN が起動します。

POINT

- 初めて RemoteControlService/LAN を起動した場合は、以下の画面が表示されます。



1. データディレクトリのフルパスを入力します。
   このデータディレクトリには、ヒストリファイルやメッセージログファイルなどのデータが保存されます。また、データファイルは、RemoteControlService/LAN を起動したユーザごとに保存されるため、サブディレクトリ＜ユーザ名＞がデータディレクトリに作成されます。
   データディレクトリ用の標準パス名が候補として表示されます。変更する場合はフルパス名を入力してください。
2. ［OK］をクリックします。
   ［キャンセル］クリックすると、RemoteControlService/LAN は起動しません。
   パスワード作成の画面が表示されます。



3. ［OK］をクリックします。
4. パスワードの入力、パスワード確認の入力後、［OK］をクリックします。
   RemoteControlService/LAN ユーザパスワードが作成され、RemoteControlService/LAN が起動します。
   ［キャンセル］をクリックすると、RemoteControlService/LAN は起動しません。

- RemoteControlService/LAN ユーザパスワードの変更方法については、「■　ユーザパスワード」（→P.176）を参照してください。

POINT

- **RemoteControlService/LAN を起動したときに、「警告：ヒストリログファイルのサイズが大きすぎます。古いログを削除してください。」というメッセージが表示されることがあります。**
  この場合、[OK] をクリックし、パスワードを入力した後、「表示」メニュー→「ヒストリログ」の順にクリックしてログを確認してください。不要なログがある場合は、削除することをお勧めします。ただし、RemoteControlService のデータディレクトリがあるディスクの空き容量に余裕がある場合は、ログを削除する必要はありません。

5.3.2 メニュー一覧

RemoteControlService/LAN のメイン画面では、サーバへ接続したり、以下のようなサーバ管理タスクを実行したりできます。

- サーバの追加と削除
- サーバのプロパティとデフォルト値の定義
- RemoteControlService/LAN とサーバとの接続
- サーバのリブートとリセットのオプション定義

●「ファイル」メニュー

メニュー項目	説明
新規	新規に追加するサーバのサーバ名と IP アドレスを入力します。
開く	サーバリストから目的のサーバを選択し、接続をします。
閉じる	選択したサーバとの接続を切断します。リモートコンソールウィンドウも閉じます。
削除	サーバリストからサーバを削除します。
プロパティ	サーバのプロパティ（名前、IP アドレス、デバイスアドレスなど）を設定します。
デフォルト	サーバプロパティのデフォルト値を定義します。
設定	データディレクトリやユーザパスワードなどを設定します。
終了	RemoteControlService/LAN を終了し、サーバとの接続を切断します。接続中の場合、切断するかどうかの確認のメッセージが表示されます。

●「表示」メニュー

メニュー項目	説明
ツールバー	画面の上部にあるツールバーの表示と非表示を切り替えます。
ステータスバー	画面の下部にあるステータスバーの表示と非表示を切り替えます。
オブジェクトサマリ	サーバリストにあるすべてのサーバの現在のステータスを表示します。
ヒストリログ	すべてのアクションが記録されているヒストリファイルを表示します。
メッセージログ	すべてのメッセージが記録されているメッセージファイルを表示します。 Telnet ウィンドウまたはリモートコンソールウィンドウが開いているときには、この項目は表示されません。

●「リセット／リブート」メニュー

「リセット／リブート」メニューは、リモートコンソールウィンドウがアクティブになっているときにのみ表示されます。サーバに接続すると、「リセット／リブート」メニューのメニュー項目がアクティブになります。

メニュー項目	説明
コールドリセット	サーバを再起動します。
リセットして診断システムの起動（RomPilot を継続する）	RemoteControlService/ 診断システムを使用して、サーバを IDE ストレージメディアからブートします。 注：本機能は、サポートされていません。
次回のリセットオプション	次にシステムを開始するときの設定を定義します。この項目では、リモートドライブからの次のリスタートも定義できます。
ウェイクアップ	サーバのネットワークアダプタが Wakeup On LAN（WOL）をサポートしていると、管理端末から LAN 経由でサーバの電源を入れることができます。サーバの WOL 機能については、『ハードウェアガイド』を参照してください。
次回接続時に一時停止	次の接続時に、BIOS POST を一時停止します。BIOS POST を再開するには、「実行（RomPilot をアンロードする）」を選択してください。

●「ウィンドウ」メニュー

サーバリストからサーバを選択すると、「ウィンドウ」メニューがアクティブになります。

メニュー項目	説明
重ねて表示	開いているウィンドウを重ねて表示ます。
並べて表示	開いているウィンドウを並べて表示します。
アイコンの整列	アイコンを整列します。
すべて閉じる	開いているウィンドウをすべて閉じます。

●「ヘルプ」メニュー

メニュー項目	説明
概要	RemoteControlService/LAN の概要が表示されます。
新機能	新しい機能の概要が表示されます。
トピックの検索	RemoteControlService/LAN ヘルプの検索ができます。
ヘルプの使い方	ヘルプの使用方法が表示されます。
RemoteControlService/LAN オンラインマニュアル	オンラインマニュアルが表示されます。
Fujitsu と連絡をとるには	弊社の連絡先が表示されます。
RemoteControlService/LAN について	バージョン情報が表示されます。

■ ポップアップメニュー

サーバの現在のステータスによっては、利用できないメニュー項目もあります。

メニュー項目	説明
RomPilot リモートコンソールウィンドウ	
閉じる	RomPilot リモートコンソールウィンドウを閉じます。
接続	サーバに接続します。
接続／セットアップ	サーバに接続し、BIOS セットアップを起動します。
切断	サーバとの接続を切断します。リモートコンソールウィンドウは開いたままです。
ウェイクアップ	サーバのネットワークアダプタが Wakeup On LAN（WOL）をサポートしていると、管理端末から LAN 経由でサーバの電源を入れることができます。サーバの WOL 機能については、『ハードウェアガイド』を参照してください。
ディスクイメージの変更	リモートドライブでブートしている場合に、フロッピー／イメージファイルを変更します。
プロパティ	目的のサーバプロパティ（名前、IP アドレス、デバイスアドレスなど）を定義します。
実行（RomPilot を継続する）	「POST の一時停止」または「次回接続時に一時停止」により、サーバが POST 段階で一時停止した場合、「実行（RomPilot を継続する）」をクリックすると継続できます。この機能を使用するのは、サーバが診断モードで稼動している場合だけにしてください。 注：診断モードはサポートされていません。
実行（RomPilotをアンロードする）	「POST で一時停止」または「次回接続時に一時停止」により、サーバが POST 段階で一時停止した場合、「実行（RomPilot を継続する）」をクリックすると継続できます。
直前の画面を復旧	直前に表示されていたリモートコンソールウィンドウが表示されます。
画面の消去	「直前の画面を復旧」で表示されたリモートコンソールウィンドウを消去します。
色の変更	リモートコンソールウィンドウの色パレットを変更します。
コールドリセット	サーバを再起動します。
リセットして診断システムを起動（RomPilot を継続する）	RemoteControlService/ 診断システムを使用して、サーバを IDE ストレージメディアからブートします。 注：本機能は、サポートされていません。
次のリセットのオプション	次にシステムを再起動するときの設定を定義します。ここでは、リモートドライブからの次の再起動も定義できます。
次回接続時に一時停止	次の接続のセットアップ時に、実行コマンドが入力されるまで BIOS POST を中断します。
RCM ウィンドウ	
閉じる	RCM ウィンドウを閉じます。
切断	サーバへの接続を切断します。RCM ウィンドウは開いたままです。
再接続	サーバへの接続を切断し、サーバを再起動します。
プロパティ	目的のサーバプロパティ（名前、IP アドレスなど）を定義します。
直前の画面を復旧	直前に表示されていた RCM ウィンドウが表示されます。
再描画	RCM ウィンドウを再描画します。

メニュー項目	説明
画面の消去	RCM ウィンドウを消去します。
コールドリセット	サーバを再起動します。 Console Redirection の設定は、Disabled に変更されます。
電源 OFF	サーバの電源を切断します。
次回接続時 BIOS Setup に入る	次の接続時に、BIOS セットアップを起動します。 「再接続」との併用はできません。
次のリセットオプション	次にシステムを再起動するときの設定を定義します。ここでは、リモートドライブからの再起動も定義できます。
ヘルプ	オンラインヘルプを表示します。
Telnet リモートマネージャウィンドウ	
閉じる	Telnet リモートマネージャウィンドウを閉じます。
接続	サーバに接続します。
切断	サーバとの接続を切断します。
エスケープシーケンスを送出する	サーバにエスケープシーケンスを出力します。
プロパティ	サーバプロパティを定義します。
リモート IPMI マネージャウィンドウ	
閉じる	リモート IPMI マネージャウィンドウを閉じます。
接続	サーバに接続します。
切断	サーバへの接続を切断します。
画面の消去	コンソールリダイレクション画面を消去します。

5.3.3 終了

1 「ファイル」メニュー→「閉じる」の順にクリックします。

RemoteControlService/LAN が終了します。

5.4 使用方法

RemoteControlService/LAN の使用方法について説明します。
詳細については、該当するオンラインヘルプを参照してください。

5.4.1 パスワード管理

サーバへの不正なリモートアクセスを防ぐため、RemoteControlService にはパスワード保護機能があります。ユーザパスワードとサーバパスワードの 2 つのパスワードが必要です。

■ ユーザパスワード

ユーザパスワードは、RemoteControlService/LAN にログインする場合の認証に使用します。
初めて RemoteControlService/LAN を起動したときに設定したパスワードを変更する場合は、以下の手順で行います。

1 **「ファイル」メニュー→「設定」→「ユーザパスワード」の順にクリックします。**

2 **古いパスワードを入力して、［OK］をクリックします。**

3 **新しいパスワードを入力して、［OK］をクリックします。**

POINT

- **ログイン時にパスワードを指定せずに［キャンセル］をクリックすると、新しいパスワードを入力できます。ただし、サーバリストは削除されます。**

■ サーバパスワード

サーバパスワードは、RemoteControlService/LAN を使用してサーバの RomPilot/RCM にアクセスするために必要です。
サーバパスワードは、RomPilot セットアップの「Password」またはサーバの BIOS セットアップメニューで設定します。RomPilot セットアップについては、「5.2.1 RomPilot の設定」（→ P.167）を参照してください。
パスワードは、接続の確立ごとに必要になり、サーバの POST 時に入力する必要があります。POST の時間は、サーバのハードウェア構成によって異なります。

● パスワードプロンプトの無効化

サーバパスワードのプロンプトを無効にすると、接続の確立ごとにサーバパスワードを入力する必要がなくなります。

重 要

- **パスワードプロンプトの無効化は、セキュリティの危険を招きます。危険性を十分認識の上、設定してください。**

1 「ファイル」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
サーバリストが表示されます。

2 パスワードプロンプトを無効にするサーバを選択します。
サーバと接続している場合は、そのサーバのプロパティが表示されます。

3 ［BIOS 拡張機能］タブをクリックします。

4 「接続するごとにパスワードを要求する」のチェックをはずします。

● サーバパスワードの保存

サーバパスワードは、RemoteControlService/LAN に保存できます。サーバパスワードを保存し、「接続するごとにパスワードを要求する」を無効にすると、サーバとの接続時にパスワードプロンプトを非表示にできます。

1 「ファイル」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
サーバリストが表示されます。

2 パスワードを保存するサーバを選択します。
サーバと接続している場合は、そのサーバのプロパティが表示されます。

3 ［BIOS 拡張機能］タブをクリックし、［パスワードの入力］をクリックします。

4 パスワードを入力し、［OK］をクリックします。

POINT

- **RomPilot セットアップ時に定義したサーバパスワードは変更されません。**

5.4.2　リモートサーバ管理

RemoteControlService/LAN を使用してサーバをリモートで管理するには、サーバの RomPilot/RCM またはリモートサービスボード（Telnet）に接続します。

■ サーバの追加

サーバリストにサーバを登録します。

1 「ファイル」メニュー→「新規」の順にクリックするか、ツールバーの 🗋 アイコンをクリックします。

2 新しいサーバの IP アドレスを入力し、オブジェクトタイプ（スタンダードサーバ／ブレードサーバ／拡張キャビネット）を選択して、［プロパティ］をクリックします。

3 ［共通］タブで、サーバ名を入力します。

4 サーバにリモートサービスボードを取り付けている場合は、「デフォルト設定を使用」のチェックをはずし、「Telnet」をチェックします。

5 ［Telnet］タブの「接続先 IP アドレス」にリモートサービスボードの IP アドレス（ブレードサーバの場合はマネジメントブレードの IP アドレス）を入力し、［OK］をクリックします。

●リモートサービスボードの場合

リダイレクションポートは、リモートサービスボードの［LAN Interface］－［Telnet Port］で設定したポート番号を設定してください。

●ブレードサーバの場合

リダイレクションポートは、マネジメントブレードで設定したポート番号を設定してください。マネジメントブレードのデフォルト値は 3172 です。

POINT

- **リモートサービスボードの Telnet ポート番号のデフォルト値は、ファームウェアのバージョンによって異なります。ファームウェアのバージョンは、リモートマネージャ接続時に表示されます。**
  - 0.x.x.xx　TelnetPort　2307
  - 1.x.x.xx　TelnetPort　3172

■ サーバのリモートウィンドウを開く

1 「ファイル」メニュー→「開く」の順にクリックするか、ツールバーの アイコンをクリックします。

2 サーバリストから目的のサーバを選択し、［開く］をクリックします。

リモートコンソールウィンドウが開きます。

POINT

- **RemoteControlService は、サーバの RomPilot、RCM、リモートサービスボード（Telnet）、IPMI に接続できます。**
  - **RomPilot に接続する場合**
    「ファイル」メニュー→「プロパティ」の順にクリックし、［共通］タブで「BIOS 拡張機能の使用（Server）」をチェックし、「RomPilot」をチェックします。［RomPilot］タブの「UUID」と「MAC アドレス」は、RomPilot と接続すると自動的に入力されます。
  - **RCM に接続する場合**
    「ファイル」メニュー→「プロパティ」の順にクリックし、［共通］タブで「BIOS 拡張機能の使用（Server）」をチェックし、「RCM」をチェックします。
  - **リモートサービスボード（Telnet）に接続する場合**
    「ファイル」メニュー→「プロパティ」の順にクリックし、［共通］タブで「デフォルト設定を使用」のチェックをはずし、「Telnet」をチェックします。［Telnet］タブの「セカンダリ IP アドレス」に、リモートサービスボードの IP アドレスを入力します。
  - **IPMI に接続する場合**
    「ファイル」メニュー→「プロパティ」の順にクリックし、［共通］タブで「デフォルト設定を使用」のチェックをはずし、「IPMI」をチェックします。

■ サーバへの接続

RomPilot リモートコンソールウィンドウまたは RCM ウィンドウは、サーバの POST 開始時にサーバからの SNMP トラップの送信によって表示されます。

● リモートサービスボード、またはブレードサーバに接続する場合

1 リモートウィンドウで右クリックし、ポップアップメニューの「接続」をクリックするか、ツールバーの アイコンをクリックします。

リモートサービスボードに接続した場合は、リモートサービスボードのユーザアカウントを入力します。詳細については、「5.4.5 リモートサービスボードのサポート」(→ P.182) を参照してください。

● RomPilot に接続する場合

1 「接続／セットアップ」をクリックして、BIOS セットアップを起動することもできます。

RomPilot/RCM に接続した場合は、サーバパスワードを入力します。

■ サーバとの接続を切断する

1 右クリックし、ポップアップメニューの「切断」をクリックするか、ツールバーの アイコンをクリックします。

サーバとの接続が切断されます。なお、ウィンドウは開いたままです。

5.4.3 BIOS セットアップ

RemoteControlService/LAN を使用し、LAN 経由でサーバの BIOS セットアップを起動する方法について説明します。

POINT

- 操作を始める前に、サーバを再起動する必要があります。サーバが動作している場合は、ServerView を使用して、管理端末からサーバを再起動することができます。
- サーバリストにサーバが登録されていない場合は、「■ サーバの追加」(→ P.177) を参照してサーバを追加してください。

1 「ファイル」メニュー→「開く」の順にクリックするか、ツールバーの アイコンをクリックします。

2 サーバリストから目的のサーバを選択し、[開く] をクリックします。

3 RomPilot リモートコンソールウィンドウで右クリックし、ポップアップメニューの「接続／セットアップ」をクリックするか、RCM ウィンドウで右クリックし、ポップアップメニューの「次回接続時 BIOS Setup に入る」をクリックします。

4 サーバを起動または再起動します。

5　サーバパスワードを入力します。

サーバとの接続が確立されると、自動的に【F2】キーの入力がサーバに送信されます。
サーバの POST 後に、サーバの BIOS セットアップが表示されます。

5.4.4　サーバのブート操作

RemoteControlService/LAN による、サーバのブート動作の制御方法について説明します。

■ サーバの電源投入

POINT

- **RemoteControlService/LAN を使用してサーバの電源を入れるには、以下の条件のいずれかが必要です。**
  - **・サーバのネットワークアダプタが Wakeup On LAN（WOL）をサポートしていて、LAN 経由の電源投入が「Enabled」に設定されている**
  - **・サーバにリモーサービスボードが取り付けられている**
  - **・サーバがブレードサーバである**

  サーバの WOL 機能および設定については、『ハードウェアガイド』を参照してください。
- **RemoteControlService/LAN からサーバの電源を入れるには、そのサーバを RemoteControlService/LAN のサーバリストに登録し、一度接続しておく必要があります。**

● WOL を使用する場合

1　「ファイル」メニュー→「開く」の順にクリックするか、ツールバーの アイコンをクリックします。

2　サーバリストから目的のサーバを選択し、［開く］をクリックします。

3　右クリックし、ポップアップメニューの「ウェイクアップ」をクリックするか、「リセット／リブート」メニュー→「ウェイクアップ」の順にクリックします。

● リモートサービスボードを使用する場合

「5.4.5 リモートサービスボードのサポート」の「● サーバの保守」（→ P.185）、または「● 電源の管理（バージョン 1.X.X.XX のみ）」（→ P.186）を参照してください。

■ リモートドライブからのサーバのブート

RemoteControlService/LANとRomPilot/RCMを使用すると、リモートドライブからサーバをブートすることができます。
リモートドライブとは、管理端末のフロッピーディスクまたはイメージファイルです。

POINT

- リモートドライブからサーバをブートした場合、MS-DOS 動作時もサーバをリモートコントロールできます。
- イメージファイルは、フロッピーディスクの内容をハードディスクにコピーしたものです。
  このイメージファイルは、RemoteControlService/LAN で作成できます。
  「ファイル」メニュー→「プロパティ」→「リモートドライブ」→「イメージファイルの作成／コピー」の順にクリックして作成します。
- リモートドライブ機能を利用するには、RomPilot/RCM を使用する必要があります。
  リモートサービスボードに接続しても、リモートドライブ機能は利用できません。
- RCM はフロッピーディスクからのリモートドライブはサポートしていません。
  RCM でリモートドライブをご使用になるには、イメージファイルを作成して、イメージファイルから起動する設定にしてください。

1 「ファイル」メニュー→「開く」の順にクリックするか、ツールバーの アイコンをクリックします。

2 サーバリストから目的のサーバを選択し、［開く］をクリックします。

3 右クリックし、ポップアップメニューの「次回接続時に一時停止」（RCM の場合は「次回接続時 BIOS Setup に入る」）をクリックします。

4 サーバを起動または再起動します。

5 サーバパスワードを入力します。

サーバと接続すると、自動的にサーバの POST が一時停止します。

6 「リセット／リブート」メニュー→「次回のリセットのオプション」の順にクリックするか、右クリックし、ポップアップメニューの「次回のリセットのオプション」をクリックします。

7 ［リモートドライブオプション］をクリックします。

8 「デフォルト設定を使用」のチェックをはずして、「フロッピー A:」または「イメージファイル」を選択し、［OK］をクリックします。

「イメージファイル」を選択した場合は、イメージファイルを入力するか、［参照］をクリックしてイメージファイルを指定します。

9 「リモートドライブを有効にする」をチェックし、［コールドリモートブート］をクリックします。

サーバが、リモートドライブから再起動します。

10 サーバパスワードを入力します。

サーバは、POST 後にリモートドライブから起動します。リモートウィンドウには、リモートドライブを示す「RD」が表示されます。

5.4.5 リモートサービスボードのサポート

RemoteControlService/LAN による、リモートサービスボードのサポートについて説明します。

■ リモートサービスボードへの接続

リモートサービスボードには、リモートマネージャと呼ばれる Telnet インターフェースがあり、RemoteControlService/LAN から接続することができます。特に Telnet を使用すると、安全なコンソールリダイレクションをテキストモードで利用できます。
リモートマネージャでは、対象となるサーバに関する情報を確認できます。情報の中には、システム名のように、初めて ServerView エージェントを起動した後や、サーバが正しく設定された場合のみ表示されるものもあります。

POINT

- **PRIMERGY T850 の場合は、リモートサービスボードの Web インターフェースからコンソールリダイレクションを利用してください。詳細については、『ハードウェアガイド』を参照してください。**

RemoteControlService/LAN からリモートサービスボードへの接続は、以下の手順で行います。

1 「ファイル」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
サーバのプロパティ画面が表示されます。

2 ［共通］タブで「デフォルト設定を使用」のチェックをはずし、「Telnet」をチェックします。［Telnet］タブの「セカンダリ IP アドレス」に、リモートサービスボードの IP アドレスを入力します。
リモートサービスボードの Telnet ポート番号を変更している場合は、「デフォルト設定を使用」のチェックをはずして、「リダイレクションポート」に Telnet ポート番号を入力します。

POINT

- **リモートサービスボードの Telnet ポート番号のデフォルト値は、ファームウェアのバージョンによって異なります。ファームウェアのバージョンは、リモートマネージャ接続時に表示されます。**
  - 0.x.x.xx　TelnetPort　2307
  - 1.x.x.xx　TelnetPort　3172

3 ［OK］をクリックします。

4 「ファイル」メニュー→「開く」の順にクリックします。

5 サーバを選択し、「開く」をクリックします。
タイトルバーに「RSB」と表示されたリモートマネージャウィンドウが表示されます。

6 右クリックし、ポップアップメニューの「接続」をクリックします。

7　リモートサービスボードのユーザアカウントでログインします。

ユーザ名とパスワードのデフォルト値は、ユーザ名「root」、パスワード「fsc」です。
ユーザ名「root」とパスワード「fsc」を入力すると、今後もこのパスワードを使用するかどうかのメッセージが表示されます。
ログインすると、リモートマネージャのメインメニューが表示されます。

8　【Ctrl】+【D】キーを押します。

ログインプロセスが終了します。

■ リモートマネージャメインメニュー（サーバ）

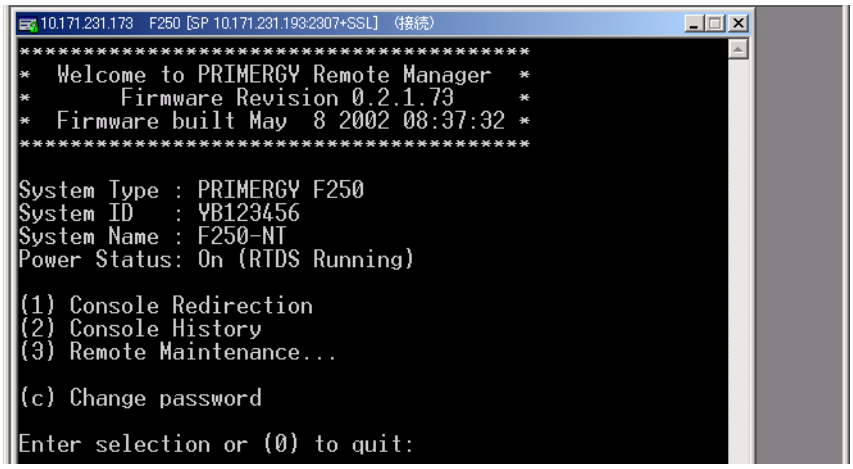
POINT

- **リモートマネージャーの項目は、ファームウェアのバージョンによって異なります。ファームウェアのバージョンは、リモートマネージャ接続時に表示されます。**

● バージョン 0.X.X.XX の場合

ファームウェアバージョン 0.X.X.XX のリモートマネージャのメインメニューは、以下のとおりです。
表示されるメニューは機種により異なり、使用可能なメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
Console Redirection	コンソールをリダイレクトするときに使用します。
Console History	記録されたコンソールの内容を表示するときに使用します。
Remote Maintenance	サーバの電源状態を制御するとき、リモートサービスボードのエラーログやイベントログのメッセージを確認するときに使用します。
Enclosure Information	サーバ内の温度／電圧などの情報が表示されます。 本メニューは、PRIMERGY T850 で表示されます。
View T-850 VPDs （Vital Product Data）	PRIMERGY T850 の Vital Product Data が表示されます。 本メニューは、PRIMERGY T850 で表示されます。
Change password	パスワードを変更するときに使用します。
Firmware Update	ファームウェアをアップデートするときに使用します。 注：本機能は未サポートです。また、本メニューはファームウェアのバージョンに依存します。

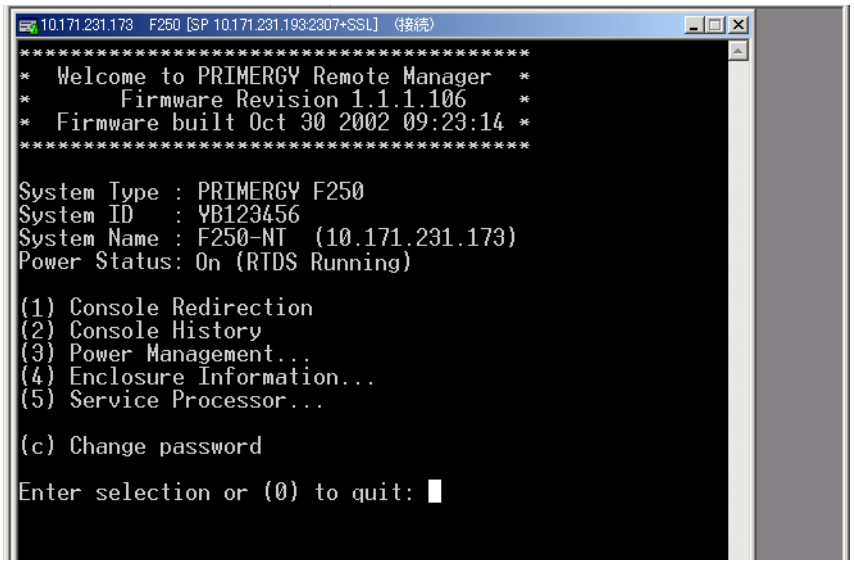


上の図はファームウェアバージョン 0.2.1.73 のメインメニューの例です。
それぞれの項目の左側の番号や文字を入力すると、それぞれの項目が実行されるか、または下位メニュー項目に移動します。ユーザに使用が許可されていない機能には（-）が表示され、利用できない機能には（*）が表示されます。
【0】キーを押すと上位メニューへ移行します。メインメニュー（上図）を表示していた場合に【0】キーを押すと、リモートサービスボードとの接続を切断します。
このイベントは、リモートサービスボードのイベントログに記録されます。

● バージョン 1.X.X.XX の場合

ファームウェアバージョン 1.X.X.X のリモートマネージャのメインメニューは、以下のとおりです。
表示されるメニューは機種により異なり、使用可能なメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
Console Redirection	コンソールをリダイレクトします。
Console History	記録されたコンソールの内容を表示します。
Power Management	サーバの電源状態を制御します。
Remote Maintenance	サーバの電源状態を制御するとき、リモートサービスボードのエラーログやイベントログのメッセージを確認します。
Enclosure Information	サーバ内の温度／電圧などの情報が表示されます。また、リモートサービスボードのエラーログ／イベントログも表示されます。
View T-850 VPDs(Vital Product Data)	PRIMERGY T850 の Vital Product Data が表示されます。本メニューは、PRIMERGY T850 で表示されます。
View T-850-Expansion-Box（Vital Product Data）	PRIMERGY T850 - Expansion - Box の Vital Product Data が表示されます。本メニューは、PRIMERGY T850 で表示されます。
Server Processor	リモートサービスボードに対する操作を行います。
Change Password	パスワードを変更します。



上の図はファームウェアバージョン 1.1.1.106 のメインメニューの例です。
それぞれの項目の左側の番号や文字を入力すると、それぞれの項目が実行されるか、または下位メニュー項目に移動します。ユーザに使用が許可されていない機能には（-）が表示され、利用できない機能には（*）が表示されます。
【0】キーを押すと上位メニューへ移行します。メインメニュー（上図）を表示していた場合に【0】キーを押すと、リモートサービスボードとの接続を切断します。
このイベントは、リモートサービスボードのイベントログに記録されます。

● コンソールリダイレクション

リモートサービスボードのコンソールリダイレクションによって、サーバの画面およびキーボード操作を、リモートコンソールへリダイレクトできます。
コンソールリダイレクションによって以下の操作ができます。

- POST 中の画面表示
- BIOS セットアップ
- OS がクラッシュした場合には、最新の内容と表示可能な画面（テキストモード）を表示し、システムを復旧する。

コンソールリダイレクションを選択すると、サーバの画面がリモートマネージャウィンドウに転送されます。キーボードから入力する内容は、サーバのキーボードコントローラに送られます。
コンソールリダイレクションは、ティルデ（~）とピリオド（.）を 2 秒以内に続けて入力すると終了します。

● 保存したコンソールの内容の表示

サーバを再起動したり、画面の解像度を変更したりすると、直前の画面の内容はリモートサービスボードの 2 つのバッファの一方に保存されます。「Console History」メニューをクリックすると、最近保存された画面の内容が表示されます。どれかキーを押すと、もう一方のバッファに保存された画面の内容が表示されます。この表示は、コンソールリダイレクション中の画面表示と同じ内容です。もう一度どれかキーを押すと、Remote Manager のメインメニューに戻ります。

● サーバの保守

メインメニューの「Remote Maintenance」を選択すると、以下のメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
Immediate Power Off	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断します。
Immediate Reset	OS の状態に関係なく、サーバを再起動します。
Graceful Power Off	サーバをシャットダウンします。リモートサービスボードが、シャットダウン要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。エージェントがインストールされていないなどの理由で要求を送信できない場合は、リモートマネージャは別のダイアログに進み、OS の状態に関係なくサーバをシャットダウン（Immediate Power Off）するかどうかのメッセージを表示します。
Graceful Reset	サーバを再起動します。リモートサービスボードが、リセット要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。エージェントがインストールされていないなどの理由で要求を送信できない場合は、リモートマネージャは別のダイアログに進み、OS の状態に関係なくサーバをリセット（Immediate Reset）するかどうかのメッセージを表示します。
Power On	サーバの電源を投入します。

メニュー項目	説明
Raise NMI	保守員専用の機能です。選択しないでください。 選択した場合には、実行するかどうかのメッセージを表示されますので、「no」を指定してください（本メニューは、サーバに依存します）。
View Eventlog	リモートサービスボードのイベントログの内容が、時間順（最後のエントリが先頭）に表示されます。
View Errorlog	リモートサービスボードのエラーログの内容が、時間順（最後のエントリが先頭）に表示されます。
Clear Error/Eventlog	リモートサービスボードのエラーログとイベントログの内容を削除します。
Firmware Update	ファームウェアをアップデートするときに使用します（本機能は未サポートです。また、本メニューはファームウェアのバージョンに依存します）。
Configure IP Parameters	リモートサービスボードの IP address ／ Subnet Mask ／ GateWay address を変更するときに使用します（本メニューは、ファームウェアのバージョンに依存します）。

● サーバの情報表示

メインメニューの「Enclosure Information」を選択すると、以下のメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
View Eventlog	リモートサービスボードのイベントログの内容が、時間順（最後のエントリが先頭）に表示されます。
View Errorlog	リモートサービスボードのエラーログの内容が、時間順（最後のエントリが先頭）に表示されます。
Clear Error/Eventlog	リモートサービスボードのエラーログとイベントログの内容を削除します。
Temperature	温度に関する情報が表示されます。
Voltages	電圧に関する情報が表示されます。
Fans	ファンに関する情報が表示されます。
Power Supplies	電源に関する情報が表示されます。本メニューは、PRIMERGY T850 では表示されません。
Door Lock	フロントドアの開閉の状態を表示します。本メニューは、ファームウェアバージョン 0.X.X.X、PRIMERGY T850 では表示されません。

● 電源の管理（バージョン 1.X.X.XX のみ）

ファームウェアバージョン 1.X.X.X の場合、メインメニューの「Power Management」を選択すると、以下のメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
Immediate Power OFF	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断します。
Immediate Reset	OS の状態に関係なく、サーバを再起動します。
Power Cycle	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断しその後電源の再投入を行います。
Power ON	サーバの電源を投入します。

メニュー項目	説明
Graceful Power OFF	サーバをシャットダウンします。リモートサービスボードがシャットダウン要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。エージェントがインストールされていないなどの理由で、シャットダウン要求を送信できない場合は、リモートマネージャは別のダイアログに進み、OS の状態に関係なくサーバをシャットダウン（Immediate Power Off）するかどうかのメッセージを表示します。
Graceful Reset	サーバを再起動します。リモートサービスボードがリセット要求をサーバの ServerView エージェントに送信します。エージェントがインストールされていないなどの理由で、リセット要求を送信できない場合は、リモートマネージャは別のダイアログに進み、OSの状態に関係なくサーバをリセット（Immediate Reset）するかどうかのメッセージを表示します。
Raise NMI	保守員専用の機能です。選択しないでください。選択した場合は、実行するかどうかのメッセージが表示されますので、「no」を指定してください（本メニューは、サーバに依存します）。

● リモートサービスボードに対する操作（バージョン 1.X.X.XX のみ）

ファームウェアバージョン 1.X.X.X の場合、メインメニューの「Server Processor」を選択すると、以下のメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
Firmware Update	ファームウェアをアップデートします（本機能は未サポートです。）
Reset Service Processor	リモートサービスボードをリセットします。
Reset Configuration	リモートサービスボード内の設定をデフォルトに戻します。
Configure IP Parameters	リモートサービスボードの DHCP の有効・無効／ IP address ／ SubnetMask ／ GateWay address を変更します。
GenerateSSL Certificate	新しいセキュリティ証明書を発行します。
List IP Paramaters	リモートサービスボードの IP 設定が表示されます。

■ リモートマネージャメインメニュー（拡張ディスク装置）

拡張ディスク装置のリモートマネージャのメインメニューは、以下のとおりです。

メニュー項目	説明
RAID Configuration 1	本機能は使用しないでください。
RAID Configuration 2	本機能は使用しないでください。
Remote Maintenance	以下の場合に使用します。 ・拡張ディスク装置の電源状態を制御するとき ・エラーログやイベントログのメッセージを確認するとき ・ファームウェアをアップデートするとき
System Cofiguration	拡張ディスク装置のシステム構成を確認する場合に使用します。
Change password	パスワードを変更する場合に使用します。

カッコ内の番号や文字を入力すると、メニューの項目を選択できます。
【0】キーを押すと上位メニューへ移行します。最上位メニューを表示していた場合に【0】キーを押すと、リモートサービスボードとの接続を切断します。
このイベントは、リモートサービスボードのイベントログに記録されます。

● 拡張ディスク装置の保守

拡張ディスク装置のメインメニューの「Remote Maintenance」を選択すると、以下のメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
Power Off	拡張ディスク装置の電源を切断します(拡張ディスク装置動作時使用禁止)。
Power On	拡張ディスク装置の電源を投入します。
View Eventlog	拡張ディスク装置リモートサービスボードのイベントログの内容が、時間順（最後のエントリが先頭）に表示されます。
View Errorlog	拡張ディスク装置リモートサービスボードのエラーログの内容が、時間順（最後のエントリが先頭）に表示されます。
Clear Error/Eventlog	拡張ディスク装置リモートサービスボードのエラーログとイベントログの内容を削除します。
Firmware Update	拡張ディスク装置リモートサービスボードのファームウェアを更新します（本機能は未サポートです)。
Configure IP Parameters	リモートサービスボードの IP address ／ Subnet Mask ／ GateWay address を変更するときに使用します（本メニューは、ファームウェアのバージョンに依存します)。

● 拡張ディスク装置システム構成の確認

拡張ディスク装置のメインメニューの「System Configuration」を選択すると、以下のメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
Enclosure Cofiguration	拡張ディスク装置内の電源、ファン、ディスクなどのコンポーネントの数を表示します。
Power Supply	拡張ディスク装置内電源の状態を表示します。
Temperature	拡張ディスク装置内温度の状態を表示します。
Fans	拡張ディスク装置ファンの状態を表示します。
Door Lock	拡張ディスク装置ドアロックの状態を表示します。
Chassis Identification	拡張ディスク装置の筐体 ID を表示します。
Hard Disks	拡張ディスク装置内ハードディスクの状態を表示します。
Fibre Channel Port Bypass	ファイバーチャネルのバイパス状態を表示します。
Disk Array Controller	ディスクアレイコントローラの状態を表示します。
DAC-GBIC-State	GBIC Node の状態を表示します。

5.4.6 IPMI のサポート

RemoteControlService/LAN による、IPMI のサポートについて説明します。
リモート IPMI マネージャーと呼ばれる IPMI インターフェースに、RemoteControlService/LAN から接続できます。

■ IPMI への接続

1 「ファイル」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
サーバのプロパティ画面が表示されます。

2 ［共通］タブで「デフォルト設定を使用」のチェックをはずし、「IPMI」をチェックします。

3 ［OK］をクリックします。

4 「ファイル」メニュー→「開く」の順にクリックし、サーバを選択します。

5 ［開く］をクリックします。
リモート IPMI マネージャウィンドウが表示されます。

6 右クリックし、ポップアップメニューの「接続」をクリックします。

7 ユーザ名とパスワードを入力します。
リモート IPMI マネージャのメインメニューが表示されます。

■ リモート IPMI マネージャメインメニュー

サーバのリモート IPMI マネージャのメインメニューは、以下のとおりです。
表示されるメニューはサーバにより異なり、使用可能なメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
Console Redirection	コンソールをリダイレクトします。
Power Management	サーバの電源状態を制御します。

● コンソールリダイレクション

IPMI のコンソールリダイレクションによって、サーバの画面およびキーボード操作を、リモートコンソールへリダイレクトできます。
コンソールリダイレクションによって以下の操作が行えます。

- POST 中の画面表示
- BIOS セットアップ
- OS がクラッシュした場合には、最新の内容と表示可能な画面（テキストモード）を表示し、システムを復旧する。

コンソールリダイレクションを選択すると、サーバの画面がリモートマネージャウィンドウに転送されます。キーボードから入力する内容は、サーバのキーボードコントローラに送られます。
コンソールリダイレクションは、ティルデ（~）とピリオド（.）を 2 秒以内に続けて入力すると終了します。

● 電源の管理

メインメニューの「Power Management」を選択すると、以下のメニューが表示されます。

メニュー項目	説明
Immediate Power Off	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断します。
Immediate Reset	OS の状態に関係なく、サーバを再起動します。
Power Cycle	OS の状態に関係なく、サーバの電源を切断し、その後電源を再投入します。
Power On	サーバの電源を投入します。

第 6 章

リモートサービスボード（RSB）の使用

この章では、リモートサービスボード（RSB）の使用方法について説明しています。

6.1 概要 192
6.2 準備 194
6.3 各種監視情報の表示 204
6.4 ダイヤルアップ接続 221

6.1 概要

リモートサービスボード（RSB：Remote Service Board）は、専用の CPU・OS・通信インターフェース・電源を備えたオプションの拡張カードです。
リモートサービスボードを使用すると、サーバの状態に依存せずに、サーバを監視することができます。

6.1.1 機能

● リモートサービスボードの機能

- サーバの状態監視（OS ハング、電源異常、温度異常、電圧異常）
- サーバ異常時の管理者への通知
- サーバ異常時の自動サーバシャットダウン
- サーバの遠隔操作（再起動、電源投入／切断）
- サーバのスケジュール運転
- 管理コンソールからのサーバの POST 時の画面表示、キーボード操作

● 拡張ディスク装置でのリモートサービスボードの機能

- 拡張ディスク装置の状態監視
- 拡張ディスク装置の異常時の管理者への通知
- 拡張ディスク装置の遠隔操作（電源投入／切断）
- 拡張ディスク装置のスケジュール運転
- 他リモートサービスボードと連携した電源制御（電源投入／切断）

● リモートサービスボードがサポートする通信インターフェース

- LAN インターフェース
- シリアルインターフェース（モデム接続用）

6.1.2 留意事項

● リモートサービスボード

バッテリパックは、サポートしていません。

● Web インターフェース

- 各ページの設定は、英数字を使用してください。
- ファンのチェックタイムなど、サーバ本体のみ装備している機能の設定は、ドライバを通してサーバの BIOS に記憶されます。このため、各ページの設定は、OS が稼働している状態で実施することをお勧めします。
- ASR 機能である再起動リトライ回数超過時のアクションの「診断システム開始」は、使用しないでください。
  ［Restart Settings］ページの「Action after exceeding reboot tries」には、「Start diagnostic system」を設定しないでください。

- OS 起動時または終了時に、ファン、温度、電圧、メモリなどの情報が正しく表示されない場合があります。いったん、［Overview］をクリックして再表示してください。
- ページの更新を行うと、直前の操作が繰り返される場合があります。設定、電源制御などの操作を行った場合は、［Overview］をクリックし、［Overview］ページに移動してください。特に、以下の操作の後はご注意ください。
  ・［Power ON/OFF Restart］ページの「Restart」操作
  ・［Alarm Handler］ページの「Create」操作
- サーバでサポートされていない機能に関する情報の表示および設定は、正しく動作しない場合があります。
- シリアルインターフェース（［Serial Line Configuration］ページ）において、以下の機能は使用できません。
  ・「Connection Type」の「dial-in/out」
  ・「Connection Type」の「dial-in/out with extension」
- ファームウェアバージョン 0.X.X.XX の場合、LAN インターフェース（［LAN Interface Configuration］ページ）において、以下の設定はファームウェアの再起動後に有効となります。
  ・「HTTP」の「Port」
  ・「HTTP」の「Use SSL」
  ・「Telnet」の「Redirection Source」
  なお、これらの設定を変更したあとサーバの電源が切断状態になると、ファームウェアが再起動します。
- ファームウェアバージョン 1.X.X.XX の場合、Web ブラウザの JavaScript の設定によって、Web インターフェースの表示が若干異なります。各 Web ブラウザの設定が以下のようになっている場合、画面左側に各機能領域へのリンクが表示されます。
  ・InternetExplorer 6.0、InternetExplorer 5.5
  「ツール」-「インターネットオプション」-「セキュリティ」タブ画面で、対象となるサーバのゾーン（通常は「インターネット」）を選択します。［レベルのカスタマイズ］をクリックし、「アクティブスクリプト」を「有効にする」にチェックが入っていることを確認します。
  ・Netscape 7.0
  「編集」-「設定」-「詳細」-「スクリプトとプラグイン」において、「JavaScript を有効化する」-「Navigator」にチェックが入っていることを確認します。
  ・Netscape 6.2、Netscape 6.0、Netscape 4.78
  「編集」-「設定」-「詳細」において、「JavaScript を有効化する」にチェックが入っていることを確認します。
  上記の設定がされていない場合には、各機能領域へのリンクが表示されません。この場合、トップページ上段のサーバ名をクリックすることで、各機能グループがツリー状に表示された［OverView］ページを表示することができます。

6.2 準備

リモートサービスボードを使用する前の準備について、説明します。

6.2.1 Remote Service Board Utility フロッピーディスクの作成

リモートサービスボードを使用する場合、ファームウェアのアップデートが必要です。ファームウェアのアップデートは、PRIMERGY ドキュメント＆ツールCDから作成したRemote Service Board Utility フロッピーディスクを使用します。
Remote Service Board Utility フロッピーディスクは、以下の手順で作成します。
なお、ファームウェアのアップデート方法については、リモートサービスボードに添付の取扱説明書を参照してください。

■ OS が Windows 2003 ／ Windows 2000 ／ Windows NT の場合

1　以下の枚数のフロッピーディスク（フォーマット済み）を用意します。

用意する枚数は、ファームウェアの版数によって異なります。

・**[CD-ROM ドライブ] :\SVMANAGE\TOOLs\RSBFlash** の場合は、1 枚用意します。
・**[CD-ROM ドライブ] :\SVMANAGE\TOOLs\RSBFlash\fpd1、**
　[CD-ROM ドライブ] :\SVMANAGE\TOOLs\RSBFlash\fpd2 の場合は、2 枚用意します。

2　PRIMERGY ドキュメント＆ツール CD 内の以下のディレクトリにあるすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。

●**1 枚の場合**
　[CD-ROMドライブ] :\SVMANAGE\Tools\RSBFlash
●**2 枚の場合**
　[CD-ROMドライブ] :\SVMANAGE\Tools\RSBFlash\fpd1
　[CD-ROMドライブ] :\SVMANAGE\Tools\RSBFlash\fpd2

3　コマンドプロンプトを起動します。

4　フロッピーディスクを 2 枚使用する場合は、\fpd2 からコピーしたフロッピーディスクをセットします。

5　ファイルの権限を変更します。以下のコマンドを実行します。

```
> a:
> abset
```

6　フロッピーディスクを取り出し、書き込み禁止状態にします。

■ OS が Linux の場合

1 以下の枚数のフロッピーディスクを用意します。

用意する枚数は、ファームウェアの版数によって異なります。

・#cd/mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/TOOLS/RSBFlash/ の場合は、1 枚用意します。
・#cd/mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/TOOLS/RSBFlash/fpd1/
#cd/mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/TOOLS/RSBFlash/fpd2/ の場合は、2 枚用意します。

2 スーパーユーザでログインします。

3 フロッピーディスクをフォーマットします。

フロッピーディスクをセットし、以下のコマンドを実行します。

```
# fdformat /dev/fd0h1440
# mkfs -t msdos /dev/fd0h1440
```

4 フロッピーディスクをマウントします。

以下のコマンドを実行します。

```
# mount -t vfat /dev/fd0 /mnt/floppy/
```

5 PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をマウントします。

CD-ROM をセットし、以下のコマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/
```

POINT

- **特定のアプリケーションがインストールされている場合には、CD-ROM のセットと同時に自動的にマウントされます。**

6 CD-ROM 内のユーティリティのディレクトリに移動します。以下のコマンドを実行します。

```
# cd /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/TOOLS/RSBFlash/
```

または

```
# cd /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/TOOLS/RSBFlash/fpd1/
# cd /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/TOOLS/RSBFlash/fpd2/
```

7 モジュールをフロッピーディスクにコピーします。以下のコマンドを実行します。

```
# cp -a *.* /mnt/floppy/
```

8 フロッピーディスクを 2 枚使用する場合は、/fpd2 からコピーしたフロッピーディスクをセットします。

9 ファイルの権限を変更します。以下のコマンドを実行します。

```
# cd /mnt/floppy/
# chmod +w core.bin
```

10　フロッピーディスクをアンマウントして、取り出します。

フロッピーディスクを取り出す前に、必ずアンマウントしてください。

```
# cd
# umount /mnt/floppy/
```

11　CD-ROM をアンマウントして、取り出します。

CD-ROM を取り出す前に、必ずアンマウントしてください。

```
# umount /mnt/cdrom/
```

12　フロッピーディスクを取り出し、書き込み禁止状態にします。

6.2.2　ドライバのインストール

リモートサービスボードのドライバは、リモートサービスボードの有無にかかわらず、サーバに ServerView V02.51 以降の ServerView エージェントをインストールすると自動的にインストールされます。ServerView エージェントのインストール方法については、「2.3 インストール」（→ P.31）を参照してください。

OS が Windows の場合、ServerView をインストールした直後、またはリモートサービスボードを搭載した直後の OS 起動時に、リモートサービスボードが ServerView に認識されない場合があります。以下の手順に従い、確認・再認識・再インストールの処理を行ってください。

Windows 2003 の場合、ServerView インストール済のサーバにリモートサービスボードを搭載すると、タスクバー内に、以下のような新しいハードウェアを検出した旨のメッセージが表示されます。以降、リモートサービスボードが ServerView に認識されるようになります。

■ リモートサービスボードの確認

リモートサービスボードが ServerView に認識されていることを確認します。

1　「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「FujitsuServerView」の順にクリックし、ServerView を起動します。

2　サーバの一覧から対象装置のサーバを選択し、ダブルクリックします。

3　ServerView の各ボタンが有効であることを確認します。

ServerView の初期処理に数分かかることがあります。［更新］をクリックして、各ボタンが有効になるまで待ちます。

4　［アクション］をクリックします。

5　［RSB］が無効である場合、「■ リモートサービスボードの再認識処理」（→ P.197）を行います。

■ リモートサービスボードの再認識処理

1 OS を再起動します。

2 「リモートサービスボードの認識」を行います。

再認識処理を行った後、リモートサービスボードが認識されていない場合は、「■ ドライバの再インストール」（→ P.197）を行います。

■ ドライバの再インストール

1 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザでログインします。

2 実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3 インストール済のエージェントをアンインストールするために、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のアンインストーラを起動します。

[CD-ROM ドライブ]：\SVMANAGE\Japanese\Unagent.exe

4 アンインストール後、再起動を促すメッセージが表示されたら、サーバを再起動します。

5 PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の以下のインストーラを起動します。

[CD-ROM ドライブ]：\SVMANAGE\Tools\Addagent.exe

6 インストール後、再起動を促すメッセージが表示されたら、サーバを再起動します。

7 「■ リモートサービスボードの確認」（→ P.196）を行います。

ドライバの再インストールを行っても、リモートサービスボードが認識されていない場合は、弊社担当保守員にご相談ください。

6.2.3 通信インターフェースの設定

お使いになる通信インターフェースに応じて、必要な項目を設定します。
リモートサービスボードの通信インターフェースの設定は、リモートサービスボードのドライバをインストール後に行ってください。

■ LAN インターフェースの設定

● OS が Windows 2003 ／ Windows 2000 ／ Windows NT の場合

1 ローカルの Administrators グループに所属するユーザ名で、サーバにログインします。

なお、Domain Admins グループでは、設定できません。

2　実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3　以下のプログラムを起動します。

［システムドライブ］:\Program Files\Fujitsu\F5FBAG01\rsb_uty.exe

4　［LAN Interface］タブをクリックし、各項目を設定します。

［LAN Interface］タブについては、「● ［LAN Interface］タブ」（→ P.199）を参照してください。

5　各項目を設定後、［Apply］をクリックします。

● OS が Linux の場合

1　スーパーユーザでログインします。

2　PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のコマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/
```

POINT

- **特定のアプリケーションがインストールされている場合には、CD-ROM のセットと同時に自動的にマウントされます。**

3　CD-ROM 内のユーティリティを起動します。以下のコマンドを実行します。

```
# /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/TOOLS/RSB_UTY/rsb_uty
```

4　「LAN Interface」を選択します。

「LAN Interface」については、「● ［LAN Interface］タブ」（→ P.199）を参照してください。

5　項目の編集を選択します。

6　メッセージに従って、各項目を設定します。

項目を入力後、【Enter】キーを押すと、以下の項目の編集に移ります。
各項目の入力で【Enter】キーのみを押した場合、その項目の設定は変更されません。
全項目の設定が完了すると、「LAN Interface」画面に戻ります。

7　設定を保存します。

8　「LAN Interface」を終了します。

9　ユーティリティを終了します。

10　CD-ROM をアンマウントして、取り出します。

CD-ROM を取り出す前に、必ずアンマウントしてください。

```
# umount /mnt/cdrom/
```

●［LAN Interface］タブ

設定項目	説明
Link Speed	
Nominal	通常使用するリンク速度を設定します。以の値を設定できます。 ・ Auto negotiation ・ 100 Mbps full duplex ・ 100 Mbps half duplex ・ 10 Mbps full duplex ・ 10 Mbps half duplex
Actual	現在のリンク速度が表示されます。
Refresh	現在のリンク速度表示を更新します。
Internet Protocol	
IP Address	リモートサービスボードの IP アドレスを設定します。 （設定必須　デフォルト値：192.168.0.10）
Subnet Mask	サブネットマスクを設定します。 （設定必須　デフォルト値：255.255.255.0）
Gateway	デフォルトゲートウェイサーバの IP アドレスを設定します。
Domain Name Server	
Use DHCP	DHCP を使用するかしないかを設定します。 ・ enabled：DHCP を使用します。 ・ disabled：DHCP を使用しません。
Use DNS	DNS を使用するかしないかを設定します。 ・ enabled：DNS を使用します。 ・ disabled（デフォルト値）：DNS を使用しません。
DNS Server	プライマリ DNS サーバを設定します。
DNS Server2	セカンダリ DNS サーバを設定します。
HTTP	
Port	Web インターフェースのポート番号を設定します。
Use SSL	SSL を使用するかしないかを設定します。 ・ enabled：SSL を使用します。 ・ disabled ：SSL を使用しません。 ファームウェア版数によって、SSL の動作が異なります。 0.x.x.xx の場合：http か https のいずれかのみ使用できます。 1.x.x.xx の場合：https は常に有効です。上記 enabled/disabled は、http の有効／無効の設定となります。また、https の Port 番号は本ユーティリティでは変更できません。
Telnet	
Port	Telnet インターフェースのポート番号を設定します。デフォルト値は、ファームウェア版数によって異なります。 0.x.x.xx の場合：2307 1.x.x.xx の場合：3172
Drop Time	休止状態の Telnet 接続が自動的に切断されるまでの時間（秒）を設定します。（デフォルト値：600）

設定項目	説明
Console Colour	コンソールリダイレクションで使用する色を設定します。 ・Monochrome：白黒 ・ANSI Colours：ANSI 規格の色指定
Charset Mapping	コンソールリダイレクション中のキャラクタコードを設定します。 ・No Mapping：キャラクタコードを変換しません。 ・Map to VT100：VT100 のキャラクタコードに変換します。 ・Map to WinAnsi：ANSI 規格のキャラクタコードに変換します。
Redirection Source	コンソールリダイレクションを使用する場合に設定します。 「VGA Snooping」を指定してください。

■ シリアルインターフェースの設定

● OS が Windows 2003 ／ Windows 2000 ／ Windows NT の場合

1　ローカルの Administrators グループに所属するユーザ名で、サーバにログインします。

Domain Admins グループでは、設定できません。

2　実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3　以下のプログラムを起動します。

［システムドライブ］:\Program Files\Fujitsu\F5FBAG01\rsb_uty.exe

4　［Serial Line Configuration］タブをクリックし、各項目を設定します。

［Serial Line Configuration］タブについては、「● ［Serial Line Configuration］タブ」（→ P.201）を参照してください。

5　各項目を設定し、［Apply］をクリックします。

● OS が Linux の場合

1　スーパーユーザでログインします。

2　PRIMERGY ドキュメント & ツール CD をセットし、以下のコマンドを実行します。

```
# mount /mnt/cdrom/
```

POINT

- **特定のアプリケーションがインストールされている場合には、CD-ROM のセットと同時に自動的にマウントされます。**

3　CD-ROM 内のユーティリティを起動します。

```
# /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/TOOLS/RSB_UTY/rsb_uty
```

4　「Serial Line Configuration」を選択します。

「Serial Line Configuration」については、「● ［Serial Line Configuration］タブ」（→ P.201）を参照してください。

5 項目の編集を選択します。

6 メッセージに従って各項目を設定します。

項目を入力後、【Enter】キーを押すと、以下の項目編集に移ります。
各項目の入力で【Enter】キーのみを押した場合、その項目の設定は変更されません。
全項目の設定が完了すると、「Serial Line Configuration」画面に戻ります。

7 設定を保存します。

8 「Serial Line Configuration」を終了します。

9 ユーティリティを終了します。

10 CD-ROM をアンマウントして、取り出します。

CD-ROM を取り出す前に、必ずアンマウントしてください。

```
# umount /mnt/cdrom/
```

●［Serial Line Configuration］タブ

設定項目	説明
The serial interface should be used at all	リモートサービスボードのシリアルインターフェースを使用するかしないかを設定します。 ・チェックボックス オン（デフォルト値） シリアルインターフェースを使用します。 ・チェックボックス オフ シリアルインターフェースを使用しません。
Connection Type	シリアルインターフェースの接続タイプを設定します。 ・direct（デフォルト値） RS-232C クロスケーブルで接続できます。 ・dial-out 管理コンソールから接続することはできませんが、ポケットベルへのアラート通知はできます。 ・dial-in 管理コンソールから接続することも、ポケットベルへのアラート通知もできます。 ・dial-in/out 呼び出しがあったときにコールバックできます。ポケットベルへのアラート通知もできます。 ・dial-in/out with extension 呼び出しがあったときにコールバックできます。ポケットベルへのアラート通知もできます。
Baud Rate	シリアルインターフェースの通信速度を設定します。
Init String	モデムの初期化コマンドを設定します。たとえば、管理コンソールから接続（dial-in）する場合、「AT¥N3S0=1&D0¥J0¥Q0¥V2」と設定します。
Dial-out Prefix	コールバック（dial-in/out または dial-in/out with extension）する際のモデムの初期化コマンドを設定します。たとえば、トーン回線で外線（0 発信）にコールバックする場合、「ATDT 0」と設定します。

設定項目	説明
Dial-out Number	コールバックする電話番号を設定します。
Dial-out Delay/ Callback Delay	呼び出しがあってからコールバックするまでの、待ち時間（秒）を設定します。
Use PPP	ダイヤルアップ接続時に、PPP を使用するかどうかを設定します。 管理コンソールからリモートサービスボードにダイヤルアップ接続する際は、「enabled 」を設定します。 ・enabled 　ダイヤルアップ接続時に、PPP を使用します。 ・disabled （デフォルト値） 　ダイヤルアップ接続時に、PPP を使用しません。 ダイヤルアップ接続時は、以下の IP アドレスが割り当てられます。 ・リモートサービスボード：192.168.0.11 ・管理コンソール：192.168.0.12

6.2.4 管理ユーザの設定

リモートサービスボードには、デフォルトで管理者権限をもつユーザ名「root」（パスワード「fsc」）が設定されています。セキュリティ確保のためにパスワードを必ず変更してください。

■ LAN インターフェースからのパスワード変更

1　サーバにログインします。

2　「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「Fujitsu ServerView」の順にクリックし、ServerView コンソールを起動します。

3　サーバ一覧にあるサーバのアイコンを選択し、「ファイル」メニュー→「サーバのプロパティ」の順にクリックします。

「プロパティの設定」画面が表示されます。

4　［リモートサービスボード］タブを選択し、［設定］をクリックします。

「ネットワークパスワード入力」画面が表示されます。

5　ユーザ名「root」とパスワード「fsc」を入力し、［OK］をクリックします。

リモートサービスボードの Web インターフェースが起動します。

6　［User Accounts］をクリックします。

［User Accounts］ページが表示されます。

7　［root］をクリックします。

ユーザ名「root」の［Account］ページが表示されます。

8　以下の項目を入力し、［Apply］をクリックします。

Old Password　　：fsc を入力します。
New Password　　：新しいパスワードを入力します。
Confirm New Password　：新しいパスワードを再度入力します。

パスワードが変更されます。

■ シリアルインターフェースからのパスワード変更

1　管理コンソールからリモートサービスボードへダイヤルアップ接続します。

2　Web ブラウザを起動し、アドレスバーに以下のいずれかのアドレスを入力します。

・http://192.168.0.11:< ポート番号（デフォルト 80）>（http が有効の場合）
・https://192.168.0.11:< ポート番号（デフォルト 443）>（https が有効の場合）
なお、初期状態では、ポート番号を指定する必要はありません。
「ネットワークパスワード入力」画面が表示されます。

3　ユーザ名「root」とパスワード「fsc」を入力し、［OK］をクリックします。

リモートサービスボードの Web インターフェースが起動します。

4　［User Accounts］をクリックします。

［User Accounts］ページが表示されます。

5　［root］をクリックします。

ユーザ名「root」の［Account］ページが表示されます。

6　以下の項目を入力し、［Apply］をクリックします。

Old Password　：fsc を入力します。
New Password　：新しいパスワードを入力します。
Confirm New Password　：新しいパスワードを再度入力します。
パスワードが変更されます。

6.3　各種監視情報の表示

Web インターフェースを使用して、サーバの監視情報を表示する方法について説明します。

6.3.1　Web インターフェースの起動

リモートサービスボードは、Web インターフェースをサポートしており、以下の Web ブラウザからアクセスできます。

- Internet Explorer（Version 4.0 以降）
- Netscape（Version 4.5 以降）

1　Web ブラウザを起動し、アドレスバーに以下のいずれかのアドレスを入力します。

・http://<IP アドレス >:< ポート番号（デフォルト：80）>（http が有効の場合）
・https://<IP アドレス >:< ポート番号（デフォルト：443）>（https が有効の場合）
「ネットワークパスワード入力」画面が表示されます。

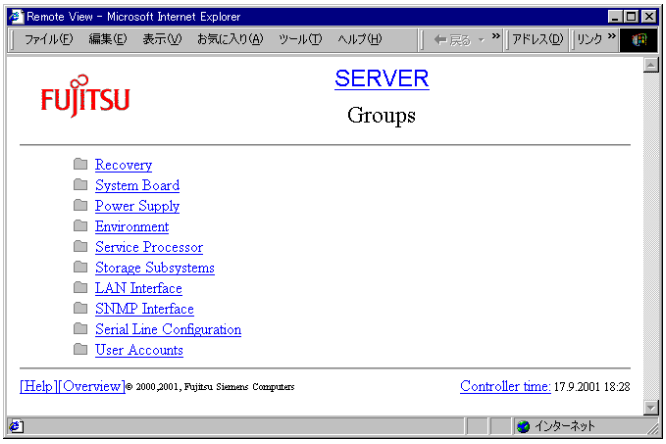
2　ユーザ名とパスワードを入力します。

認証されると、スタート画面が表示されます。

POINT

- **リモートサービスボードにダイヤルアップ接続している場合は、アドレスバーに「192.168.0.11」を入力します。**
- **ServerView コンソールから、Web インターフェースにアクセスすることもできます。**
  1. **サーバ一覧にあるサーバのアイコンを選択し、「ファイル」メニュー→「サーバのプロパティ」の順にクリックします。**
     「プロパティの設定」画面が表示されます。
  2. **［リモートサービスボード］タブをクリックし、［設定］をクリックします。**

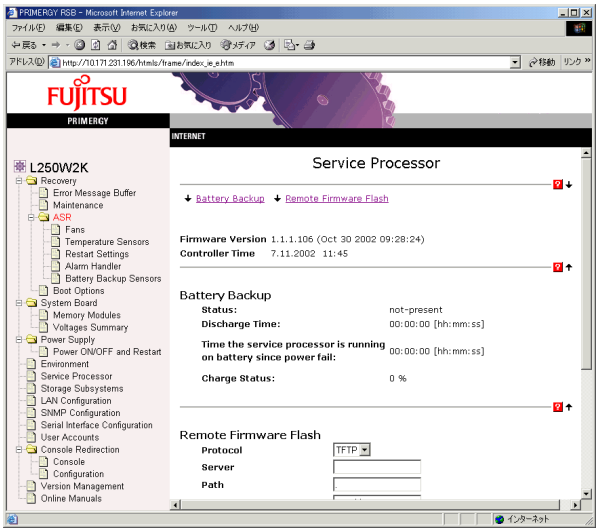
● **ファームウェアバージョン 0.X.X.XX の場合のスタート画面**



Web インターフェースは、すべてのページに共通のヘッダ領域とフッタ領域があります。
ヘッダ領域には、サーバ名と現在のページのタイトルが表示されます。
フッタ領域には、以下の 3 つのリンクが表示されます。

- ［Help］
  各インターフェースについてのヘルプ（英語）が表示されます。
- ［Overview］
  「6.3.2 ［Overview］ページ」（→ P.206）が表示されます。
  Web インターフェース内を簡単に移動するには、［Overview］のリンク先にあるスタート画面の拡張オプションを利用します。
- ［Controller time］
  リモートサービスボードの時間を確認できる［Service Processor］ページが表示されます。

● ファームウェアバージョン 1.X.X.XX の場合のスタート画面



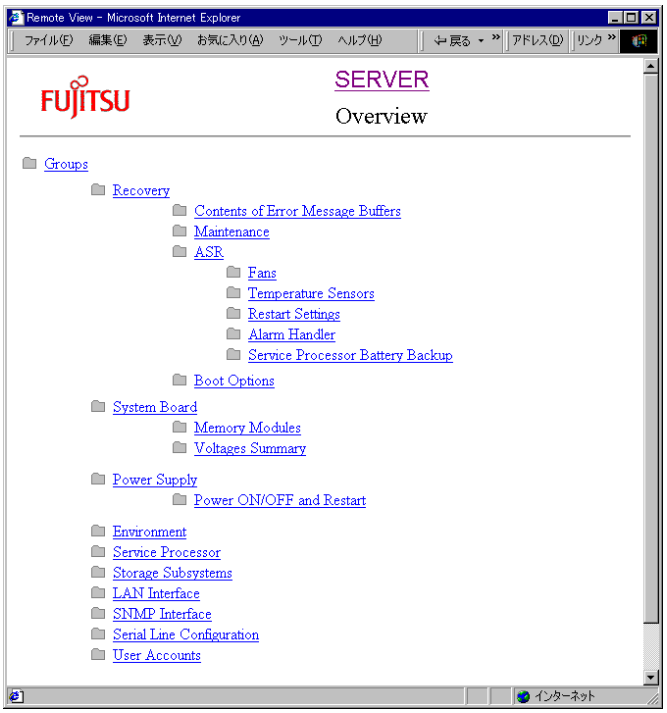
Web インターフェースは、すべてのページに共通のヘッダ領域とフッタ領域、画面左側の各機能グループへのリンク領域があります。
ヘッダ領域には、現在のページのタイトルが表示されます。
フッタ領域には、以下のリンクが表示されます。

- ［Controller time］
  リモートサービスボードの時間を確認できる［Service Processor］ページが表示されます。

画面左側には、サーバ名と各機能グループへのリンクが表示されます。

6.3.2 ［Overview］ページ

［Overview］ページでは、すべての機能グループへのリンクが展開された形で表示されます。メニュー構成は、サーバにより異なる場合があります。



監視中のサーバで ServerView エージェントが稼動している間は、Web インターフェースで以下の機能を利用できます。

項目	説明
［Recovery］	ログを表示したり、異常発生時のアクションとアラームハンドラなどを設定したりします。詳細については、「6.3.3［Recovery］ページ」（→ P.208）を参照してください。
［Contents of Error Message Buffers］	エラーログとイベントログが表示されます。
［Maintenance］	CMOS バッテリの使用期限とファンの状態に関する情報が表示されます。
［ASR］	以下のページへのリンクが表示されます。 ・［Fans］ ・［Temperature Sensors］ ・［Restart Settings］ ・［Alarm Handler］ ・［Service Processor Battery Backup］
［Boot Options］	電源の投入／切断の理由と起動状態が表示されます。
［System Board］	サーバのベースボード、CPU、メモリモジュール、電圧に関する情報が表示されます。
［Memory Modules］	メモリモジュールに関する情報が表示されます。
［Voltages Summary］	電圧に関する情報が表示されます。

項目	説明
［Power Supply］	サーバの電源ユニットの状態に関する情報が表示されます。
［Power ON/OFF and Restart］	電源 ON/OFF タイマーを設定します。
［Environment］	温度、ファン、カバーの状態に関する情報が表示されます。 温度異常、ファン故障時のアクションを設定できます。
［Service Processor］	バッテリパックの状態が表示されます。また、リモートサービスボードのファームウェアをリモートで更新する操作を行います。ただし、バッテリパックとファームウェアのリモート更新機能はサポートしていません。
［Storage Subsystems］	リモートサービスボードを搭載した外部記憶装置と電源連動を行う情報を設定します。詳細については、「6.3.4 ［Storage Subsystems］ページ」（→ P.217）を参照してください。
［LAN Interface］	リモートサービスボードの IP アドレスや、HTTP および Telnet のポート番号など、LAN インターフェースを設定します。 各項目の詳細は、「■ LAN インターフェースの設定」（→ P.197）を参照してください。
［SNMP Interface］	SNMP コミュニティとトラップの送信先を設定します。 ［New Community］をクリックすると、新しいコミュニティを作成できます。 ［New Trap Destination］をクリックすると、新しい送信先を作成できます。 ServerView コンソールから設定の変更を行う場合は、「Permissions」に「read/write」を指定してください。
［Serial Line Configuration］	シリアルインターフェースおよびシリアルインターフェースに接続するモデムの設定ができます。データ形式は内部的に 8N1（データビット = 8、パリティビット = なし、ストップビット = 1）に設定されます。 シリアルインターフェースを利用する場合は、「The serial interface should be used at all」をチェックします。 各項目の詳細については、「■ シリアルインターフェースの設定」（→ P.200）を参照してください。
［User Accounts］	新しいユーザ名の作成、パスワードと権限の設定、既存のユーザアカウントの削除などが行えます。ユーザ名に権限を設定しないと、そのユーザは読み取りアクセスしか許可されません。 既存のユーザ名または［New User Account］をクリックすると、ユーザアカウントを変更または新規作成できる［Account］ページが表示されます。
［Console Redirection］	Console Redirection を使用する場合に選択します。 PRIMERGY T850 およびバージョン 1.X.X.XX のファームウェアでのみ表示されます。詳細については、「6.3.5 ［Console Redirection］ページ」（→ P.218）を参照してください。
[Disk Redirection]	当機能は未サポートです。

項目	説明
［Version Management］	インベントリ情報が表示されます。
［Online Manuals］	各インターフェースについてのヘルプ（英語）が表示されます。
［LMC Status/Restart］	PRIMERGY T850 のみ表示されます。 現在の LMC の接続状態が表示されます。［Restart LMC］をクリックすると、LMC を再スタートできます。ただし、LMC の状態が異常（Broken と表示）の場合、かつサーバの電源を切断した状態で行ってください。なお、LMC の状態が異常の場合には、各情報（ファン情報、メモリ情報など）は正しく表示されず、各操作（電源／リセット操作など）も実行できません。

POINT

- **ServerViewエージェントが稼働中に、ServerViewコンソールからASR設定や電源の投入／切断などを行う場合、他の設定を変更する場合は、サーバのシステム上で「FUJITSU SERVER」グループに所属するユーザアカウントと同一のユーザ名とパスワードを持つユーザアカウントを、リモートサービスボードにも作成してください。ユーザアカウントの作成については、「2.4.4 管理ユーザの設定」（→P.59）を参照してください。**

重 要

- **［Console Redirection］ページ、［LMC Status/Restart］ページの機能は、システム管理コントローラが行います。これらのメニューを選択したとき、システム管理コントローラのユーザ名／パスワード入力画面が表示されることがありますので、リモートサービスボードの基本ユーザアカウント（User Accounts の最初のエントリ）に設定したユーザ名／パスワードを入力してください。**
入力後、システム管理コントローラの Web ブラウザ（Advanced System Management）が開きますので、いったん閉じてから、再度メニューを選択してください。

6.3.3 ［Recovery］ページ

［Recovery］ページでは、ログを表示したり、異常発生時のアクションとアラームハンドラなどを設定したりできます。リモートサービスボードは、サーバの異常な運用ステータスを検出すると、ユーザが設定した方法に従って対処します。たとえば、サーバがオーバーヒートし始めたときには自動的にシャットダウンし、指定した時間を経過したら再起動するように、設定することができます。
［Recovery］ページには、以下のページへのリンクが表示されます。

■ ［Contents of Error Message Buffers］

［Contents of Error Message Buffers］をクリックすると、［Contents of Error Message Buffers］ページが表示され、リモートサービスボードに記録されたエラーログとイベントログを確認できます。サーバで ServerView エージェントが稼動している間は、サーバに記録されたエラーログとイベントログも同時に確認できます。エラーログは、「Critical Error Message」というタイトルで表示され、イベントログは、「Non-critical Error Message」というタイトルで表示されます。

■［Maintenance］

［Maintenance］ページでは、ベースボードの CMOS バッテリの使用期限やファンの状態に関する情報を確認できます。また、ファンの障害時のアクションを設定することもできます。

■［ASR］

［ASR］ページでは、ファン、温度、再起動時の動作、アラームハンドラの設定に関する情報を確認できます。
［ASR］ページには、以下のページへのリンクが表示されます。

●［Fans］

［Fans］ページでは、ファンの状態の表示と、ファン故障時のアクションを設定することができます。ファン故障の予兆監視のために、設定された時刻（Check Time）になると、ファンの動作テストが行われます。
アクションには、以下のオプションがあります。

- continue
  ファン故障時にもサーバを継続稼動させます。
- shutdown and poweroff
  ファン故障が発生すると、一定の遅延（delay）時間の後にサーバをシャットダウンします。故障したファンが、遅延時間内に復旧すると、シャットダウンは中止されます。

●［Temperature Sensors］

［Temperature Sensors］ページでは、温度の表示と、温度異常時のアクションを設定することができます。アクションには、以下のオプションがあります。

- continue
  温度異常時にもサーバを継続稼動させます。
- shutdown-power off
  温度が危険（Critical-Level）な値に達すると、サーバをシャットダウンします。

●［Restart Settings］

［Restart Settings］ページでは、自動再起動を実行する条件や OS ハングなどを検出するウォッチドッグを設定します。

- Action after Power Failure
  停電などの電源異常時のアクションを設定します。たとえば、停電により電源切断した後に停電から回復した場合、自動的に電源を投入するように設定することができます。アクションには、以下のオプションがあります。
  - ・Previous state または Previous server state
    サーバを再起動（復電）します。ただし、サーバの電源が切断状態の場合は、再起動しません。
  - ・Don’t restart server
    サーバを再起動（復電）しません。
  - ・Restart server
    サーバを再起動（復電）します。

・Automatic Power on Delay <MM> Minutes

サーバを再起動するまでの遅延時間（delay：MM［分］）を指定します。

遅延時間は、高温異常時の場合などに、サーバを再起動（復電）する前に冷却するなどの目的で指定します。遅延時間は、「Don't restart server」を選択した場合にも有効で、ファン故障時や温度異常時に設定されたアクションによりサーバが自動シャットダウンした場合、設定した遅延時間後に自動的に再起動（電源投入）されます。

再起動は、最大で「Max Number of Reboot Tries」に設定された回数まで行われます。

・Max Number of Reboot Tries

ファン故障時や温度異常時に、設定されたアクションによりサーバが自動シャットダウンした場合の再起動回数の最大値を指定します。

- Action after exceeding reboot tries

Action after Power Failure による再起動（復電）、または Software/Boot Watchdog による再起動の最大リトライ回数と、再起動を最大リトライ回数繰り返した後のアクションを設定します。アクションには、以下のオプションがあります。

・Stop rebooting and power off

再起動を中止します。Software/Boot Watchdog による再起動の場合は、最大リトライ回数後にサーバの電源を自動的に切断します。

・Start diagnostic system

診断システムを起動します。本オプションは未サポートです。選択しないでください。

- Software Watchdog

サーバの OS ハング時のアクションを設定します。リモートサービスボードは、ServerView エージェントと定期的に通信することにより、OS ハングを監視します。ServerView エージェントとの通信が OS シャットダウン処理されずに途絶えた場合は、タイムアウト時間（timeout delay）後に OS ハングを検出し、アクションを実行します。アクションには、以下のオプションがあります。

・Reboot

再起動します。

・Continue

再起動しません。

・Power Cycle

再起動します。

POINT

- **Reboot ／ Power Cycle アクションを実行できるようにするには、サーバのシステムを以下のように設定する必要があります。**
  - **Windows 2003 の場合**
    コントロールパネルの［システム］アイコンをダブルクリックし、［詳細設定］タブ画面の［起動と回復］の［設定］をクリックし、「自動的に再起動する」のチェックをはずします。
  - **Windows 2000 の場合**
    コントロールパネルの［システム］アイコンをダブルクリックし、［詳細］タブ画面の［起動 / 回復］をクリックし、「自動的に再起動する」のチェックをはずします。
  - **Windows NT の場合**
    コントロールパネルの［システム］アイコンをダブルクリックし、［起動 / シャットダウン］タブ画面で「自動的に再起動する」のチェックをはずします。

- Boot Watchdog
  サーバの OS 起動失敗時のアクションを設定します。リモートサービスボードは、サーバの POST が終了してから、ServerView エージェントが起動するまでの間隔を監視することにより、サーバの OS 起動を監視します。サーバの POST が終了してから、タイムアウト時間（timeout delay）の間に、リモートサービスボードと ServerView エージェントとの通信が開始されない場合、OS 起動失敗を検出し、アクションを実行します。アクションには、以下のオプションがあります。
  ・Reboot
  再起動します。
  ・Continue
  再起動しません。
  ・Power Cycle
  再起動します。

●［Alarm Handler］

［Alarm Handler］ページでは、アラームハンドラの設定全体を確認できます。このページでは、アラームハンドラの有効化（Enabled）／無効化、テスト送信（Test Alarm）、削除（Delete）ができます。［Create］をクリックすると、目的の形式の新しいアラームハンドラを設定できます。該当するリンクをクリックすると、アラームハンドラの設定ページに移動します。テスト送信する場合は、「Enabled」をチェックし、［Apply］をクリックしてから、［Test Alarm］をクリックします。
アラームハンドラの設定は、タイプにより異なります。アラームハンドラには、以下のタイプがあります。

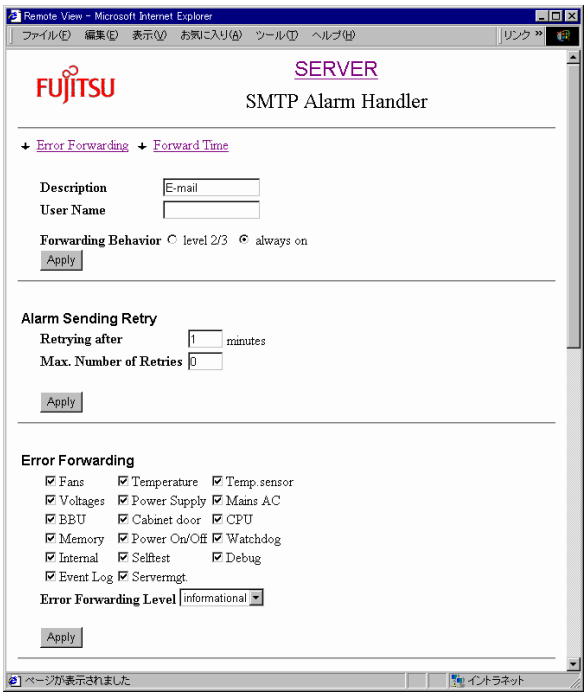
- signal（シグナル式ポケットベル用）
- numeric（数字式ポケットベル用）
- alpha（英数字式ポケットベル用）
- sms（ポケットベルまたは携帯電話への SMS メッセージ用）
- docomo（NTT DoCoMo のポケットベル用）
- smtp（SMTP メール用）

POINT

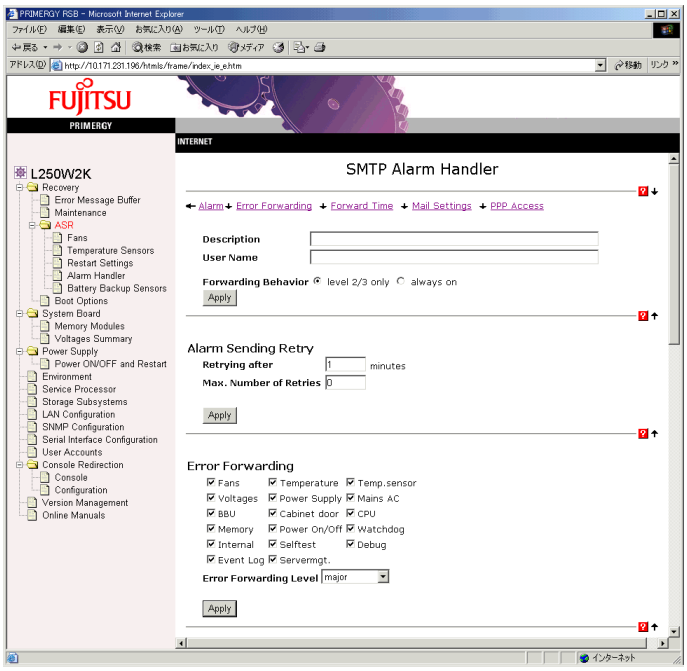
- **日本国内では、以下のタイプだけ使用できます。その他のタイプは、使用しないでください。**
  - docomo
  - smtp

選択項目が多いため、アラームハンドラの設定ページは複数のセクションに分かれていて、各セクションを個別に変更できます。
以降の説明では、smtp を一例として取り上げます。docomo については、smtp とは異なるオプションのみ説明します。

○ファームウェアバージョンが 0.X.X.XX の場合の画面



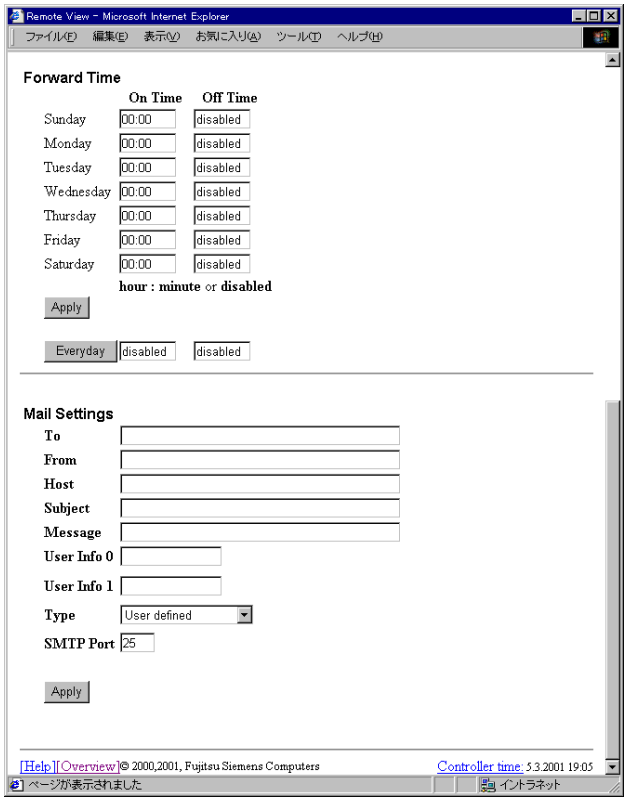
○ファームウェアバージョンが 1.X.X.XX の場合の画面



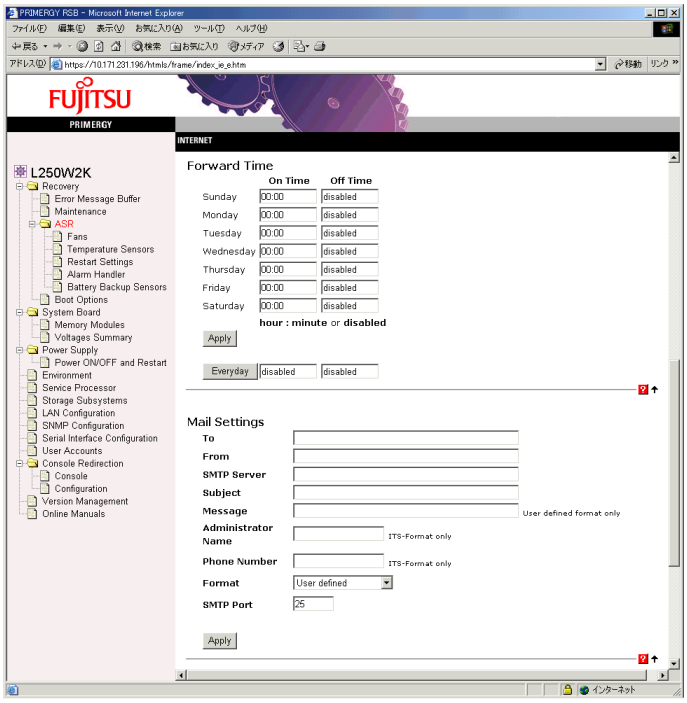
- ［Description］
  任意の名前を入力します。ここに入力した文字列は、［Alarm Handler］ページの 2 番目の欄に表示されます。

- ［User Name］
  ユーザ名を入力します。［Description］を入力していない場合は、ここに入力したユーザ名が［Alarm Handler］ページの 2 番目の欄に表示されます。
- ［Forwarding Behavior］
  サーバで ServerView エージェントが稼動していない場合のみアラームを送信する（［level 2/3］）か、常にアラームを送信する（［always on］）かを選択します。
- Alarm Sending Retry
  失敗した送信を再試行する間隔（［Retrying after <MM> minutes］）と、送信の最大試行回数（［Max. Number of Retries］）を設定します。
- Error Forwarding
  送信するアラームのフィルタを設定します。アラームハンドラでは、アラームグループとエラーレベルで送信するアラームをフィルタできます。エラーレベルのフィルタにより、指定したレベルより重要度の低いアラームを送信しないようにできます。

○ファームウェアバージョンが 0.X.X.XX の場合の画面



○ファームウェアバージョンが 1.X.X.XX の場合の画面



- Forward Time

  アラームハンドラを有効にする時間帯を設定します。平日、週末、夜間など時間帯に応じて、異なる送信先にアラームを送信することもできます。

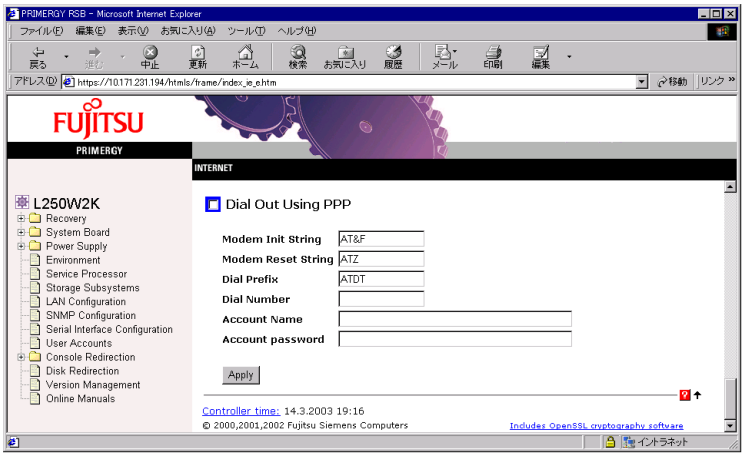
  各曜日ごとに「On Time」と「Off Time」を設定できます。時間帯を指定せずに、常に送信したい場合は、「On Time」に「00:00」、「Off Time」に「disabled」を指定します。

- Mail Settings

  メール送信に関する設定を指定します。

設定項目	説明
［To］	受信側の電子メールアドレスを入力します。
［From］	送信側の電子メールアドレスを入力します。
［Host］ ［SMTP SERVER］	SMTP サービスにアクセスするために使用するホストを入力します。
［Subject］	電子メールの件名を入力します（日本語は使用できません）。
［Message］	メッセージを入力します（日本語は使用できません）。
［User Info 0/1］ ［Administrator Name］ ［Phone Number］	ITS format 用の情報を入力します。
［Type］ ［Format］	メッセージのタイプを選択します。以下の値の中から選択できます。 ・User defined：一般的なタイプのメール ・ITS：ITS フォーマットメール（未サポート。使用しないでください。） ・Fujitsu REMCS Mail：富士通 REMCS メール（未サポート。使用しないでください。）
［SMTP Port］	SMTP サービスにアクセスするためのポート番号を入力します。

○ファームウェアバージョンが 1.X.X.XX の場合の画面



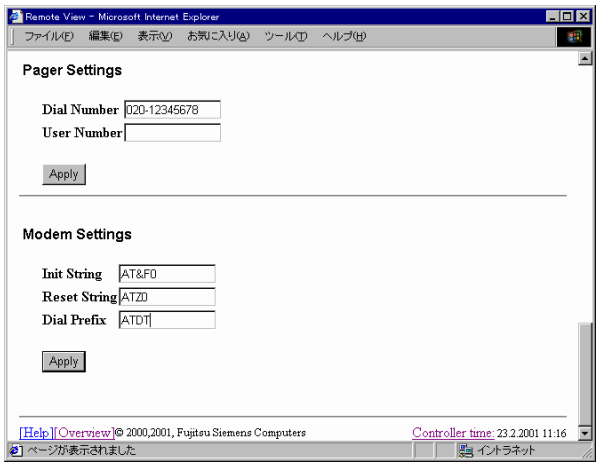
- Dial Out Using PPP

  E-Mail を PPP 接続で送信します。

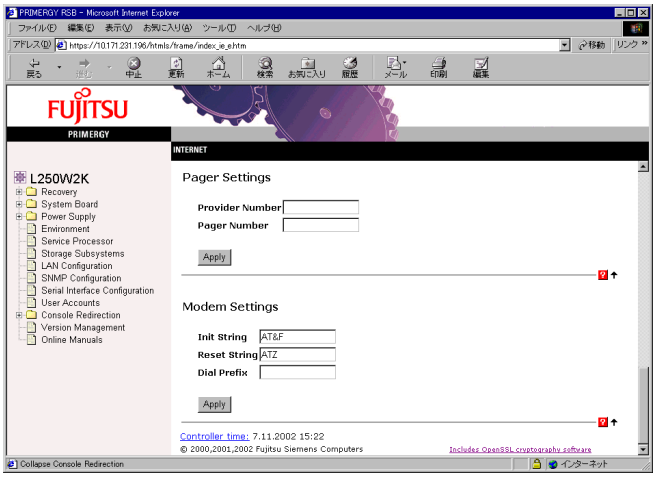
  本機能は、未サポートです。設定を有効にしないでください。

NTT DoCoMo アラームハンドラでは、SMTP アラームハンドラの「Mail Settings」の代わりに、以下の項目を設定します。

○ファームウェアバージョンが 0.X.X.XX の場合の画面



○ファームウェアバージョンが 1.X.X.XX の場合の画面



- Pager Settings

設定項目	説明
［Dial Number］ ［Provider Number］	ポケット電話サービスを呼び出すために使用する電話番号を入力します。
［User Number］ ［Pager Number］	呼び出すユーザの番号を入力します（入力不要）。

- Modem Settings

設定項目	説明
［Init String］	モデムの初期化コマンドを入力します（例：AT&F0）。
［Reset String］	モデムのリセットコマンドを入力します（例：AT&Z0）。
［Dial Prefix］	ダイヤルモードのコードを入力します。たとえば、ダイヤル方法がパルスの場合は「ATDP」、トーンの場合は「ATDT」と入力します。

ポケットベルに送信されるメッセージのフォーマットは、ServerView のアラームサービスと同様です。メッセージのフォーマットの詳細については、「3.2.1 アラーム設定」（→ P.85）を参照してください。

●［Service Processor Battery Backup］

［Service Processor Battery Backup］ページでは、リモートサービスボードに搭載するバッテリパックの状態が表示されます。
ただし、バッテリパックはサポートしていません。また、本ページは表示されない場合があります。

■［Boot Options］

［Boot Options］ページでは、電源の投入／切断の理由と起動結果に関する情報が表示されます。表示される情報は、以下のとおりです。

- Error Halt Settings
  サーバの POST 時にエラーが発生した場合の動作の設定が表示されます。
- Current Boot
  現在の起動状態が表示されます。たとえば、サーバで ServerView エージェントが稼動している場合は、os-running と表示されます。
- Current Boot Result
  POST の結果が表示されます。
- Last Power On Reason ／ Last Power Off Reason
  直前の電源投入および電源切断の結果が表示されます。
- Last Server Boot Result
  前回のシステムの起動の結果が表示されます。

6.3.4 ［Storage Subsystems］ページ

［Storage Subsystems］ページでは、リモートサービスボードを搭載した外部記憶装置と電源連動を行う情報を設定します。
［New Storage Subsystem］をクリックすると、連動させる対象装置を新規作成する［Storage Subsystems］ページが表示されます。
［Change］または［Delete］をクリックすると、既存の設定を変更または削除できます。
［Storage Subsystems］ページでは、以下の設定を行います。

- ［Name］
  対象装置のリモートサービスボードに設定されたユーザアカウントの Name を設定します。
- ［Old Password］
  対象装置のリモートサービスボードに設定されたユーザアカウントのパスワードを設定します。本設定は、［Change］をクリックすると表示されます。
- ［New Password］
  対象装置のリモートサービスボードに設定されたユーザアカウントのパスワードを設定します。
- ［Confirm New Password］
  ［New Password］に設定したパスワードを再度設定します。
- ［IP Address］
  対象装置のリモートサービスボードに設定された IP アドレスを設定します。
- ［Port］
  Port 番号を設定します。
- ［Startup Delay］
  対象装置の電源を投入する遅延時間を設定します。
- ［Retry Count］
  対象装置の電源投入／切断処理が失敗した場合のリトライ数を設定します。
- ［Retry Interval］
  対象装置の電源投入／切断処理が失敗した場合のリトライの間隔を設定します。

POINT

- 本情報を設定したサーバ（以下、管理装置と記述します）の電源が投入／切断された場合、対象装置の電源が投入／切断されます。ただし、サーバは対象装置となりません。
- 同一対象装置を設定した管理装置が複数台ある場合、以下のように動作します。
  - ・管理装置のいずれか 1 台の電源が投入された場合、対象装置の電源が投入されます。
  - ・管理装置のすべての電源が切断された場合、対象装置の電源が切断されます。

重 要

- 本情報を新規に作成した場合、電源制御は次回の管理装置の電源投入時から有効となります。
- 本情報を削除した場合、対象装置は管理装置が電源切断されたものと見なします。
- 対象装置を変更する場合、本情報は削除してください。その後、本情報を新規に作成してください。
- 本情報は、管理装置・対象装置であるサーバ・拡張ディスク装置の電源が切断されている状態で設定（作成、変更、削除）することをお勧めします。
- 本機能により対象装置の電源制御を行う場合、対象装置のリモートサービスボードに設定されているユーザアカウントには、以下の権限が許可されている必要があります。
  Reset/Switch off

6.3.5 ［Console Redirection］ページ

［Console Redirection］ページでは、サーバのコンソールリダイレクションや操作が行えます。本メニューは、PRIMERGY T850 およびバージョン 1.X.X.XX のファームウェアでのみ表示されます。

● PRIMERGY T850 の場合

重 要

- コンソールリダイレクションを使用する場合は、サーバの BIOS メニューでコンソールリダイレクションのパスワードが設定されている必要があります。
  パスワード設定は、以下の BIOS セットアップのメニューで行います。
  ［System Security］-［Remote Control Security Settings］-［Enter Remote Control Password］

［Console Redirection］ページには、以下のメニューがあります。

- ［Redirect Server Console］
  サーバ動作中の表示や操作が行えます。

重 要

- **Redirection 画面の表示色数は 256 色固定です。**
- **Redirection 画面からサーバディスプレイの設定を変更しないでください。**
  また、管理端末とサーバの画面解像度が異なる場合、画面の一部が表示されない場合があります。
- **Redirection画面上部に表示されるNum Lock／Caps Lock／Scroll Lockキーは使用できません。**
  また、Text Mode を Redirection 中は、その他の画面上部に表示される特殊キーも使用できません。
- **日本語キーボード特有の操作（日本語 FEP への切り替えなど）は行えません。**
- **Text Mode を Redirection 中は、罫線などの 2 バイトコードは正しく表示されません。**
- **Redirection 接続時に、Redirection 画面に何も表示されない場合があります。この場合は、サーバを再起動してください。**

- ［View Remote POST］
  サーバを再起動し、サーバの POST の表示やキー操作が行えます。
  現在、本機能は正しく動作しません。POST の Redirection を行う場合は、以下の手順で操作してください。
  1. サーバの電源を切断します（リモートでの電源切断も可能です）。
  2. ［Redirect Server Console］からログインします。
  3. サーバの電源を投入します（リモートでの電源投入も可能です）。
- ［View Windows Blue Screen］
  過去に発生した Windows ブルースクリーン画面を表示します。
  ブルースクリーン画面を表示させるには、ウォッチドック監視（Software Watchdog）を有効にしておく必要があります。
- ［Console LogOFF］
  コンソールリダイレクションを終了する場合に、必ずログオフしてください。
  これは、セキュリティ上重要な操作です。
- ［Set Remote Control Keys］
  コンソールリダイレクションで使用する特殊キーを別のキーに割り当てることができます。現在、本機能は未サポートです。

● ファームウェアバージョン 1.X.X.XX の場合

重 要

- **コンソールリダイレクションを使用する場合は、コンソール側で使用されるブラウザに** Java(TM)2 Runtime Environment **が必須となります。本機能が推奨する環境は、以下のとおりです。**
  - Internet Explorer（Version 5.5 SP2 **以降**）＋ Java(TM) 2 Runtime Environment, Standard Edition 1.4.1_02 **以降**（JRE1.4.1_02 **以降**）
  - Netscape（Version 6.2 **以降**）＋ Java(TM) 2 Runtime Environment, Standard Edition 1.4.1_02 **以降**（JRE1.4.1_02 **以降**）

  上記 JRE **はドキュメント＆ツール** CD **の以下に格納されています。**
  ［CD-ROM **ドライブ**］**:**\SVMANAGE\TOOLS\j2re-1_4_1_02-windows-i586-i.exe

［Console Redirection］ページには、以下のメニューがあります。

- ［Console］
  サーバ動作中の表示や操作が行えます。［Console］をクリックすると、AVR ウインドウが表示されます。AVR ウインドウからアプレットウインドウが表示され、Console Redirection が実行されます。

  重 要

  - Console Redirection **を実行するためには、「**LAN Interface Configuration - Telnet - Redirection Source**」が「**VGAsnooping**」となっている必要があります。以下のサーバは、デフォルトが「**No Redirection**」となっているため変更が必要です。**
    - PRIMERGY H450 ／ R450 ／ H250
  - **使用する** Java **環境によって、**Console Redirection **開始前に、セキュリティ警告が表示されたり、ユーザ** ID **とパスワードの入力を求められたりします。ユーザ** ID **とパスワードは、**Web Interface **実行時のものと同じです。**
  - TextMode **を** Redirection **中は、画面下部に表示される特殊キーは使用できません。また、特殊キーは使用する** OS **によって動作しない場合があります。**
  - **特殊キー「**Reload Default Color Map**」「**Reload Current Color Map**」の機能は、**Console Redirection **時にサーバと管理端末の画面表示色（**256 **色等）が異なる場合、どちらの画面色で表示するかを設定します。**Current **は管理端末の画面の色、**Default **はサーバの画面の色で表示されます。**
  - **サーバと管理端末とで、画面表示色が極端に異なる場合は、アプレットウィンドウに何も表示されない場合があります。上記「**Reload Default Color Map**」を実行してください。**
  - **日本語キーボード特有の操作（日本語** FEP **への切り替えなど）は行えません。サーバ側で日本語入力を行いたい場合は以下のように設定してください。（例：**Microsoft IME**）**
    - **管理端末側** IME **を「直接入力」に設定する。**
    - **アプレットウインドウ上のタスクバーの** IME **アイコンを右クリックし、サーバ側** IME **を「ひらがな」などに変更する。**
  - Text Mode **を** Redirection **中は、罫線などの** 2 **バイトコードは正しく表示されません。**
  - Console Redirection **では、同一サーバに対して複数のコンソールでの使用はできません。**

- ［Configuration］
  Console Redirection 使用時のキーボード、マウスについて設定します。
  Mouse handling では Slow を選択してください。Midium、Fast は選択しないでください。

6.4　ダイヤルアップ接続

リモートサービスボードにモデムを接続すると、ダイヤルアップ接続できるようになります。

POINT

- **ダイヤルアップ接続すると、以下の IP アドレスが割り当てられます。**
  リモートサービスボード：192.168.0.11
  管理コンソール　　：192.168.0.12

管理コンソールからリモートサービスボードにダイヤルアップ接続を行う場合、以下の設定を行います。

■ リモートサービスボードの設定

「■ シリアルインターフェースの設定」（→ P.200）に従って、シリアルインターフェースの設定を行います。推奨設定値は、以下のとおりです。

設定項目	設定値
Connection Type	dial-in
Baud Rate	38400
Init String	AT¥N3S0=1&D0¥J0¥Q0¥V2
Use PPP	enabled

■ 管理コンソールの設定

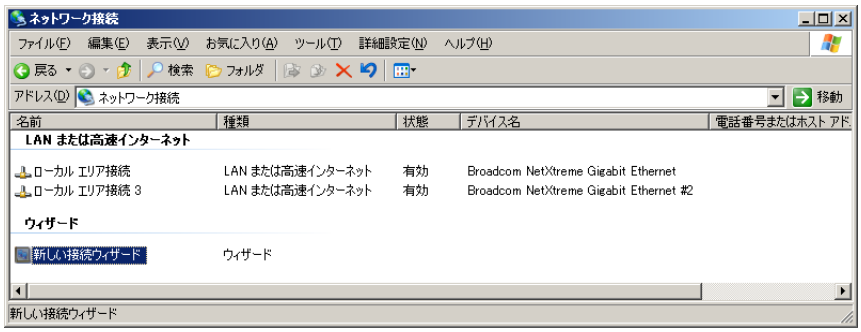
● Windows 2003 の場合

1　管理コンソールに管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。

2　「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

3　［ネットワーク接続］アイコンをダブルクリックします。

「ネットワーク接続」画面が表示されます。



4 **「新しい接続ウィザード」をダブルクリックします。**

「新しい接続ウィザード」画面が表示されます。

5 **［次へ］をクリックします。**

6 **「職場のネットワークへ接続する」をチェックし、［次へ］をクリックします。**

7 **「ダイヤルアップ接続」をチェックし、［次へ］をクリックします。**

8 **接続の名前を入力し、［次へ］をクリックします。**

9 **リモートサービスボードの電話番号を入力し、［次へ］をクリックします。**

10 **「自分のみ」をチェックし、［次へ］をクリックします。**

接続の作成が正常に完了した場合、「新しい接続ウィザードの完了」画面が表示されます。

11 **［完了］をクリックし、ウィザードを終了します。**

「XXX へ接続」（XXX は接続の名前）画面が表示されます。

12 **［プロパティ］をクリックします。**

「接続名のプロパティ」画面が表示されます。

13　各タブをクリックし、以下のように設定します。

●［オプション］タブ

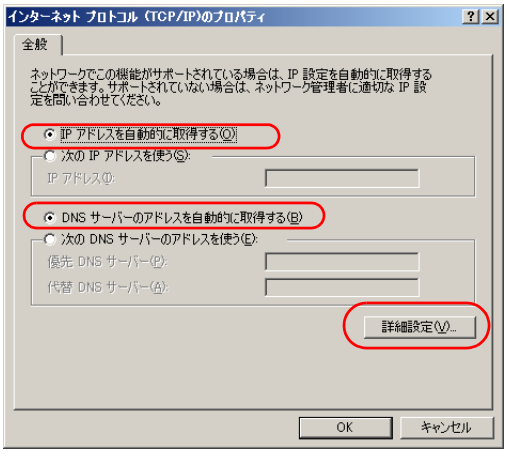
「名前、パスワード、証明書などの入力を求める」をチェックします。

●［セキュリティ］タブ

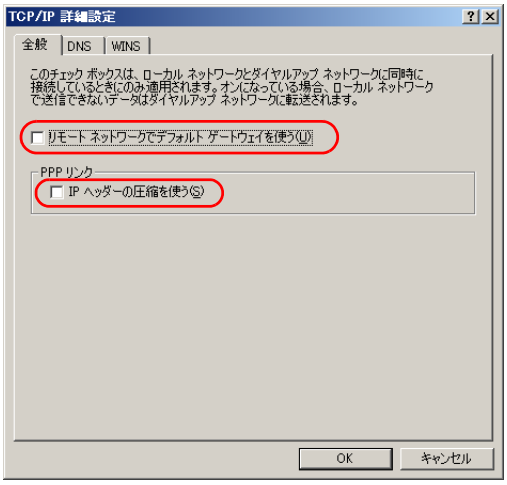
「標準（推奨設定）」をチェックします。

●［ネットワーク］タブ

1. 「PPP：Windows 95/98/NT4/2000, Internet」を選択し、「インターネットプロトコル（TCP/IP）」をチェックして、［プロパティ］をクリックします。
2. プロパティ画面で、「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をクリックし、［詳細設定］をクリックします。



3. TCP/IP　詳細設定画面で、「リモートネットワークでデフォルトゲートウェイを使う」と「IP ヘッダーの圧縮を使う」のチェックをはずし、［OK］をクリックします。



4. ［OK］をクリックします。

●［詳細設定タブ］

「ネットワークのほかのユーザーに、このコンピュータのインターネット接続をとおしての接続を許可する」のチェックをはずします。

14　各タブの項目を設定後、［OK］をクリックします。

15 **リモートサービスボードに設定したユーザ名とパスワード（デフォルト：root、fsc）を入力し、［ダイヤル］をクリックします。**
ダイヤルアップ接続が開始されます。

● **Windows 2000 の場合**

1 **管理コンソールに管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。**

2 **「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。**

3 **［ネットワークとダイヤルアップ接続］アイコンをダブルクリックします。**
「ネットワークとダイヤルアップ接続」画面が表示されます。

4 **「新しい接続の作成」をダブルクリックします。**

「ネットワークの接続ウィザード」画面が表示されます。

5 **［次へ］をクリックします。**

6 **「プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する」をチェックし、［次へ］をクリックします。**

7 **リモートサービスボードの電話番号を入力し、［次へ］をクリックします。**

8 **「自分のみ」をチェックし、［次へ］をクリックします。**

9　接続の名前を入力し、［完了］をクリックします。

「XXX へ接続」（XXX は接続の名前）画面が表示されます。

10　［プロパティ］をクリックします。

「ダイヤルアップ接続」画面が表示されます。

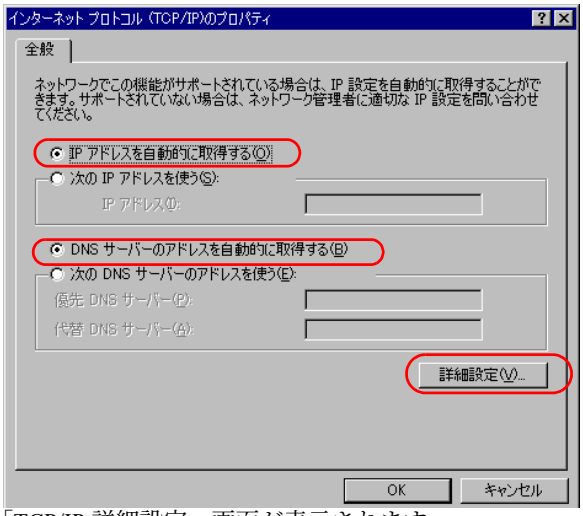
11　［オプション］タブで、「名前、パスワード、証明書などの入力を求める」をチェックします。

12　［セキュリティ］タブで、「標準（推奨設定）」をチェックします。

13　［ネットワーク］タブで、「PPP：Windows 95/98/NT4/2000, Internet」を選択し、「インターネットプロトコル（TCP/IP）」をチェックして、［プロパティ］をクリックします。

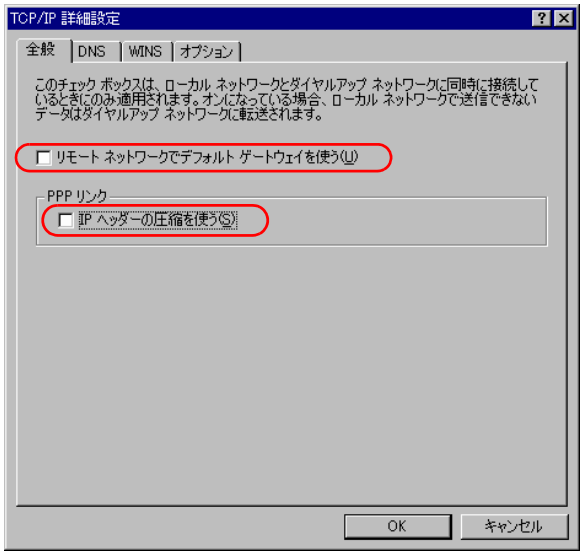
「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面が表示されます。

14　「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」をクリックし、［詳細設定］をクリックします。



「TCP/IP 詳細設定」画面が表示されます。

15 **［全般］タブで、「リモートネットワークでデフォルトゲートウェイを使う」と「IP ヘッダーの圧縮を使う」のチェックをはずし、［OK］をクリックします。**



「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面に戻ります。

16 **［OK］をクリックします。**

「ダイヤルアップ接続」画面に戻ります。

17 **［共有］タブで、「この接続でインターネット接続の共有を有効にする」のチェックをはずし、［OK］をクリックします。**

「XXX へ接続」（XXX は接続の名前）画面に戻ります。

18 **リモートサービスボードに設定したユーザ名とパスワード（デフォルト：root、fsc）を入力し、［ダイヤル］をクリックします。**

ダイヤルアップ接続が開始されます。

● Windows NT の場合

1 **管理コンソールに管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。**

2 **「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。**

3 **［ネットワーク］アイコンをダブルクリックします。**

「ネットワーク」画面が表示されます。

4　［サービス］タブの「リモートアクセスサービス」をクリックし、［プロパティ］をクリックします。

リモートアクセスサービスがインストールされていない場合は、［追加］をクリックして、リモートアクセスサービスをインストールしてください。
「リモートアクセスセットアップ」画面が表示されます。

5　［構成］をクリックします。

「ポート使用の構成」画面が表示されます。

6　「ダイヤルアウトのみ」または「ダイヤルアウトと着信」をクリックし、［OK］をクリックします。

「リモートアクセスセットアップ」画面が表示されます。

7　［ネットワーク］をクリックします。

「ネットワークの構成」画面が表示されます。

8　「ダイヤルアウトプロトコル」で「TCP/IP」をチェックし、［OK］をクリックします。

「リモートアクセスセットアップ」画面が表示されます。

9　［継続］をクリックします。

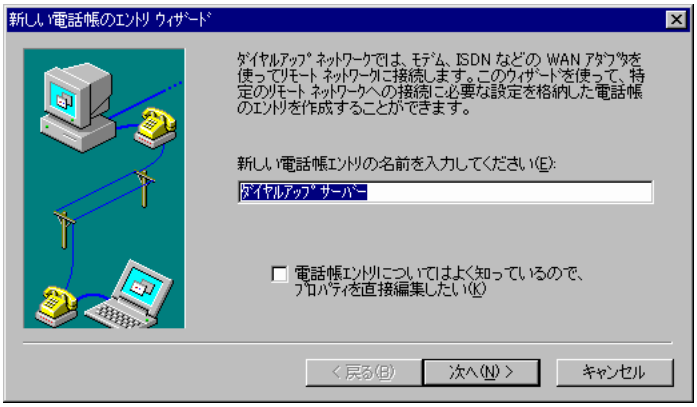
設定を変更しない場合は、［キャンセル］をクリックします。
「ネットワーク」画面が表示されます。

10　［閉じる］をクリックし、管理コンソールを再起動してログインします。

設定を変更しない場合は、［キャンセル］をクリックします。

11　「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「ダイヤルアップネットワーク」の順にクリックします。

12 **「所在地情報」画面が表示された場合は、各項目を入力し、［閉じる］をクリックします。**
「ダイヤルアップネットワーク」画面が表示された場合は、［新規］をクリックします。
「新しい電話帳のエントリウィザード」画面が表示されます。

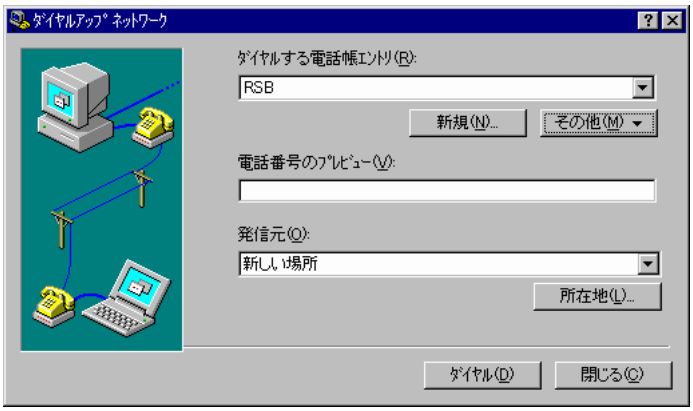


13 **新しい電話帳のエントリの名前を入力し、［次へ］をクリックします。**
「サーバー」画面が表示されます。

14 **いずれの項目も選択せずに、［次へ］をクリックします。**
「電話番号」画面が表示されます。

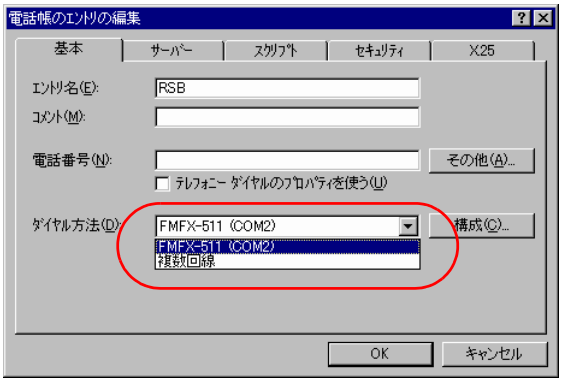
15 **リモートサービスボードの電話番号を入力し、［次へ］をクリックします。**

16 **［完了］をクリックします。**
「ダイヤルアップネットワーク」画面が表示されます。



17 **［その他］をクリックし、「エントリとモデムのプロパティの編集」をクリックします。**
「電話帳のエントリの編集」画面が表示されます。

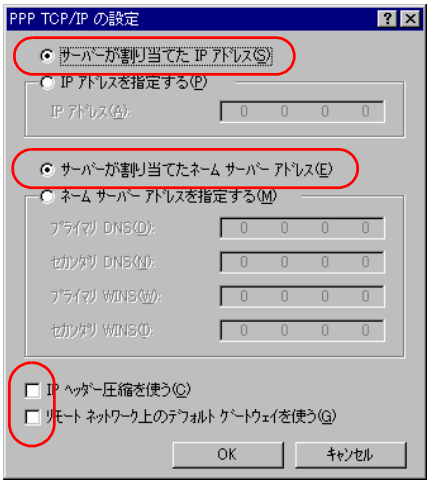
18　**［基本］タブで、「ダイヤル方法」から使用するモデムをクリックします。**



19　**［サーバー］タブで、「PPP：Windows NT, Windows 95 Plus, インターネット」をクリックし、「TCP/IP」をチェックして、［TCP/IP の設定］をクリックします。**

「PPP TCP/IP の設定」画面が表示されます。

20　**「IP ヘッダー圧縮を使う」と「リモートネットワーク上のデフォルトゲートウェイを使う」のチェックをはずし、「サーバーが割り当てた IP アドレス」と「サーバーが割り当てたネームサーバーアドレス」をクリックし、［OK］をクリックします。**



「電話帳のエントリの編集」画面に戻ります。

21　**［スクリプト］タブで、「なし」をチェックします。**

22　**［セキュリティ］タブで、「クリアテキストを含む任意の認証を受け付ける」をチェックします。**

23　**［X25］タブで、「なし」をチェックし、［OK］をクリックします。**

「ダイヤルアップネットワーク」画面に戻ります。

24　**［ダイヤル］をクリックすると、ダイヤルアップ接続が開始されます。**

6.5　設定変更、退避、復元ツール

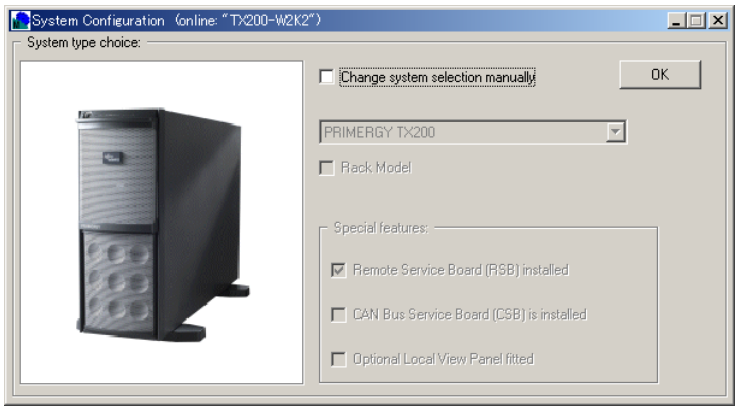
Configuration Tools を使用して、リモートサービスボード（リモートサービスコントローラ含む）の設定を、変更、退避、復元することができます。

6.5.1　Configuration Tools の起動

設定を変更する場合、以下の手順で操作します。

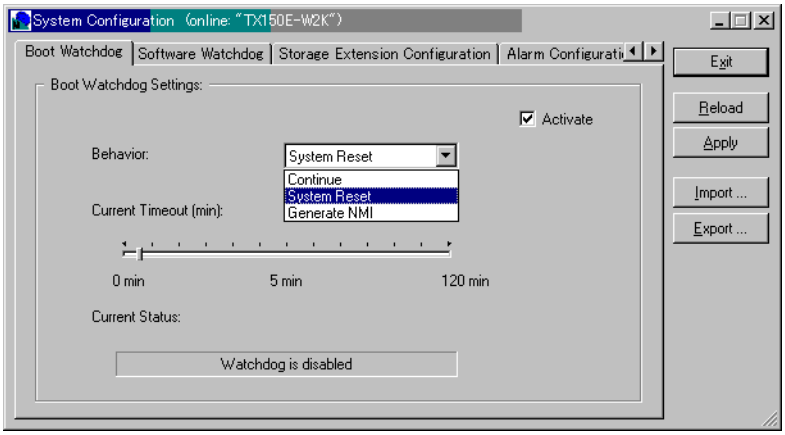
1　**「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Configuration Tools」→「System Configuration」の順にクリックします。**

「System Configuration」画面が表示されます。



2　**「Change system selection manually」、「Remote Service Board(RSB) installed」のチェックボックスにチェックを付け、［OK］をクリックします。**

項目を設定する画面が表示されます。



以下の設定項目（タブ画面）があります。

タブ画面	内容
Boot Watchdog	Boot Watchdog 関連の設定です。
Software Watchdog	Software Watchdog 関連の設定です。
Storage Extension Configuration	拡張外部装置関連の設定です。変更の必要はありません。
Alarm Configuration(Management Controller/RSB)	アラーム通知関連の設定です。リモートサービスボード／コントローラのみ有効です。
IP Configuration(Management Controller/RSB)	IP 関連の設定です。リモートサービスボード／コントローラのみ有効です。
Network Service Configuration (Management Controller/RSB)	HTTP/Telnet 関連の設定です。リモートサービスボード／コントローラのみ有効です。
Remote User Configuration (Management Controller/RSB)	ユーザアカウント関連の設定です。リモートサービスボード／コントローラのみ有効です。
SNMP Configuration(Management Controller/RSB)	SNMP 関連の設定です。リモートサービスボード／コントローラのみ有効です。
Serial Interface Configuration (Management Controller/RSB)	シリアル関連の設定です。リモートサービスボード / コントローラのみ有効です。
Disk Redirection	ディスクリダイレクション関連の設定です。リモートサービスボード／コントローラのみ有効です。（本機能は未サポートです。）
System Power On/Off Settings	電源スケジュールの設定です。リモートサービスボード／コントローラのみ有効です。
UPS Configuration	UPS 関連の設定です。

3　必要な操作後、［Exit］をクリックします。

設定値を変更して［Apply］をクリックしていない場合や、［Import］による設定値の読み込みを行った場合は、設定内容を保存するかどうかの確認メッセージが表示されます。

保存する場合は［はい］を、保存しない場合は［いいえ］をクリックします。
Configuration Tools が終了します。

6.5.2 設定を変更する

設定値を変更します。

1 Configuration Tools **を起動します。**

2 **設定する項目のタブをクリックし、項目を設定します。**
設定をやりなおしたいときは、［Reload］をクリックすると、すべての項目が元の設定値に戻ります。

3 **［Apply］をクリックします。**
設定が反映されます。

4 **［Exit］をクリックします。**
Configuration Tools が終了します。

6.5.3 設定を退避する

設定内容を、ファイルとして保存します。

1 Configuration Tools **を起動します。**

2 **［Export］をクリックします。**
「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。

3 **ファイル名、ファイルの保存先を設定し、［保存］をクリックします。**
ファイルが保存されます。

4 **［Exit］をクリックします。**
Configuration Tools が終了します。

6.5.4 設定内容の復元

設定内容を保存したファイルを読み込んで、各項目を設定します。

1 Configuration Tools **を起動します。**

2 **［Import］をクリックします。**
「ファイルを開く」画面が表示されます。

3 **読み込む設定ファイルを選択し、［開く］をクリックします。**
読み込んだ設定ファイルの設定値で項目が設定されます。

4 **［Exit］をクリックします。**
設定内容を保存するかどうかの確認メッセージが表示されます。

5　［はい］をクリックします。

設定の復元を中止する場合は［いいえ］をクリックしてください。
Cinfiguration Tools が終了します。

付録

この章では、トラブルシューティングやアンインストール方法など補足情報について説明しています。

付録 Aトラブルシューティング 236
付録 Bアンインストール 258
付録 Cアイコンリスト 261
付録 Dトラップリスト 270
付録 Eしきい値リスト 271
付録 F技術情報 277

付録 A　トラブルシューティング

ServerView を使用する上での留意事項や、エラーメッセージなどについて説明します。

A.1　インストールスクリプトのトラブルシューティング

インストールスクリプトは、インストールエラーを検出すると、エラーメッセージを表示して終了します。
下記の対処方法で解決しない場合は、「■ 手動での ServerView Linux のインストール」（→ P.38）を参照して、インストールスクリプトを使用しないインストールを実施してください。

エラー No.	エラーメッセージ 原因と対処方法
1001	login user is not root! Please try again as root.
	ログインユーザがスーパーユーザではありません。 スーパーユーザでログインし直してから、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。
1002 ～ 1003	kernel version is under 2.4
	カーネルのバージョンが 2.4 未満のためインストールできません。
1004	Not supported Distribution.
	サポート対象外のディストリビューションです。
1005	Available disk space is not enough.
	空きディスク容量が不足しています。
1006 ～ 1999	kernel version is under X.X.XX
	カーネルのバージョンが X.X.XX 未満のためインストールできません。 PRIMERGY でサポートするカーネルのバージョンについては、弊社情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページでご確認ください。 http://www.fmworld.net/biz/
2001 ～ 2999	"***" package is not installed.
	ServerView のインストールに必須の RPM パッケージがインストールされていません。 RedHat Linux の CD-ROM から "***" の RPM パッケージを再インストールした後、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。 RPM パッケージのインストール方法については、「■ 手動での ServerView Linux のインストール」（→ P.38）を参照してください。
4101	failure in "mv" command.
	Linux のシステムコマンドでエラーが発生しました。 「■ 手動での ServerView Linux のインストール」（→ P.38）を参照してインストールしてください。
4102	/etc/snmp/snmpd.conf is not exist.
	SNMP サービスの設定ファイルが見つかりませんでした。 以下のコマンドを実行した後、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。 # cp /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/snmpd.conf /etc/snmp/snmpd.conf

エラー No.	エラーメッセージ 原因と対処方法
4103 ～ 4401	failure in "***" command.
	Linux のシステムコマンドでエラーが発生しました。 「■ 手動での ServerView Linux のインストール」（→ P.38）を参照してインストールしてください。
4402	failure in "/etc/rc.d/init.d/snmpd start" command.
	snmp サービスの起動に失敗しました。 /etc/rc.d/init.d/snmpd ファイルが存在するかどうか確認してください。 存在しない場合は、RedHat LinuxOS の CD-ROM から ucd-snmp（Red Hat Linux 8.0 では net-snmp）の RPM パッケージを再インストールした後、ServerView のインストールスクリプトを実行してください。 RPM パッケージのインストール方法については、「■ 手動での ServerView Linux のインストール」（→ P.38）を参照してください。
6001	"srvmagt-eecd" installation failed.
	ServerView エージェント（srvmagt-eecd）のインストールに失敗しました。 以下のコマンドを実行して srvmagt-eecd のインストールを再試行してください。 # rpm -i /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/Agent/srvmagt-eecd-X.XX- XX.redhat.rpm （X.XX-XX はバージョンを示します。） # cd / # /etc/rc.d/init.d/eecd restart
6002	"srvmagt-agents" installation failed.
	ServerView エージェント（srvmagt-agents）のインストールに失敗しました。 以下のコマンドを実行して srvmagt-agents のインストールを再試行してください。 # rpm -i /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/Agent/srvmagt-agents-X.XX- XX.redhat.rpm （X.XX-XX はバージョンを示します。） # groupadd svuser # cp /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/config /etc/srvmagt/config # chmod 644 /etc/srvmagt/config # cd / # /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart
6003	"AlarmService" installation failed.
	AlarmService のインストールに失敗しました。 以下のコマンドを実行して AlarmService のインストールを再試行してください。 #cd /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/JAPANESE/Sv/ # ./InstallAlarmService AlarmServiceStarter-X.X-X.i386.rpm （X.X-X はバージョンを示します。）
6004	"WebExtension" installation failed.
	WebExtension のインストールに失敗しました。 以下のコマンドを実行して WebExtension のインストールを再試行してください。 # cd /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/JAPANESE/WebExt/ # ./InstallWebExtension WebExtensionStarter-X.X-X.i386.rpm （X.X-X はバージョンを示します。）
7001	failure in "groupadd" command.
	グループの作成に失敗しました。 以下のコマンドを実行してください。 # groupadd svuser

エラー No.	エラーメッセージ 原因と対処方法
7002	failure in copy default config file.
	ServerView エージェントのデフォルト設定ファイルのコピーに失敗しました。 以下のコマンドを実行してください。 # cp /mnt/cdrom/SVMANAGE/Linux/config /etc/srvmagt/ config # chmod 644 /etc/srvmagt/config # cd / # /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart
7003	failure in \"chmod\" command.
	/etc/srvmagt/config ファイルの権限の変更に失敗しました。 以下のコマンドを実行してください。 #chmod 644 /etc/srvmagt/config
7004	failure in "cd /" command.
	カレントディレクトリの変更に失敗しました。 以下のコマンドを実行してください。 # cd / # /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart
7005	failure in "/etc/rc.d/init.d/srvmagt restart" command.
	ServerView エージェント（srvmagt-agents）の再起動に失敗しました。 以下のコマンドを実行してください。 # cd / # /etc/rc.d/init.d/srvmagt restart
7006	failure in "cd /" command.
	カレントディレクトリの変更に失敗しました。 以下のコマンドを実行してください。 # cd / # /etc/rc.d/init.d/eecd restart
7007	failure in "/etc/rc.d/init.d/eecd restart" command.
	ServerView エージェント（srvmagt-eecd）の再起動に失敗しました。 以下のコマンドを実行してください。 # cd / # /etc/rc.d/init.d/eecd restart

A.2 管理コンソールのトラブルシューティング

■ 管理コンソールに関する Q&A

● 監視するサーバを指定するには？

ServerView Full の場合

TCP/IP を通して通信するサーバを設定する必要があります。
アプリケーションを起動すると、最初に「サーバの一覧」画面が表示されます。
「サーバの一覧」画面で［新しいサーバ］をクリックすると、サーバを設定できます。
続いて、サーバの IP アドレスと名前を入力する画面が表示されます（「3.1.2 監視対象サーバ（オブジェクト）の追加」（→ P.75）参照）。
LDSM 監視サーバの設定については、「4.1 LDSM 連携」（→ P.144）を参照してください。

ServerView Basic の場合

デフォルトでローカルマシンのみが監視対象になっています。
監視対象の追加はできません。

● 電源 OFF/ON のスケジューリング機能はできますか？

ServerView Full または ServerView Basic がインストールされているサーバでは、スケジューリング運転を行うことができます。
設定については、「● ［Power ON/OFF］タブ」（→ P.98）を参照してください。

重 要

- **この機能は、すべてのサーバでサポートされている訳ではありません。**
- **この設定は、スケジューリングを行うサーバの BIOS にも記憶されます。**
  スケジューリングを行っているサーバから ServerView をアンインストールする場合は、事前に必ず、スケジューリングを無効にしてください。スケジューリングを有効にしたまま ServerView をアンインストールすると、スケジューリングによる電源 OFF 処理において、サーバの OS をシャットダウンせずに電源 OFF される危険性があります。

■ 管理コンソールのトラブルシューティング

● サーバの状態が管理不可能アイコンで表示されている場合

サーバ名の前に「管理不可能」アイコンが表示された場合は、そのサーバと管理コンソールの設定を確認します。
以下の手順で確認できます。

1 **サーバの BIOS 設定において、Server Management 設定（Server メニュー）が「Enabled」に設定されていることを確認します。**

2 **BIOS の ASR&R 機能（Server メニュー）が、すべてのデバイスで起動されていることを確認します。**

3 **エージェントがすべてのサーバにインストールされており、かつ SNMP サービスがすべてのデバイスで起動されていることを確認します。**

● 画面のプロパティのサーバの図が正しく表示されない

画面のプロパティで画面の色を 256 色以下に設定した場合、ServerView または InventoryView 画面に表示されるサーバの図が正しく表示されないことがあります。
正しく表示するには、65536 色以上の環境でご使用ください。
なお、256 色の場合でも、サーバの写真の表示が色落ちするだけで、動作には問題ありません。

● アーカイブファイル、レポートファイルが作成されない

アーカイブファイルにデータが格納されていない、またはファイルが不完全な場合は、ディスクに空き領域がなくなったか、または ServerView によってディスクに空き領域がなくなったと判断された可能性があります。
Program Files¥Fujitsu¥F5FBFE01 内のエラーログファイル「ArchErr.log」で、アプリケーションに何らかのエラーが起きていないかどうかを確認します。ディスクに空き領域がないことが原因で ServerView が ArchErr.log ファイルに書き込みを行えない場合は、エラーダイアログが表示されます。

ディスクの空き領域がなくなった場合は、一部のファイルを移動することで問題を解決できます。ディスクに空き領域が残っている場合は、ServerView を再起動します。また、ファイルをチェックしてコンピュータを再起動する方法も有効です。

レポートファイルにデータが格納されていない場合も、上記と同じ理由が考えられます。

● リモートサービスボードを搭載したが ServerView に認識されない

ServerView をインストールした直後、またはリモートサービスボードを搭載した直後の OS 起動時に、リモートサービスボードが ServerView に認識されない場合があります。
OS を再起動してください。

● ServerView から MultiPath 画面が起動できない

Windows NT で DDM の MultiPath がインストールされている場合、エージェントの再インストールを行うと、ServerView から MultiPath 画面を起動できなくなります。
「2.3.7 オプション装置監視エージェントのインストール」（→ P.56）を参照してエージェントのアンインストールと再インストールを行った後、DDM の MultiPath の再インストールを行ってください。

● モデル名などが「Unknown」と表示される

ServerView 画面で、モデル名などが「Unknown」と表示される場合があります。
しばらく時間をおいてから、ServerView 画面の［更新］をクリックしてください。

また、上記の操作を行っても「Unknown」と表示される場合、以下の手順に従って操作してください。

1 **システムを再起動します。**

2 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Diagnostic Tools」→「Restart ServerView Base Services」の順にクリックします。**

3 **「Force Hardware Rescan」を有効にして、［Restart］をクリックします。**

重 要

- **通常は「Restart ServerView Base Services」を起動しないでください。**

●「電源／環境 」画面で情報が正しく表示されない

「電源／環境」画面では、情報が正しく表示されるまでに多少時間がかかる場合があります。
しばらく時間をおいてから、再度操作し直してください。

● エラーメッセージバッファの内容が表示されない

「アクション」画面で、エラーメッセージバッファの内容が表示されない場合があります。
しばらく時間をおいてから、再度操作し直してください。

● ServerView の起動に問題が発生した

ServerView の起動に問題が発生した場合は、ServerView ディレクトリの「CTTxxxx.tmp」（xxxx = 0000 ～ FFFF）ファイルを削除してください。

● デバイスの表示ができない

外部記憶装置のアダプタ名「Adaptec/DPT SCSI Raid 3200 Controller」を選択して「デバイスの表示」を行う場合は、各スロットごとに表示を確認してください。
「デバイスの表示」画面の「アダプタ上のシステムドライバ」の表示は、サポートしていません。

● ServerView でのリビルドの状況が表示されない

RAID0+1 構成において、ServerView でのリビルド状況は表示されません（0% 表示）。
RAIDmanager を使用して確認してください（StorageManager）。

● ［システム識別灯表示］が表示されない

監視対象機種が PRIMERGY C150 の場合

C150 にはシステム識別灯はありません。

監視対象機種が PRIMERGY C150 以外の場合

以下の手順でエージェントを再起動することにより、［システム識別灯表示］が表示されるようになります。

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Diagnostic Tools」→「Restart ServerView Base Service」の順にクリックします。**

「Restart Services」画面が表示されます。

2 **［Restart］をクリックします。**

3 **再起動が完了すると「Restart Services completed successfully!」と表示されるので、［Exit］をクリックしてください。**

重 要

- **通常は「Restart ServerView Base Services」を起動しないでください。**

● サーバが管理不可能と表示される

ネットワークあるいはコンピュータの負荷が高い場合、時間内に処理が終了せず、［管理不可能］アイコンが表示される場合があります。
この場合、以下の手順でポーリング間隔、タイムアウト値、更新間隔を変更し、負荷の低下、タイムアウト値の延長を行うことができます。

1 **「サーバの一覧」から問題があるサーバを右クリックし、表示されたメニューから「サーバのプロパティ」→「ネットワーク／ SNMP」の順にクリックします。**

2 **環境に合わせて設定値の変更を行います。**

項目	説明
ポーリング間隔	サーバをポーリングする時間の間隔です。ここで指定した間隔ごとにシステムの情報をサーバに要求します（デフォルト 60 秒）。
タイムアウト	要求に対するサーバからの応答に待機する時間です（デフォルト 5 秒）。
更新間隔	表示内容を更新する間隔です（デフォルト 60 秒）。

重 要

- **これらの項目の適切な値は、負荷の状況によって異なります。何度か設定を試してみて最適な値を決定してください。**
- **タイムアウト値に大きすぎる値を設定すると、本当に管理不可能な場合の反応も遅れてしまいます。大きすぎる値（12 秒以上）は設定しないようにしてください。**

■ 管理コンソールの留意事項

● キーボード操作について

ショートカットキーやタブキーは正常に動作しない場合があります。マウスを使って操作してください。

● ウインドウの操作について

ウインドウ メニューにおいて、「縦に並べる」処理は行わないでください。画面が乱れる場合があります。

● ServerView 管理コンソールの終了操作について

管理コンソールを終了する時は、開いているすべての ServerView 画面を終了してください。

● メモリモジュールのマルチビットエラーについて

メモリモジュールでマルチビットエラー（UnCorrectable）が発生した場合、発生した場所、タイミングによっては OS が動作できなくなるため、エラーが報告されない場合があります。

● 外部記憶装置に対するアクション設定について

外部記憶装置に対するファン、および温度センサ異常時のアクション設定は無効です。

● レポート、またはしきい値のテーブル名に関する制限について

レポート、またはしきい値のテーブル名には空白を含む文字列は使用できません。
テーブルは作成できますが、選択することができないため、削除や開始を行えなくなります。

● デバイスビューウィンドウについて

Windows NT において、4mmdat.sys（テープ装置用ドライバ）がインストールされていない場合、デバイスビューウィンドウにテープ装置が表示されません。

● UPS（無停電電源装置）監視について

高機能無停電電源装置（NetpowerProtect シリーズ）の監視において、UPS 装置管理に使用している管理ソフトウェア（NetpowerView F）のバージョンが V4.8 以前の場合、以下のことに注意してください。

- UPS Configuration で UPS 接続設定を行うと、電源ウィンドウ中に UPS の図が表示されますが、正常状態においても、電源ケーブルが常に赤色（異常）表示となります。
- UPS の状態は、UPS 装置に添付されている管理ソフトウェア（NetpowerView F）で確認してください。

●「メモリモジュール」画面について

バンク番号が正しく表示されない場合があります。

●「アクション」画面について

再起動オプションで、「Restart」または「Shutdown&off」を選択し、「0 分」（即時にシャットダウン）を指定した場合、直後に Abort Shutdown を実行しても無効になります。

● WOL（Wakeup On LAN）機能について

WOL（Wakeup On LAN）機能によって、クライアントから LAN 経由でサーバ本体の電源を入れた場合、「アクション」画面内の「電源投入要因」が「N/A」表示になる場合があります。

●「オペレーティングシステム」画面について

OS が Windows の場合、「オペレーティングシステム」画面の「グローバル情報」の「現在のセッション」と「ピーク セッション」は未サポートです。

● トラップの設定について

「サーバのプロパティ」画面で、以下のトラップを有効にしないでください。有効にすると、アラームが発生し続ける場合があります（「● イベントログ格納」（→ P.248）参照）。

- Error entry in eventlog
- Warning entry in eventlog
- Infotmation entry in eventlog
- Failure entry in eventlog
- Success entry in eventlog

● レポートマネージャの操作について

- レポートノートに 256 文字以上のデータを入力しないでください。256 文字以上入力された場合、256 文字以降のデータは無視されます。
- 「レポートのテキスト表示」において、印刷を行うと画面表示が乱れることがありますが、システム動作には影響しません。

● レポートグラフの表示操作について

- レポートグラフの表示操作は、1 つずつ設定を行ってください。同時に複数を設定した場合、表示内容は保証されません。
- レポート一覧でステータスが起動中のものを選択して、グラフの表示を行った場合、正しく表示されない場合があります。レポート一覧でもう一度選択しなおしてから、再度グラフを表示してください。

● しきい値監視について

サーバでしきい値監視を実行する場合、以下の処理が行われます。

- ServerView 管理コンソールがサーバのしきい値テーブルを保存する。
- サーバ（エージェント）が設定要求を取得し、テーブルの変数を監視する。

この情報は管理コンソールとサーバの両方で保持されるため、以下の状況で矛盾が生じることがあります。

しきい値を停止せずに管理コンソールのサーバが削除され、そのあとサーバが新たに作成された場合

この場合、管理コンソールはサーバが現在しきい値をとっていることを示しておらず、サーバはしきい値の監視を継続します。このため、管理コンソール側でしきい値マネージャを使用してしきい値を停止するか、エージェントを再インストールします。

シャットダウンまたは再インストールした可能性があるため、エージェントが値を監視しない場合

この場合、管理コンソールはサーバが現在しきい値をとっていることを示していますが、サーバはしきい値をとっていません。このため、管理コンソール側でしきい値マネージャを使用して、そのサーバに対するしきい値を停止し、必要であれば再起動します。

しきい値の情報については、以下の情報も参照してください。

[システムドライブ]：\Program Files\Fujitsu\F5fbfe01\Thresh.hlp

●「ASR のプロパティ」画面での操作について

- 「ポケットベル」タブは未サポートです。
- 「FAN」設定において、任意の「FAN」を選択し、「継続動作します」を指定して［設定］をクリックすると、「シャットダウン待ち時間指定秒が範囲外である」というメッセージが表示される場合があります。再度設定処理を行ってください。
- 「FAN」設定において、任意の「FAN」を選択し、「シャットダウンする」を指定する場合、すべての有効な FAN について設定を行ってください。
- 「FAN」設定において、CPU0 のファンに異常時シャットダウン時間を設定すると、ポップアップメッセージが表示される場合があります。再度設定を行ってください。
- 複数の「ASR のプロパティ」画面を同時に開かないでください。
- アーカイブデータ表示時は、操作を行わないでください。

● ServerView のステータスアイコン表示について

以下の条件をすべて満たすとき、ステータスアイコンが故障状態になる場合があります。

- 監視対象サーバにおいて
- OS の起動時
- ServerView 監視プログラムがすべて起動するまでの間

監視対象サーバが正常な場合、ServerView 監視プログラムがすべて起動されると、アイコンは正常に表示されます。

●「外部記憶装置」画面について

- 「接続スロットアダプタ」が正常に表示されない場合があります。しばらく時間をおいてから、画面を再表示してください。
- 「接続されたデバイス数」が正しく表示されない場合があります。「デバイスの表示」画面で、「接続されたデバイス数」を確認してください。
- ［設定］をクリックすると、関連付けられたアプリケーションがインストールされているフォルダが開く場合があります。

●「構成情報」画面について

「構成情報」画面で Recovery Information を表示した場合、「Error and event message log:」欄には、危険エラー（Critical Problems）のみ表示されます。
その他のエラー情報については、「アクション」画面で確認することができます。

A.3　アラームサービスのトラブルシューティング

■ アラームサービスに関する Q&A

● Microsoft の Virtual Machine 以外の VM と共存しても大丈夫ですか？

Microsoft Virtual Machine（バージョン 5.0.3309 以上）と他の Virtual Machine（たとえば、Sun Java VM）が同じマシンに共存していても、ServerView は正常に動作します。

● プロキシを使用したい場合、例外に「localhost」を登録してもアラームサービスは正常動作しますか？

「localhost」を指定してもシステムによっては正常動作します。ただし、自マシンの IP アドレスを入力するようにしてください。

● メール送信テストのエラーコードはどんな意味ですか？

AlarmService でメール送信テストを行い、エラー復帰した場合は、以下を参照してください。復帰エラーコードが下記以外の場合は、弊社にお問い合わせください。

```
1:        SMTP server error
2:        Mail server error, wrong from or to address ?
4001:  Malloc failed (possibly out of memory).
4002:  Error sending data.
4003:  Error initializing gensock.dll.
4004:  Version not supported.
4005:   The winsock version specified by gensock is not
supported by this winsock.dll.
4006:  Network not ready.
4007:  Can't resolve (mailserver) hostname.
4008:  Can't create a socket (too many simultaneous links?)
4009:  Error reading socket.
4010:  Not a socket.
4011:  Busy.
4012:  Error closing socket.
4013:  Wait a bit (possible timeout).
4014:  Can't resolve service.
4015:  Can't connect to mailserver (timed out if winsock.dll
error 10060)
4016:  Connection to mailserver was dropped.
4017:  Mail server refused connection
```

● 管理コンソールをアンインストールする前にアラーム設定を退避できますか？

管理コンソールをアンインストールすると、アラームの設定は削除されます。
アンインストール前に以下のファイルを退避することによって、アラームグループに対するアクション設定を退避しておくことができます。

- Apache の場合
  以下のディレクトリにある、「AlarmFwd_xxx」を退避します。ただし、AlarmFwd_Server(.ini) と AlarmFwd_Severity(.ini) は除きます。

  [システムドライブ]：\Program Files\Fujitsu\F5FBFE01\ServerView Services\wwwroot\ServerView\SnmpView\uid\1\snism.dba

・ **IIS の場合**
以下のディレクトリにある、「AlarmFwd_xxx」を退避します。ただし、AlarmFwd_Server(.ini) と AlarmFwd_Severity(.ini) は除きます。
[システムドライブ]：\Inetpub\wwwroot\ServerView\SnmpView\uid\1\snism.dba

重 要

- **上記ファイルのフォーマットは、今後のバージョンで変更されることが考えられるため、バージョンアップの際は弊社にご確認ください。**

■ アラームサービスのトラブルシューティング

● アラームサービスでキー入力を行った時にビープ音が鳴る

Microsoft Virtual Machine のバージョンが古い可能性があります。
アラームサービスでは、Microsoft Virtual Machine の バージョン 5.0.3309 以上 が必要です。
ServerView の CD-ROM から「SVMANAGE¥TOOLS 」ディレクトリ配下の「VMSETUP.EXE 」を実行してください。

● アラームサービスが起動しない

以下の場合にアラームサービスが起動できなくなります。

コンピュータ名または IP アドレスを変更した場合

アラームサービスをインストール後に、システムのコンピュータ名または IP アドレスを変更した場合、アラームサービスは正しく動作しません。
「スタート」ボタンから「Change Computer Details」を実行してください（「2.4.9 インストール後のコンピュータ情報変更」（→ P.72）参照）。

プロキシサーバを設定している場合

Web ブラウザでプロキシサーバを使用する設定になっている場合、アラームサービスの画面が表示されない場合があります。管理用のサーバまたは管理端末では、自分自身への接続にプロキシサーバを使用しないよう、Web ブラウザの設定で「例外」に IP アドレスを登録してください。

● トラップを受信すると、仮想メモリ不足エラーとなる

ServicePack が適用されていない可能性があります。
ServerView では、TCP/IP プロトコルや SNMP サービスが必要となりますが、これらをインストールした後にマイクロソフトが提供する Service Pack（Windows 2000 の場合は SP1 以上、Windows NT の場合は SP6a 以上）を適用していない場合に、このような現象が発生します。
ServicePack を再度、適用してください。

● テストトラップがタイムアウトになってしまう

ServerView Full または Basic のインストールを実行すると、エージェント（ServerView SNMP Agent）がインストールされます。テストトラップは、ServerView SNMP Agent が正しくインストールされているサーバに対して、実行することができます。
テストトラップは、以下の場合にタイムアウトになります。

タイムアウト時間が短い場合

ネットワークの状態によっては、デフォルトのタイムアウト時間では短い場合が考えられます。ネットワーク環境を確認した上で、タイムアウト時間を延ばしてみてください。

SNMP サービスが正しく設定されていない場合

以下を確認してください。

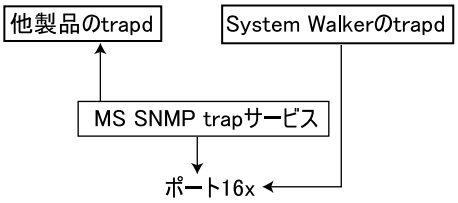
・監視サーバで、SNMP サービスのトラップ送信先に管理端末が登録されているか？
・監視サーバ／管理端末のSNMPサービスのセキュリティにおいて、ご使用のコミュニティに対する権利が「READ CREATE」になっているか？
・SNMP サービスの設定変更後に、サービスの再起動を行ったか？
再起動するには、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView Agents」→「Diagnostic Tools」→「Restart ServerView Base Services」の順にクリックしてください。

エージェント（SNMP Agent）が正しくインストールされていない場合

「2.3.7 オプション装置監視エージェントのインストール」（→ P.56）を参照して、エージェントをアンインストールした後に、必要なエージェントを再インストールしてください。

Systemwalker がインストールされている場合

以下のように他製品とSystemwalkerのtrapdが共存している場合に、SystemwalkerがSNMPtrapのポート 16x を占有してしまい、他製品の trapd へ SNMP トラップが送信されなくなっていることがあります。



逆に、他製品がポート 16x を占有し、Systemwalker の trapd に SNMP トラップが送信されなくなることもあります。
この場合、コマンドプロンプトにおいて、mpmsts ON コマンドを実行すると、Systemwalker の trapd も MS SNMPtrap サービスからトラップを受けるようになり、両方の trapd にトラップが送信されるようになります。

● アラームが削除されない

アラームマネージャまたはアラームモニタで複数のアラームを削除する場合、いくつかのアラームが残ってしまう場合があります。この場合は、再度削除を実行してください。
また、「共通設定」画面で、指定した経過日数以上のアラームを削除するように設定できますが、この削除は指定日数経過後、新たにアラームを受信したときに実行されます。

● スクリプトエラーが発生した

アラームマネージャまたはアラームモニタを使用中に、スクリプトエラーが発生する場合があります。この場合、Alarm Service を閉じて、アラームマネージャまたはアラームモニタを再起動してください。
また、アラームマネージャを［閉じる］をクリックして終了しなかった場合、次回起動時にスクリプトエラーが発生する場合があります。
アラームマネージャを終了するには、必ず［閉じる］をクリックしてください。

この場合も、アラームマネージャを再起動してください。

● アラームマネージャ／アラームモニタが自動更新されない

アラームマネージャ／アラームモニタの画面が更新されない場合があります。この場合、アラームマネージャ／アラームモニタを再起動してください。
また、Internet Explorer のキャッシュ機能を無効にすると、この問題を防ぐことができます。

■ アラームサービスの留意事項

● ウィンドウの操作について

各画面において、［画面の最大化］、［標準に戻す］を操作しないでください。画面が乱れる場合があります。
乱れが生じた場合には、その画面を閉じて再度起動してください。

● メール転送について

MAPI によるメール転送はサポートしていません。

重 要

- **テスト送信を行ったときの送信先は「宛先」に指定されたメールアドレスのみです。「写し」に指定したメールアドレスには送信されません。**

● 複数の「アラーム設定」画面の起動について

「アラーム設定」画面は、複数開くことが可能な場合がありますが、その場合も１つだけを起動するようにしてください。

●「アラームフィルタの設定」画面の終了操作について

「アラームフィルタの設定」画面を開いている場合は、アラームマネージャを閉じる前に「アラームフィルタの設定」画面を閉じてください。

● 処理中の画面を閉じる時の注意

処理中の画面（たとえば、アラームモニタで多くのアラームを削除するような処理を行った場合など）は、処理が完全に終了するまで画面を閉じないでください。処理が完全に終了する前に画面を閉じた場合は、処理は中止され正常に動作することができません。

● ServerView Basic のアラーム設定について

ServerView Basic をご使用の場合は、「共通設定」画面で「不明なサーバを除外」を無効にしないでください。

● RomPilot トラップについて

RomPilot トラップに関するアラームにおいて、MAC アドレスが正しく表示されない場合があります。

● イベントログ格納

以下のすべての条件にあてはまる場合に、アラームが発生し続けることがあります。

- システムに ServerView Full または ServerView Basic がインストールされている場合
- 自サーバを監視対象としている場合
- 「サーバのプロパティ」画面で、以下のいずれかのトラップが有効となっている場合
  - ・Error entry in eventlog

・Warning entry in eventlog
・Infotmation entry in eventlog
・Failure entry in eventlog
・Success entry in eventlog

- アラームの設定において、以下のいずれかの設定となっている場合
  ・「共通設定」画面のデフォルトアクションにおける「イベントログの格納」が有効
  ・アラームグループ設定で、自サーバからのアラームに対するアクションとして「ログ」が有効

回避手段としては、「サーバのプロパティ」画面で上記トラップを無効にするか、アラームの設定において上記設定を無効にすることで防ぐことができます。

● AC 切断／投入時のアラームについて

AC 切断／投入（UPS によるスケジュール運転を含む）によるシステム起動で、メッセージが表示されたり、イベントログ（エラー）が格納されたりする場合があります。システム動作には影響ありません。
表示されるメッセージは、以下のとおりです。

```
「Alarm received from server ServerName
An error was recorded on server ServerName.
See server management event / error log (Recovery)
for detailed information」
```

格納されるイベントログは、以下のとおりです（ソース：Server Control）。

```
「An error was recorded on server N400. See server
management event / error log (Recovery) for detailed
information.」
```

● リブート／シャットダウン時のエラーについて

リブートまたはシャットダウン時に、SVxxx.exe（SVFilterServer.exe、SVConvertServerList.exe など）のエラーが発生する場合があります。
しかし、再起動後のシステム動作には影響ありません。

● ブロードキャスト転送について

ご使用の Windows Messenger サービスの問題により、ブロードキャスト転送が正しく実行されない場合があります。
このサービスが正しく動作しているかどうかをテストするためには、コマンド プロンプトを開いて、以下のコマンドを実行してください。

- ドメインの全ユーザに対するブロードキャスト転送をテストする場合

```
net send * <message>
```

  または

```
net send /domain:<yourdomain> <message>
```

- セッション中の全ユーザに対するブロードキャスト転送をテストする場合

```
net send /users <message>
```

- 特定の全ユーザに対するブロードキャスト転送をテストする場合

```
net send <user> <message>
```

これらのテストが１つでも失敗した場合は、ネットワークを確認してください。

重 要

- **テスト結果のメッセージが正常終了であった場合でも、ドメインのアドミニストレータに対する「net send」は常に動作しないように見えます。**

● ステーションの転送モードについて

ステーションの転送モードは、「通常」と「ダイレクト」の 2 種類が指定できます。
「ダイレクト」指定時は、転送先のアラームモニタには、転送したアラームタイプが表示されます。
また、アラームマネージャでは、アラームタイプに「ServerView alarm passed through」と表示されます。

A.4 ServerView WebExtension のトラブルシューティング

● Windows 2000 で ServerView WebExtension を使用すると、エラーメッセージが表示されたり、サーバの一覧にサーバを追加できなかったりするのですが？

Windows 2000 で ServerView WebExtension を実行した場合に、以下のような問題が発生することがあります。

- 「Could not find <Installationpath_Html>¥uid¥1¥GettingStatus」や「Error on SnmpMgrTrapListen 1062」などのメッセージが表示される。
- サーバの一覧に新しいサーバを追加できない。
- サーバの一覧が表示されていない（ハングアップのように思われる）。

これは、以下の理由で発生する問題です。
ServerView WebExtension のインストール中（Setup.exe の実行中）は、通常 Administrator 権限を持つユーザとしてログインしています。
ServerView WebExtension 実行中は、このユーザは通常「IUSR_<computername>」になります。したがってこのユーザには、ServerView WebExtension のデータベース（たとえばサーバの一覧）や ServerView WebExtension 固有の設定ファイルを変更する権限がありません。

この問題を解決するには、以下の手順を行います。

1 デスクトップの［マイコンピュータ］アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「管理」をクリックします。

「コンピュータの管理」画面が表示されます。

2 以下の手順で新規ユーザを作成します。

1. **［システム ツール］から［ローカル ユーザとグループ］をクリックし、［ユーザー］を右クリックして表示されたメニューから「新しいユーザー」をクリックします。**
   「新しいユーザー」画面が表示されます。
2. **必要な情報を入力し、［作成］をクリックします。なお、新規ユーザは、ServerView WebExtension のインストールを行ったユーザ（つまり Administrator）と同じグループに入れる必要があります。**

3 **ServerView スクリプトディレクトリに新規ユーザを設定します。**
［コンピュータの管理］の［サービスとアプリケーション］から［インターネット インフォメーション サービス］－［既定の Web サイト］－［scripts］－［ServerView］を右クリックして、「プロパティ」をクリックします。
「ServerView のプロパティ」画面が表示されます。

4 **［ディレクトリ セキュリティ］タブをクリックします。**

5 **「匿名アクセスおよび認証コントロール」の［編集］をクリックします。**
「認証方法」画面が表示されます。

6 **「匿名アクセス」の［編集］をクリックします。**
「匿名ユーザー」画面が表示されます。

7 **［参照］をクリックし、手順 2 で作成したユーザ、または「Administrator」を選択します。**

8 **「IIS によるパスワードの管理を許可する」をチェックします。**

9 **表示されるすべての画面で、［OK］または［はい］をクリックします。**

上記手順で問題が解決しない場合は、以下の操作または変更を行ってください。
なお、インストール先でデフォルトを指定して ServerView WebExtension をインストールした場合は、
<Installationpath_Html> = <Drive 名 >:¥InetPub¥wwwroot¥ServerView
となります。

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エクスプローラ」の順にクリックします。**

2 **「<Installationpath_Html>」を開きます。**

3 **「<Installationpath_Html>」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。**

4 **［セキュリティ］タブをクリックします。**

5 **「名前」で「Everyone」をクリックし、「アクセス許可」の「変更」と「書き込み」をチェックします。**

6 **［適用］または［OK］をクリックします。**

ServerView WebExtension には固有のファイルを修正する権限がなかったため、ServerView WebExtension の「ServerStatus」プロセスが何度か起動することがあります。
起動しないようにするには、以下の手順を行います。

1 **サーバを再起動します。**

2 **タスクマネージャから以下の操作を行います。**

1. **［Ctrl］＋［Alt］＋［Delete］キーを押します。**
   「Windows のセキュリティ」画面が表示されます。
2. **［タスク マネージャ］をクリックします。**
   「タスク マネージャ」画面が表示されます。
3. **［プロセス］タブを選択します。**

3　以下の手順ですべての「ServerStatus.ex」プロセスを終了します。

1. **「ServerStatus.ex」を右クリックし、表示されたメニューから「プロセスの終了」をクリックします。**
   「警告」画面が表示されます。
2. **［はい］をクリックします。**
   プロセスが終了します

上記手順を繰り返して、すべての「ServerStatus.ex」プロセスを終了します。
「ServerStatus.ex」プロセスを終了する権限を持っていない場合は、サーバを再起動してください。

A.5　その他

■ 一般的な Q&A

●「Fujitsu Server Control」って何ですか？

ServerView Full または ServerView Basic 、もしくは RAS 支援サービスをインストールした時に、インストールされるソフトウェアです。ServerView もしくは RAS 支援サービスを正しく操作するためには、「Fujitsu Server Control」が必要です。
ServerView SNMP Agent のアンインストール（UNAGENT.EXE）では、初期状態で「Fujitsu Server Control」がインストールされていた場合、アンインストール処理後に、「Fujitsu Server Control」を再インストールしています。これは RAS 支援サービスで「Fujitsu Server Control」が必要となるためです。

●「Server Control Service」って何ですか？

「Fujitsu Server Control」をインストールした時に、インストールされるサービスです。

● Systemwalker と共存させる場合、Systemwalker を先にインストールする必要がありますか？

どちらが先にインストールされても問題はありません。ただし、同一マシン上に Systemwalker と ServerView を共存させる場合には、コマンドプロンプトで MPMSTS ON を実行してください。実行しない場合は、Systemwalker と ServerView ともに、そのマシン上でトラップを受信できなくなります。

● ServerView をインストールすると、C:¥Winnt¥Temp 内に「svtmpdir」というフォルダが作成されますが、これをインストールした後に消す事は可能ですか？

当フォルダにはデバック情報ファイルが格納されます。
当フォルダを削除しても問題ありませんが、システム（Fujitsu ServerView Service）を再起動すると、当フォルダは再作成されます。

● ServerView の管理コンソールから監視できるサーバの数は何台ですか？

ServerView の管理コンソールから監視できるサーバの数に制限はありません。

ただし、ServerView の管理コンソールからサーバを監視する場合に、SNMP サービスを使用して情報を採取しています。したがって、監視対象サーバが増加すると、それだけネットワークの負荷が大きくなります。

● ServerView で使用しているプロトコルとポート番号は何ですか？

ServerView 関連プログラムでは、以下のプロトコルとポートを使用しています。

ServerView

・SNMP（TCP/UDP：161,162）
・PING：ICMP（このプロトコルにはポート番号の概念はありません）

AlarmService、WebExtension（Web サービス提供側）

・SNMP（TCP/UDP：161,162）
・HTTP（IIS 使用時 TCP：80、ServerView Web-Server 使用時 TCP：3169）
以下は SSL 接続を行うときのみ
・HTTPS（IIS 使用時 TCP：443、ServerView Web-Server 使用時 TCP：3170）

AlarmService、WebExtension（管理コンソール側）

・SNMP（TCP/UDP：161,162）
・HTTP（IIS 使用時 TCP：80、ServerView Web-Server 使用時 TCP：3169）
以下は SSL 接続を行うときのみ
・HTTPS（IIS 使用時 TCP：443、ServerView Web-Server 使用時 TCP：3170）

● SMM（サーバモニタモジュール）をサポートしていますか？

サポートしていません。
ServerView がインストールされるサーバには、SMM を搭載することはできません。
ServerView では、リモートサービスボード（RSB）は連携して、SMM と同等の機能を実現できます。

■ Systemwalker 連携のトラブルシューティング

Systemwalker/CentricMGR 連携を行うために SNMP トラップ変換ファイルを登録したときに、以下のメッセージが表示されることがあります。この場合は、Windows ディレクトリに保存されているログファイル（例：C:\WINNT\F5FBSW01.log）を添えて、下表のお問い合わせ先にご連絡ください。

エラーコード	エラーメッセージ／解説	お問い合わせ先
2006	error detected in CNSetCnfMg.exe(Systemwalker).	Systemwalker 開発元
	Systemwalker のコマンド（CNSetCnfMg.exe）でエラーが発生しました。	
2008	fail to launch CNSetCnfMg.exe(Systemwalker)	
	Systemwalker のコマンド（CNSetCnfMg.exe）の起動に失敗しました。Systemwalker がインストールされているフォルダに、CNSetCnfMg.exe が存在するか確認してください。	
上記以外	上記以外のエラーメッセージ	ServerView 開発元

■ ブラウザのトラブルシューティング

ブラウザは常に正常に動作するとは限りません。多数の原因が考えられ、その影響もさまざまです。

● ServerView により、現在電源が入っているコンピュータしか検出されない。

Microsoft Windows ネットワークの走査中に一部のネットワーク情報が検出されないことがあります。
この現象は、ネットワーク情報を取得するために Windows が使用している方法（ブロードキャスト方法の使用）により発生します。

● セキュリティポリシの設定により、ドメインにアクセスできない。また、ドメインサーバにアクセスできないために、ドメインにアクセスできない。他のネットワークシステム（NetWare サービスなど）がアクセスできない。

タイムアウトの期限を超えた後、ブラウズ操作がキャンセルされます。ただし、これには数分かかることがあります。

● ブラウザが完全に失敗し、ブラウザウィンドウを数分間ブロックしている。

ブラウザウィンドウがブロックされたり、ブラウザ処理中に ServerView アプリケーション全体がブロックされたりすることがあります。この現象は、Windows NT ドメインに問題がある場合や、ネットワークパフォーマンスが非常に悪い場合に発生します。
この場合は、そのブラウザ機能を使用しないでください。

● IP アドレスに対するコンピュータ名の解決に時間がかかる

ログインコンピュータで Windows Internet Name Services（WINS）または Domain Name System（DNS）が正しくセットアップされていない可能性があります。プライマリ WINS サーバやセカンダリ WINS サーバのアドレス、または DNS サーバのアドレスが有効でない可能性があります。WINS プロトコルが正しく起動されていない場合、IP アドレス解決では非常に低速の名前クエリブロードキャストが使用されます。WINS や DNS は、ネットワーク設定の TCP/IP プロパティで設定できます。

● IP アドレスが見つからなかった

以下のようないくつかの原因が考えられます。

- リモートコンピュータに TCP/IP がインストールされていない。
- ログインしているコンピュータで WINS が有効でない。
- LAN に WINS サーバ、DNS 情報、または LMHOSTS ファイルがない。
- WINS データベースが更新されていない。

● WINS、DNS、またはいずれかの LMHOSTS ファイルを用いてアドレスを解決できなかった

名前クエリブロードキャストが使用中です。このブロードキャストは、たとえばドメインのルータによって名前クエリブロードキャストが送信されない場合に、ネットワークトポロジやパフォーマンスの問題により失敗することがあります。

■ 全般的な留意事項

● アップデートインストールについて

アップデートインストールを行う場合、RAID カードが存在していると、「GAM Driver Installation」画面が表示される場合があります。

その場合、［OK］をクリックしてください。
続いて「Installation completed」画面が表示されるので、［OK］をクリックしてください。

● アンインストール時の注意

アンインストール中にアプリケーションエラーが発生する場合がありますが、システム動作に問題はありません。
ServerView インストール後に ServerView WebExtension をインストールしている場合、ServerView をアンインストールすると、ServerView WebExtension は動作できなくなります。
先に ServerView WebExtension をアンインストールしてください。

● ログファイル

ServerView をインストールすると、ログ情報格納フォルダ（「C:¥svtmpdir」、「C:¥winnt¥Temp¥svtmpdir」など）が作成されます。
ログ情報は正常動作時にも作成／更新されます。
ディスクの空き容量が少なくなった場合などに、ログ情報を削除することができます。
ログ情報の削除は、ServerView を終了し、サービス画面から Fujitsu AlarmService を停止してから行ってください。
Fujitsu AlarmService を停止時にアプリケーションエラーが発生する場合がありますが、システム動作に問題はありません。

● ServerView Web-Server と SSL について

ServerView Web-Server と SSL の組み合わせは、Windows NT のみのサポートです。
Windows 2003 ／ Windows 2000 で SSL 接続を使用したい場合は、Web サーバとして IIS を使用してください。
インストール時に Web サーバとして ServerView WebServer を選択し、「SSL と認証を有効にする」を有効にした場合、ServerView Web-Server とともに ModSSL と OpenSSL がインストールされます。
この場合、URL として「http:」の代わりに「https:」、ポート番号として「3169」の代わりに「3170」を使用することで SSL 接続が可能になります。
SSL を使用するには、セキュリティ証明書を取得する必要があります。デフォルトでインストールされるセキュリティ証明書はテスト目的に限定して使用してください。
詳しい情報は、以下の OpenSSL のサイトを参照してください。

http://www.openssl.org

また、SSL を使用した URL は、接続時に認証が求められるようになります。
ユーザを追加するには、以下の操作を行ってください。

1　コマンドプロンプトから、以下の 2 つのコマンドを続けて実行します。

```
cd "［システムドライブ］:¥Program Files¥Fujitsu
¥F5fbfe01¥ServerView Services¥WebServer¥bin"
htpasswd passwd <ユーザ名>
```

2　新しいパスワードを入力します。

```
Automatically using MD5 format on Windows.
New password:
```

3 確認のため、再度パスワードを入力します。

```
Re-type new password:
```

パスワードが一致した場合、以下のメッセージが表示され、ユーザが追加されます。

```
Adding password for user <ユーザ名>
```

以下のメッセージが表示された場合は、パスワードが間違っています。コマンドの実行からやりなおしてください。

```
htpasswd: password verification error
```

ユーザを削除するには、以下のファイルをテキストエディタで開き、削除したいユーザ名が含まれる行を削除してください。

[システムドライブ]:\Program Files\Fujitsu\F5fbfe01\ServerView Services\WebServer\bin\passwd

デフォルトでは、ユーザは「svuser」、パスワードは「fsc」が設定されています。
安全のため、このユーザを削除して、独自のユーザを追加してください。

● BootRetryCounter について

異常によるシャットダウン処理が発生した場合、正常に起動しても、「再起動リトライ回数の最大値」は減ったままで、自動的には回復しません。
この値を回復するには、以下の手順を行ってください。

1 ServerView で該当するサーバを選択します。

2 右クリックし、「ASR のプロパティ」をクリックします。

「ASR のプロパティ」画面が表示されます。

3 [再起動設定] タブをクリックします。

4 「再起動リトライ回数の最大値」の右側にある [デフォルト] をクリックします。

該当サーバへ一度もログイン作業を行っていない場合、ログインが要求されます。

● UPS 使用時の注意事項

UPS による復電またはスケジュール運転を行う場合、サーバに自動的に電源を入れるために、サーバ本体に以下の設定をしてください。

PRIMERGY F200/L200/P200/C200/C150 の場合

1 BIOS のセットアップユーティリティを起動します。

セットアップユーティリティは、サーバの起動時に【F2】キーで起動できます。

2 「Advanced」メニューの「Power On/Off」の「Power Failure Recovery」で、「Previous State」を設定します。

3 セットアップユーティリティを終了します。

PRIMERGY L100 の場合

1 BIOS セットアップユーティリティを起動します。

セットアップユーティリティは、サーバの起動時に【F2】キーで起動できます。

2 「Power Management」メニューの「Restart on AC/Power Failure」で、以下を設定します。

・Windows 2000 の場合：「Always Power On」
・Windows NT の場合：「Restore Last Power State」

3 セットアップユーティリティを終了します。

PRIMERGY H450/R450 の場合

以下のいずれかを設定してください。

- 「ASR のプロパティ」画面の［再起動設定］タブで、「電源異常後のアクション」に「以前の状態」を設定します。
- SPMAN の「Server Management Control Settings」の「PowerFailBehavior」で、「0」（Restart Server）を設定します。
- RSB WebInterface の［Overview］-［Groups］-［Recovery］-［ASR］-［Restart Settings］-［Action after Power Failure］で、「Previous State」を設定します。

付録 B　アンインストール

ServerView のアンインストール方法について説明します。

B.1　ServerView のアンインストール

重 要

- ServerViewをアンインストールする場合、すべてのServerViewプログラムを終了させてから行ってください。ServerView をアンインストールした後、ディレクトリ、サブディレクトリ、ファイルが削除されないことがあります。また、アンインストールした後に ServerView がプログラムグループから削除されないことがあります。
- アンインストールを行う時に、途中で処理を中断したり、下記手順以外の操作を行うと、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。
- サーバの BIOS に記憶された項目は、ServerView をアンインストールしても元の状態に戻りません。設定を元の状態にしてから、ServerView をアンインストールしてください。
  「● ASR（自動再構築／再起動）」（→ P.110）、および「● 電源オン / オフタイマの設定」（→ P.119）参照

■ ServerView Full ／ ServerView Basic のアンインストール

サーバをレベルアップしてサーバの監視システムを再構築する場合など、サーバから現在の ServerView Full ／ ServerView Basic をアンインストールするには、以下の操作を行います。

1　管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。

2　実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3　管理コンソールをアンインストールします。

「B.4 管理コンソールのアンインストール」（→ P.259）参照

4　ドキュメント & ツール CD から、以下のアンインストーラを起動します。

```
[CD-ROMドライブ]:\SVMANAGE\JAPANESE\UNAGENT.EXE
```

ServerView Full ／ ServerView Basic がアンインストールされます。

■ ServerView Blade-Agent のアンインストール

ServerView Blade-Agent をアンインストールするには、以下の操作を行います。

1　管理者または管理者と同等の権限をもつユーザ名でログインします。

2　実行中のアプリケーションをすべて終了します。

3　ドキュメント & ツール CD から、以下のアンインストーラを起動します。

```
[CD-ROMドライブ]:\SVMANAGE\JAPANESE\UNAGENT.EXE
```

ServerView Blade-Agent がアンインストールされます。

■［Linux］ServerView Linux のアンインストール

ServerView Linux をアンインストールするには、以下の操作を行います。

1　スーパユーザでログインします。

2　以下のコマンドを実行します。

```
# rpm -e srvmagt-agents
# rpm -e srvmagt-eecd
```

ServerView Linux がアンインストールされます。

B.2　ServerView WebExtension のアンインストール

ServerView WebExtension をアンインストールするには、以下の操作を行います。

1　「スタート」ボタン→「Fujitsu ServerView WebExtension」→「Uninstall ServerView WebExtension」の順にクリックします。

ServerView WebExtension がアンインストールされます。

B.3　［Linux］WebExtension/AlarmService のアンインストール

WebExtension/AlarmService をアンインストールするには、以下の操作を行います。

1　スーパユーザでログインします。

2　以下のコマンドを実行します。

```
# rpm -e WebExtension
# rpm -e AlarmService
```

WebExtension/AlarmService がアンインストールされます。

B.4　管理コンソールのアンインストール

管理端末を他のパソコンに切り替えて使用する場合、または ServerView をレベルアップする場合など、管理端末から現在の管理コンソールをアンインストールするには、以下の操作を行います。

重 要

- **管理コンソールをアンインストールする前に、すべての ServerView プログラムを必ず終了させてください。アラームサービスおよび管理コンソールが起動している状態でアンインストールを実行した場合、その後の OS 動作が保証されません。**
- **下記のアンインストールの操作は、途中で中断したり、操作説明から外れた操作を行ったりすると、正しくアンインストールされません。アンインストールは最後まで確実に行ってください。**
- **ServerView をアンインストールした後、ディレクトリ、サブディレクトリ、ファイルが削除されないことがあります。**
  また、アンインストールした後に ServerView がプログラムグループから削除されないことがあります。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu ServerView」→「Uninstall Fujitsu ServerView」の順にクリックします。

「アンインストールオプション」画面が表示されます。

2 「自動アンインストール」をクリックし、［次へ］をクリックします。

重 要

- **ここでは、必ず「自動アンインストール」を選択し実行してください「詳細アンインストール」を選択すると、アンインストールを行いたいファイル、レジストリの選択ができますが、一部のファイルやレジストリをアンインストールした場合に、その後の動作が保証されません。**

3 ［アンインストール］をクリックします。

アンインストールが開始します。
アンインストールが完了すると、アンインストール画面が自動的に終了します。

重 要

- **アンインストール画面において、図と文字が一部重なる場合がありますが、システム動作に影響はありません。**

付録 C　アイコンリスト

各画面に表示されるアイコンのリストとその意味について説明します。
アイコンは、1 つまたは複数のオブジェクトのステータスやその変化が一目で分かるように表示されます。

C.1　Server List

Server List ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	OK。すべてのコンポーネントは OK。
	エラー。1 つまたは 1 つ以上のコンポーネントでエラーが発生。
	ステータスが悪化。1 つまたは 1 つ以上のコンポーネントのステータスが悪化。
	管理不可能。コンポーネントのステータスを特定できない。
	調査ステータス。調査プロセス中の未定義のステータス。
	不明。サーバにアクセスできない。
	DeskInfo。DeskInfo ツールを開始可能。
	拡張サーバマネージャを起動できます。
	Intel LANDesk® Server Manager（LDSM）を起動できます。
	ServerView がサーバからアラームを受信。
	このサーバでのしきい値測定を開始。
	このサーバでアーカイブデータが使用可能。
	クラスタのステータスは正常。
	調査ステータス！調査プロセス中に未定義のステータス。
	エラー！クラスタの 1 つ以上のコンポーネントでエラーが発生。
	OK! クラスタのすべてのコンポーネントは OK。

アイコン	意味
	管理不可能。クラスタのステータスを特定できない。
	クラスタのステータスを特定できない。
	ステータスが悪化！クラスタの 1 つ以上のコンポーネントのステータスが悪化。
	サーバが反応しないため、RSB がセカンダリチャネルを介して応答します。

POINT

- **サーバリストの LDSM サーバをダブルクリックすると、LDSM コンソールが開きます。異なる LDSM サーバを表示したい場合、まず LDSM コンソールを閉じてから、必要なサーバの LDSM コンソールをそのサーバをダブルクリックして開く必要があります。**

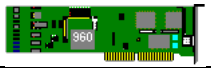
C.2 ServerView メニュー

ServerView メニューに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	メンテナンス バッテリのサポート
	ASR: 自動サーバ再構成 自動サーバ検索
	再起動 サーバの再起動
	サーバのシャットダウンが中止
	シャットダウンと OFF サーバのシャットダウンと電源の切断
	メモリモジュール
	温度（赤色 : 危険、緑色 : 稼働中、黄色 : スタンバイ状態、青色 : センサが故障、灰色 : 不明）
	ファン （赤色 : 故障、緑色 : 稼働中、黄色 : スタンバイ状態、灰色 : 不明）
	サーバのドアが閉じられている
	サーバのドアが開いている
	サーバのケースが閉じられている
	サーバのケースが開いている

C.3　Mylex の Device View ウィンドウ

Device View ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	Mylex コントローラ
MB または GB の能力	Mylex 赤色の文字 : 停止中 黄色の文字 : スタンバイモード 緑色の文字 : OK で稼働中 赤紫色の文字 : S.M.A.R.T. が故障 青色の文字 : 不明な状態または再構築状態
	ホスト

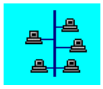
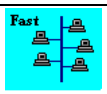
C.4　DPT Disk Array Devices ウィンドウ

DPT Disk Array Devices ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	ステータス : 最適（緑色）
	ステータス : 調査、警告、ステータス悪化、再構築、調査終了（黄色）
	ステータス : エラー、デバイスのフォーマット中、デバイスのセットアップ中（赤色）
	ステータス : 無効、欠落、セットアップされていない、消去済み（青色）

C.5　ネットワークインターフェースウィンドウ

ネットワークインターフェースウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	イーサネットネットワークカード
	ファストイーサネットネットワークカード
	イーサネットネットワークカード （複数のネットワーク接続、マルチポート）
	ファーストイーサネットネットワークカード （複数のネットワーク接続、マルチポート）

アイコン	意味
	トークンリングネットワークカード
	FDDI ネットワークカード
	統計情報の入力
	統計情報の出力

C.6 バスとアダプタウィンドウ

バスとアダプタウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
Slot 1	システムボード上のスロットの位置 : スロット 1 が一番下
Slot 1	システムボード上のスロットの位置 : スロット 1 が一番上
	選択レベルの分岐が開いている
	選択レベルの分岐が閉じられている
	最低位置の選択レベル、これ以上選択できない

C.7 Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウ

Alarm Manager ウィンドウと Alarm Monitor ウィンドウに表示されるアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	赤色のアラーム : 危険
	ピンク色のアラーム : 重度
	黄色のアラーム : 軽度
	青色のアラーム : 情報
	白色のアラーム : 不明
	ユーザのエントリによりアラームは確定済みである。
	このアラームにより、ほかの実行可能プログラムが起動された。
	このアラームに対してブロードキャスト メッセージが送信された。
	このアラームに対してメールが送信された。
	このアラームにより、ポケットベル呼び出しが起動された。
	このアラームは、マネージャまたは管理ステーションに送信される。

アイコン	意味
	このアラームは、ローカル NT イベントログに送信される。
	このアラームは、データベースに格納される。
	緑色 : ポケットベルを確認。
	黄色 : ポケットベルを完了。
	赤色 : ポケットベルあり（まだ動作中）
	緑色 : 転送を確認。
	黄色 : 転送を完了。
	赤色 : 転送あり（まだ動作中）

C.8　クラスタのステータス（未サポート）

クラスタオブジェクトを表したアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	クラスタのステータスアイコン
	クラスタサーバノードのステータスアイコン
	クラスタグループのステータスアイコン
	クラスタリソースのステータスアイコン
	クラスタネットワークのステータスアイコン

■ サーバノードのステータス

クラスタサーバノードのステータスアイコンとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	不明 : ノードの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	アップ : サーバノードは稼働中。
	ダウン : サーバノードは故障中。
	停止 : サーバノードは、現在グループサービスを提供していない。
	結合 : サーバノードは現在クラスタサービスを開始しているが、まだ利用できる状態にはなっていない。
	使用不可 : サーバノードは使用できない。

■ グループのステータス

クラスタグループのステータスアイコンとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	不明 : グループの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	オンライン : グループはオンライン状態。
	オフライン : グループはオフライン状態。
	部分的オンライン : グループは部分的にオンライン状態。
	故障 : グループは故障中。
	使用不可 : グループは使用できない。

■ リソースのステータス

クラスタリソースのステータスアイコンとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	不明 : リソースの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	オンライン : リソースは使用可能。
	オフライン : リソースは現在使用不可。
	故障 : リソースは故障中。
	オンライン待機中 : リソースの立ち上げ処理中。
	オフライン待機中 : リソースの停止処理中。
	オンラインステータス不確定 : リソースの状態を特定できず、現在使用できない。
	使用不可 : リソースは使用できない。
	継承済み : リソースは継承済み。
	初期化段階 : 現在リソースの初期化中。

■ ネットワークのステータス

クラスタネットワークのステータスアイコンとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	不明 : ネットワークの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	アップ : ネットワークインターフェースはフル稼働中。
	シャットダウン : ネットワークはシャットダウン済み。
	接続中断 : クラスタの 1 つ以上のノードで相互間の通信ができない。
	使用不可 : ネットワークは使用できない。

■ ネットワークインターフェースのステータス

クラスタネットワークインターフェースのステータスアイコンとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	不明 : ネットワークインターフェースの状態を特定できない、または、この表のどの状態にも一致しない。
	アップ : ネットワークインターフェースは稼働中。
	故障 : ネットワークインターフェースは稼動していない。
	アクセス不可 : ネットワークインターフェースはほかのノードからアクセスできない。
	使用不可 : ネットワークインターフェースは使用できない。

C.9　ブレードサーバのステータス

ブレードサーバのステータスアイコンとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	ブレードサーバのステータスは正常（すべてのブレードのステータスは OK）
	ブレードサーバのステータスを調査中
	ブレードサーバのステータスが悪化（少なくとも 1 つのブレードのステータスが悪化）

アイコン	意味
	ブレードサーバのステータスがエラー（少なくとも 1 つのブレードのステータスがエラー）
	管理不可能（ブレードサーバが応答しない）
	不明。ブレードサーバにアクセスできない

■ ブレードサーバのステータス LED

ブレードサーバのステータス LED アイコンとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	点灯中
	消灯中
	点滅中（システム異常を示します）

■ ブレードの種類

ブレードサーバ内の各ブレードの種類は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	マネジメントブレード（マスタ）
	マネジメントブレード（スレーブ）
	スイッチブレード
	サーバブレード

C.10 その他のアイコン

特定のウィンドウに対応付けられないアイコンのリストとその意味は、以下のとおりです。

アイコン	意味
	CD-ROM（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	通信デバイス(赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明)
	CPU（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	ジュークボックス、自動 CD-ROM チェンジャ（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	MOD（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	プリンタ（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	スキャナ（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）

アイコン	意味
	テープドライブ装置（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	WORM 装置（Write Once Read Many）（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	ハードディスク ハードディスク（赤色 : 故障、緑色 : OK）
	不明デバイス(赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明)
	グラフィック表示
	グラフ表示
	テキストまたは表による表示
	ポケットベル監視（赤色 : エラー、緑色 : オンライン、黄色 : スタンバイ、青色 : 不明）
	OK
	管理不可
	調査モード
	エラー
	初期設定、環境 [< サーバ >]、または電源 [< サーバ >]
	ネットワーク関連のすべてのウィンドウ： ネットワークインターフェース [<Server>]、トークンリング　統計情報 [<Server>]、イーサネット MAC 統計情報 [<Server>]、FDDI MAC 統計情報 [<Server>]
	外部記憶装置関連のすべてのウィンドウ： 外部記憶装置 [<Server>]、デバイスの表示 [<Server>]、外部記憶装置 : パーティションビュー [<Server>]、外部記憶装置 : ロジカルビュー [<Server>] Mylex ディスクアレイウィンドウ： デバイスビュー [<Server>]、アダプタビュー [<Server>]、物理デバイスビュー [<Server>]
	システム情報（特に OS）
	ベースボード [<Server>]
	Windows デスクトップ上の Server Manager、サーバリスト、ServerView[<Server>]、アラームマネージャ、しきい値マネージャ、レポートマネージャ、しきい値リスト、レポートリスト
	Windows デスクトップ上の Server Manager のヘルプシステム

付録 D　トラップリスト

トラップは、SNMP エージェントから送信される SNMP Protocol Data Unit アラームです。これは、エラーメッセージや、選択したしきい値レベルを超えているために発生するステータスの変化など、予期しなかったイベントを管理ステーションに通知するためのものです。

アラーム設定の「共通設定」画面を起動して、各サーバと重大度（危険／重度／軽度／情報）に対して異なる対策を選択できます。

- ログ
  イベントがデータベース表にあるアラームログリストに書き込まれます。
- ポップアップ
  アラームモニタが起動します。

危険アラームイベントは、ログファイルのアラームログリストに常に書き込まれます。
アラームモニタには受信されるすべてのトラップが表示されますが、アラームマネージャにはログファイルに書き込まれたイベントだけが表示されます。

OS の SNMP トラップを ServerView が受信したときに表示されるメッセージ、および OS イベントログに格納するものの一覧表については、「Trap_List.pdf」を参照してください。
トラップは、カテゴリのアルファベット順に分類され、カテゴリ内では名前のアルファベット順に分類されています。
　ソース名：Fujitsu ServerView Service
「アプリケーション」メニュー→「詳細」の順にクリックすると、「詳細」画面に必ず以下のデータが記載されます。
　ServerView received the following alarm from server < サーバ名 >:

■ トラップ一覧

↑ここをクリックして、トラップ一覧を参照してください。
なお、トラップ一覧を表示後、本書に戻る場合は、Acrobat Reader 画面のツールバーにある をクリックしてください。

付録 E　しきい値リスト

しきい値の監視に使用する、ServerView 変数について説明します。

E.1　監視される値

次に示すしきい値が監視対象となります。

値	意味
DAC960-AdapterInfo-Values	DAC960 アダプタ設定のしきい値
DAC960-PhysicalDevice-Values	DAC960 アダプタに接続するデバイスのデバイスエラーのしきい値
Environment-Values	ファン速度のしきい値
Ethernet-MAC-Statistics	イーサネット MAC エラーのしきい値
FDDI-MAC-Statistics	FDDI-MAC エラーのしきい値
FDDI-Port-Statistics	FDDI ポートエラーのしきい値
Interface-Values	インターフェース統計情報とインターフェースエラーのしきい値
IP-Info	IP 統計情報のしきい値
Memory-Values	メモリエラーのしきい値
NetWare-Info	NetWare 接続のしきい値
OnOffTimes	電源のオン / オフ時間のしきい値
PC-Inventory-CPUValues	CPU 使用のしきい値
PC-Inventory-FileSystem	使用可能ブロックのしきい値
PC-Inventory-Info	マウント済みファイルシステムのしきい値
SystemBoard-Info	バスのロードのしきい値
SystemControl-Info	キャビネット数のしきい値
TokenRing-MAC-Statistics	TokenRing エラーのしきい値
UPS-Values	バッテリによる稼動時間のしきい値

E.2　各値の意味

■ DAC960-AdapterInfo-Values

値	意味
mylex.NumChannels	現在のチャネル数
mylex.NumLogicalDrives	現在の論理ドライブ数
mylex.NumPhysicalDevices	現在の物理デバイス数

■ DAC960-PhysicalDevice-Values

値	意味
physDev960.HardError　Count	ハードウェアエラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）
physDev960.MiscErrorCount	さまざまなエラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）
physDev960.ParityError　Count	パリティエラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）
physDev960.SoftErrorCount	ソフト（通常）エラーカウント（設定済み DAC ディスクのみ）

■ Environment-Values

値	意味
fan.CurrentMaxSpeed	最大パワー時のファンの現在速度（回転 / 分）（-1 = 不明）
fan.CurrentSpeed	ファンの現在速度（回転 / 分、-1 = 不明）

■ Ethernet-MAC-Statistics

値	意味
ethS.AlignmentErrors	長さは整数バイトではなく、FCS チェックをパスしていない、特定のインターフェース上で受信したフレーム数。
ethS.CarrierSenseErrors	特定のインターフェース上でのフレームの送信時に、キャリア検出テストが失敗して実行されなかった回数。
ethS.DeferredTransmissions	媒体がビジー状態のため、特定のインターフェース上で最初の送信に遅れがあったフレーム数。
ethS.ExcessiveCollision	過度の衝突のため、特定のインターフェース上での送信に失敗したフレーム数。
ethS.FCSErrors	長さは整数バイトであるが、FCS チェックをパスしていない、特定のインターフェース上で受信したフレーム数。
ethS.FrameTooLongs	最大許容フレームサイズを超えた、特定のインターフェース上で受信したフレーム数。
ethS.InternalMacReceiveErrors	内部 MAC サブレイヤ受信エラーのため、特定のインターフェース上での受信に失敗したフレーム数。
ethS.InternalMacTransmit Errors	内部 MAC サブレイヤ送信エラーのため、特定のインターフェース上での送信に失敗したフレーム数。
ethS.LateCollisions	512 ビットを超えるパケットの送信後、特定のインターフェース上で衝突を検出した回数。
ethS.MultipleCollisionFrames	複数の衝突が発生したため送信が除去された特定のインターフェース上で、正常に送信されたフレーム数。
ethS.SingleCollisionFrames	1 つの衝突が発生したため送信が除去された特定のインターフェース上で、正常に送信されたフレーム数。
ethS.SQETestErrors	特定のインターフェースに対して、SQE TEST ERROR メッセージが PLS サブレイヤによって生成された回数。

■ FDDI-MAC-Statistics

値	意味
fddiM.ErrorsCts	Error_Count（ANSI MAC 2.2.1 を参照）
fddiM.FrameCts	Frame_Count（ANSI MAC 2.2.1 を参照）
fddiM.LostCts	Lost_Count（ANSI MAC 2.2.1 を参照）

■ FDDI-Port-Statistics

値	意味
fddiP.LCTFailCts	接続管理中に、リンク信頼テストに連続して失敗した回数。
fddiP.LemCts	電源投入時、ゼロにリセットされるだけのリンクエラーモニタがカウントするエラー数。
fddiP.LemRejectCts	リンクが拒否された時間数のリンクエラー監視回数。

■ Interface-Values

値	意味
if.InDiscards	上位レイヤプロトコルでパケットを使用できないようにしたエラーがないのに、廃棄するよう選択された進入パケット数。
if.InErrors	上位レイヤプロトコルでパケットを使用できないようにしたエラーが含まれている進入パケット数。
if.InNUcastPkts	上位レイヤプロトコルに送信された（ブロードキャストではない）非マルチキャストパケット数。
if.InOctets	フレーム指示キャラクタを含め、インターフェース上で受信した合計バイト数。
if.InUcastPkts	上位レイヤプロトコルに送信されたサブネットワークのユニキャストパケット数。
if.InUnknownProtos	不明またはサポートされないプロトコルのため廃棄された、インターフェース経由での受信パケット数。
if.OutDiscards	パケットを送信できないようにしたエラーが検出されなくても、廃棄するよう選択された送出パケット数。
if.OutErrors	エラーにより送信できなかった送出パケット数。
if.OutNUcastPkts	廃棄されたり送信されなかったパケットを含め、上位レベルプロトコルが非ユニキャストアドレスに送信を要求した合計パケット数。
if.OutOctets	フレーム指示キャラクタを含め、インターフェース上で送信された合計バイト数。
if.OutQLen	出力パケットキューの長さ（パケット内）
if.OutUcastPkts	廃棄されたり送信されなかったパケットを含め、上位レベルプロトコルがサブネットワークのユニキャストアドレスに送信するよう要求した合計パケット数。
if.Speed	インターフェースの現在の帯域幅の見積もり（ビット / 秒）。

■ IP-Info

値	意味
ip.ForwDatagrams	このエンティティが最終 IP 宛先でないため、データグラムを最終宛先に転送する経路を検索しようと試みた、入力データグラム数。
ip.InReceives	誤って受信したデータグラムを含め、インターフェースから受信した合計入力データグラム数。
ip.OutRequests	送信を要求したため、ローカル IP ユーザプロトコル（ICMP を含む）が IP に提供した合計 IP データグラム数。

■ Memory-Values

値	意味
memModule.Errors	最後のエラーカウントがリセットされてから、このモジュールで発生した（パリティ）エラー数（-1 = 不明）。

■ NetWare-Info

値	意味
sniNW.ConnectionsInUse	現在使用されている接続数。
sniNW.PeakConnectionsUsed	使用された接続のピーク数。

■ OnOffTimes

値	意味
#power.OffDuration	システムの存続期間において、電源がオフになっていた時間（時間で表示、-1 = 不明）。
power.OnCounts	サーバの存続期間において、電源がオンになった回数（-1 = 不明）。
power.OnDuration	システムの存続期間において、電源がオンになっていた時間（時間で表示、-1 = 不明）

■ PC-Inventory-CPUValues

値	意味
sni.CPUUtilization	CPU がデータを処理している時間のパーセント

■ PC-Inventory-FileSystem

値	意味
sni.AvailableBlocks	ファイルシステムの未使用ブロック数（未使用ブロック * ブロックサイズ = ファイルシステムで使用可能なバイト数）

■ PC-Inventory-Info

値	意味
sni.MountedFileSystems	現在マウントされているファイルシステム数。

■ SystemBoard-Info

値	意味
utilization.EisaLoad	EISA バス上のロード（パーセント表示、不明の場合は -1）
utilization.PciLoad	PCI バス上のロード（パーセント表示、不明の場合は -1）。新たにインプリメンテーションする場合は、このオブジェクトを使用しないでください。このオブジェクトは pciUtilizationTable になりました。

■ SystemControl-Info

値	意味
NumberCabinets.Detected	検出されたキャビネット数（サーバそのものが含まれるため、最小値は 1）。

■ TokenRing-MAC-Statistics

値	意味
tokS.AbortTransErrors	送信中、ステーションが異常終了区切り記号を送信すると、このカウンタが増加される。
tokS.ACErrors	ステーションが A と C が等しく 0 である AMP フレームまたは SMP フレームを受信してから、最初に AMP フレームを受け取らずに、A と C が等しく 0 である別の SMP フレームを受信した場合に、このカウンタが増加される。これは、AC ビットを正しく設定できないステーションであることを示す。
tokS.BurstErrors	ステーションにより 5 つのハーフビット期間に遷移がないことが検出されると、このカウンタが増加される。（バーストファイブエラー検出）
tokS.FrameCopiedErrors	ステーションが特別なアドレスにアドレス指定されたフレームを認識し、FS フィールドの A ビットが 1 にセットされ、回線瞬断または重複アドレスの可能性があることを検出した場合に、このカウンタが増加される。
tokS.InternalErrors	ステーションが内部エラーを認識した場合に、このカウンタが増加される。
tokS.LineErrors	フレームまたはトークンが、ステーションによりコピーまたは繰り返され、フレームまたはトークンの E ビットが 0 であり、さらに以下の条件のいずれか 1 つが存在している場合に、このカウンタが増加される。 ・フレームまたはトークンの SD と ED との間に非データビットが存在する（J ビットまたは K ビット）。 ・フレームで FCS エラーが発生している。
tokS.LostFrameErrors	ステーションが送信中で、その TRR タイマの期限が切れている場合に、このカウンタが増加される。

値	意味
tokS.ReceiveCongestions	ステーションが特別なアドレスにアドレス指定されたフレームを認識しても、利用可能なバッファ容量がなく、ステーションで輻輳が発生していることを示す場合に、このカウンタが増加される。
tokS.SoftErrors	インターフェースが検出した通常の（ソフト）エラー数。この数は、このインターフェースが送信したことが記録されている不良MACフレーム数とちょうど一致する。
tokS.TokenErrors	稼動中のモニタとして動作しているステーションが、トークンを送信する必要のあるエラー状態を認識した場合に、このカウンタが増加される。

■ UPS-Values

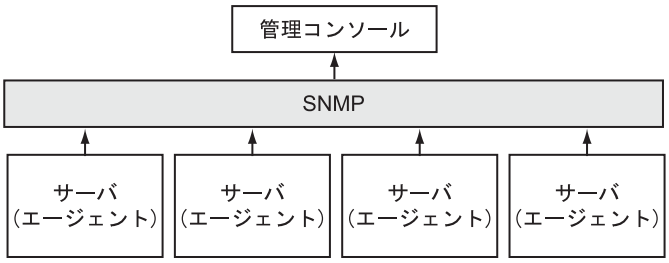
値	意味
ups.TimeOnBattery	UPS がバッテリ電源に切り換わってから経過した時間。

付録 F　技術情報

ServerView を構成する各種技術について説明します。

F.1　エージェントと管理コンソール

ネットワーク、システム、およびアプリケーションの管理は、「管理コンソール」というソフトウェアパッケージを使って行います。管理コンソールは、ネットワークコンポーネントから提供される管理情報にアクセスできます。つまり、ネットワーク、システム、およびアプリケーションに関連する情報はすべて、管理コンソールによって提供されます。



管理コンソールとネットワークコンポーネントとの間で交換される情報は、以下の 2 つのカテゴリに分類することができます。

- 管理コンソールがネットワークコンポーネントに送信するジョブ。たとえば、アクションの開始やシステム利用のクエリを実行する命令など。
- ネットワークコンポーネントから管理コンソールへ送信される自発的メッセージ。たとえば、コンポーネントのステータスを管理コンソールに通知するメッセージなど。

この管理情報のレイアウトと管理情報の交換規則を正式に定義する必要があります。この定義を管理プロトコルと呼びます。SNMP（Simple Network Management Protocol）が標準の管理プロトコルです。

管理コンソールでは、このプロトコルに基づいて通信できる監視対象ネットワークコンポーネント側に、同じような機能を持つものを必要とします。この管理コンソールと同様の機能を持っているものがエージェントです。エージェントは、ローカルのリソースとコンポーネントにアクセスでき、プロトコルを使用すると情報にもアクセスできます。この管理コンソールとエージェントとの相互関係は、管理コンソールとエージェントの原則とも呼ばれます。

エージェントは、OS 依存のソフトウェアで、ネットワークのサーバすべてにインストールする必要があります。エージェントには以下の特性があります。

- プログラムとしては、きわめて小さく効果的である必要がある。エージェントの存在がコンポーネントそのものに影響を与えないように、大量のシステムリソースの使用は許されていない。
- 標準機能として、管理コンソールと通信する基本的な機能を備えている。
- 管理コンソールに対しては、影響を受けるネットワークコンポーネントとそれに関係する特性の代理となる。
- ネットワークの管理コンセプトに簡単に統合できる。

F.2 Management Information Base

管理コンソールとエージェントとの通信では、共通の管理プロトコルの実装が必要です。また、管理コンソールとそれに対応するエージェントは、どの情報の提供および要求が可能であるか、合意していなければなりません。したがって、リソース監視用の管理モデルが一致している必要があります。
管理モデルが一致すると、管理コンソールからエージェントに送信されたジョブが、受信したエージェントによって実行できることも保証されます。逆に言えば、管理コンソールは、ネットワークの特定のイベントに関連しているエージェントからのメッセージを正しく解釈できる必要があります。
したがって、両方の通信相手が、自由に使用できる共通の情報ベースを持っている必要があります。この共通の情報ベースは、Management Information Base（MIB）とも呼ばれます。
ネットワークのどのエージェントも MIB を提供しています。その結果、MIB により該当するコンポーネントの抽象データモデルが構成されます。
MIB の特殊な面としては、エージェントが MIB から提供された特別なリソースとして動作し、MIB を使ってエージェントが自身を設定できるという側面があります。これは、たとえば、Fujitsu エージェントが個々の MIB オブジェクトのしきい値の監視に使用される場合に行われます。
MIB に含める値を記述するには、正式な記述言語である ASN.1（Abstract Syntax Notation One）を使用します。ASN.1 は、国際標準規格 ISO 8824 および ISO 8825 で定義されています。
自分自身の担当範囲を認識するだけで済むエージェントとは反対に、管理コンソールでは、そのタスクを実行するために、ネットワーク全体の完全な情報ベースを必要とします。したがって、ネットワークでエージェントから提供されるすべての MIB ファイルが、管理コンソールシステムに存在する必要があります。
MIB 記述の以下の 2 つのカテゴリが、エージェントにとって重要です。

- 国際標準化委員会によって承認された標準 MIB ファイル。
  たとえば、このような標準 MIB ファイルの 1 つが「MIB II」ファイルであり、インターネットのあらゆるネットワークコンポーネントでその使用が義務づけられています。MIB II ではすでにシステムとルータの管理用の適切なデータモデルが規定されています。
- メーカ独自の拡張が含まれているプライベート MIB ファイル。
  通常、ネットワークコンポーネントの新製品を発売するメーカは、標準 MIB の適用範囲を超えた、コンポーネントの管理面を記述するプライベート MIB ファイルを規定しています。

F.3 SNMP の基本原理

ServerView プログラムでは、Simple Network Management Protocol（SNMP）を使用します。
SNMP は Internet Engineering Task Force（IETF）によって承認された標準プロトコルで、TCP/IP ネットワークの管理用に世界中で使用されています。

■ SNMP のデータ要素

MIB に含まれている情報の個々の部分は、MIB 独自のオブジェクトによって記述されます。各オブジェクトでは、世界中で一意のオブジェクト識別子を受け取ります。アクセスタイプも指定されます。

■ SNMP のプロトコル要素

情報はプロトコル要素を使用してネットワーク上を転送されます。SNMP では、管理情報に含まれている値の要求、設定、および表示に、4 つの異なるプロトコル要素を必要とします。5 つ目のプロトコル要素（trap）を使用すると、エージェントは非同期で重要なイベントをレポートできます。

プロトコル要素	タイプ	機能
GetRequest PDU	0	管理コンソールからの MIB オブジェクト要求を読み込む
GetNextRequest PDU	1	管理コンソールからの以下の MIB 要求を読み込む（エンティティ ID 別）
GetResponse PDU	2	要求された値または設定された値が含まれている内容をエージェントから応答する
SetRequest PDU	3	管理コンソールからの MIB オブジェクトの要求を書き込む
Trap PDU	4	特別なイベント発生時の非同期メッセージ

SNMP メッセージは SNMP ヘッダと PDU（プロトコルデータ単位）で構成されます。ヘッダにはバージョン識別コードと認証チェック用のコミュニティストリングが含まれています。PDU そのものは、PDU タイプ（表を参照）と「変数のバインド」のリストです。変数のバインドとは、MIB オブジェクトに値を割り当てることです。このリストは、MIB オブジェクトの名前と割り当てられる値で構成されます。

■ コミュニティ

コミュニティとは、SNMP を使用して相互通信する複数のシステム（管理コンソールとエージェント）を 1 つのグループにまとめたものです。グループは、グループ用のコミュニティストリングで一意に識別されます。同じコミュニティに属するシステムのみが相互に通信可能です。1 つのシステムが複数のコミュニティに属していることもあります。管理コンソールとエージェントが相互通信する場合、このコミュニティストリングがパスワードのように使用されます。エージェントは、管理コンソールからコミュニティストリングを取得してからでなければ、エージェントシステムで情報提供はできません。この制限は、SNMP パケットごとに適用されます。

読み取り専用または読み書き可能など、実行可能なアクセスタイプは、MIB のオブジェクトごとに定義されます。管理コンソールのエージェント情報に対するアクセス権も、コミュニティストリングにバインドされます。コミュニティストリングにバインドされたアクセス権によって、MIB アクセスタイプをさらに制限できます。これらのアクセス権の拡張はできません。読み取り専用アクセス権をオブジェクトに定義するように MIB 定義で規定されている場合、コミュニティストリングが読み書きアクセス権にバインドされていたとしても、そのオブジェクトを読み書き可能で使用することはできません。

コミュニティストリングとアクセス権の使用方法を以下の例で説明します。

● 例

ある SNMP エージェントが、public という名前のコミュニティに属し、読み取り専用アクセス権を持っています。public コミュニティには管理コンソールも含まれていて、この管理コンソールは public コミュニティストリングを使用して対応するメッセージを送信することにより、この SNMP エージェントからの情報を要求できます。同時に、この SNMP エージェントは、net_5 という名前の 2 つ目のコミュニティにも属しており、このコミュニティには読み書きアクセス権が関連付けられています。net_5 コミュニティには、もう 1 つ管理コンソールが含まれています。この例では、2 つ目の管理コンソール、つまり net_5 コミュニティの管理コンソールに、SNMP エージェントを介して書き込み操作を実行する権限が与えられます。

■ トラップ

特別なイベントがネットワークコンポーネントで発生した場合、SNMP エージェントは 1 つ以上の管理コンソールにメッセージを送信してそのイベントの発生を通知できます。このメッセージのことを SNMP ではトラップと呼んでいます。管理コンソールは、受け取ったトラップに基づいて、ネットワークで発生したイベントに対処できます。管理コンソールが SNMP トラップを受け取ったことは、コミュニティストリングでも表示されます。SNMP エージェントがトラップメッセージを管理コンソールに送信する場合には、管理コンソールがメッセージを受け取るために必要なトラップのコミュニティストリングを使用する必要があります。
ServerView トラップについては、「D トラップリスト」（→ P.270）を参照してください。

■ Fujitsu サーバ管理

サーバ管理の背後には、管理コンソールがネットワークにあるサーバの管理情報にアクセスするという基本的な考え方があります。
この機能を実現するために、それに合わせてサーバのハードウェアとファームウェアが設計されています。
エージェントは既存情報にアクセスし、SNMP を使用して管理コンソールがその情報にアクセスできるようにします。

■ 監視機能

● ウォッチドッグ

ソフトウェアウォッチドッグにより、ServerView エージェントの機能が監視されます。ServerView エージェントが BIOS に接続されると、ソフトウェアウォッチドッグが起動されます。
ServerView エージェントは、ウォッチドッグタイム設定により定義された間隔でサーバ管理ファームウェアに報告する必要があります。ServerView エージェントがサーバ管理ファームウェアへの報告を停止すると、システムが正常に実行していないと見なされ、その後、定義済みのアクション（再起動する、継続稼動する、または Off/On する）が起動されます。
時間間隔は、ウォッチドッグタイムアウトディレイにおいて分単位で設定できます。時間の妥当性は、管理コンソールとエージェントで確認されます。指定できる最小時間は 1 分です。
設定可能な値は「1 ～ 120」分です。なお、「1 ～ 120」分以外が設定されている場合、ServerView での表示は「N/A」となります。
エージェントが停止すると（SNMP コマンドの net stop などによる）、ウォッチドッグが自動的に停止し、予定外の再起動が行われないようにします。

● **起動監視**

ブートウォッチドッグにより、システムが起動してから、ServerView エージェントが利用可能になるまでの間隔が監視されます。ServerView エージェントにより、定義された期間内にサーバ管理ファームウェアとの接続が確立されないと、ブートアッププロセスが失敗したと見なされ、定義済みのアクション（再起動する、継続稼動する、または Off/On する）が起動されます。時間間隔はウォッチドッグタイムアウトディレイにおいて分単位で設定できます。
設定可能な値は「1 ～ 120」分です。なお、「1 ～ 120」分以外が設定されている場合、ServerView での表示は「N/A」となります。

F.4　バージョン管理（Inventory View）

ServerView のバージョン管理タスクの機能の一つに Inventory View があります。バージョン管理タスクとは ServerView の一部分で、サーバ管理タスクとバージョン管理タスクで共通のフレームワークを使用しています。
Inventory View のメインタスクは、指定されたマシンのハードウェアとソフトウェアの構成を検査します。また、Inventory View 独自のインベントリ情報取得をサポートするネットワークのすべてのサーバ上で、Inventory View 機能を実行できるようにする統合管理ツールも提供しています。このツールを使用すると、システム管理者は、Inventory View のタスクを実行する中央管理ステーションを 1 つ（または複数）定義できるようになります。この機能はサーバ管理機能と類似しているため、Inventory View は ServerView の管理コンソールに組み込まれています。ServerView と Inventory View のタスクでは、管理対象のサーバの一覧として同じものを使用します。

Inventory View は 2 つのモジュールで構成されています。

- 管理コンソール機能
  管理端末にて動作します。インストールしたコンポーネントに関するデータをエージェントから受け取るコンポーネントで構成されています。
  Inventory View では、インストールしたコンポーネントに関する情報を Inventory View SNMP エージェントから受け取ります。個々の結果は、Inventory View の更新済み表示とともにウィンドウに表示されます。
- エージェント機能
  各クライアントマシンで動作します。この機能は、各サーバのインベントリをネットワーク上で使用できるようにします。管理コンソールでは、特定サーバのこのインベントリ情報を取得し、それを評価して結果を表示します。

SNMP エージェントにより、特定マシンに関する Inventory View 情報がすべて提供されます。管理コンソールが現在ダウンしているクライアントの情報を表示できるようにするには、インベントリ情報をファイルに保存します。

F.5　エクスポートされるコンテンツの一覧

エクスポートされるコンテンツは、以下のとおりです。

● サーバリスト コンテンツ

- Server_ID
- IP_Address
- Server_Group
- Server_Name
- Location
- Contact
- Model
- Serial_Number
- BIOS_Version
- Number_of_Processors
- Number_of_Processor_Sockets
- Processor_Type
- Memory_Size_MB
- Cache_KB
- Number_of_File_Systems
- Size_of_File_Systems_MB
- Largest_Available_Space_MB
- Operating_System

● コンテナリスト コンテンツ

- Server_ID
- Time
- Functional_Container_No
- Functional_Container_Name
- Container_Parent_No
- サーバ ID リスト コンテンツ
- Server_ID
- Time
- Server_Name
- IP_Address

● インベントリリスト コンテンツ

- Server_ID
- Time
- Component_Name
- Product_Number
- Vendor
- Version
- Component_Type
- Manufacturing_Date
- Serial_Number
- Language

- Functional_Container_No
- Functional_Container_Name
- Physical_Container_No
- Physical_Container_Name

● チェックリスト コンテンツ

- Server_ID
- Time
- Component_Name
- Product_Number
- Vendor
- Version
- Component_Type
- Manufacturing_Date
- Serial_Number
- Language
- Update_Status
- Update_Information
- Systemboard_Compatibility
- Missing_Required_Components
- Exclusion_Information
- ComponentsAddedByRequirement
- Functional_Container_No
- Functional_Container_Name
- Physical_Container_No
- Physical_Container_Name

索引

あ

アーカイブ 13
　アーカイブデータ作成 125
　アーカイブデータの削除 127
　アーカイブデータの比較 126
　アーカイブデータの表示 126
　アーカイブマネージャ 124
　アーカイブマネージャの起動 124
アイコンリスト 261
アラームサービス 12, 102
　アラーム設定 85
　アラームの管理 105
　アラームの編集 105
　アラームマネージャ 105
　アラームモニタ 103
　トラブルシューティング 246
　Q&A 245
アラームの受領 102
アンインストール
　管理コンソール 259
　RemoteControlService/LAN 170
　ServerView Basic 258
　ServerView Blade-Agent 258
　ServerView Full 258
　ServerView Linux 259
　ServerView WebExtension 259
　WebExtension/AlarmService 259

い

インストール
　オプション装置監視エージェント 56
　Microsoft Virtual Machine 59
　RemoteControlService/LAN 169
　SNMP サービス 25
　ServerView Basic 31
　ServerView Blade-Agent 34
　ServerView Console 52
　ServerView Full 31
　ServerView WebExtension 53
　ServerView Linux（通常のサーバ） 34
　ServerView Linux（ブレードサーバ） . . 42
　TCP/IP プロトコル 25
　Web サーバ 30
インストールスクリプト 35, 42

え

エージェント 10, 277
エクスポートマネージャ
　エクスポートデータの表示 133
　データのエクスポート 130

お

オプション装置監視エージェント
　インストール 56
オプション装置の割り込み情報の登録 60
温度異常時の対応 96

か

各サービスの設定
　通常のサーバ 62
　ブレードサーバ 68
監視対象サーバ
　監視対象から削除 78
　監視対象に追加 75
　グループの作成 78
　設定の確認／変更 83
　追加時の留意事項 76
管理コンソール 10, 277
　アンインストール 259
　起動 74
　トラブルシューティング 239
　Q&A 238
管理ユーザの設定 59

さ

サーバ一覧画面
　アラームメニュー 80
　ウィンドウメニュー 81
　しきい値メニュー 81
　設定メニュー 80
　タスクメニュー 80
　ツールメニュー 81
　表示メニュー 80
　ファイルメニュー 79
　フィルタリング 78
　ヘルプメニュー 81
　編集メニュー 79
　ポップアップメニュー 82
　レポートメニュー 81
　画面説明 74
サーバ管理モード 74
サーバ状況の確認
　接続確認 101
　現在の状況 102
　状態表示アイコン 100

サーバの検索
Network Discovery 77
サーバの再起動 110
サーバの再検出
すべてのサーバ 102
選択したサーバ 102
サーバのシャットダウン／電源切断 110
サーバのプロパティ 83
サーバブラウザ画面
監視対象サーバの追加 75

し

しきい値 12
いきい値一覧 92
しきい値監視の停止 92
しきちの値設定 90
しきい値マネージャ 90
しきい値リスト 271
自動再構築 & 再起動 13
シャットダウンの中止 110

せ

設定値の他のサーバへのコピー 13

て

停電および再起動設定 96
デフォルト設定 99

と

トラップリスト 270
トラブルシューティング
アラームサービス 246
インストールスクリプト 236
管理コンソール 239
ブラウザ 254
ServerView WebExtension 250

は

バージョン管理 13, 129
エクスポートマネージャ 130
Inventory View 129
バージョン管理モード 74
バージョンの一覧表示 129
ハードウェアの監視
ブレードサーバ 121
通常のサーバ 107
バインド順序 30

ふ

ファン異常時の対応 96

り

リモート管理 14, 177
リモートサービスボード 15, 192
管理ユーザの設定 202
シリアルインターフェースの設定 200
ダイヤルアップ接続 221
ドライバのインストール 196
LAN インターフェースの設定 197
Remote Service Board Utility フロッピーディスク 194
Web インターフェースの起動 204

れ

レポート 13
レポート作成停止 95
エクスポートされるコンテンツ 282
グラフ表示 123
詳細内容確認 123
レポート一覧 123
レポート作成 93
レポートマネージャ 93

A

ASR 13
設定 96
ASR 設定
温度センサ 97
再起動設定 97
ファン 97
Power ON/OFF 98
AlarmService 16
システム要件 22
Apache 30

I

Intel LANDesk Server Manager 144
Inventory View 129, 281

L

LDSM 連携 14, 144

M

Management Information Base 278
Microsoft Internet Information Server 30

N

NetpowerView F 145
Network Discovery 77

O

OpenView NNM 158

Q

Q&A
- アラームサービス 245
- 一般的な Q&A 252
- 管理コンソール 238

R

RPM
- バージョンアップ（通常のサーバ） . . . 41
- バージョンアップ（ブレードサーバ） . . 49
- バージョンの確認（通常のサーバ） . . . 41
- バージョンの確認（ブレードサーバ） . . 49

RSB 15, 192
RSB プロパティ 110
RemoteControlService 14, 161, 162, 169
- システム用件 163

RemoteControlService/LAN 162
- アンインストール 170
- インストール 169
- リモートドライブからのブート 180
- 起動 171
- サーバの電源投入 180
- 終了 175
- パスワード管理 176
- メニュー一覧 172
- リモートサーバ管理 177
- リモートサービスボードへの接続 . . . 182
- BIOS セットアップ 179
- IPMI への接続 189

RomPilot の設定 167
RomPilot/RCM 14, 162
- リモートドライブからのブート 180

S

SNMP 278
SNMP サービスの自動起動設定
- 通常のサーバ 62
- ブレードサーバ 68

ServerView 10
- アーカイブデータ表示 108
- アクション 108
- オペレーティングシステム 108
- 外部記憶装置 108, 111
- 外部記憶装置 - DuplexWrite 116
- 外部記憶装置 - MultiPath 115
- 外部記憶装置 - RAID コントローラ . . 113
- 環境 108, 120
- 構成情報 108
- システムステータス 108
- システム識別灯表示 107
- 電源 108, 119
- ハードウェアの監視 107
- ベースボード 108, 118
- RSB モード 107

ServerView Basic 16
- アンインストール 258
- インストール 31
- システム要件 19

ServerView Blade-Agent 16
- アンインストール 258
- インストール 34
- システム要件 19

ServerView Console 16
- インストール 52
- システム要件 20

ServerView Full 16
- アンインストール 258
- インストール 31
- システム要件 19

ServerView Linux
- アンインストール 259
- インストール（通常のサーバ） 34
- インストール（ブレードサーバ） 42
- 状態表示 141
- 使用方法 141
- WebExtension/AlarmService の使用 . . .142

ServerView Linux エージェント 16
- 起動と停止 141
- システム要件 19
- ログ 142

ServerView WebExtension 14
- アラームサービスの使用方法 139
- アラームの受領 139
- アンインストール 259
- インストール 53
- 監視対象サーバの追加 138
- 起動 134
- サーバの状態表示アイコン 136
- システム要件（Linux） 22
- システム要件（Windows） 21
- 使用方法 134
- トラブルシューティング 250
- ハードウェアの監視 139
- メニュー一覧 136
- ServerView 139

ServerView Web-Server 30
ServerView で SSL を有効にした場合 134
Service Pack の適用 58
SystemWalker 連携 14, 150
- トラブルシューティング 253

Systemwalker 連携の機能 151
- SystemWalker CentricMGR 連携 151
- SystemWalker Desktop Monitor 連携 . .152

U

UPS **管理ソフトウェア連携**. 145

W

WebExtension/AlarmService
アンインストール 259

Z

hp OpenView Network Node Manager **連携** 158
httpd **サービスの自動起動設定** 62

ServerView V3.40

ユーザーズガイド
B7FH-1831-01 Z0-00

発 行 日　2003 **年** 6 **月**
発行責任　**富士通株式会社**

●本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
●本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
●無断転載を禁じます。